平成14年12月24日 第三種郵便物認可 平成22年1月1日発行 年6回1·3·5·7·9·11月の16日発売 No.4

I'm home.

high end design and lifestyle

隔月刊 アイムホーム 1·3·5·7·9·11月の各16日発売

2010
JANUARY, no.43
www.imhome-style.com



CLOSE-UP ARTIST
SOFIE LACHAERT

OPEN GARAGE SHOWCASE
ガレージのある住まい

OPEN GARDEN SHOWCASE
自然を感じる伸びやかな住まい

LEATHER IN TOUCH
革をインテリアのアクセントに

HEATING IN COMFORT
快適な温熱環境の住まい

Discover us more at
www.prostyle-design.com

プロスタイルデザインは、世界にただ１つの個性あふれる建築をクライアントの立場から設計し、
トータルプロデュースをする会社です。建築は設計だけでは成り立ちません。
関わるすべてのものがリンクした時、本物の上質な空間が生まれます。



1
TOTAL PRODUCE

デザインだけじゃない。

建築に関わる全ての業務・ご相談を承ります。
例えば、コスト管理、店舗のコンセプトづくり
インテリアコーディネートや施工監理も
一貫して行っております。





2
TOTAL PRODUCE

住宅だけじゃない。

ビル・マンション・アパート・医院・オフィス
ショップなど各種商業施設にも対応しています。
様々な分野に携わる事で常識にとらわれない
発想をご提案いたします。



3
TOTAL PRO

ハコだけじゃない。

建築デザインのみならず、衣･食･住･遊に関わる
アイテムを取り入れ、室内外のライフスタイルシ
をデザイン＆プロデュースいたします。











4
TOTAL PRODUCE

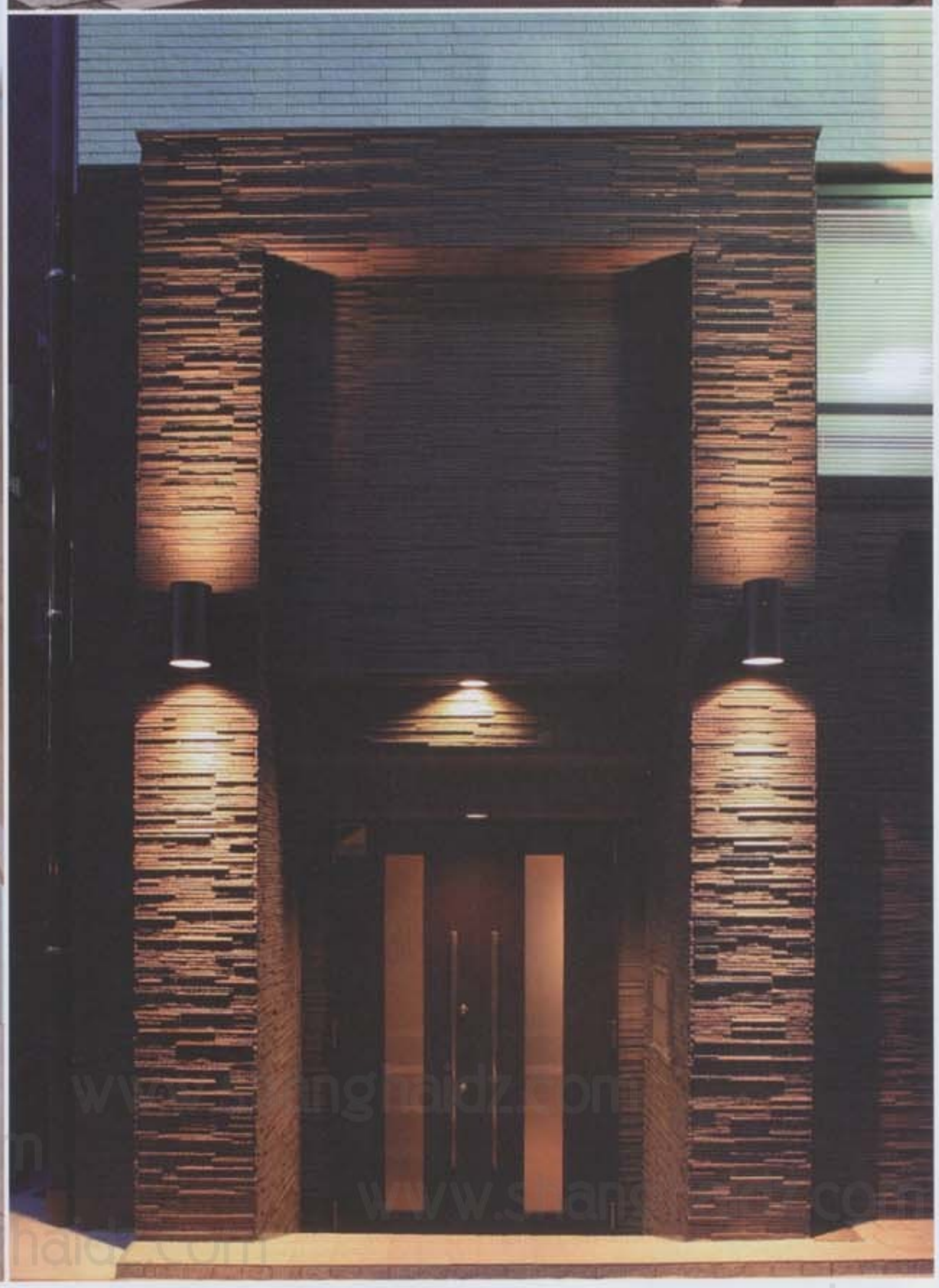
そして、チームのちから。

プロジェクトは、プロデューサー、デザイナー
インテリアコーディネーター、コンストラクションマネージャーが
チームを組み、各専門知識を生かして、ひとつひとつ取り組みます。
互いの力が重なり合い、より豊かな空間を生み出します。









一期一会ではなく

自由が丘に佇む武智邸。
お洒落な街に相応しい、こだわりの外観。
西と南で異なる顔を、明日はどちらから眺めるか。
賃貸併用住宅の抱える様々な課題をクリアーし
グレード感の高いエントランスが堂々と住人を迎える。
オーナー宅のリビングは最上階に。
想像を超える居心地で来客の足を再び誘う。



右上／白と黒、スクエアの要素でデザインされた外観。横に開口部を採ることでワイドな眺めを実現した。
右下／夜景に浮かび上がる賃貸エントランスは、高さを確保し周囲の賃貸との差別化を計った。
左上／天然素材と色合いが落ち着きを演出しているリビング。L時型にした暖炉が空間のアクセントとなっている。

Earnest architects











右上／オーナーが最もこだわったキッチンスペース。御影石とベージュの扉で上品なインテリアを構成している。
右下／間接照明で空間の一体感を演出した最上階。20 人以上のゲストを招いてのパーティーもゆっくりと愉しめる。
左／リビングへのアプローチは、階段ホールの採光とアールの壁がその先への期待感を高める。

設計：アーネストアーキテクツ株式会社
http://earnest-arch.jp

お問い合わせ
アーネストグループ・ヘッドカンパニー
アーネストアソシエイツ株式会社
〒108-0014　東京都港区芝 5-5-1
TEL：03-3769-3333

アーネストアーキテクツ　検索
〔資料請求番号 005〕



共に歩むキッチン。

人生の長い時間を共に歩んでゆける、そんなキッチンを目指して日々つくりつづけています。
クチーナでは、住まいに上質を求める多くの人々の要望に応えるため、サイズ、カラー、素材
ディティール、機能、オプションに至るまで、フルカスタマイズでの製作が可能です。文化
民族、時代を越えて、さまざまなライフスタイルの実現に向けてトータルにご提案いたします。

www.mohly.co.jp

OW ROOM TOKYO 03.3456.1003 OSAKA 06.6533.3461 YOKOHAMA 045.323.6670 NAGOYA 052.242.9200 KOBE 078.361.2311 FUKUOKA 092.262.7717 OKINAWA 098.942.9125

〔資料請求番号 006〕

CONTENTS

www.imhome-style.com



060



010

060 SPECIAL ARTICLE

LEATHER IN TOUCH

革をインテリアのアクセントに

064 Manufacturing Process

070 Leather for houses

074 **Leather for shops**
レザーを効果的に生かした飲食店
RIGOLETTO KITCHEN / L'edge D'or / TANAGOKORO THE BAR

078 **Materials**
Real Leather
CARPET FORCE / NEAT
Fake Leather
Vinyl / Ceramic

084 **Products**
Door / Tassel / Knob & Handle

086 **Makers**
Real Leather
WONDER INDUSTRIAL / TOCHIGI LEATHER / Bridge of Weir / AURA / MELX
Fake Leather
TOMITA / NATIONAL INTERIOR / SINCOL MATERIAL / SANGETSU / TEXTILE IIDA / MANAS TRADING / CHELSEA INTERNATIONAL

091 **Custom**
YAMAGIWA / CUCINA / Linea Talara / LIBRE

124 **Leather Collections**

010 CLOSE-UP DESIGNER
NOBUYASU HATTORI
建築家　服部信康

022 CLOSE-UP ARTIST
SOFIE LACHAERT
Atelier · Gallery · B&B

030 EYES ON Italia
PROMEMORIA
by Romeo Sozzi

036 **Open Garage Showcase**
Case01
中庭を介してさまざまな視点から愛車を望む
C邸／岡田哲史建築設計事務所

048 Case02
もう一つの趣味室としてのガレージ
T邸／芦原太郎建築事務所



CLOSE-UP DESIGNER

NOBUYASU HATTORI

建築家 服部信康

ライフスタイルを反映した個性あふれる住まいには、穏やかで心地良い空気が流れている。愛知を拠点に設計を行う服部信康は、それを体現する建築家の一人だ。限りなく人に近い目線に立ち、空間や住み手に合わせて建物だけでなく家具や照明器具、庭をトータルで提案する“住まい”は決して奇をてらったものではなく、温かな雰囲気が漂う。2008年5月に実験的な試みとして竣工した自邸は、開口を極力抑えた最小限の空間に家族四人が暮らす平屋建て。今回は、自邸を通して彼の住まいに対する思想を探る。

Photographs : Nacása & Partners Text : I'm home.





服部信康　Nobuyasu Hattori

1964年・愛知県生まれ。'84年・東海工業専門学校卒業。'84年～・名巧工芸入社。'87年～・総合デザイン、'89年～・スペース、'92年～・R&S設計工房勤務。'95年・服部信康建築設計事務所設立。主な作品は、2002年・住宅「大和の家」、「長浦の家」、'04年・「切土山の家」、'05年・「南牛川の家」、'06年・「工具屋の家」、「大野邸」no.37に掲載(以上愛知)、「足立邸」(岐阜)no.36に掲載など

10・11頁／天井高1850～3300㎜のワンルームとしたリビングダイニングは、妻の三栄子さんがピアノを弾いたり、長女の真央ちゃんと次女の真菜ちゃんが勉強をしたりと、家族が思い思いに過ごす場所。外壁にはほとんど開口を設けていないが、上部にある550㎜×300㎜のトップライトから約12、15、31度の傾斜をつけた天井に沿って光が回り込み、住まい全体を優しく照らし出す。床はブラックチェリー材貼り、壁と天井は漆喰仕上げとするなど、素材感のあるものでまとめている。建築家の服部信康さんオリジナルのダイニングテーブルは、天板にレッドオーク材、脚にスチールを使用。右のイスも同様にオリジナル、手前右はアンティーク、左は小泉 誠さんデザインで、すべて以前から使用していたもの。奥の2脚は住まいに合わせて購入したハンス・ウェグナーによるデザインのイス。間仕切りを兼ねたブラックチェリー材製の収納は、高さを1600㎜に抑えることで奥に配されたキッチンまで光が差し込むよう配慮した。収納の中央に扉を設けて子ども部屋や主寝室への動線をスムーズに
左頁／リビング東側には可児ガラスが製作した幅1600㎜×高さ80㎜のスリット窓の高さに合わせたオリジナルのキャビネット(幅3000㎜×奥行き460㎜×高さ710㎜)を配置。パソコンが使いやすい高さ710㎜としているため、圧迫感を与えないよう扉のシナ材は柔らかな色合いの白に塗装した

商空間から住宅設計へ

どこか和の趣を感じさせる佇まい、開口を絞り込んだ陰影のある空間、間仕切りを設けずひとつながりにしたダイナミックなプラン。建築家の服部信康さんがつくり出す住まいはそのどれもが独自の顔を持ち、住み手の個性にあふれている。常に家族の笑い声が絶えないおおらかな空間は、彼の穏やかな人柄を表しているかのようだ。

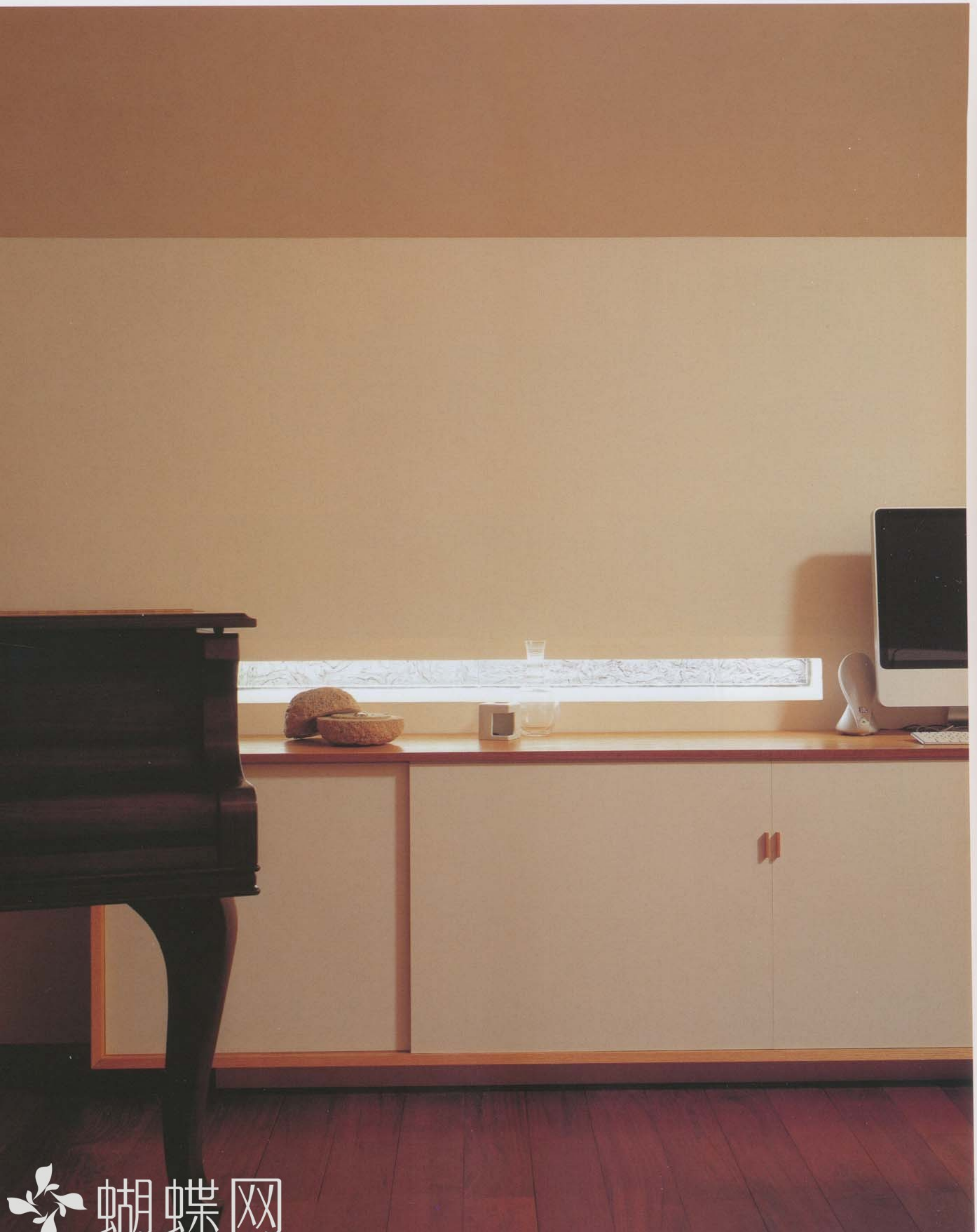
現在、愛知・西春日井郡を拠点とし、同県を始め岐阜、三重などで住宅設計を中心に活動する服部さん。しかし、もともとは商業施設の設計や施工管理を行っていた。約7年に渡ってさまざまなプロジェクトに携わるなかで、過剰なデザインに対する疑問を感じるように。集客重視の流行を追い求める空間、人目を引くための装飾、そして顔の見えない相手を想定した設計……。"建築をつくりたい"という思いから、名古屋市内にあるR＆S設計工房で住宅設計を経験した後、1995年に自身の建築設計事務所を設立した。

独立当初は仕事の依頼が少なく苦労したが、一軒一軒クライアントや土地、環境と真摯に向き合う行うことで、徐々に依頼件数が増えていく。「建物だけでなく庭、家具、照明器具に至るすべてを提案する」と言うように空間や住み手のライフスタイルに違和感なくなじむものをトータルでデザインしていく。庭や家具から空間を発想するといった枠に捕らわれない設計方法は、そこに住まう人の生活を大切に考えるだからこそ成せる技。上質な空間を生み出しながらも「建築にこだわることをあきらめた」という言葉からは、建築家の存在を主張する"作品"ではなく、"住まい"という住み手のための空間をつくる信念が感じられる。

住み手の価値観を変える住まい

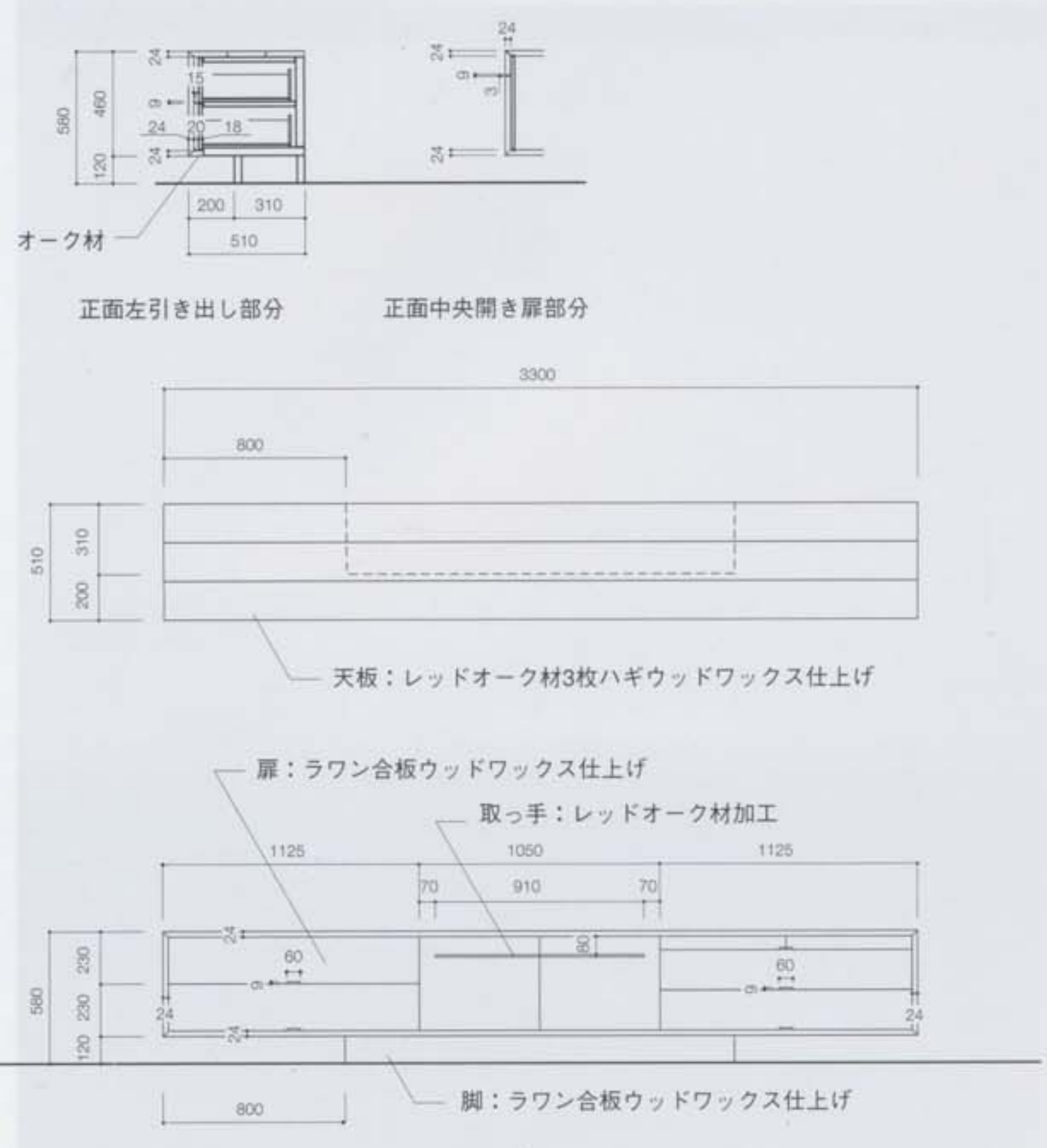
「家族が楽しめる場所。常にそれが設計を行ううえでの大きなテーマ」。そこに住まうことで日々の暮らしや人生までもが豊かになることを強く願う。そのため、クライアントにはどうよ

(17頁へ続く)

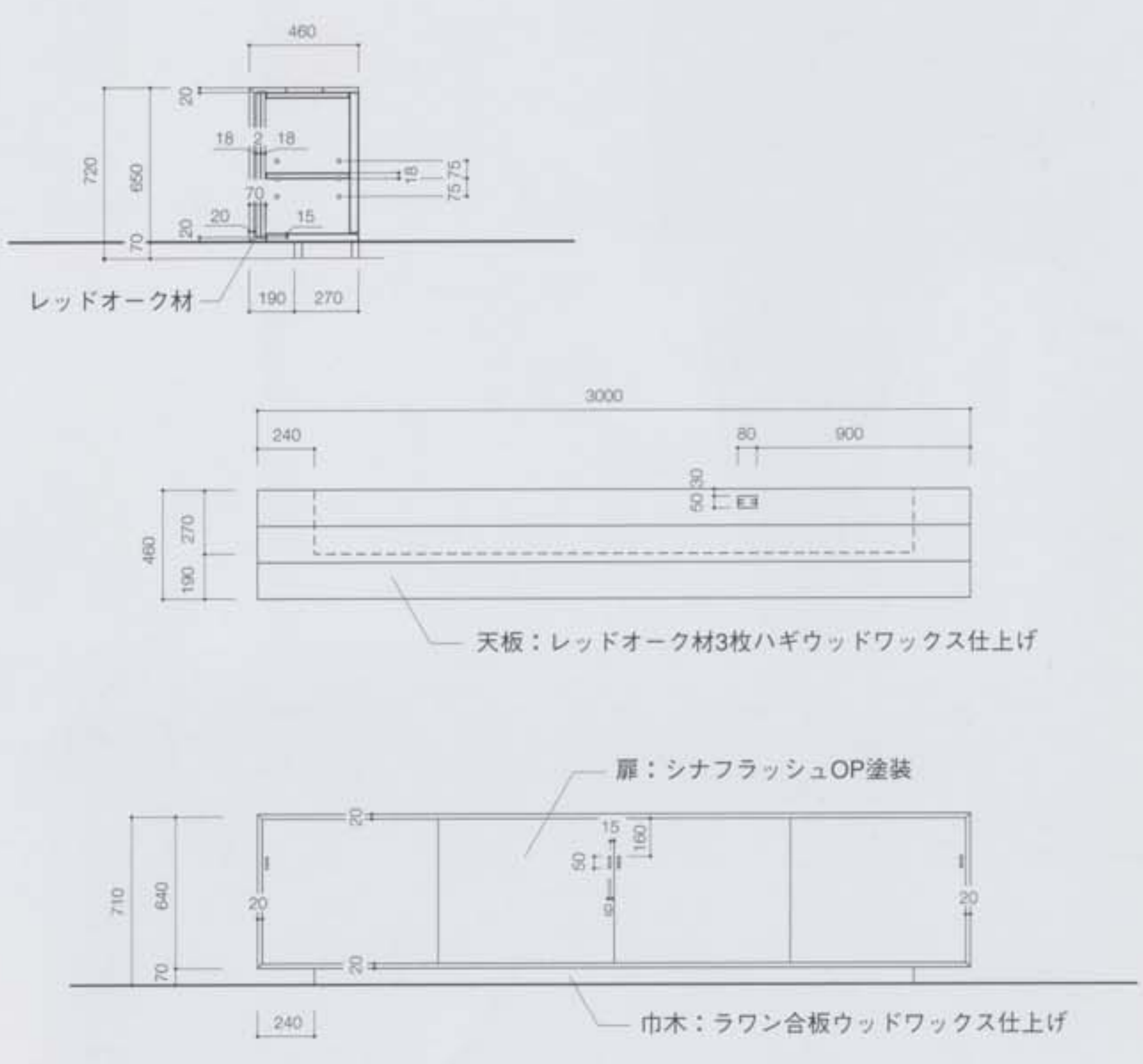




上／リビング西側の壁面にもキャビネット（幅3300㎜×奥行き510㎜×高さ580㎜）を造作。面材にレッドオーク無垢材を使用し、白く塗装した東側のキャビネットとは異なるデザインに。右上に壁づけした厚さ15㎜の棚板と左上のスチールプレートのバランスが絶妙。服部さんが集めたオブジェや絵画をさりげなく飾って空間のアクセントに
左頁／家族の個室が配された南側から通路越しにキッチンとリビングダイニング、玄関まで見返す。右手が夫妻の主寝室である2.2畳の和室で、左手は二人の子ども部屋。和室のミラーに映り込んだ幅600㎜×高さ1000㎜の小窓を始め、子ども部屋を仕切る左の引き戸にガラスを採用するなど、随所に光を導く工夫を施している。リビングダイニングとは対照的に、個室は落ち着いて過ごせるよう天井高1900㎜と低めに設定



リビング西側キャビネット詳細図 1:50



リビング東側キャビネット詳細図 1:50











右上／収納棚の南側に配されたキッチンはオーダーキッチンメーカー、プリマヴェーラに製作を依頼。コンパクトなスペースだが、床に近い場所に設けた幅700㎜×高さ1000㎜の引き戸から光と風を取り入れて快適な空間に　右下／奥に真央ちゃん、手前に真奈ちゃんの部屋を並列させ、引き戸を開け放てば直接行き来できるように。床面積わずか4.9㎡の空間にベッドや収納を兼ねた勉強机を効率良く配置　左上／個室をつなぐ廊下にはうさぎのマスコットがついた照明のスイッチが。細部にも服部さんの遊び心が表れている　左下／真奈ちゃんの勉強机の前には建物南側に設けたドライエリアに面して網戸つきの小窓を設置。リビングのスリット窓と同じく可児ガラスに依頼して製作したもの

左頁／リビングから見た北側の玄関。前面道路からの人目を気にせず扉を開け放てるよう玄関扉の奥にはレッドオーク材製の格子状門扉を設け、室内側にはリビングとの間に壁に引き込める漆喰仕上げの引き戸を設置。空間に奥行きをもたらすため右手前の壁にテーパー（勾配）をつけている。廊下の右手がバスルームで、左手がトイレ



うに過ごし、どのような暮らしが心地良いのかをまず考えてほしいという。"自邸を建てる"という数少ない経験が、それぞれの価値観を再認識するきっかけとなる。それにより、限られた敷地面積やコストといった通常設計するうえでデメリットにも成り得る要素をポジティブに転換することができるのだ。「何を大事にしたいかを整理することが重要」。必要なものを取捨選択し、時には面倒なことや不便さを受け入れることで、真の意味での豊かさが見えてくる。利便性や効率性を重視する社会に暮らす日本人にとって、はっとさせられる考え方だ。

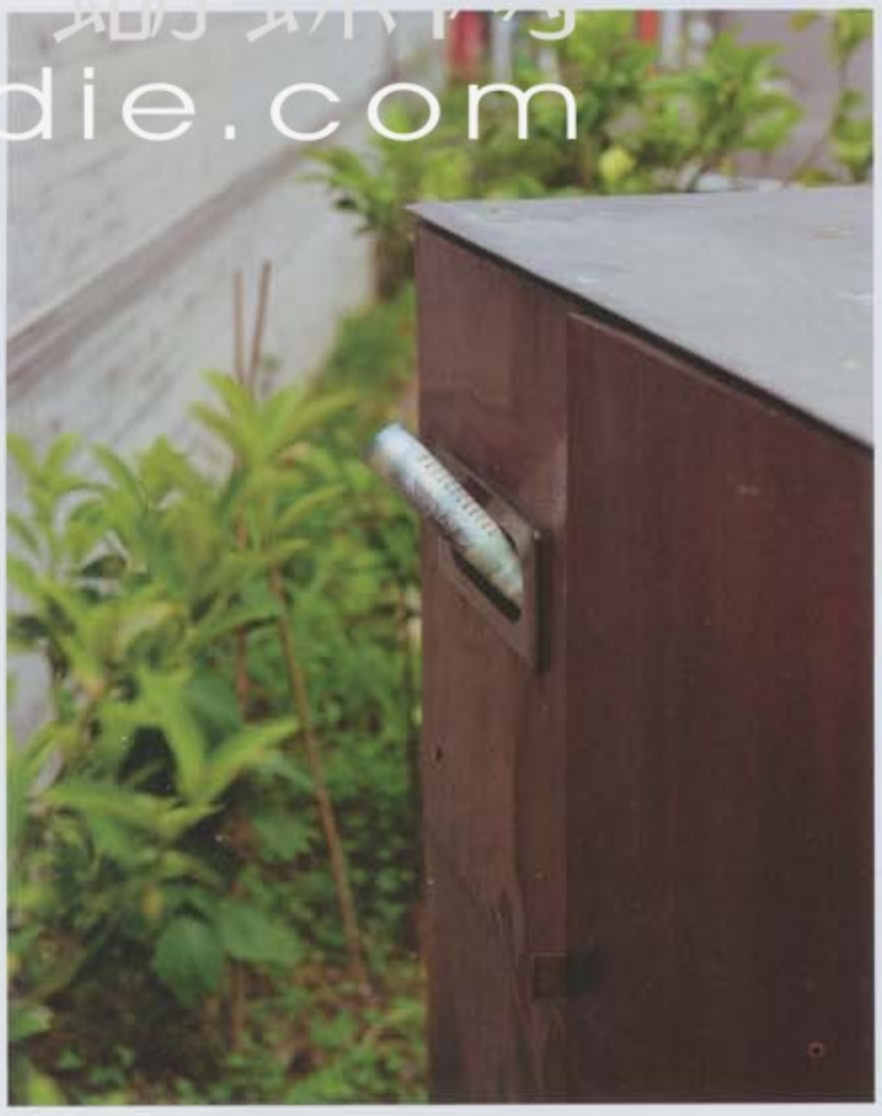
設計を依頼されると、プランを作成する前に現在の住まいを訪問し、実際に暮らしぶりを細かく調査する。ライフスタイル、必要な収納量、住まいの雰囲気など対話だけでは分からない部分まで把握したうえで、クライアントと価値観を共有し、相手が望むことを反映させながらも、新たな提案を行うことが大切なのだ。

自邸で新たな試みを実験

そんな服部さんは2008年5月に竣工した西春日井郡に立つ自邸で、実験的ともいえる新たな試みを実施。妻と二人の娘と共に暮らす平屋建ての建物は、幅5.5m×奥行き13.2mと、床面積はわずか67㎡ほど。さらに驚くのは、ダイニング上部に配されたトップライトのみが主要な開口で周囲に開口と呼べるものはほとんどないことだ（開口の実例はno.42に掲載）。

「自邸は実験住宅」と自らが言うように、家族四人が暮らすための空間を最小限まで削ぎ落とし、開口を極力設けず外の景色を見せないなど、通常の住宅設計とは反する条件を設定。広々とした空間やガラス張りの大開口、ハイテクな設備機器など、多くの人が住まいに望むことを一旦否定したうえで、どのように豊かに住まうかを試みた。そこには、今後設計を行ううえで、次につながるステップとなる建物づくりをしたいと願う思いが込められている。

無機質なコンクリート打ち放しの外壁に鉄板で囲われた玄関扉を開け、一歩足を踏み入れると、トップライトからの神秘的な光に包まれた静謐（せいひつ）な空間が広がる。高さ約3.3mの位置に配し

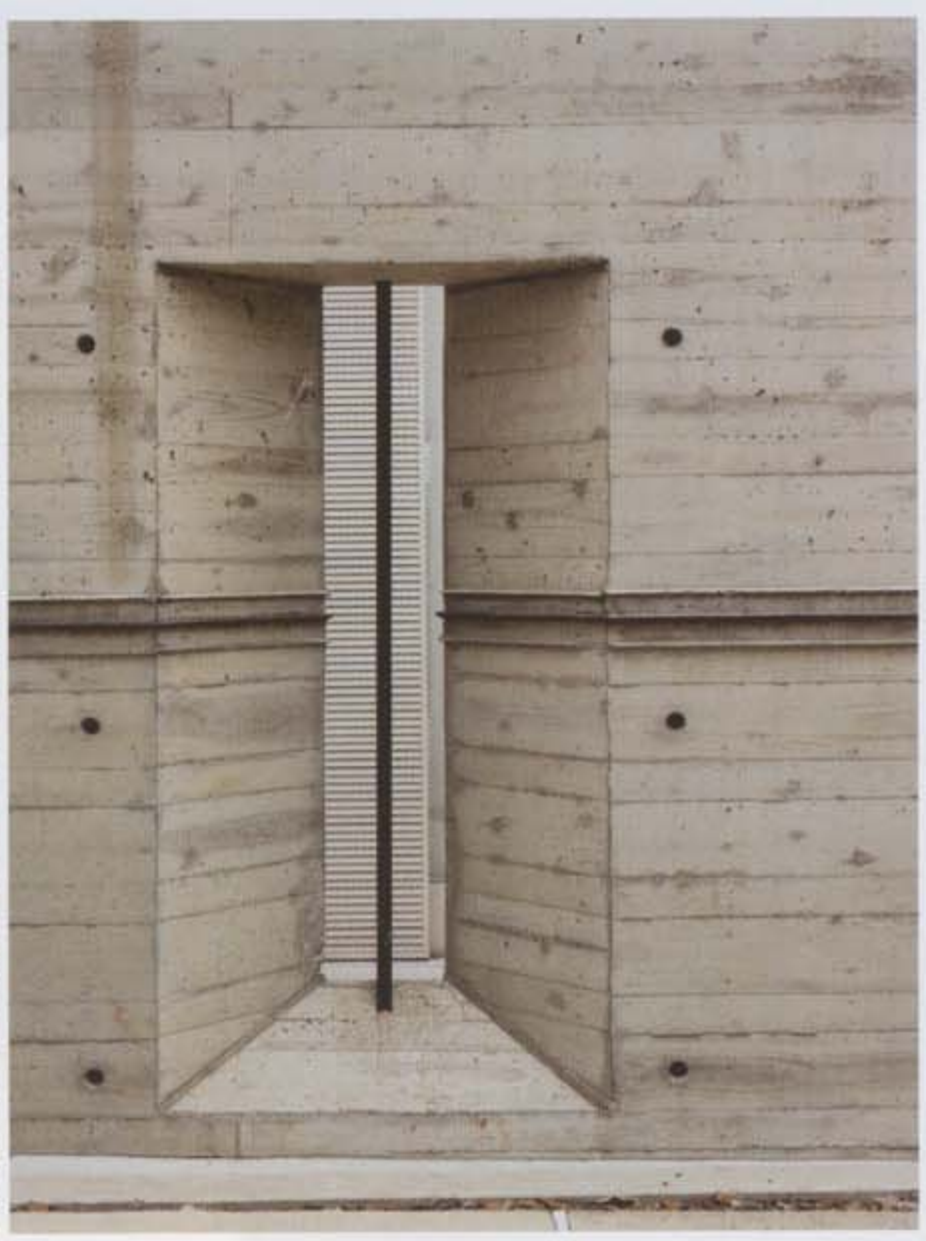




右／東側の道路に面して910㎜角の銅板葺きのボックスを配置。ポストを兼ねたこのボックスには、浄化槽のポンプや電気メーター、ごみ箱などを収容。ポストと並んだ右の扉は物干スペースにつながる勝手口　上／コンクリート打ち放しの建物に錆びついたボックスや周囲の緑が温かみを添える　下右／南側の外壁に設けた幅200㎜×高さ1200㎜のスリット窓は、コンクリートの壁にテーパーをつけることで、さまざまな角度から開口を見せると同時に、奥行きを出した。防犯面を考慮して設けた中央のスチールフラットバーが外観のアクセントに。奥に配されたドライエリアへの通風を確保する　下左上／外壁のコンクリートには杉板を型枠に用いて表情を添えた。中央のスリットは東側の外壁に唯一設けられたリビングのFIX窓　下左下／道路に面した庭の一部に合併浄化槽があることから、マンホールの上に石を敷きつめ、周囲を厚さ2㎜のスチールで囲ってオブジェのような仕上げに
左頁／東側外観。外壁は杉板型枠のコンクリートにウリン材を加工した二本の目地を通してアクセントとした。幅5500㎜×奥行き13200㎜の平屋建ての建物は、周囲に対して圧迫感を与えないよう最高高さを4250㎜に抑えている









た550㎜×300㎜のトップライトから緩やかに傾斜した漆喰仕上げの天井に沿って光がほど良く回り込み、住まい全体を明るく照らし出す。トップライトから取り込む光量と反射する光、さらに光を受ける天井の傾斜角度や壁の配置を入念に検討することで、わずかな開口でも生活に必要な照度が確保できた。雲が上部に来たときはうっすらと暗くなり、太陽が顔を出せば明るくなる、というように空模様によって明暗が変わる様子を見ていると、大きな開口がなくても刻々と変化する外の気配が感じられる。

玄関ホールの両側には、バスルームとトイレが振り分けられ、その先は、ワンルームのリビングダイニング、収納を兼ねたチーク材の間仕切りの奥にキッチンが続く。さらにキッチン南側には、床面積4.9㎡の子ども部屋二つと主寝室を兼ねた2.2畳の和室を配したシンプルなプランだ。必要最低限の居室をコンパクトに配置した空間に、この住まいのためにデザインした二つのキャビネットやレッドオーク材のダイニングテーブルが違和感なくなじんでいる。

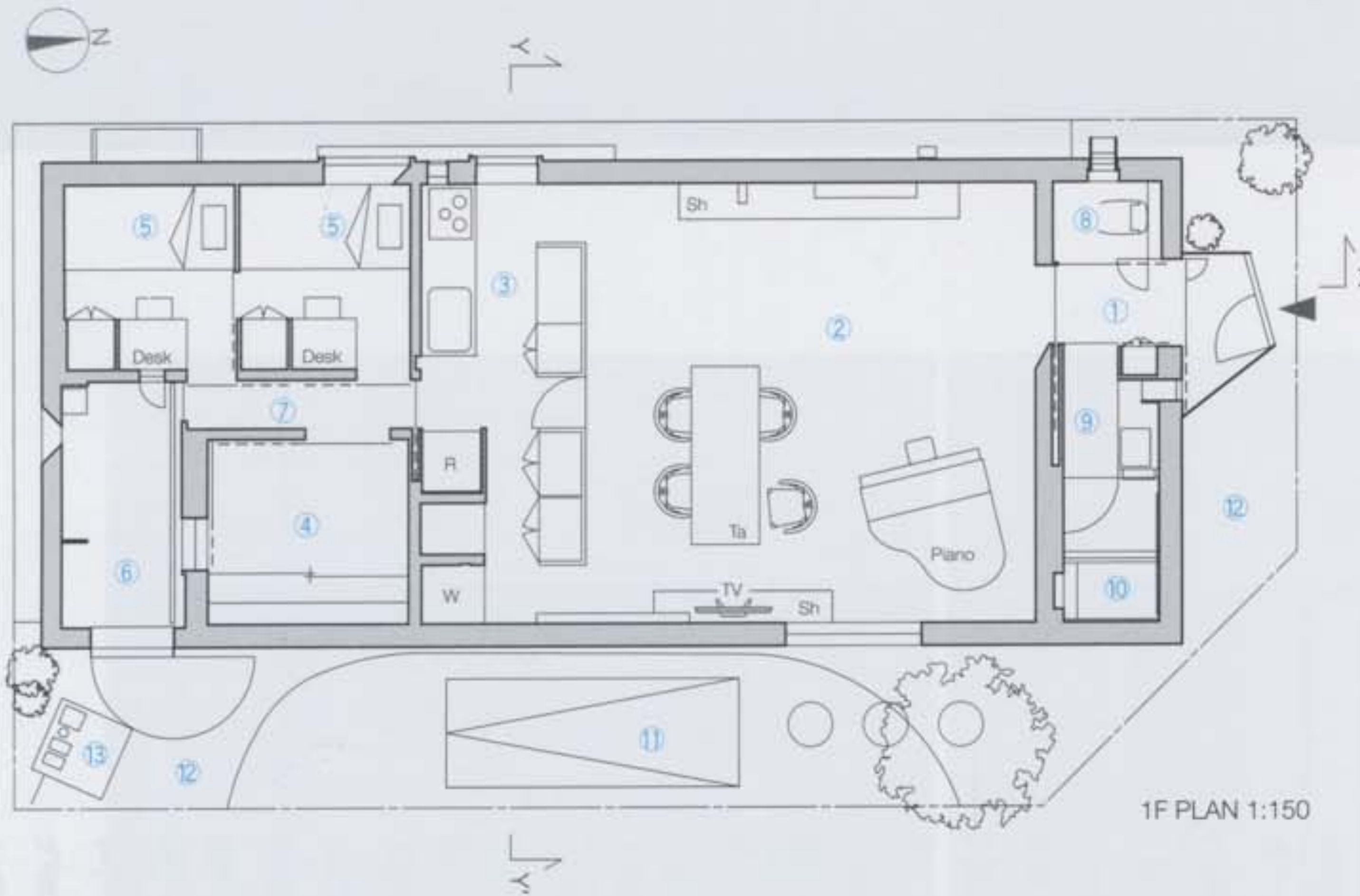
「テントのような一つの空間に皆で集まることで家族の絆が深まる」。常に家族の気配を感じ、時には譲り合いながら互いを思いやる生活は、公団住宅で暮らしていた以前のスタイルのままだ。ただし、小さなスペースで暑寒の差を感じるとストレスになるため、全面に床暖房を敷設。必要なものとそうでないものを明確に分け、優先順位をつけることで、真の豊かさとは何かを実感できる。

また、「周辺環境や近隣に暮らす人、道行く人たちへの配慮が必要」との考えから、建物の高さは圧迫感を感じさせないよう最高約4.2ｍと極力低く設定し、外壁のコンクリートには杉板の型枠を用いて素材感を持たせた。さらに、周囲に対して一切塀を設けずオープンとし、四季折々に変化する素朴な草花や低木を植栽。道行く人をほっとさせる和みの場となっている。

新たな発想を基に人の目線に立ってつくる住まい。個性的でありながらも周囲に対して主張しすぎることなく、さり気なくそこに佇む。服部さんがつくり出す穏やかな空間が、家族に必要な住まいとは何かを改めて考えさせてくれる。



北側の道路に面した玄関はコンクリート打ち放しの外壁を切り取るように鉄板と格子戸を配置。道行く人の目を楽しませるため周囲にはヒメシャラやジンチョウゲなどの緑を植えた。錆びついて傾いた標識さえもユニークなアクセント



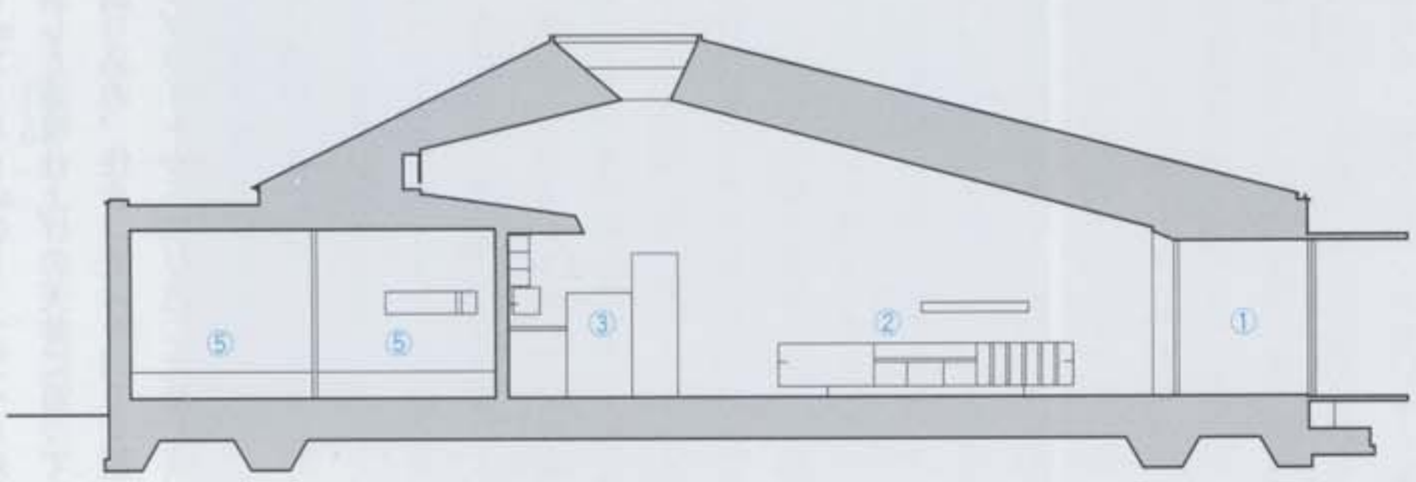
1F PLAN 1:150

DATA

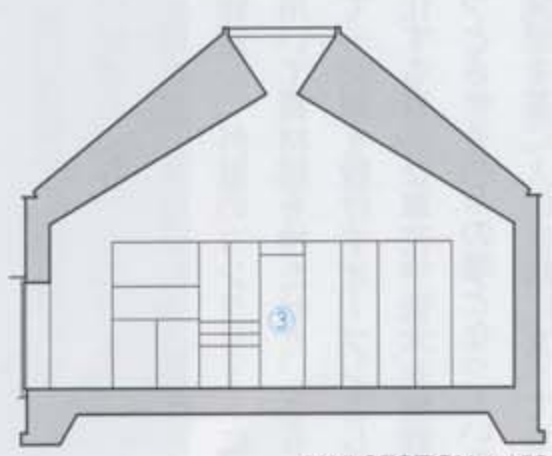
設計と規模／RC造十木造　平屋建て
敷地面積／118.10㎡　建築面積／70.45㎡　延床面積／67.33㎡
家族構成／服部信康（44歳）三栄子（40代）
真央（15）　真奈（11）

※設計データは204頁に掲載

①ENTRANCE
②LIVING & DINING
③KITCHEN
④BEDROOM
⑤KID'S ROOM
⑥DRY EREA
⑦HALL
⑧TOILET
⑨POWDERROOM
⑩BATHROOM
⑪PARKING
⑫GARDEN
⑬POST



X-X' SECTION 1:150



Y-Y' SECTION 1:150

HALO

The Halo Group has been at the forefront of the furniture industry, since it was established in Britain in 1976.

HALOは1976年に英国で設立して以来、
洗練されたヴィンテージスタイルのファニチャーとインテリアアクセサリーを提供しております。

www.haloasia.com



ASPLUND

HALO日本総代理店：株式会社アスプルン
TEL_03-3769-0637
E-MAIL_HALO.japan@haloasia.co

〔資料請求番号021〕

From Belgium

Photographs : Nacása & Partners
Coordinate & Text : Michiko Hirata
Cooperater : Flanders Investment & Trade, Design Flanders



CLOSE-UP ARTIST

SOFIE LACHAERT

Atelier・Gallery・B&B

ベルギー・フランダース地方の小さな街、ティルローデで一つのギャラリーが話題を呼んでいる。そのオーナーであり、自身もアーティストのSofie Lachaertはこの地方の若手アーティストの作品を中心に集めた展覧会を定期的に開催。そして2008年、B&B（Bed & Breakfast）というかたちに発展させ、夫のLuc D' Hanisと共に新たな方法でアートを提案する"場"をつくり出す。二つの肩書きを持ち、アートと共存する暮らしの楽しさを伝える彼女の姿勢に表現者としての信念を見た。



右頁／ベルギー・フランダース地方の街、ティルローデに構えたアトリエ・ギャラリー兼B&Bのベッドルームに立つ、オーナーでありアーティストのSofie Lachaert(右)と夫のLuc D'Hanis(左)。B&BとはBed & Breakfastのことで、朝食つきの宿を意味する。手前にある宙に浮いたサイドテーブルは彼の作品。部屋の至るところにフランダース地方のアーティストを中心とした作品がディスプレイされている
上／ギャラリーとB&Bのダイニングとして使用する共有スペース。手前の白いテーブルはLucが作品を展示する什器としてつくったもの。中央奥にある二人掛けのイスは2009年のミラノ・サローネでdroog Designから発表した二人の共同作品だ。壁際の大きなフロアランプはベルギー人デザイナー、Jos Devriendtの作品で、左奥に朝食の際に使用する大きなダイニンーブルが配されている。基本的にすべての空間は"汚れなき白"でペイント



ベルギー北部に位置するフランダース地方第2の都市アントワープと第3の都市ゲントの間に存在する小さな街、ティルローデ。街のはずれに小さな運河があるのみで、牧歌的な風景の広がるエリアが、一軒のギャラリーを兼ねたB&Bが開業されたことで一躍注目を浴びるように。エントランスドア脇の呼び鈴を押すと、さり気なく気の利いた装いに身を包んだブロンドヘアの女性が現れた。彼女がオーナーのSofie Lachaert（ソフィー・ラシェット）で、自らもジュエリーを始めプロダクトデザインを手掛けるアーティストだ。室内に入ると真っ白なギャラリーと出合う。彼女は同じくアーティストである夫のLuc D'Hanis（ルック・ダニス）と共にオランダのプロダクトデザインレーベル、droog Design（ドローグデザイン）にもデザインを提供すると同時に、アートコレクターとしてここフランダース地方では著名な存在。同地方の若手作家の作品を中心に「アートとデザイン、クラフトの中間に位置する作品」を積極的に収集している。2000年、地上2階建ての小さな造船工場だったこの建物を購入し、Lucと共に創作活動を行いながらギャラリーを経営していた。そんな彼らのもとをアーティスト仲間が訪れた際、二人は空き部屋を宿泊先に提供していたが、翌朝ゲストは今まで経験したことのないほど快適に眠れたと口をそろえる。そんな経験から、近隣に大きな幹線道路がないため、夜になると辺りは静寂に包まれる恵まれた立地を生かすべく、二人は空き部屋のリノベーションを行い、'08年にB&Bをスタートした。

B&Bがある2階へ上る階段の踊り場には、まるでコンテンポラリーアートのように壁にかけられた靴が。これは、「できれば靴を脱いでください」という二人からの遊び心あるメッセージ。トップライトからの光を反射する真っ白な階段を上がって行くと、部屋の入り口で陶器製の小鳥が出迎えてくれた。室内には同地方を代表するアーティスト、Maarten Van Severen（マーティン・ヴァン・セーベレン）のユニークなかたちのイスを中央に、至るところにこの地方の若手作家や二人の作品がさりげなく置かれて、アートピースで満たされた空間となっている。「アート作品と呼ばれるものには理解しづらいものも多く存在する。しかし、ここではアートと共に暮らすことの素晴らしさをゲストにも体験してもらいたい。子どものように純粋な好奇心からこの不思議なイスに触れてほしい」とSofie。ゲストは1名から4名の1組のみこの1室とロフトに宿泊でき、同じく2階に配されたバスルームを使う。

アートと人々の間の距離をより近くするためにできること

朝食を取るためのダイニングへ向かうには二人のアトリエを通ることになる。実際にアートが生み出される場を身近に見られるのも特色だ。朝食は料理上手な彼女が近郊で採れた食材を使って用意する。Piet Stockmans（ピート・ストックマン、no.33に掲載）の食器やカトラリー、彼女のデザインしたシュガーポットなどが並んだテーブルで食事を楽しむと、アートは暮らしを豊かに彩るためのスパイスなのだと気づく。

1階のギャラリーでは定期的に展示を開催し、彼女はその度に多くの美術愛好家や建築家を招待して、アーティストとの交流の場を築いている。「アートの多くはシリアスとジョークという、相反する要素を併せ持ち、ファンタジーと遊び心にあふれるもの。そして、時にそれはとても実用的。それらを理解しようと思わず、日常生活のなかにアートがあることの楽しさを知ってほしい」。

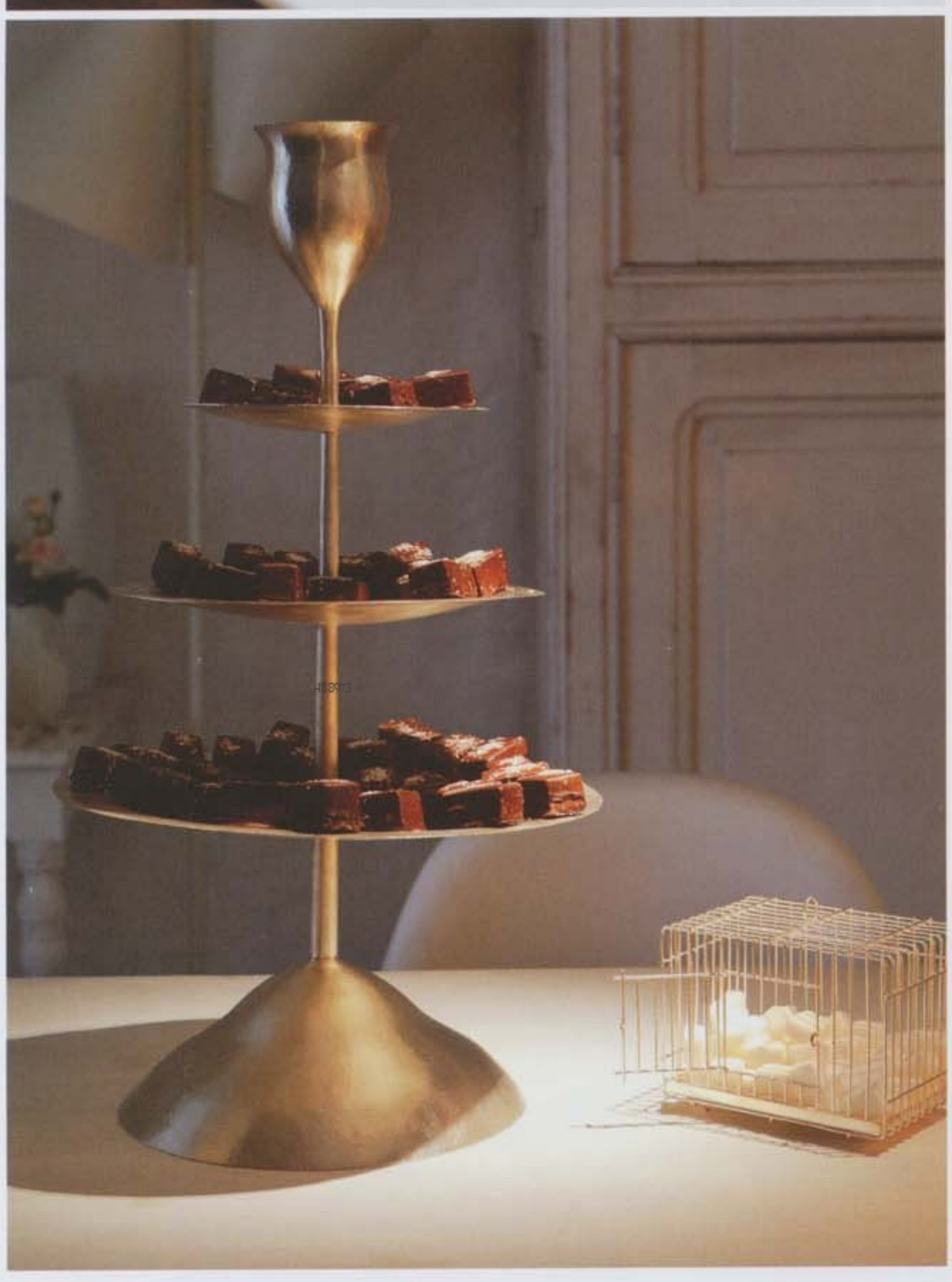
アートという捉えどころのない領域のなかに身を置き、その本質に触れる貴重な場を多くの人に提供していく。彼女の強いまなざしが、新たな価値を生み出し続ける信念を物語っていた。



上／ロビーとダイニングを兼ねたギャラリースペースの一角。2005年に亡くなったフランダース地方を代表するアーティスト、Maarten Van Severenの代表作であるダイニングテーブルにLucの作品が展示されている　下／朝食がふるまわれる白いダイニングテーブル。食器、シュガーポット、キャンドルホルダー、カトラリーなどには彼らが手掛けたものを始め、Piet Stockmansなどアーティストの作品が使われる。イスはVerner Pantonの「Panton Chair」







上右／取っ手が指輪になった燭台は、キャンドルの存在の意味を引き立たせるためのエッセンスを加えたSofieの作品。永遠や信頼の象徴とされる指輪は彼女にとって男女の"約束"を表現したもので、キャンドルは"愛を灯す"というシンボルなのだそう　上左／反射の原理を利用したLucの作品。陶器製プレートに手作業で描かれた模様がシルバーのボトルに映ると鳥や蝶などが浮かび上がる。陶器に模様を焼きつけると変色するため何度も試作を重ねた　左／チョコレートでコーティングされた四角いマッシュルームはフランダース地方のポピュラーなスイーツ。シルバー製の3段デザートトレーと鳥かごをモチーフとしたシュガーポットはSofieの作品





上右／二人のアトリエではさまざまな作品の製作過程に遭遇する。アンティークのキャビネット上に置かれた大きな木製オブジェはダイヤモンドの立て爪をモチーフにしたスツール「Chanton-Chair」の試作品。ティルローデから最も近い都市アントワープは世界的なダイヤモンド取引の中心地でもあることにちなんだ作品　上左／Sofieの作業デスク上にはさまざまな素材やメモが残されていた。B&Bからダイニングへ抜ける場所に位置するこの空間もゲストのために開かれている
左頁／Maarten Van Severenによるデザインのラウンジチェアはシートに厚みのあるレザーが用いられている。見た目には硬く、座りにくそうな印象だが、実際は体にぴったりとなじんで心地良い。窓辺にかけられたドレスは遮光性のあるファブリックでつくられ、カーテンとしての機能を果たす。ドレスにコーディネートしたモダンなジュエリーは、ギャラリーに展示されているアーティストの作品をSofieが気分によってつけ替えている。右手の壁に取りつけられた鹿の角のような作品はSofieとLucの共同製作によるもの









Galerie Sofie Lachaert
Luc D'Hanis & Sofie Lachaert

St.Jozefstraat 30 B-9140 Tielrode, BELGIUM
TEL. +32(0)3-711-19-63
e-mail : info@lachaert.com
URL : http://www.lachaert.com
営業時間：金曜土曜日曜 14：00〜18：00（予約制）、
7〜8月は予約のみ

B&B Sofie Lachaert

※住所、連絡先は上記参照
ROOMS：1室（1名〜4名までの1組のみ宿泊可能）
OFFICIAL RATE（1室1名あたりの料金）：平日 100 EUR／泊　週末 115 EUR／泊
※詳細はウェブサイトを参照

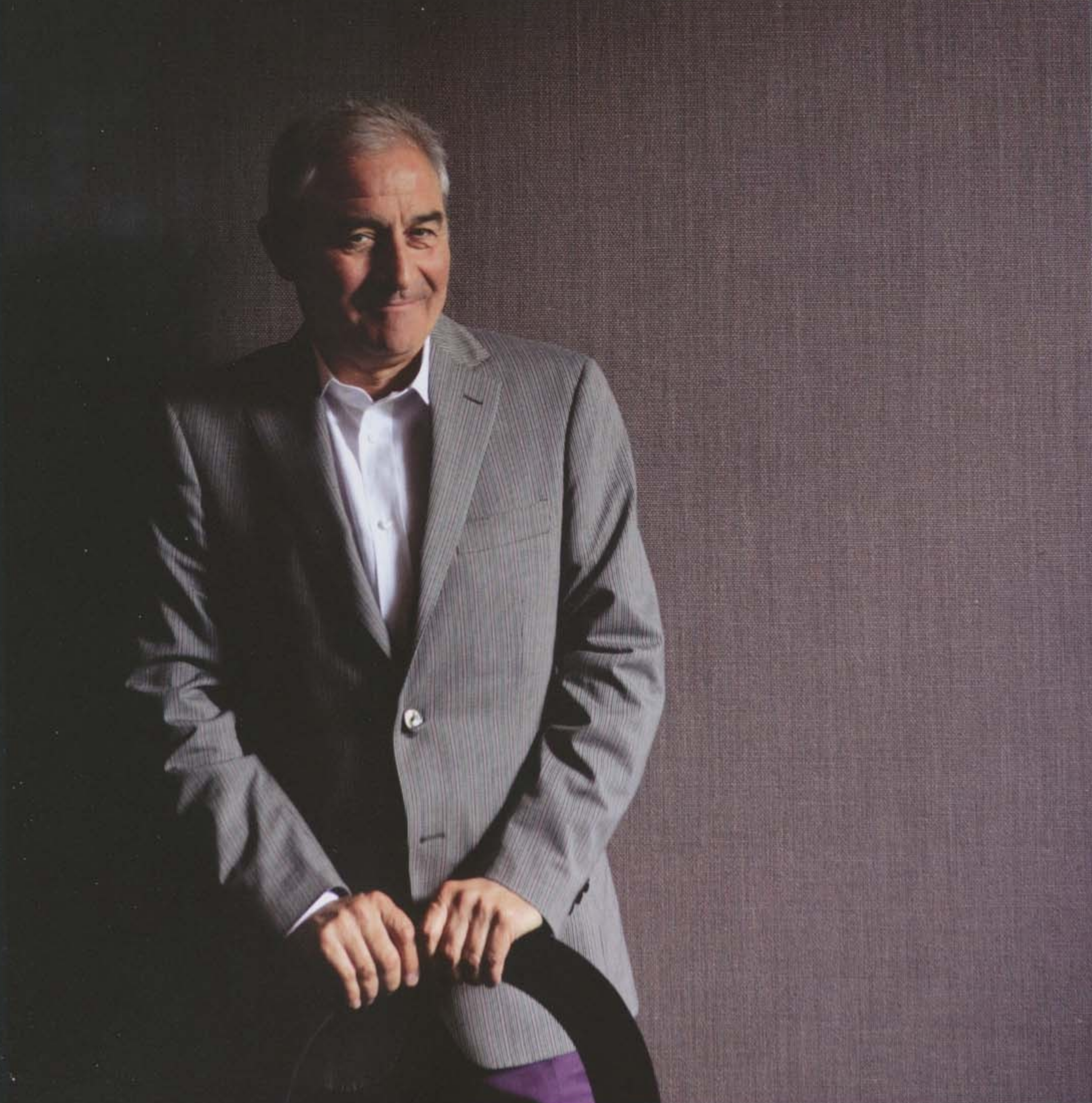
Sofie Lachaert ソフィー・ラシェット

ベルギー・ゲント生まれ。1985年、Royal Academy of Fine Arts Antwerpを卒業後、プロダクトからジュエリーまで幅広いデザインを手掛け、フランダース地方を代表するアーティストとして知られる。2000年、夫のLuc D'Hanisと共にギャラリーの経営を開始し、'08年、新たにB&Bを開業。オランダ・droog Designにデザインの提[illegible]を行い、'09年のミラノサローネでは同ブランドのブースで新作を発表した。若手アーティストと[illegible]の人々を集めた交流会など、芸術普及活動も[illegible]的に行[illegible]いる。

右頁上／2階のB&Bのバスルームに配されたドイツ製のバスタブはどこかノスタルジックな雰囲気を漂わせる。近くに広がる豊かな森や運河の土手をサイクリングするなど、自然を楽しんだ後にはゆっくりとバスタブに浸かって疲れを癒す　右頁下／クラシックなフォルムの洗面器を中心に、Studio Hoetのスツール「Vintage」と、ミラー「2 mirrors hang together」などアーティスティックな小物が並ぶバスルーム。スーパーマーケットの子ども用カートを洗濯物入れにするという発想はいかにもSofieらしいユーモアだ
上／白を基調としたシンプルなベッドルーム。ベッドリネンはオランダ人アーティスト、Mari Meesの作品。木目が特徴的なフローリングや白いペイントを施したコートハンガーは木幹の持つ素材感が生かされ、ミニマムな空間を柔らかな雰囲気漂う心地良い場に

EYES ON Italia

PROMEMORIA
by Romeo Sozzi



2009年4月、ミラノサローネ（国際家具見本市）が開催されたイタリア・ミラノの街角に立つ「PROMEMORIA」（no.25に掲載）のショールームでは、陰影を帯びた空間にコーディネートされた上質な家具が静かに存在感を放っていた。コンテンポラリーでありながらクラシック、PROMEMORIAの家具は贅を極めた素材や優美なフォルムで注目を集める存在だ。そして、今回の新作のテーマは“古くから愛されてきた家具が備える機能美”。これまでにない素材や色彩が多く見られた'09年のコレクションについて、創立者でありメーンデザイナーでもあるRomeo Sozziに改めて尋ねた。

Photographs : Nacása & Partners（＊以外） Text : Chika Honaori

シアーカーテン越しに差し込む柔らかな光に包まれたイタリア・ミラノにあるPROMEMORIAのショールームの一室。ファブリックをメインにアーム部分にレザーを張ったアームチェアとオットマン「gioconda & giocondina」は、三次元にカーブするレザー部分を丁寧に手縫いし、しっくりと手になじむよう仕上げている。左奥に配したブロンズ製の支柱にシルクのシェードを組み合わせた照明「cecile」やミラーに映ったマホガニー材のデスク「amleto」、その上に「cecile」と同素材の照明「warry bronzo」を置き、実際の暮らしをイメージさせるコーディネートを提案。世界中から厳選した素材が空間の質を高め、真の豊かさとは何かを伝える。「giocondina」（W760×D740×H720／SH450）517,650円～「gioconda」（W690×D540×H420）425,250円　「cecile」（290角×H1330・白熱球100W×2）407,400円　「amleto」（W2000×D800×H755）4,417,350円　「warry bronzo」（W435×D200×H485・白熱球60W×2）288,750円

Romeo Sozzi　ロメオ・ソッジ

イタリア・レッコ生まれ。画家を目指してローマのThe Belle Arti Academyでオイルペインティングを学んだ後、祖父の代から続く馬車を始めとしたカスタムメード家具の製造業を引き継ぐ。1988年・オリジナルデザインの家具ブランド、PROMEMORIAを設立し、家具やキッチンのデザインを始めインテリアをトータルにプロデュース。現在はイタリア、フランス、イギリス、ロシアにショールームを有し、世界60カ国で展開する。





バスルーム脇に設けたリビングのようにくつろげるスペースにコーディネートしたのは、ソファ「dolce vita」。ファブリックとレザーをバランス良く組み合わせたデザインだ（左頁右下）。ブロンズ製フレームにファブリックを張ったもので、Federico Fellini監督の映画にインスパイアされて命名した。低い背もたれと奥行きのある座面がゆったりと体を包み込む。手前の折り畳み式チェア「quentin」は、鍛鉄のように叩いたブロンズをフレームに使用し、丸みを帯びたアームの先が手のひらにぴったりなじむ優美なラインをデザイン。ファブリックは屋外でも使用可能な自社独自の素材で赤、緑、黒、白に近いピンクの4色を用意する。「dolce vita」（W1600×D970×H700／SH420）各1,404,900円～（写真は2台）　「quentin」（W520×D550×H855／SH470）各425,250円

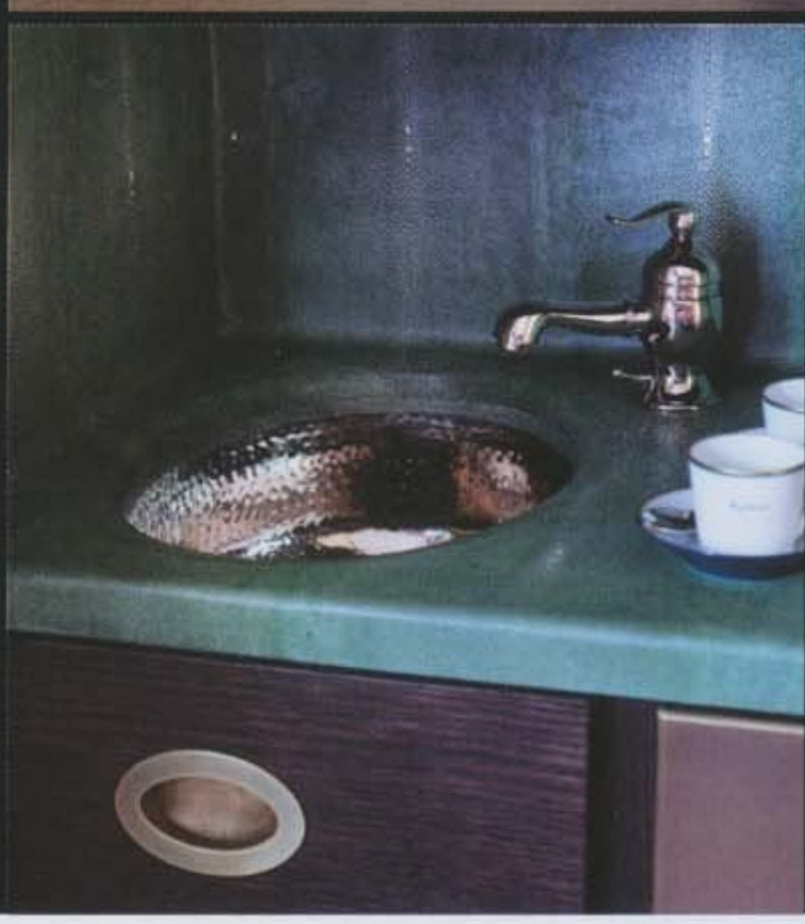
2009年のミラノサローネに訪れた人々でにぎわうイタリア・ミラノの街角。バグッダ通りにあるプロメモリアのショールームは、周囲の喧噪とは無縁の静謐な空気に包まれていた。家具からファブリックまでトータルにコーディネートされた室内は、まるで邸宅のような雰囲気をたたえ、その研ぎ澄まされた世界観に魅了される。木、レザー、ファブリック、ブロンズなど吟味された素材とそれらを生かすデザイン、機能を兼ね備えた上質なファニチュアブランドとして注目を集めるプロメモリア。職人の精緻な技術とアーティスティックな感性により実現した数々の家具は、真に豊かな住まいを求める人々に至高の暮らしをもたらす。

創立者でありメーンデザイナーでもあるロメオ・ソッジがプロメモリアをスタートさせてから20年を数える'09年の新作では、「FURNITURE OF BYGONE DAYS＝"過ぎ去りし日の家具"」をコンセプトに、古くから愛されてきた家具が備える機能性を追求。ソファやベッド、キッチンといったバリエーションに富んだアイテムは、"機能美"を求めながらも、尽きることのない彼の創造力と、ものづくりへのこだわりが凝縮されている。たとえば、折り畳み式チェア「クエンティン」は、加工しやすくさまざまな造形を可能にするブロンズを使用。イタリアの伝統的なスタイルを踏襲しながらもモダンな印象を与え、これまでにない優美さを表現している。さらに、屋外でも使用できるファブリックをシートに採用することで、室内外で活躍するように仕上げた。

また、曲線を描くフェミニンなフレームをベルベットで張り込んだ「ペネロペ」と、扇を思わせるヘッドボードを備えた「ショーン」の二つのベッドを発表。マットの高さを従来より低めの600㎜に抑えて出入りのしやすさや寝心地を追求したところに、機能性を重んじた今年のコンセプトが貫かれている。このほかベルベットに真鍮製のボタンをあしらったサイドテーブル「スクリーニョ」や、ブロンズ製の脚部とバックステッチを施したファブリック張りフレームを組み合わせたミラー「イングリッド」など、素材にこだわり抜いた数々のアイテムがラインアップ。「心身共にリラックスして過ごすためには広々とした空間が必要」と言う彼がデザインする家具は、独創的であると同時にゆったりとくつろげる。

創業以来、家具を中心に手掛けてきたロメオだが、





上／ワークトップとテーブルを一体化したアイランド型キッチンカウンター「angelina」は、'06年に発表したもの。Romeo Sozziの幼少の頃の記憶から、コミュニケーションを育むにはキッチンとダイニングの距離を近づけることが必要だと感じてデザインした。'09年は、ワークトップに研摩した厚みのあるブロンズ、テーブルに菩提樹の一種であるアフリカ産のコト材を新たに使用。カウンター側面に設けた引き出しの面材にはマホガニー材を選び、内部を緑や赤、紫に塗装して遊び心を添えた。「angelina」受注品につきサイズ・価格は要問い合わせ＊　右／ファブリックとレザーを組み合わせたソファ「dolce vita」(右頁)。異素材をバランス良く取り入れたデザインは、高度な技術を要する熟練の職人のみが生み出せる。サイズ・価格は右頁参照　左／ターコイズブルーが美しいエイ革張りのキッチンの一角には、クロムにハンマーで跡を残した埋め込み型のシンクとオリジナルの水栓が。妥協のないディテールが優美な空間を演出する＊



'06年からはキッチン「アンジェリーナ」を展開。幼少の頃、母が料理や片づけをする姿を間近に過ごしてきた経験から、コミュニケーションの場となるキッチンの在り方について思考を巡らせてきた。そしてたどり着いたのが、ワークトップとテーブルが一体化したアイランド型キッチンカウンター。コーナーには約370本を収容するワインセラーを用意し、仕切りをベルベットで覆った。母から学んだ知恵を基に、必要なものがすぐ手に届く使いやすい収納をデザインし、食事する人と調理する人の双方が楽しめる場を提案している。

さらに今回、素材のバリエーションと豊かな色彩を加えることで「アンジェリーナ」が進化。テーブルには菩提樹の一種で手触りが良いアフリカ産のコト材を採用し、ワークトップのブロンズは磨き仕上げを施して素材本来の味わいを引き出した。また、カウンター側面に設けた引き出し式収納は、面材にシックな色合いに塗装したマホガニー材を用いているが、内部を赤や緑、紫に着色。扉を開ければ美しい色彩が現れ、その意外性が驚きと楽しみを与えてくれる。引き出しのハンドルは、手触りにこだわってブロンズやムラーノグラスをセレクトし、素材を生かすフォルムを検討してデザインしたものだ。「シンプルなものこそ仕上げとディテールが完璧でなければならない」という彼の信念が反映され、空間の中心で彫刻のような美しさをたたえるキッチンが生まれた。

これらの新作には、フェデリコ・フェリーニ監督による映画の題名"ドルチェ・ヴィータ"を始め、"クエンティン"や"イングリッド"といった監督や女優の名が添えられている。映画好きの彼がインスパイアされたイメージをその名に託した数々のアイテムが、印象的なシーンをつくり出す。

そんな遊び心に富む自由な発想の下、時を経てより味わいを増しながら、愛され続ける家具を展開するロメオ。それを支えるのは祖父から引き継ぐ職人技だ。デザインと素材、職人技の融合により、至高のクオリティーを誇る家具が生み出される。機能美をベースにした'09年のコレクションは、歴史の積み重ねの上にこそ普遍的なデザインや美が宿ることを知る彼ならではのアプローチから生まれたもの。伝統と現在が融合した上質な家具が、日々の暮らしをドラマティックに彩る。



上／ゆったりと体を委ねて座れるソファ「albert basso」はブロンズ製のハンドルがアクセント（左頁右下）。左手の回転式書棚「meryl」は、多面体の特徴を利用したユニークなフォルムが印象的だ。樹種はエボニー、モラド、スクビア、ブナなどがそろい、半光沢仕上げも可能。「albert basso」（W2600×D1250×H900）2,328,900円～「meryl」（580角×H755）1,016,400円　下右／映画監督、Stanley Kubrickが生み出す映画のミステリアスで洗練された雰囲気にインスパイアされてデザインした収納家具「stanley」は、書棚機能を備えたデスク。ローズウッド材を用いたボックス内部に棚やデスクを設け、収納可能なレザー張りのスツールを用意した。内部をスムースコニャックレザーで仕上げたもののほか、ローズウッド材を含む5種の樹種から選べる。「stanley」（W770×D420×H1745）5,276,250円＊　下中・左／ベルベットに真鍮（しんちゅう）製のボタンを施し、鍵を設けたベッドサイドテーブル「scrigno」（左頁左下）。「scrigno」大（W600×D450×H765）684,600円～　小（W470×D310×H765）592,200円～＊

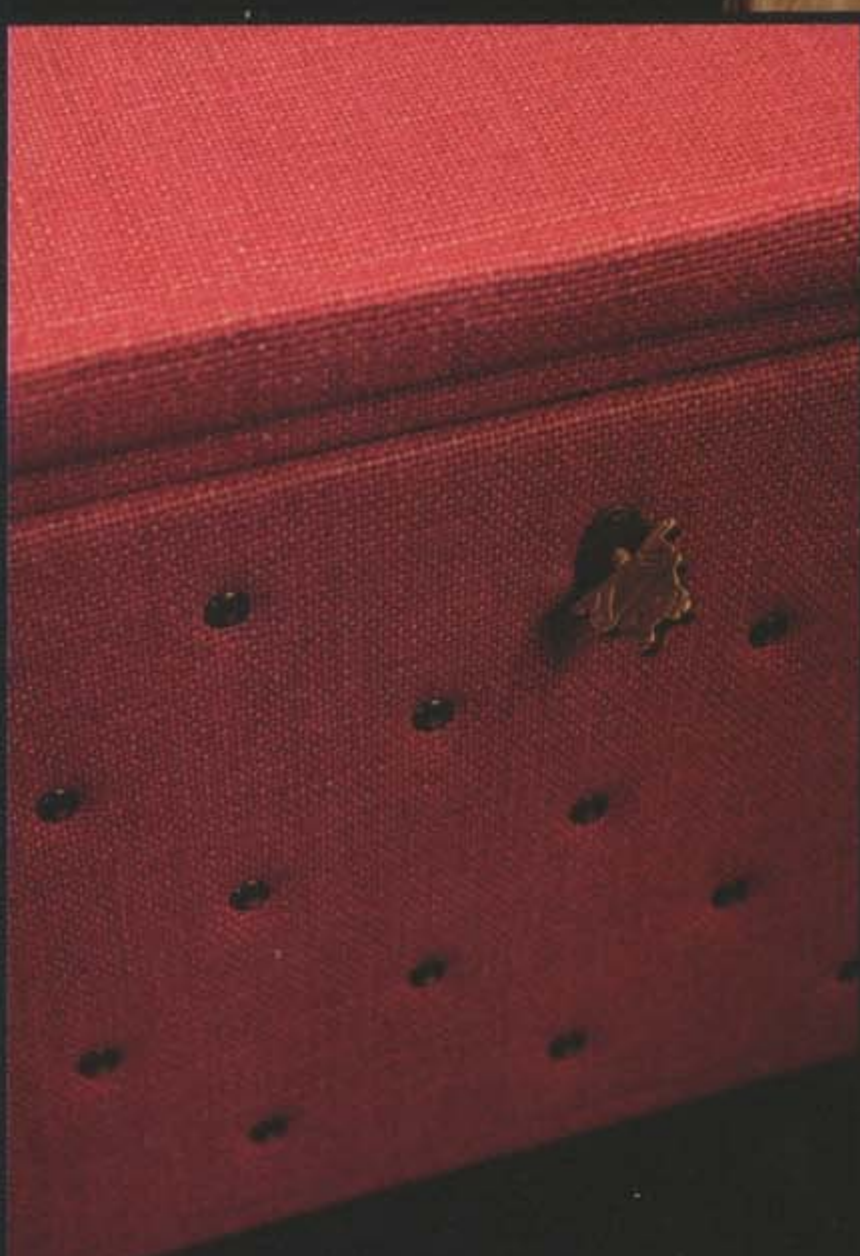
PROMEMORIA











右上／使い勝手を考慮して回転式にした楕円形のミラー「ingrid」は、ブロンズ製の脚部と、バックステッチを施したファブリック張りのフレームがエレガントな雰囲気を醸す。ミラーの前に置かれたラウンド型ソファは「marameo」。壁面の照明「teresa」は、ドット状に穴を開けたスチール板から漏れる光がファブリック張りのガラスを通して幾重にも広がる。「ingrid」（W840×D250×H1850）1,256,850円　「marameo」受注品につきサイズ・価格は要問い合わせ　「teresa」（W740×D160×H1130・白熱球100W×6）1,256,850円　左上／サイドテーブル「scarlett」と並べたベッド「sean」は、1500㎜と高さのあるヘッドボードが枕元を包み込むようにカーブしたデザインが特徴。マットの高さを600㎜に抑え、ヘッドボードにブロンズ製ハンドルを取りつけることでベッドへ出入りしやすいよう考慮。ヘッドボードはエボニー、モラド、オーク、マホガニーの樹種から選択可能。背面にはファブリック張りのパーティションをコーディネートした。「scarlett」（W460角×H680）592,200円「sean」（W1640×D2190×H1500／MH600）1,755,600円　右／ファブリック張りシートにブロンズ製ハンドルがアクセントとなったソファ「albert basso」（右頁上）。ハンドルは職人技を駆使した独特のラインが魅力だ。張り地はベルベット、シルク、ローデン（厚手の防水純毛地）といったものから選択できるほか、幅や背面の高さもカスタム可能。照明は'08年に発表された「garaldine」。「albert basso」サイズ・価格は右頁参照　「garaldine」（W445×D255×H660・白熱球60W×2）429,450円　左／右頁のベッドサイドテーブル「scrigno」にはカエルをモチーフにした鍵が。カエルはPROMEMORIAの幸福のシンボルとされている＊



PROMEMORIA
Via Roma 47 23900 Lecco, ITALIA
TEL.＋39（0）341-581-021
e-mail : info@promemoria.com
URL : http://www.promemoria.com/defaultIT.htm

〈日本での取り扱い〉
トミタ
東京都中央区京橋2-3-16　TEL.03-3273-7500
営業時間／平日10：00〜18：00
土曜10：00〜17：00　日曜祝日定休
URL : http://www.tominet.co.jp/



Case 01

中庭を介してさまざまな視点から愛車を望む

C邸　東京・世田谷区

設計／岡田哲史建築設計事務所　撮影／ナカサ＆パートナーズ　文／I'm home.

Open Garage Showcase

住まいのなかでも特に機能性が求められるガレージは、単なる箱として設けることが多い。しかし、プランや素材、ディテールに至るまでこだわることで魅力的な空間となる。ここでは、さまざまな居室から常に愛車の存在を眺められるほか、こだわりのアイテムに囲まれた趣味室として楽しめるなど、個性的なガレージを実現した住まい2軒を紹介。

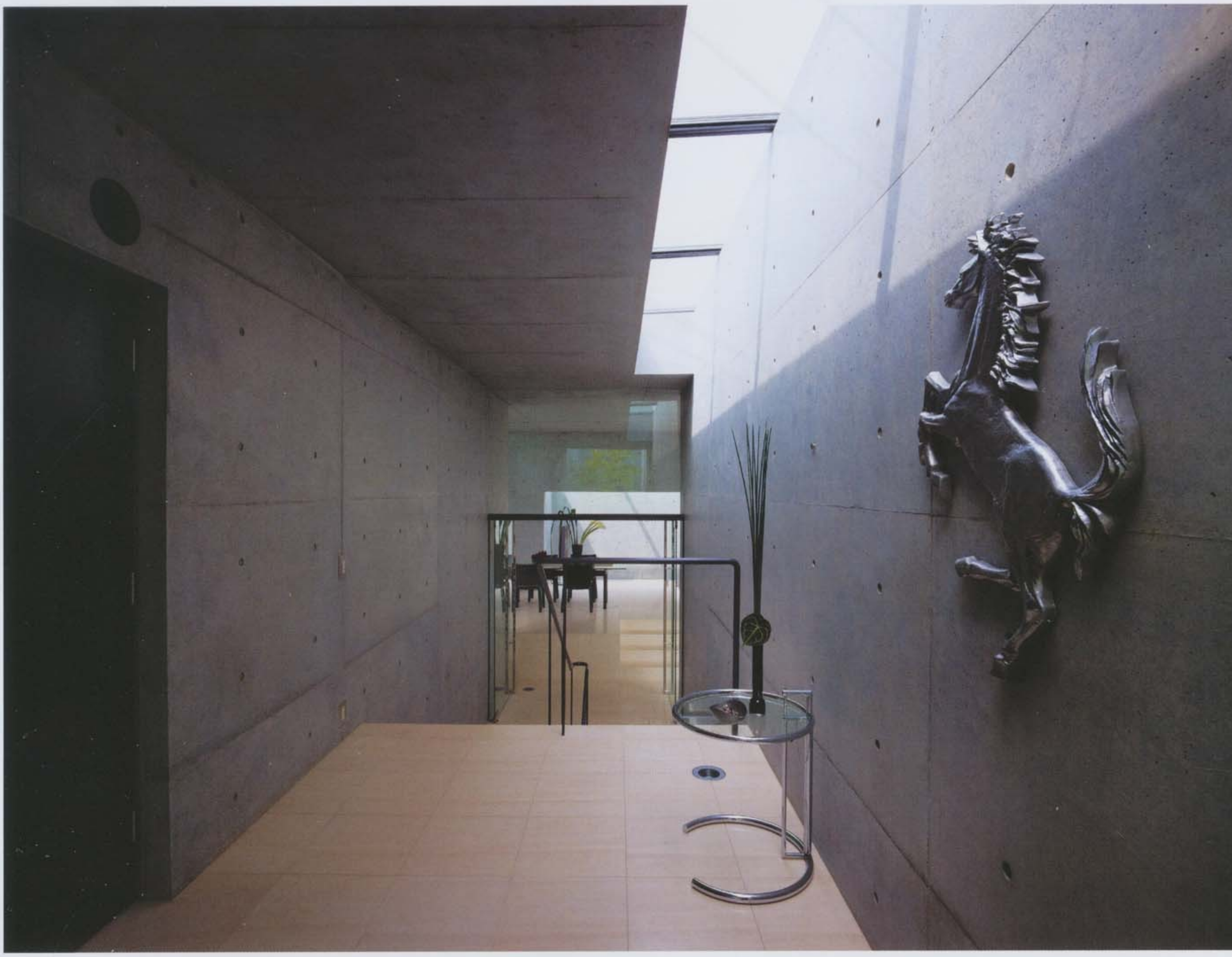






36頁／地階の主寝室側から水盤を配した芝生敷きの中庭越しにガレージと上階のゲストルーム、書斎を見る。オーナーが所有するランボルギーニ・カウンタック、ムルシェラゴ、ポルシェ・カレラＧＴ、アストンマーチン・DB9と大型バイクのドカティ・MH900e、BMW・R26を収容するため、道路に面した南側に幅11.3m×奥行き6.15mのスペースを確保。上階のコンクリートスラブにワイヤーを入れて引っ張り強度を高めた「ポストテンション工法」によって柱のない大空間を実現した。中庭を挟んだ北側の居室から愛車を眺められるようガラス張りとしているため、奥のシャッターを開けると道路まで見通すことができる。中庭にはシンボルツリーとして常緑のアオダモを植樹

上／南側外観。リン酸処理を施したスチールの造作シャッターを開け放つと奥から愛車が現れる。住まいのほぼ中央に位置するアプローチ左手には日常的に使用するポルシェ・カイエン、メルセデスベンツ・CL55などを駐車。敷地の幅が約20mと周囲の民家に比べて2倍近くあるため、道路を行き交う人や近隣住民に圧迫感を与えないよう建物の最大高さを6.9mと低く抑えると同時に、西側から続く上階左手の壁を一度分断させ、東側の壁をセットバックさせることで軽やかに見せている



Open Garage Showcase

ガラスとコンクリートで構成されたギャラリーのような空間にずらりと並んだ4台の車。オーナーがこだわり抜いて集めたビビッドなカラーの愛車がこの住まいの主役だ。

東京・目黒区の閑静な住宅街に立つC邸。自らカーレースに参加するほど車好きの夫は、ポルシェやランボルギーニ、アストンマーチンといった4台の車と日常的に使用する2台の乗用車、ドカティやBMWの大型バイクを所有する。そんな夫が新居を構えるに当たり、第一条件としたのは「ガレージの愛車を一日中眺められる住まい」だった。

設計を手掛けた建築家の岡田哲史さんはまず、幅約21m×奥行き約25m、約520㎡の広大な敷地に駐車スペースと居住スペースをどのように振り分けるかを入念に検討。約3カ月半をかけて導き出したのは、南側の道路に面したアプローチを中心とし、東側に4台の車を並列して収容できるガレージ、西側に乗用車の駐車スペースを配するプラン。さらに、敷地のほぼ中央に設けた中庭を介して各居室から愛車を眺められるよう計画した。

そして、エントランスからつながるホールを軸として、東西に趣向の異なる二つの中庭を配置。もともと北側が傾斜していた敷地の形状に合わせ、北側上階にリビングとダイニングキッチン、地面から820㎜下に配した地階には主寝室、バスルームといった主な生活機能を集約した。中庭に面した北側の居室とガレージの壁は全面ガラス張りとしているため、高さの異なるさまざまな位置から常に愛車の存在が感じられる。また、ガレージ上階に配したゲストルームのコンクリートスラブは、ワイヤーを入れて強度を確保する「ポストテンション工法」を採用することで、幅11.3m×奥行き6.15mの広々とした無柱空間を実現。圧倒的なスケールのガレージは、まるでギャラリーのような雰囲気を漂わせる。さらに、前面道路側には独特のテクスチュアを持つリン酸処理を施したスチール製のシャッターを造作し、コンクリート打ち放しの壁で構成されたファサードのアクセントとした。

一方、ライムストーン貼りの床、コンクリー

(44頁へ続く)



右頁／壁面にフェラーリのエンブレムを飾った2階南側のホール。階段を下りた先はダイニングで、左手の扉の奥にトイレが配されている。上部に設けた953㎜×360㎜の細長いトップライトから差し込む光が空間を明るく照らし、無機質な印象のコンクリート打ち放しの壁に表情をもたらす
上／2階のホールからガラス張りのFIX窓越しにアプローチに植栽された竹を望む。セキュリティーを考慮して周囲をコンクリート壁で囲っているが、敷地内に外部空間を確保して随所に開口を設けることで、光に満ちた空間をつくり出した。右のイスはカッシーナで購入したLe Corbusierの「LC1」でガラスのサイドテーブルはEileen Grayによる「Adjustable Table E1027」。左手奥は夫の書斎とゲストルームが続く



北側2階に配されたリビングは天井高3800㎜とし、奥のダイニングキッチンは床を650㎜上げて落ち着いた空間に。段差の下部には空調設備や倉庫を設置している。ライムストーン貼りの床やコンクリート打ち放しの壁に合わせて、家具もモノトーンで統一。以前の住まいで使用していたファブリック張りのソファはTIME&STYLE、センターテーブルはカッシーナ、手前の黒い革張りのパーソナルチェアはインターデコール、屋外でも使用できるサイドテーブルはアクシスで購入。テレビはデンマーク・Bang & Olufsen、ダイニングテーブル、チェアはそれぞれカッシーナの「LC6」と「Cab Chair」、白い鏡面仕上げのアイランド型キッチンはイタリア・Boffi社のもの。リビングは左手の中庭に面して幅7300㎜×高さ3150㎜のスチールサッシを設け、光が存分に差し込む明るい空間とした



右／建築家の岡田哲史さんの提案により、リビングのガス暖炉まわりの壁面は、ガレージのシャッターと同様のリン酸処理を施したスチールプレート貼りに。10パターンの割りつけを作成し、最終的にモックアップで確認して決定した。微妙にサイズの異なるパーツを組み合わせ、左の角にアールをつけるなど、徹底的にディテールを追求した。暖炉はダンロックスの特注品
左頁／もともと敷地の北側が傾斜していたことから、グランドレベルから床を820㎜下げた位置にバスルームを配置。手前の中庭には床に黒の御影石を貼り、シンボルツリーとしてヒメシャラを植えて東側に配した芝敷きの中庭とは異なる雰囲気に仕上げた。上階はキッチンとユーティリティー、手前の階段はエントランスへとつながる



ト打ち放しの壁で構成された上質な雰囲気が漂う室内には、ガラスやレザーを用いたシャープなデザインの家具を中心にコーディネート。「天井高のあるリビング」という夫の要望から、高さ3800㎜としたリビングは、天井高いっぱいに設けた2面のガラス張りの大開口から光が差し込む明るい空間だ。北側の壁面にはガス暖炉を設け、暖炉にはガレージのシャッターと同様、リン酸処理仕上げのスチールプレートを採用。素材感のあるスチールが広々とした空間を引き締めている。リビングのソファに腰掛けると、幅7.3mの大階段を配した緑豊かな中庭、下階まで滝のように連続する水盤、その奥に見える愛車の存在に心が和む。加えてテラスや階段といった外部空間は、読書をしたりゲストを招いた際には思い思いにくつろげる居場所としても活躍する。

開放的なリビングとは対照的に、ワンルームでつながるダイニングは落ち着いて食事ができるよう床を650㎜上げ、天井高を3150㎜に設定。「レベルを変えることで空間にバリエーションを生み出した」と岡田さんは話す。その奥に配されたキッチンは、高い視点からリビングまで見通せると同時に、吹き抜けを介して中庭が見下ろせる。そして、キッチンの下階に位置するバスルームは白い大理石貼りの床にバスタブを埋め込み、ヒメシャラを植樹した中庭とフラットにつなげることで、窓を開け放つとアウトドアバスとしても楽しめるよう計画。東側の庭とは異なる御影石貼りの小さな中庭が、もう一つのくつろぎの空間をつくり出す。

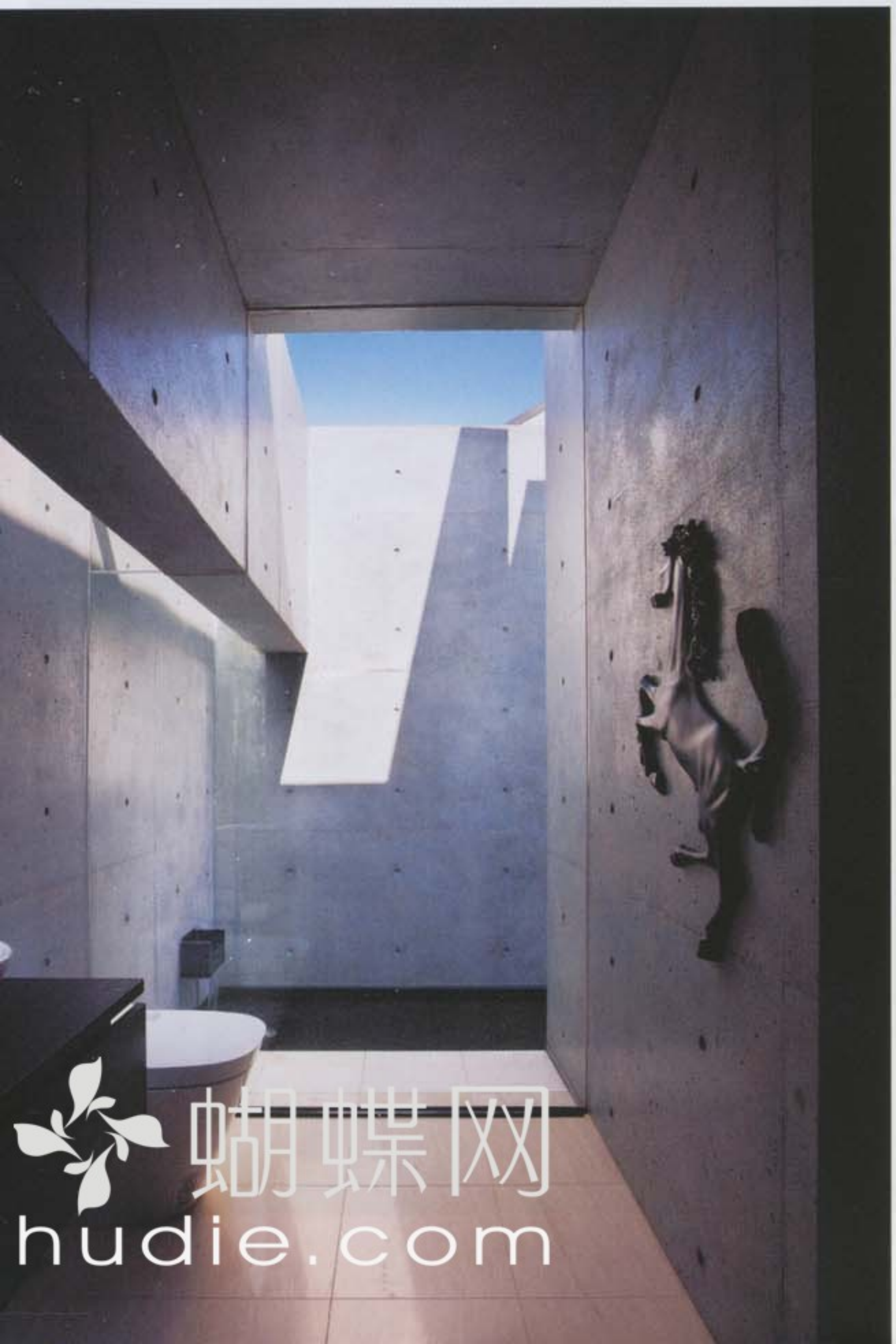
さらに、硬質な質感でまとめられたC邸を美しく見せるのが、各階をつなぐ階段やリビング北側など、住まいの随所に設けたトップライトからの光。開口の取り方を綿密に設計することで、コンクリート打ち放しの壁面に陰影をもたらし、空間を表情豊かに見せている。セキュリティーを確保するために四方をコンクリート壁で囲んでいるが、室内にいながら常に外の気配を感じられる開放的な住まいが実現した。

広大な敷地を生かしてガレージやテラススペースを贅沢に確保したC邸。こだわりの愛車を望む上質な空間が明日への活力となる。









上右／エントランスドアの手前に立つとガラス越しに水盤が視界に入るよう計画されている。幅1570㎜×長さ11300㎜の水盤を設けて空や車といった周囲の景色を映し込ませると同時に、芝敷きの中庭に広がりをもたらした。2階へと続く屋外階段が垣間見え、その先に広がる空間の存在をそれとなく感じさせる　上左／バスルームにはジャクソン エス.ピー.アイの埋め込み型バスタブを採用し、中庭の床とフラットにつなげた。窓を開け放つとアウトドアバスのような開放的な空間になる。手前にドライエリアを設けて通風を確保

下左／リビングの暖炉東側に配されたトイレにもフェラーリのエンブレムが。左の壁は北側斜線の規制から周囲より1300㎜低く設定した。垂れ壁との間に配したトップライトや水盤を望む開口からの光による陰影が印象的

左頁／長さ7.6mのアプローチは、竹を植栽して趣のある空間に。突き当たった左手がエントランスドアで、ガラス張りの上階には子ども部屋と書斎をつなぐホールを配置

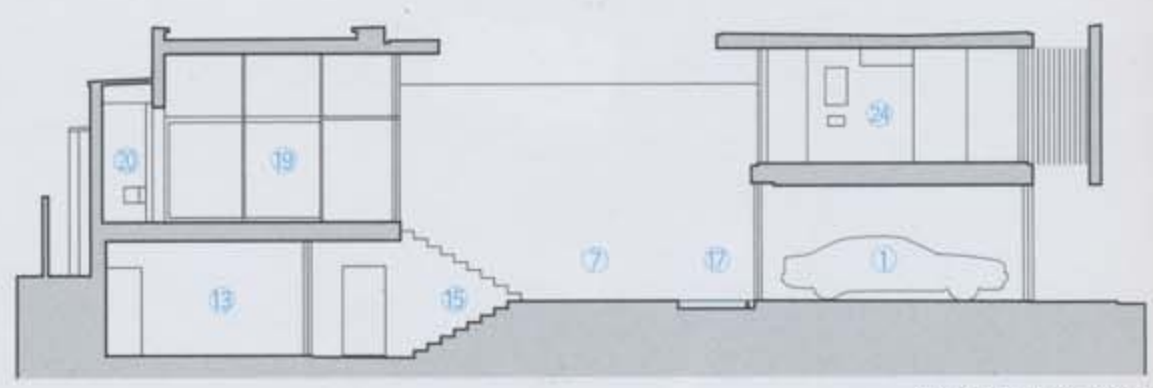


Open Garage Showcase

DATA

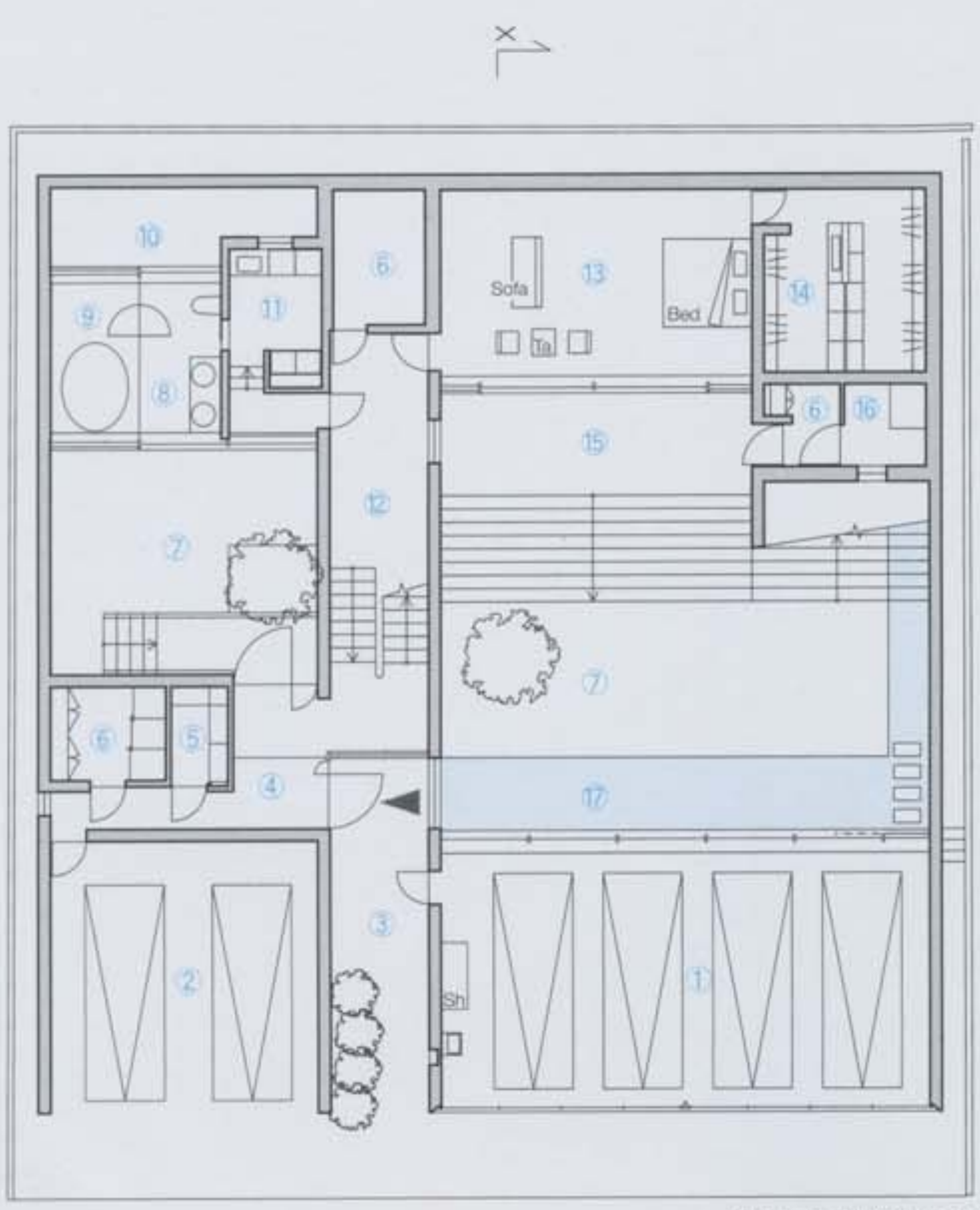
構造と規模／RC造　一部S造　地下1階　地上2階建て
敷地面積／523.46㎡　建築面積／261.63㎡　床面積／地階89.04㎡
1階209.88㎡　2階156.96㎡　合計455.88㎡
家族構成／夫（40代）　妻（30代）　長女（11歳）
アイル（オス・4）　セナ（メス・1）

※設計データは205頁に掲載

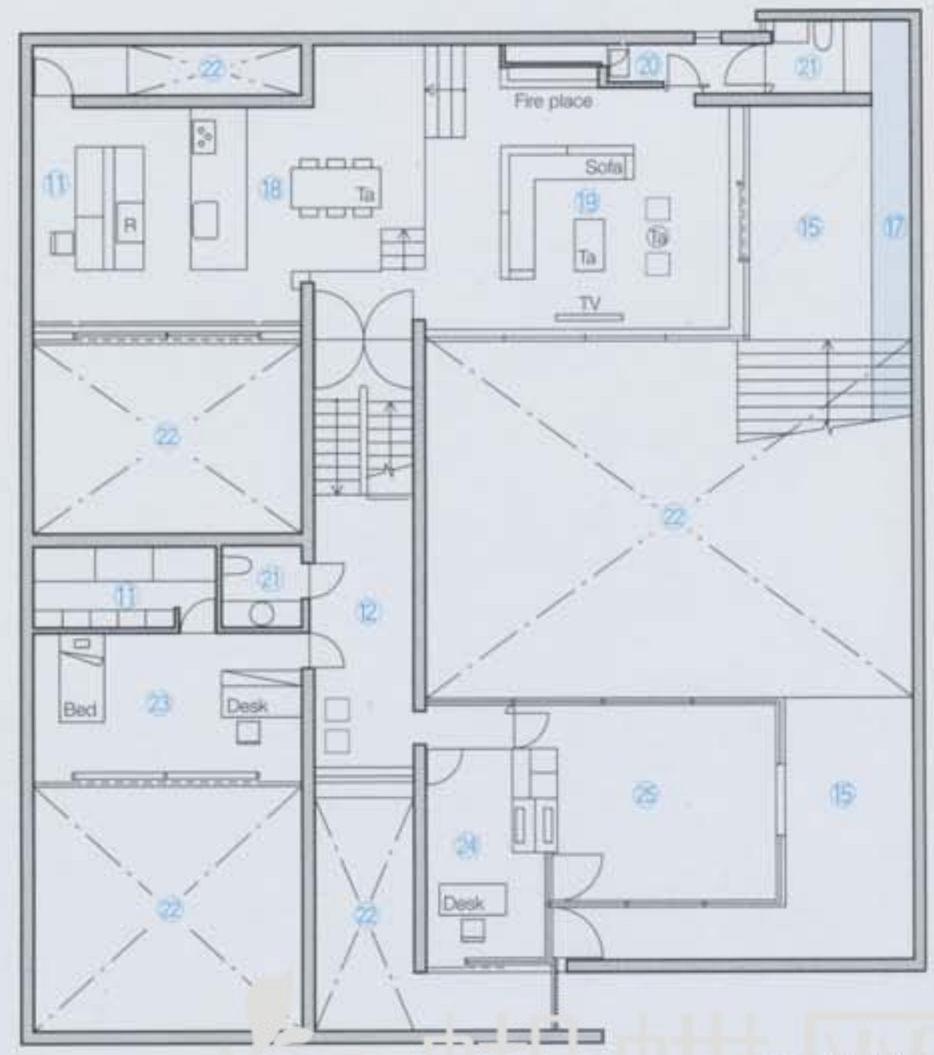


X-X' SECTION 1:300

① GARAGE
② PARKING
③ APPROACH
④ ENTRANCE
⑤ SHOES CLOSET
⑥ STORAGE
⑦ COURTYARD
⑧ POWDER ROOM
⑨ BATHROOM
⑩ DRY AREA
⑪ UTILITY
⑫ HALL
⑬ MASTER BEDROOM
⑭ WALK-IN CLOSET
⑮ TERRACE
⑯ MECHANICAL ROOM
⑰ SHALLOW
⑱ DINING & KITCHEN
⑲ LIVING
⑳ DOG ROOM
㉑ TOILET
㉒ VOID
㉓ KID'S ROOM
㉔ STUDY ROOM
㉕ GUEST ROOM



B1F・1F PLAN 1:300



1F・2F PLAN



Open Garage Showcase



Case 02

もう一つの趣味室としてのガレージ

T邸　広島・尾道市

設計／芦原太郎建築事務所　撮影／ナカサ＆パートナーズ　文／I'm home.



ギターやコンガ、アンティークのスピーカーに囲まれ、照明に浮かび上がる愛車のベントレー。オーナーが収集したさまざまなアイテムをディスプレイしたガラス張りのガレージが訪れた人を迎える。

広島県南東部に位置する尾道市。映画の舞台としても知られるこの土地は、瀬戸内海を一望する丘の上に古くからの寺社仏閣が点在する。山と海に挟まれ平地が少ないことから、市街地の路地裏には建物が隣接して立ち並び、下町情緒漂う昔ながらの商店街から少し奥まった一角に、T邸が立つ。

ライムストーンとコンクリート打ち放しの壁で構成されたシンプルなファサードの建物に一歩足を踏み入れると、ガラス越しにベントレーとランドローバー、ハーレーダビッドソンの大型バイク2台を収容する広々としたガレージが現れる。ここには、数多くのギターやコンガ、スピーカーといった楽器類のほか、セレクトショップを営む関係上、フランスやアメリカなどの海外に出向く機会の多い夫がショップや蚤の市で購入した家具やオブジェといったさまざまなアイテムがディスプレイされている。好きなものに囲まれながら読書や音楽を楽しめるこのガレージは、「愛車と共に過ごす場所が欲しい」というオーナーの要望により実現したものだ。

将来的に車3台を収容することを考慮し、幅約11m×奥行き約5.5mのスペースを確保したこの空間は、通常より太い幅700㎜×高さ550㎜の梁と4本の鉄骨柱によって支えられている。ガレージの床はタイヤの跡が目立たないよう黒の塗り床材で仕上げ、木目調のシート貼りの天井には間接照明を彫り込むなど細部にまでこだわった。さらに、エントランスホールとガレージの間には、自然の存在を感じさせる坪庭のような水盤を設けて趣を添えている。

開口を抑えてダークな雰囲気にまとめた1階とは対照的に、リビングやダイニングキッチンが配された2階は光に満ちた明るい空間。T邸が立つ敷地の周辺には夫が経営する会社や民家などが混在するうえ、エントランスのある南側は前面道路の幅員がわずか2mと隣家が目前に迫る。設計を手掛けた建築家の芦原太郎さんは、

（7頁へ続く）



48・49頁／1階西側に配された幅約11m×奥行き約5.5mのガレージには愛車のベントレー・コンチネンタルGT、ランドローバー・フリーランダー2と夫妻それぞれのハーレーダビッドソン・ソフテイルデラックスのバイクを収容。周囲にはかつてバンドを組んでいた夫が収集したGodinのギターやコンガ、スピーカーを置き、趣味の音楽を楽しめる空間とした。天井に彫り込んだ間接照明はライン状の蛍光灯をフラットにつなげ1本の光の線に見せるなど細部まで工夫を施している
右頁／ガレージからエントランスホールを見る。天井の間接照明や左手奥と右手に置いたイタリア・FLOSのフロアランプなど、随所に配した照明が愛車や家具、楽器などを美しく浮かび上がらせる。左手奥の扉がエントランスで、右手には勝手口
上／セレクトショップを経営する夫はインテリアへのこだわりも人一倍。お気に入りのイントレチャートの革張りチェアの間にBALSのサイドテーブル、上部にニューヨークのグッゲンハイム美術館で購入したモビールを飾っている。エントランスホールのアートはパリを訪れた際に購入したもの。通常より太い幅700㎜×高さ550㎜の梁とガラスの間に配した4本の鉄骨柱によって大空間のガレージを支えている







Open Garage Showcase

右頁／タイヤの跡がつかないよう床は黒の塗り床材、天井は木目調のシート貼りにすることで、居室のような雰囲気に仕上げた。自然の存在を感じさせるためエントランスホールとの間には水盤を配置。坪庭のような存在がシャープな印象の空間に趣を添える。奥の革張りチェアはMarcel Breuerの「Wassily Chair」
左上／エントランスホール東側にも水盤が。その左手奥にはシマトネリコを植樹したテラスを配置している。随所に外部空間を取り入れることで、自然を享受できる住まいを実現した。手前に置いたコンソールにはヨーロッパで買いつけたデスクランプや小物、アートをディスプレイ　左下／エントランスホールから前面道路を見返す。コンクリート打ち放しの壁、御影石貼りの床など硬質な素材のなかで、ウォールナット材の扉がアクセントに。道路向かいに立つのはかつて病院として使用されていた築100年の旧家。このように広島・尾道の市街地には昔ながらの伝統的な建物が今でも残っている


Open Garage Showcase



2階に配されたリビングは、大人数が集えるようイタリア・NATUZZI社の黒い革張りソファ「OPUS」をレイアウトし、正面西側に設けたテラスの壁沿いにベンチを造作した。2層吹き抜けのテラスに面して幅5500㎜×高さ2400㎜の大開口を設け、室内外をフラットにつなげることでアウトドアリビングのようなスペースを実現。テレビボードを配した壁面のみライムストーンを乱貼りして空間に表情を添えた。左手前に配された直径70㎜のスチール無垢材の柱は構造柱



上／リビングはL字型ソファを中心にFritz Hansenのテーブル「PK61」、NATUZZI社のサイドテーブル「CONCASA」、TERGUSのハラコ製オットマンをコーディネート。Achille Castiglioniによるデザインの FLOS製フロアライト「ARCO」がアクセントになっている。奥に見えるのは建物の中央に配された中庭で、リビングを始めとする各居室は中庭を中心にレイアウトし、採光と通風を十分に確保した
左頁／ダイニングから奥のキッチンを見る。幅900㎜×長さ2400㎜とした特注のダイニングテーブルは木目が美しい黒檀材を使用。カッシーナ・イクスシーで購入したMario Velliniの革製アームレスチェア「Cab Chair」を合わせて黒をベースカラーとしている。ペンダントライトはFLOSの「FUCSIA12：アッキーレ・カスティリオーニ」。キッチンは料理好きの妻のためアイランド型と壁づけカウンターを設け、それぞれ面材にライムストーンとサペリ材を採用した



このような立地条件において、プライバシーを確保しながらも光や風、緑を効果的に取り入れるため、2階から3階にかけて吹き抜けのある中庭を配置。シンボルツリーのフェイジョアを配したこの空間がトップライトの役割を果たすと同時に、住まい全体に新鮮な空気を吹き込む。さらに中庭を中心にリビングやダイニング、キッチンといった居室を回遊動線上にレイアウトし、空間に広がりをもたらした。「建物が密集する場所では、室内に豊かな空間を内包する中庭型が有効」と芦原さん。

リビングは会社のスタッフや友人が集まることが多いため「ラウンジのような空間」というイメージの下、ゆったりとした黒い革張りのソファをレイアウト。西側に配したテラスの壁沿いにコンクリートでベンチを造作し、室内とフラットにつながるアウトドアリビングのような空間を設けた。そして、リビング東側のダイニングには黒檀製テーブルを造作し、大人数で食事ができるスペースに。料理好きな妻のためキッチンはアイランド型と壁づけカウンターを配し、ガスコンロとIHヒーターの2タイプを用意した。これらのスペースは床に白のタイル、随所に設けた壁面収納の扉には濃茶に染色した板目のアッシュ材、壁面の一部に乱貼りしたライムストーンなど落ち着いたトーンでまとめながらも異素材を用いることで、質感のある空間をつくり出している。

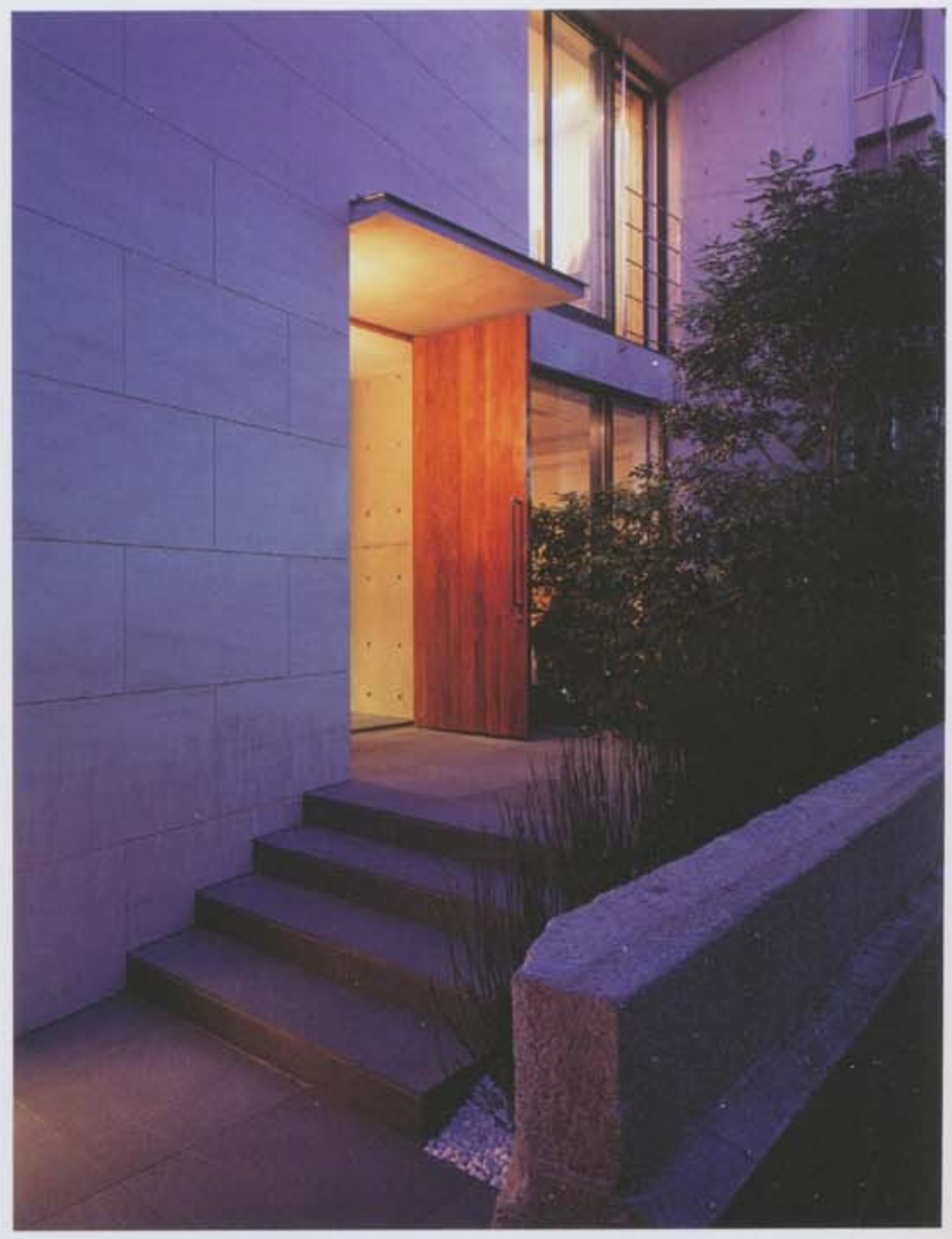
一方、3階は夫妻の主寝室や書斎、趣味室、バスルーム、シアタールームなどを配したプライベートスペース。2階と同様、中庭を囲むように廊下を配し、そこから各居室へとアクセスできるプランとしている。さらに、街並みや山々が広がる西側にデッキテラスを2カ所設け、主寝室や書斎などから尾道特有の風景を楽しめるよう配慮した。

愛車を始め、好きなものに囲まれた1階のガレージ、大人数が集える2階のリビングダイニング、それぞれの時間を過ごす3階と、各フロアで異なる顔を持つT邸。オーナーのライフスタイルが存分に反映された心地良い住まいが完成した。

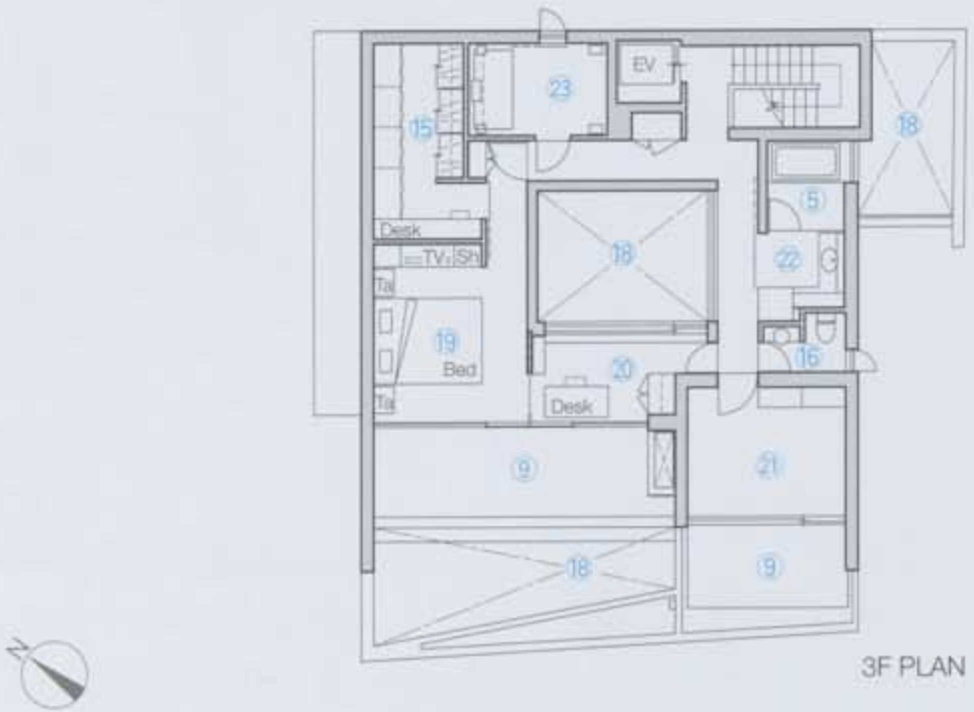


ダイニングテーブルを彩るのはインテリアにこだわりのある夫がフランスやアメリカ、ドバイで購入した数々の小物。素材感のある空間に仕上げるため、奥の壁面収納を始めとする収納棚にはアッシュ材を採用した。下段とつり戸棚の間に奥行き450㎜×高さ400㎜のスペースを設け、デンマーク・Bang & OlfsenのCDプレーヤーや花器、フォトフレームなどをディスプレイ





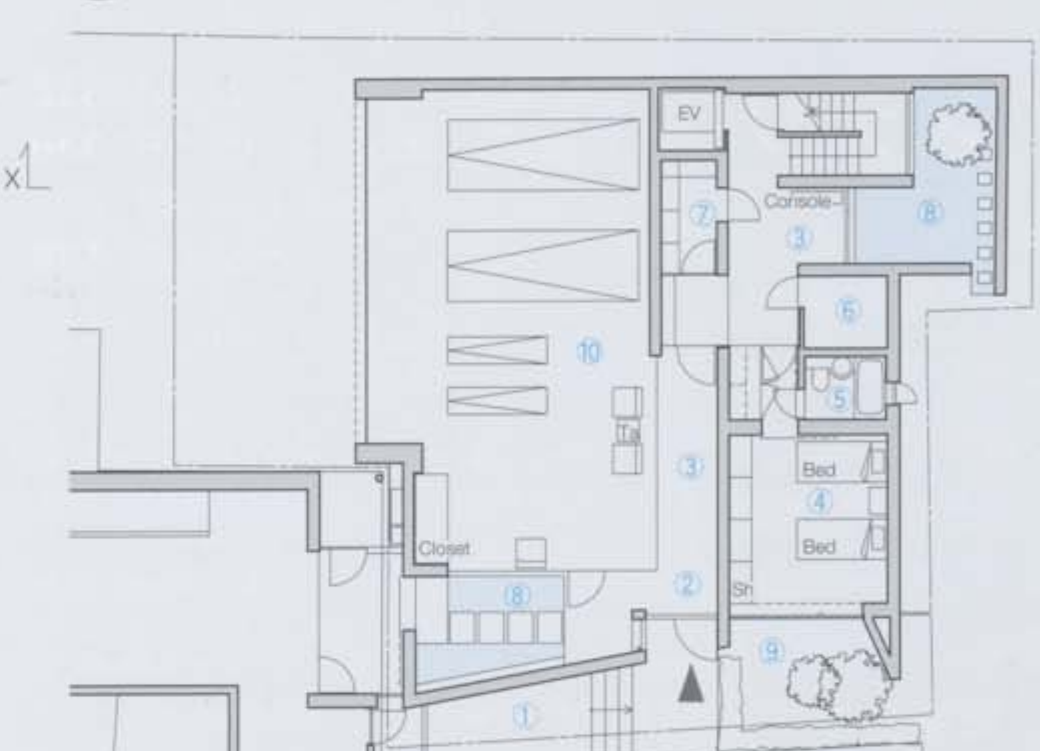
上／前面道路からアプローチを抜けて階段を上がるとウォールナット材製のエントランス扉が迎えてくれる。扉の奥はゲストルームで2階が母の部屋　左／ライムストーンとコンクリート打ち放しの壁で構成されたシンプルな佇まいの南側外観。眺望の開けた3階はデッキテラスが2カ所配されている。プライバシーを確保するため、ガラス張りの窓の手前にはシマトネリコやソヨゴなど背の高い木を植樹



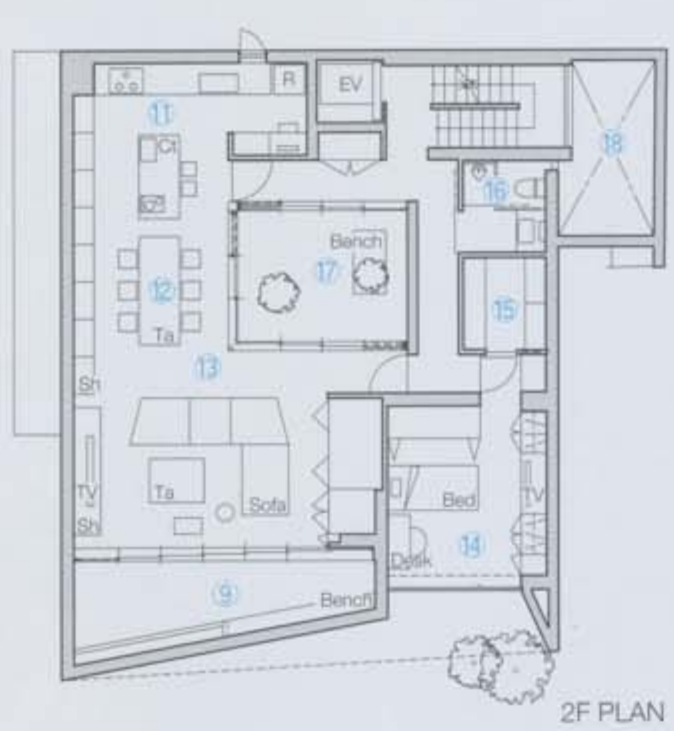
3F PLAN



X-X' SECTION 1:300



1F PLAN 1:300



2F PLAN

DATA

設計と規模／RC造　地上3階建て
敷地面積／243.07㎡　建築面積／156.52㎡
床面積／1階140.96㎡　2階110.38㎡
3階89.59㎡　合計340.93㎡
家族構成／夫（40代）　妻（40代）
母（70代）

※設計データは205に掲載

① APPROACH
② ENTRANCE
③ ENTRANCE HALL
④ GUEST ROOM
⑤ BATHROOM
⑥ STOCK ROOM
⑦ SHOES CLOSET
⑧ SHALLOW
⑨ DECK TERRACE
⑩ GARAGE
⑪ KITCHEN
⑫ DINING
⑬ LIVING
⑭ BEDROOM
⑮ WALK-IN CLOSET
⑯ TOILET
⑰ COURTYARD
⑱ VOID
⑲ MASTER BEDROOM
⑳ STUDY ROOM
㉑ HOBBY ROOM
㉒ POWDER ROOM
㉓ THEATER ROOM



Text : Chika Komori
Photographs : Nacása & Partners

LEATHER IN TOUCH

革をインテリアのアクセントに

クールな印象を与えながらも手にしっくりとなじむ滑らかな質感、年月を経るごとに増す風合い、長年の使用にも耐える堅牢な仕上がりなど、ほかの素材では代用できない特性を備えるレザー。イスやソファの張り地にとどまらず、床や壁に用いる建材として取り込めば、インテリアの可能性が広がり、表情豊かな空間が生まれる。今回は、レザーの加工工程や性質といった基本を解説すると共に、効果的にインテリアに取り入れる方法を考察。飲食店の実例を始め、既製品の床・壁材、素材そのものを取り扱うメーカーなどを、天然レザーとフェイクレザーを交えて紹介する。





060 Leather in Touch
Manufacturing Process／Leather for houses

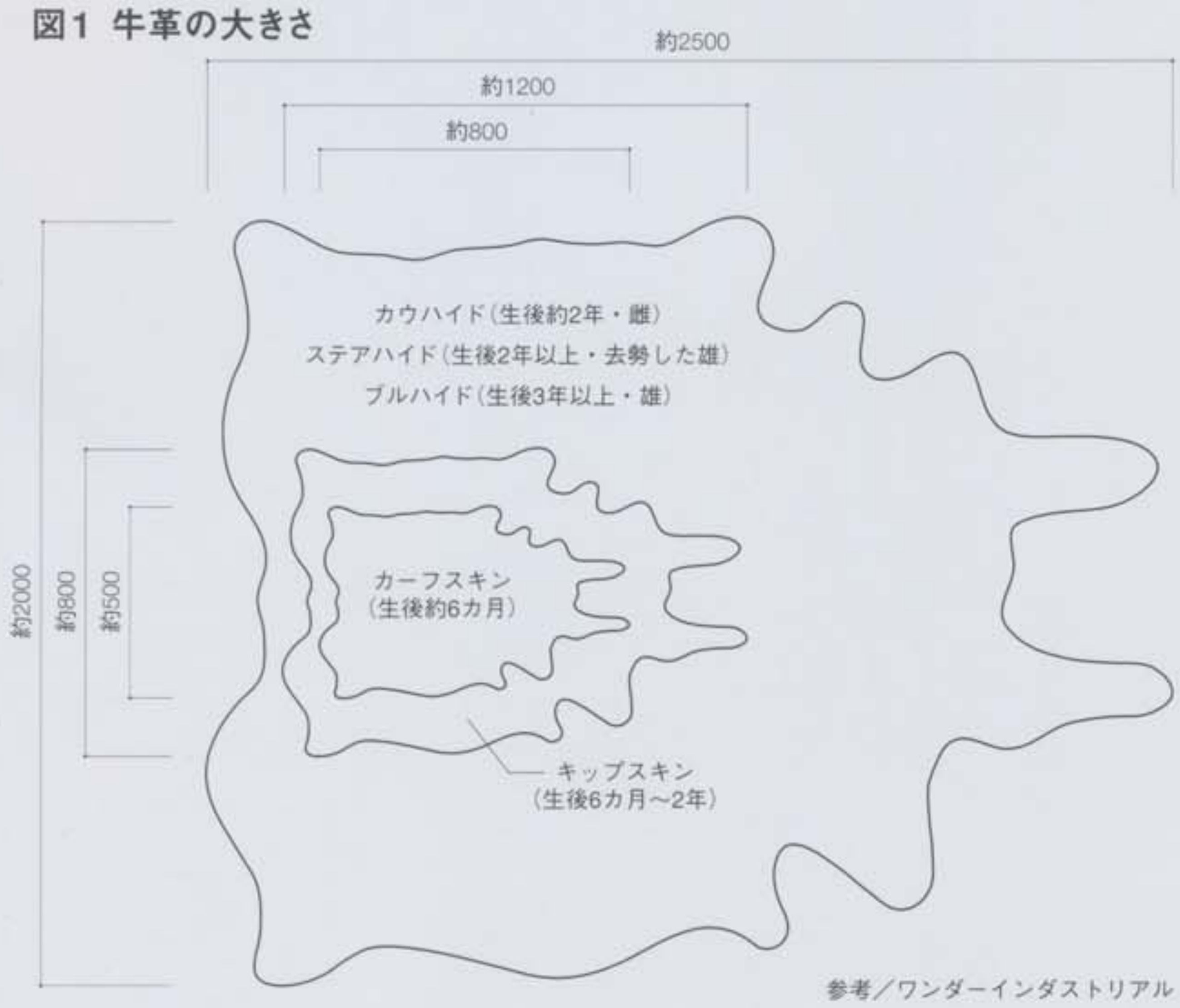
074 Leather for shops

078 Materials Real Leather／Fake Leather
084 Products Door／Tassel／Knob & Handle
086 Makers Real Leather／Fake Leather
091 Custom

124 Leather Collections

右／なめしや塗装、型押しといった工程により加工するレザーは、その方法により多彩なテクスチュアを表現できる。特に日本で生産されるものはクオリティーが高く、靴や鞄、衣服を手掛けるヨーロッパのトップブランドに素材を提供するメーカーもあるほどだ。このような加工技術の高さは、本来、レザーが持つ傷や皺、色むらを敬遠して均一な仕上がりを望む日本のニーズともかかわるが、最近では天然素材そのものの質感を生かしたナチュラルな風合いが好まれる傾向にある　上／陰影に浮かび上がるフォルムが美しい牛革張りのキャビネットは、イタリア・PROMEMORIA(30頁に掲載)の創業者でありメーンデザイナーのRomeo Sozzi邸に造作したもの。コンテンポラリーなデザインはもちろん、特にレザーを用いた家具のクオリティーに優れ、職人に代々引き継がれる高度な技が感じられる。「Sozzi邸」(no.25に掲載)

図1 牛革の大きさ



参考/ワンダーインダストリアル



表1 皮の分類

牛皮 Cattle hide	カーフスキン Calf Skin	生後約6カ月の仔牛の皮。約0.8㎜と薄手で、繊維組織が緻密なためきめ細かく美しい。成牛に比べるとわずかな量しか確保できないため高価。1頭分が11kg以下の原皮をスキン、それ以上をハイドと呼ぶ
	キップスキン Kip Skin	生後6カ月〜2年の中牛皮。厚さ約1㎜とカーフスキンより強度があり、カーフスキンに次いできめ細かく、大きさは約150〜200ds
	カウハイド Cow hide	生後約2年の雌の成牛皮で、きめが滑らかで丈夫。厚さ約1.2㎜でステアハイドやブルハイドほどの厚みはないが、大きさはほぼ同等の約240〜270ds
	ステアハイド Steer hide	生後3〜6カ月の間に去勢した雄で、2年以上の成牛皮を指し、約1.8㎜と厚手で耐久性に優れる
	ブルハイド Bull hide	生後3年以上の雄の成牛皮。繊維組織は粗いが、丈夫で約2㎜と厚く、主に靴底、工業用革に使われる
馬皮 Horse hide		組織は牛皮と似ているが、柔軟性があり表面が滑らか。尻の部分は繊維が緻密で光沢の美しいコードバンになる
豚皮 Pig Skin		摩擦に強く、丈夫。三つで1群となった毛穴のテクスチュアがユニークで、通気性が良い。国産が多く、海外に輸出されている
山羊皮 Goat Skin		毛穴が美しく、繊維の密度が高い。製品に仕上げると風合いが良く丈夫
羊皮 Sheep Skin		毛穴が小さくきめ細かで、約0.8㎜と薄く柔らかい。仔羊皮はラムスキンと呼ばれる
鹿皮 Deer Skin		日本で最も古くからなめされ、馬具として使用されてきた。吸湿性に富むため湿気の多い日本の気候にも最適
カンガルー皮 Kangaroo Skin		産地はオーストラリア。丈夫で強く、しなやか。高級素材として珍重されている
ダチョウ皮 Ostrich		鳥類のなかで最も貴重なダチョウ皮。突起した羽軸模様が特徴的で、丈夫
魚類 爬虫類 Reptile Skin	ワニ皮 Crocodile	アフリカ産はクロコダイル、北米産はアリゲーター、中南米産はカイマンと呼ばれる。独特のうろこ模様が特徴で珍重とされる
	トカゲ皮 Lizard	リング、アグラ、ベンガル、オーバルなどの種類があり、ワニ皮に次いで珍重される
	ヘビ皮 Python	斑紋やうろこ模様が美しい。ニシキヘビが主流で、そのほか海ヘビ、水ヘビなどが使われる
	カメ皮 Tortoise	原皮の生産地はメキシコ。ワニ皮に似たうろこ模様が見られる。皮質は丈夫
	エイ皮 Galuchat	アカエイを中心としたサメの近縁種の皮。"石"と呼ばれるリン酸カルシウムによる粒状の硬いウロコが特徴で、背面中央に並んだ"連石"部分は特に珍重されている

※1ds(デシ)=10㎝×10㎝

参考/「原料皮による分類」日本タンナーズ協会

表2 加工工程によるレザーの表情の違い

なめし方	生地の厚さ	塗装	トップコート(色止め)	型押し
タンニンなめし(植物)	厚い(約3㎜)	アニリン(染料)	カゼイン	なし
		セミアニリン	ラッカー	
クロムなめし(薬品)	薄い(約0.8㎜)	ピグメント(顔料)	ウレタン	あり

参考/メルクス



写真1. 動物の脂やタンパク質を除いて繊維質に変え、腐敗を防ぐ「なめし」は、皮膚としての"皮"を素材としての"革"に変える重要な作業。日本では現在、植物性のタンニンを用いる「タンニンなめし」と、化学薬品であるクロムを用いる「クロムなめし」の2通りが主流だ。クロムなめしは右のような"ウエットブルー"と呼ばれる青味がかった色になる。一方、左のタンニンなめしは肌色に近い自然な風合いに　**写真2.** なめし、染色、加脂といった工程を終えた後、乾燥により染料や加脂剤を定着させる。古くからレザーの生産拠点として発展してきた兵庫・たつの市の林田川では、レザーを河川敷に並べて天日干しする光景が見られた。ボイラーにより熱風を当てて強制的に乾燥させる方法もあるが、自然光で時間をかけて干すほうが発色が良い　**図1.** 1頭分が11kg以下の原皮をスキン、それ以上をハイドと呼ぶ。また、牛革は牛の成長段階により大きさ、厚さ、テクスチュアが異なり、それぞれに呼び名がある。カーフスキンやキップスキンは、約500〜800㎜×約800〜1200㎜と小さく、厚みは約0.8〜1㎜と薄手できめが細かく手触りが良い。一方、大きな面積を要し、耐久性が求められる場所には、約2000㎜×約2500㎜、厚さ1.2㎜以上ある成牛革が望ましい　**表1.** 原料となる皮のなかでも主流は牛皮で、ソファやイスの張り地を始めとする大きな面積でも使用できるほか馬や豚、羊などがある。ワニやトカゲといった爬虫(はちゅう)類、魚類のレザーは硬質で、主にバッグやベルトに用いられ、インテリアではアクセントに使われることが多い　**表2.** なめしを始め、複雑な工程を経て素材となるレザーは、加工方法によって幅広いテクスチュアが表現できる。たとえば「タンニンなめし」+「アニリン仕上げ」にするとレザーらしい風合いに仕上がるが、原皮についていた傷や皺がそのまま残り均一性に欠く。一方、「クロムなめし」+「ピグメント仕上げ」+「型押し」というように手を入れるほど本来の質感は失われるが、均一な仕上がりに

レザーの歴史

衣服や鞄、家具など、さまざまな用途に使用されているレザー。その歴史は太古の時代までさかのぼり、50万年前の氷河期に狩猟した動物の皮を防寒のために着用したことが始まりとされる。しかし、生の皮は腐敗や硬直することから、紀元前3000年ごろのヨーロッパやアメリカ、アフリカでは、木の樹皮に含まれるタンニンに皮を漬け込み腐敗を抑えて柔らかくする技術が生まれた。これが"なめし＝tanning"の原型だ。

一方、日本でも古くから暮らしに皮を活用してきたが、その多くは鹿皮で、加工しやすく柔らかな素材感や優れた通気性、耐久性により愛用された。朝鮮半島の革工人からなめし技術が日本に伝えられたのが西暦493年とされ、以降、馬皮や牛皮の製革技術が全国に広がる。その代表は鹿革に漆で模様をつける「甲州印伝」で用いる「脳漿なめし」と、姫路・市川の水、塩、菜種油でなめして淡黄色を帯びた白い牛革を生み出す「姫路白なめし」で、鎧や兜、刀、馬具といった武具での利用が多かった。なかでも姫路周辺はレザー産業の中心地として栄え、江戸時代には加工技術を確立。その後、軍事用靴の製作を目的に、1871年にはドイツ、1873年にはアメリカから製革技術が日本各地に伝習される。

このような西洋の影響によりタンニンを用いるなめし技術が普及し、さらに化学薬品を用いたクロムなめしの技術によってレザーが一般的な素材となった。しかし、イスやソファといった家具に取り入れられるようになるのはライフスタイルが欧米化した1950年代以降だ。

レザーの種類と加工

レザーには牛や豚、馬を始め、爬虫類や魚類などさまざまな種類があり、大きな面積が確保できる牛、通気性に優れ丈夫な豚、きめが細かく柔らかい羊というように、種類によって異なる風合いや特性を生かして製品化される(表1)。生産量は牛が最も多く、大きな面積を必要とするインテリアアイテムにおいてもそのほとんどが牛革。寒冷地で育った牛の皮は2～3㎜と厚みがありきめが細かく、温暖な地域のものは1㎜以下と薄く毛穴が開いているなど、気候風土により特性が変化。さらに、生後6カ月以内は「カーフスキン」、半年から1年以内は「キップスキン」、2年以上の成牛はさらに細かく分類されるというように、牛の年齢や性別によっても厚みやきめの細かさが異なる(図1)。ソファやイスの張り地に使う素材には、摩擦や荷重に耐える厚みが求められるため、成牛が望ましい。現在、国産は2割程度で、より大型で硬質な北米産が大半を占めるが、いずれも食肉を採取した副産物を加工したものだ。

一般的に本来の風合いを生かして仕上げたレザーは、耐水・耐光性に劣り、色移りすることもある。日本ではこのような天然素材ならではの経年変化や特性がクレームの原因になることが多いため、色落ちを防ぐトップコートを施すケースがほとんどだ。これは、生前に皮についた傷を自然の風合いとして「ナチュラルマーク」と呼び、色移りや退色も魅力の一つと捉える欧米と価値観が大きく異なる。しかし、このような違いが日本独自の高い加工技術を根づかせ、鞄や靴などのレザー製品を提供するヨーロッパのトップブランドからも需要がある優れたクオリティーを実現してきた。

生の皮である「原皮」をレザーにするために最も重要な工程が「なめし」。原皮に付着した脂肪やタンパク質を取り除き、コラーゲン繊維にタンニンやクロムを含ませる。これが、皮膚である"皮"を素材としての"革"に変える作業で、なめし方法によって質感や強度が異なる。現在日本で主に採用されている手法は、原皮を植物エキスに長時間浸してタンニンとコラーゲンを結合させる「タンニンなめし」と、19世紀以降に開発された塩基性硫酸クロム塩を用いて行う「クロムなめし」に分類される(写真1)。

タンニンなめしは一般的に「ヌメ革」と表現される肌色に近い仕上がりとなり、体にもともとついていた傷や皺が残る質感が特徴。光や空気に触れることでタンニンの酸化と共に飴色に変化し、使い込むほど柔らかく艶を増す。クロムなめしに比べて収縮・弾力性に欠くが、耐摩耗性に優れている。しかし、タンニンは皮への浸透に時間を要し、工程が多く手間がかかるため、生産量は少ない。一方、クロムなめしはタンニンなめしに比べて作業工程が少なく、収縮・柔軟・弾力性に富み、比較的熱に強いうえになめし材が少量で済む。クロムの色により、なめし上がると"ウエットブルー"とも呼ばれる青白色に染まることも特徴の一つ。現在主流となっているが、その過程で有害物質を発することが指摘され、焼却時にも有毒ガスを発生するとして端材の処理が問題になったことも。最近では、アルカリ性の特殊な薬品で洗うことでクロムを取り除き、残りのタンパク質を肥料に使う方法で処理している。

なめした後は用途に合わせて厚みを調節する「裏削り(シェービング)」、パウダー状の染料や顔料、油脂剤を用いて染める「染色・加脂」、表面に色をつける「塗装」、模様をつける「型押し」といった工程を経る(64～67頁)。塗装は、繊維に染料を浸透させる「アニリン(染料)仕上げ」と、表面に顔料の粒子を接着させて彩色する「ピグメント(顔料)仕上げ」に分類される。アニリン仕上げは色むらや傷、皺がそのまま残りレザーらしい質感が表現できるが、色落ちや日焼けを起こしやすい。一方、ピグメント仕上げは色落ちを防ぎ、傷をカバーする効果が高いものの、表面に光沢が出て自然な風合いに欠ける。さらに、カゼイン、ラッカー、ウレタンなどでコーティングし、型押しして装飾性を付加するものも。このように、約40日以上を要する作業工程によって、さまざまなバリエーションのレザーが完成する(表2)。

本来の風合いを生かすか、経年変化の少ない均一な仕上がりとするかは、なめしを始めとする加工方法によって多様に調整可能だ。これらは、銀面(表面)が持つ本来の質感を生かした「銀つき革」、ガラス板に貼りつけて乾燥し、銀面をサンドペーパーで整えて塗料で堅牢に仕上げる「ガラス張り革」、肉面(裏面)をサンドペーパーで起毛させた「スエード革」などに分類される(表3)。

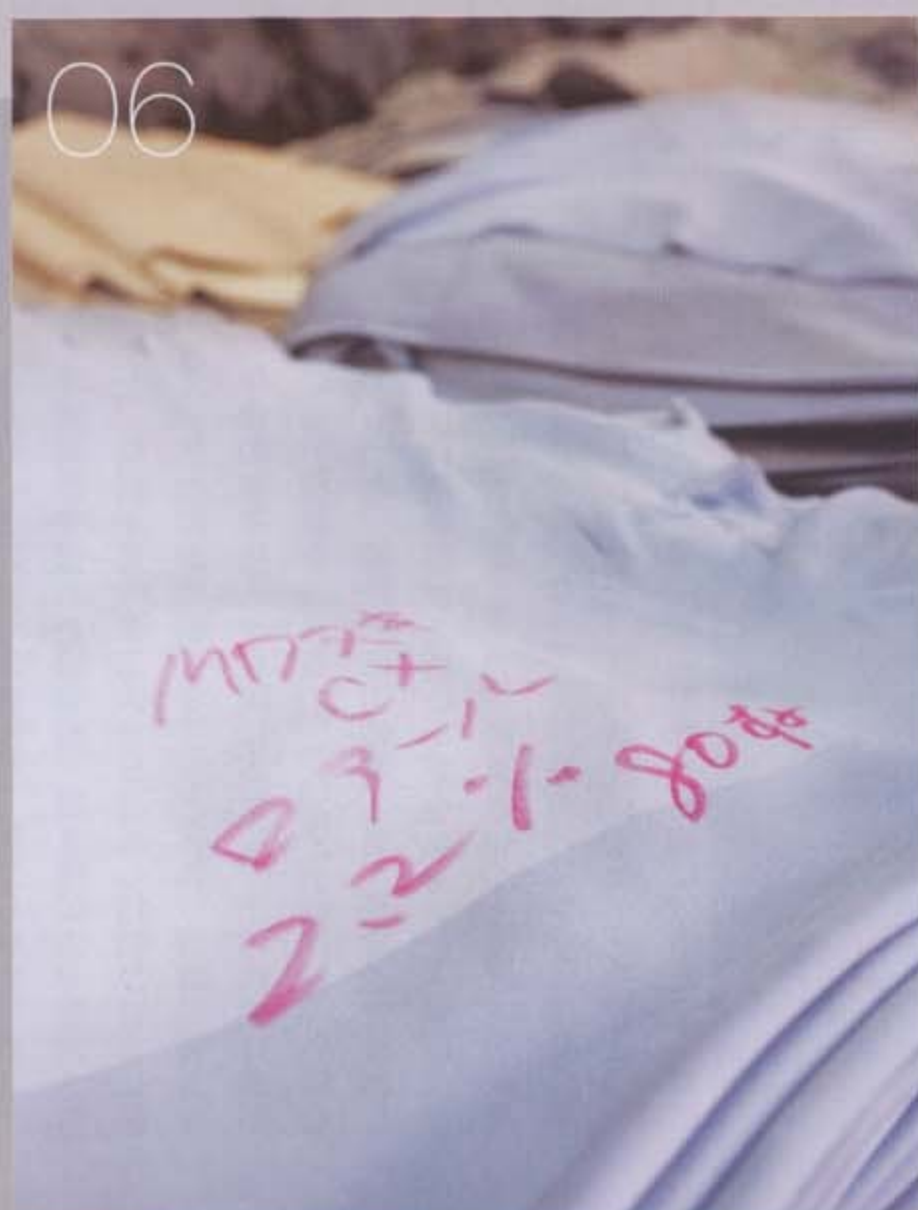
フェイクレザー

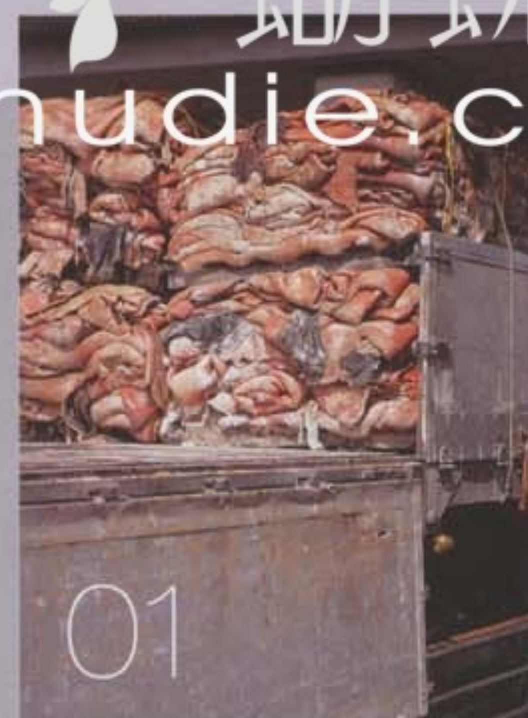
天然レザーを模した人工素材がフェイクレザー。1960年代から世界的に開発され、天然と同等の風合いや耐久性を実現するため、改良が重ねられてきた。熱に弱い天然レザーは高温で染色できないため色が定着しにくいが、フェイクレザーはその問題がなく、天然では表現できない色柄が可能となる。また、色むらや傷、皺、部位による厚みの違いが生じる天然レザーと異なり、安定した

(69頁に続く)

Manufacturing Process















レザーの加工工程

01 原皮
腐敗を防ぐため塩漬けまたは乾燥処理を施した牛皮、馬皮、羊皮、山羊皮などが、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ、東南アジアなどから輸入される。国産は牛皮、豚皮などが主で、いずれも食用動物の副産物。現在流通する牛皮のうち、国産は2割程度で、大半はより大型で硬いとされる北米産が占める　写真／国内から搬送されてきた赤牛の原皮。原皮は重量、加工されたレザーは面積によって価格が決まる

02 水漬け・背割り
皮に付着した血液や汚物などを取り除き、約24時間水に浸しておくことで脱水された水分を補って生皮の状態に戻す。後の石灰漬けをスムーズに行うために重要な工程だ。その後、牛皮や馬皮といった面積の大きなものは作業がしやすいよう1頭分の皮を背筋に沿って半分に分ける。この背割りはなめしの後に行うことも

03 脱毛・石灰漬け
石灰乳に浸漬し、硫化ナトリウムを始めとするアルカリ性の薬品により皮を膨潤させて主成分であるコラーゲン繊維をほぐすと共に、毛、脂肪、表皮層といったコラーゲン以外のタンパク質を分解除去する。レザー独特の柔軟性を出すために必要な工程

04 裏打ち(フレッシング)・分割(スプリッティング)
裏打ち機を用いて皮の肉面(裏面)に付着している肉片や脂肪を取り除く。さらに、分割機により用途に応じて皮を所定の厚さに分割し、銀面(表面)と肉面の二層にする。なめしの後に分割する場合も。床皮と呼ぶ肉面はスエードやベロアのほか、食用、工業用、医療用コラーゲン製品として多方面に利用される

05 なめし
クロム、タンニン、油といったなめし剤を皮に浸透させてコラーゲン繊維と結合させることで腐食を防ぎ、耐熱・耐久性を与える。これにより、長期保存可能な素材となり、"皮"が"革"へと変化　写真右／なめし剤を含んだ水中で皮を回転させるために用いるベイマツ製のドラム。水漬けや染色、空打ちといった工程にも同様のドラムが用いられる。内部にはなめし剤や染料の攪拌を促すための棒状突起(ダボ)を装備　写真左／塩基性硫酸クロム塩を用いて「クロムなめし」を施したレザーは独特の青白色をしており、湿潤状態のため"ウエットブルー"と呼ばれる。なめし期間が24時間以内と短く、耐熱・染色性に優れたレザーが仕上がるこのなめし方法が現在は主流

06 水絞り・等級選別
水絞り機でレザーに含まれた余分な水分を絞り出すと同時に、伸ばす作業。その後、銀面の傷や汚れの有無を始めとする品質検査を行い、等級を分ける　写真上／水絞りを終えて等級分けされたレザー。ここでどのような用途に使用するかが決定され、厚さ2.2㎜のレザーを80枚加工するといった指示がグループごとに記される　写真下／専用の機械に挟み込んで水分を取り除く作業。水に浸して膨張させる作業と、乾かして引き締める作業を何度も繰り返して加工されていく

07 裏削り(シェービング)
裏削り機でレザーの肉面を削り、等級選別後に指定された用途に応じて厚さを均一に調節する　写真／裏削りを施した際に生じる端材。これらにはクロムが含まれているため焼却すると有害物質が発生することから、専用の処理場でアルカリ性の特殊な薬品を用いて洗浄してクロムを分離させ、残ったタンパク質を肥料に使う方法で処理を行う

08 再なめし
靴や鞄、衣服といった用途それぞれに最も適した素材をつくるため、合成タンニンや植物タンニンを用いて再度なめし、柔軟性や強度を調整する

09 染色・加脂
パウダー状の染料と湯を用いてレザーを染める作業。さらに、染色したものを洗いながら油脂剤を加えて柔らかさを調節する加脂を行う　写真右／染色したレザーをドラムで洗浄する作業。洗い上げる過程で少しづつ油脂剤を加えていく　写真左上／ドラムに染料と湯を入れて攪拌させることで染め上がったレザー。染色には約6～8時間を要する　写真左下／400種以上ある油脂剤を調合し、用途に応じて柔軟性を調整する。ここで油を加えることにより、使い込むほどに艶(つや)が出る質感をつくり出す

10 伸ばし(セッター)・バキューム
染色・加脂したレザーの水分をセッティングマシンで取り除くと同時に伸ばす作業。その後、約70度に熱した網状の鉄板に約1分間置くことで、水分を吸収させて銀面を整える　写真／バキュームを行う機械。この機械の鉄板の網目が、肉面に独特の跡を残す

11 乾燥
レザー内部に含ませた染料や加脂剤を定着させるために乾燥する。日光によって自然乾燥するほか、ボイラーで乾燥させる熱風乾燥や真空乾燥があり、レザーの触感に直接影響する重要な工程だ。自然乾燥のほうが発色が良いが、雨の日が多いと完全に乾かないため、強制的に乾燥させる　写真上／木造の小屋内につり、昔ながらの方法で自然に吹く風によって乾燥を行う。干されているのは約1㎜と比較的薄いもので、衣服に用いられる　写真下／風が流れるよう一定の間隔で隙間をあけてつり、扇風機によって乾燥させる





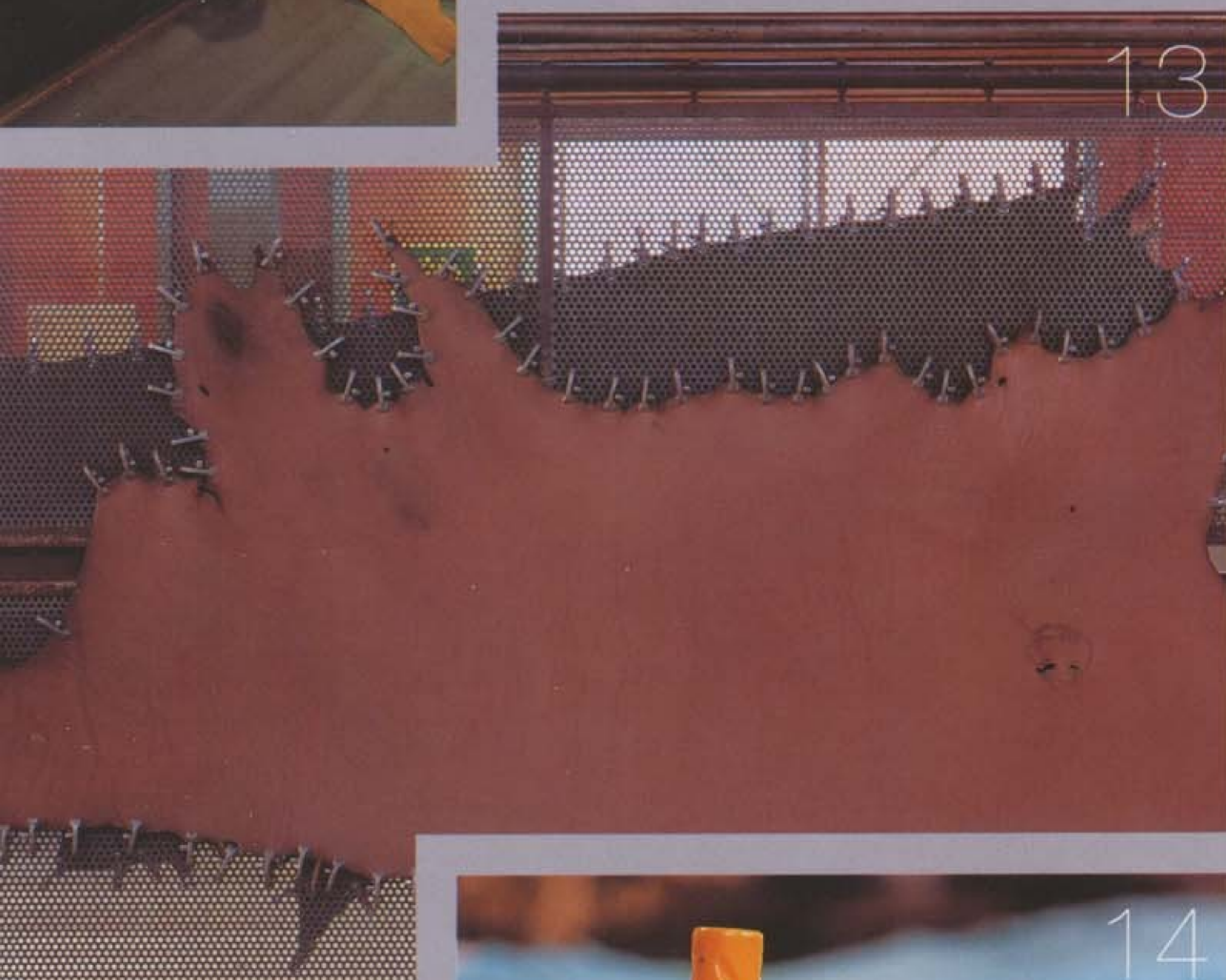








MANUFACTURING PROCESS







12 バイブレーション・空打ち・バタフリ

もみほぐして柔軟性や弾力性を与える作業。レザーを挟んでバイブレーションステーキングマシンに3～4回かける方法のほか、なめしに用いるドラムで回転させる空打ちは、時間をかけて繊維に空気を含ませる。さらに、振り子のような機械に2～5枚を挟んで振り回すバタフリは日本ならではの方法で、最も短時間で柔らかくなる　写真／バイブレーションステーキングマシンにより振動を与え、手触りが良く柔らかな質感を出す

13 ネット張り乾燥

レザーをネット(網板)上にトグル(特殊なクリップ)張りにし、平らな状態にして乾燥させることで、仕上げを施しやすいかたちに整える。上下2枚に分かれたネットの隙間を調整して伸ばす　写真／トグルでネットに張りつけて伸ばされたレザー。左手にはネットが約30枚収容できる温室があり、50～60度で1時間程度熱して乾燥させる

14 円裁ち

厚さが均一でなく皮をはぐ際にできた穴や傷などがある端部をカッターで切り落とす　写真／専用のカッターで周囲をカットしていく。瞬時に不要な部分を見極めてリズム良く切り落としていく作業は、熟練の職人だからこそ成せる技

15 バフ

種類によってはバフィングマシンを用いて銀面にサンドペーパーをかけ、毛根を取り除くことで滑らかにする。スエードやベロアを加工する際は、目の粗いサンドペーパーを用いて表面を起毛させる　写真／バフィングマシンによって磨き上げられたレザー。"ペーパー処理"や"ヘアーシェル"とも呼び、この作業が施されるのは国内で加工されるレザーの1割程度だ

16 塗装・艶出し

色をつけると共に耐久性を確保するため、銀面に塗料を塗布する。噴射口を回転させてむらを防ぐスプレー塗装機や、塗料を含ませたメッシュ状の鉄板に挟んで塗装するロールコーターを使うほか、手作業の場合も。その後、50～60度で乾燥させ、用途によってはガラスで研磨するグレージングマシンや、摩擦を与えるポリッシングマシンといった機械で表面に艶を与える　写真上右／塗料を噴射しながら回転するスプレー塗装機の下部を、ベルトコンベヤーに乗せられたレザーが通過する。センサーでレザーの面積を計り、自動的に噴射量を計算する仕組みだ　写真上左／タオル地を巻きつけたこぶし大のボールに塗料をつけ、表面を滑らせるように着色していく。天然素材のレザーは部位によって厚みが異なるため、機械で塗装すると色むらが生じることもあるが、手作業で行うことでそれを防ぐことができる　写真下／ロールコーターを用いれば、レザーの柔らかさを変えることなく塗装できる

17 アイロン

伸ばしたり、艶を出す目的で、60～120度の高温でアイロンをかける。圧力が高いと艶は出るが硬くなるため、柔らかく仕上げたい場合は圧力を下げて高温にすることで艶を出す　写真上／ベルトコンベヤーに挟み込んでプレスし、レザーを伸ばしていく　写真下／熱によって溶解する艶を出すための塗料をあらかじめ塗布し、アイロンをかけることで美しい光沢を表現

18 型押し

模様をつける作業。型を60～120度に熱して圧力をかけることでさまざまなテクスチュアが生まれる　写真上／型押しを施した後のレザー。これですべての加工を終え、梱包されて出荷される　写真下右／型を押す作業は手作業で行われる。機械の奥からレザーを入れる人と、手前から引く人の二人で作業を進めていく。型の幅が約350㎜のため、成牛革で6～7回プレスする必要があるが、感覚のみでまったく狂うことなく柄を合わせていく職人技は脱帽だ　写真下左／1枚約70kgの型は銅製や鉄製が主流で、クロコダイルだけでも大柄から細かなものまで多様にそろう

19 品質検査・計量・出荷

耐久性、柔らかさを確認する物性試験や色、艶、傷の有無などの外観検査を終えた後、計量機にかけてレザーの面積を計量する。単位は国内で用いられているds(デシ・1ds＝10㎝×10㎝)と海外向けのsf(スクエアフィート・1sf＝約9.3ds)の2種類。面積ごとに価格が決定される　写真／計量した数値を記載したシールを貼った後は出荷するのみ。250や259といった数字はそのレザーのdsを表す





16





17





18



19





表3 レザーの種類

銀つけ革	天然レザーの銀面（表面）の表情を生かしたもので、ガゼインまたはラッカーで仕上げることが多い。レザーそのものの質感が美しく、優れた耐久性を備える。靴や鞄、ベルト、衣服の素材として使われる
ガラス張り革	クロムなめしの乾燥工程でガラス板またはホーロー鉄板に張りつけ、銀面をサンドペーパーで削って滑らかに整え（バフ）、塗装を施して仕上げたもの。原料は主に成牛皮。銀面が均一であるため裁断後の出荷率は高いが、銀つけ革に比べてレザー本来の風合いが劣る。靴甲、鞄などに用いられる
スエード革	肉面（裏面）をサンドペーパーで毛羽立て、起毛させて仕上げたレザーで、主に仔牛皮や山羊皮などからつくられる。靴甲、鞄、衣服などに使用。シルキースエードは高級品。成牛皮を始めとする大きな動物皮の肉面を起毛した毛足のやや長いものをベロアと呼ぶ
バックスキン革	鹿皮の銀面を除去し、床革のみを毛羽立てたレザー。極めて柔軟で、スエードと同様の用途に用いられるため、スエードと混同して呼ぶことも
ヌバック革	スエードと異なり、銀面をサンドペーパーで毛羽立てたもの。スエードと比較すると毛羽が非常に短い。高級品は仔牛皮を原料とするが、成牛皮やその他の動物皮からもつくられる。靴甲、袋物、衣服などに用いる
エナメル革	かつては銀面にボイルアマニ油またはワニスを塗布し、乾燥を繰り返して光沢のある強い被膜がつくられていたが、最近ではウレタンを始めとする耐摩耗性が高く艶やかな仕上がりを実現する合成樹脂仕上げ剤を用いる。パテントレザーともいわれ、靴甲、鞄などに使う
床革	成牛皮のように厚い皮を2層か3層に分割して得られた銀面を持たない床皮を原料としたレザー。作業用手袋、スポーツ靴などに用いられる。最近ではラミネートレザーとしても用途が広がっている
型押し革	塗装後に加熱高圧プレスで型押ししたもの。靴、鞄、衣服などに用いる
タンニン革	タンニン革のなかでも底革は、成牛皮や水牛皮を植物タンニンでなめしたものを指す。厚くて硬く、靴底に用いられる。ヌメ革は底革より薄くて柔らかく、成牛皮、豚皮などが原料。ソフトタイプとハードタイプに大別され、用途により厚さを調整し、鞄、ベルト、革工芸に用いられる
シュリンク革	なめし工程中に特別な薬品を用いて銀面を縮ませたレザーで、もんだものよりもシボ（皺）が強調されるのが特徴
防水革	製造工程で、フッ素系、シリコン系、油剤系などの薬品を使用して、吸水防止効果や撥水効果を持たせたもの

参考／「革のタイプによる分類」日本タンナーズ協会

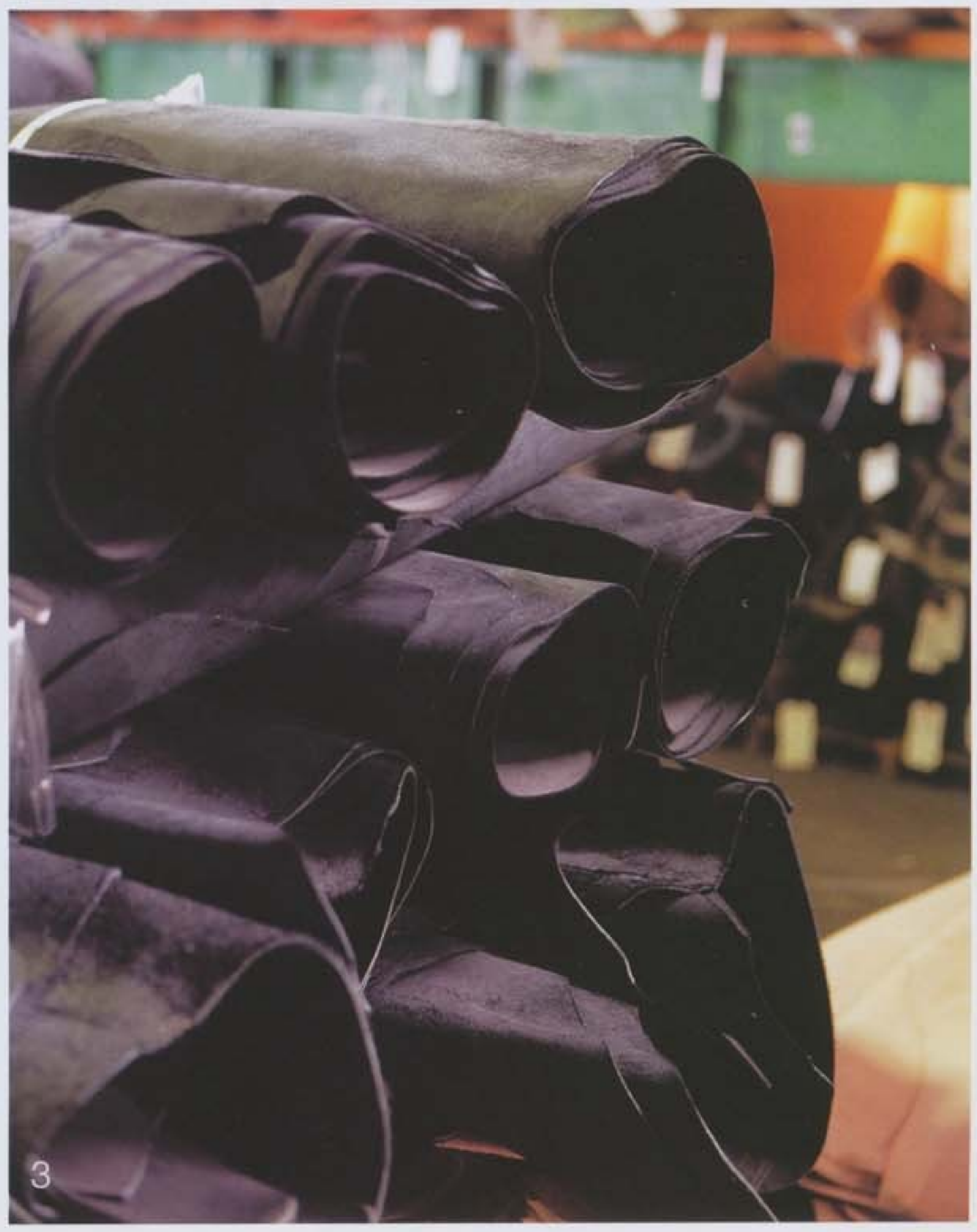


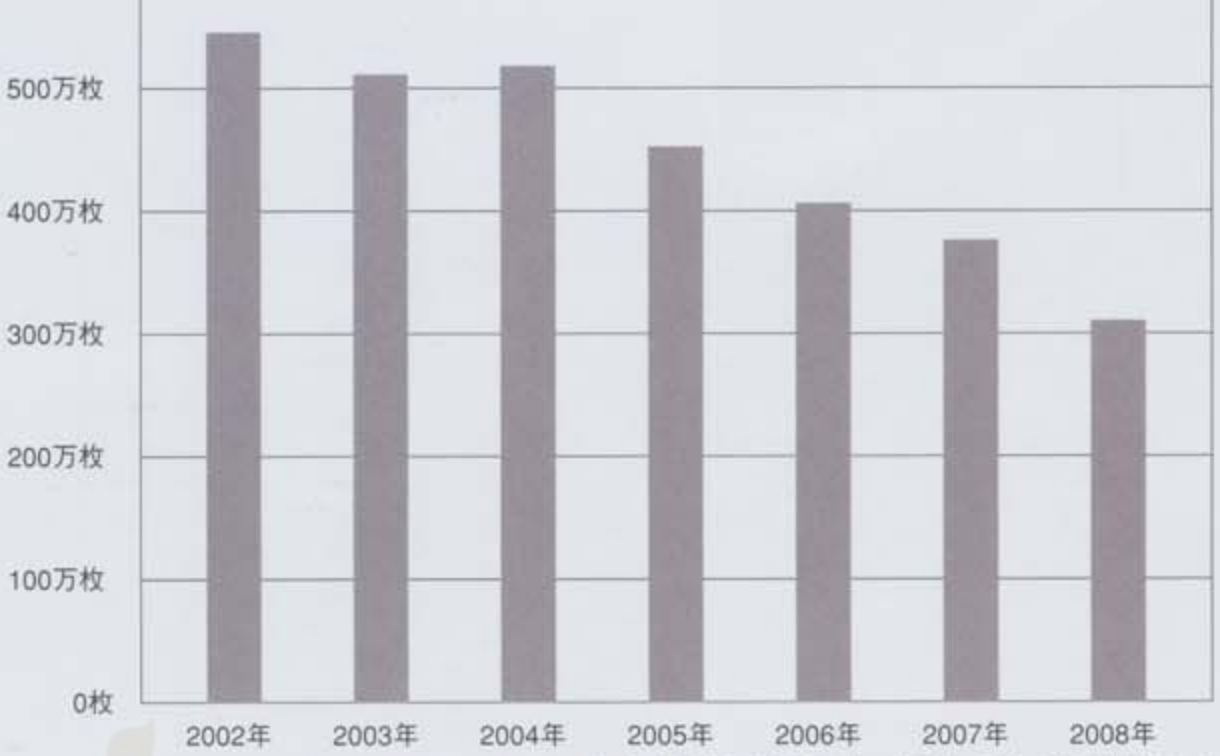
写真3. 染色、乾燥、バイブレーションを終え、塗装を施す前のレザー。素材本来の質感を生かすため無塗装のまま仕上げるものを「素上げ」と呼ぶ一方、塗装を施してより鮮やかな発色や艶を表現したものも

写真4. パールを混合した塗料で艶を与え、牡丹柄を型押ししたもの。銀面（表面）に薄い膜をつくるように塗装し、さらにトップコートを施して仕上げたものは耐水性が増し、メンテナンスが不要　**表3.** 加工過程によってさまざまな種類に分かれるレザー。「銀つけ革」「ガラス張り革」は、靴や衣服に用いられる最も一般的なものだ。「スエード革」「バックスキン革」「ヌバック革」は起毛した柔らかな素材感が特徴で、衣服や鞄に用いられることが多い　**表4.** 加工方法によって多様なバリエーションを持つ天然レザーのほか、フェイクレザーも多く見られ、それぞれ異なった特性を持つ。最も天然レザーらしい「タンニンなめし」＋「アニリン仕上げ」は、経年変化による風合いが楽しめるのが特徴。耐光性や耐水性に優れ、色移りしないものを求める場合は「クロムなめし」＋「ピグメント仕上げ」を選ぶと良い。フェイクレザーは色柄が豊富でメンテナンスが不要など、それぞれのメリットとデメリットを踏まえたうえで用途に合わせて選びたい　**表5.** 2002～'08年の国内におけるレザーの生産量の推移。'08年の牛革や豚革を問わない生産量の合計は313.3万枚で、前年度より17.9％減少していることが分かる。アジア諸国からの安価な製品が大量に流入する一方、欧米からはトップブランドが提供する高価なレザー製品が輸入されるうえ、国内に製品をプロデュースするブランドが少ないため製造業者は厳しい状況に立たされている

表4 レザーの特性比較

	耐久性	耐水性	耐光性	柔軟性	質感	バリエーション	メンテナンス
天然レザー（タンニンなめし＋アニリン仕上げ）	◎	×	×	△	◎	△	要
天然レザー（クロムなめし＋ピグメント仕上げ）	◎	△	△	◎	○	○	要
フェイクレザー（ビニルレザー）	△	◎	◎	◎	△	◎	不要

表5 レザーの生産量の推移



参考／「生産概況 平成20年計」日本皮革産業連合会



品質を得られるほか、耐水性に優れるため水まわりにも施工できる。

現在はファブリックや壁紙を始め、タイルや塩化ビニルの化粧材といった建材にもレザーを模した製品が数多く登場。耐水性に劣る天然レザーを水まわりに使用することは難しいが、タイルを用いればバスルームにレザーの風合いを取り入れることもできる。このように、フェイクレザーは場所や用途を選ばず、インテリアの可能性を広げる存在だ。

フェイクレザーは天然レザーに比べて手頃な価格で入手できるものの、あくまでも人工素材であり、レザー最大の魅力ともいえる経年変化による風合いは実現できない。イスやソファの張り地として取り入れる場合、摩耗しても天然レザーのように表情を楽しむことができないうえ耐久性に劣り、10年に満たず張り替えを要する。どちらが求める空間やライフスタイルと一致するかをそれぞれの特性を踏まえて検討したい（表4）。

インテリアにおけるレザー

日本は木や紙、畳を用いる文化を背景にしてきたためか、インテリアにレザーを取り入れる発想に乏しい。しかし、木材や塗装で仕上げることが多い床や壁、建具にレザーを用いれば、空間を引き締めながら柔らかな触感を添えられる。たとえば、モノトーンの空間であっても、ニュアンスのあるレザーの質感を加えるだけで空間に上質な印象を与える。年月を経て増す風合いや、重厚な素材感を堪能できる天然レザーは、家具はもちろん、床や壁にも積極的に取り入れたい。

また、前述したようにフェイクレザーは技術の進歩と共に優れた質感を実現し、壁紙やタイル、ファブリックなど多様にそろう。メンテナンスが容易で色柄も豊富なため、気軽に採用できる。特に近年、レザー調のファブリックをカーテンに用い、しなやかな質感をインテリアのアクセントとするケースが見られるが、これは重量のある天然レザーでは実現が難しく、フェイクレザーだからこそ可能な取り入れ方の一つだ。

レザーに適した空間と部位

家具　ソファやイスだけでなく、テーブルやキャビネットなど、レザーを用いた家具を一つ置くだけで、重厚感のある空間が生まれる。カウンターの天板や面材、建具の取っ手を始めとする手に触れる部分など、一部に使用するのも効果的だ。G2 DESIGN STUDIO設計のI邸では、リビングと主寝室に造作したサイドボードの天板に牛革を採用（写真A）。ステッチを施した濃茶の天板が、白に塗装した面材と美しいコントラストを描く。また、イタリア・プロメモリア（30頁に掲載）の創業者でありメーンデザイナーのロメオ・ソッジが自邸に造作した牛革張りのキャビネットは、クールさを備えながらも柔らかな曲線のフォルムが秀逸（写真B）。赤いステッチを施した継ぎ目をあえて見せるデザインが美しく、陰影を帯びた空間でオブジェのような存在感を放つ。このようにレザーの隅を蝋（ろう）で固めてステッチをあしらった仕上げは、馬の鞍（くら）に使用するような厚みのある硬い天然レザーだからこそ実現できる。

さらに、ソッジ邸の洗面カウンターではワークトップにエイ革（ガルーシャ）を採用（写真C）。一般的に水まわりに耐水性が低い牛革や馬革を用いるのは難しいが、エイ革は耐水性を備える。古くからラッキーフィッシュとして珍重され、中国では"泳ぐ宝石"と呼ばれる装飾性の高い素材で、部分的に使用するだけでも、静かにきらめきを放つ素材が存在感を発揮する。

床　柔らかで肌触りが良く、弾力性のあるレザーは、室内において素足で過ごす文化が根づく日本の住宅に適している。建築家のピーター・ヴィンセントが手掛けたハワイ・オアフ島のビーチフロントに立つM邸では、主寝室と連続するオープンなウオークイン・クローゼットの床に牛革製タイルを採用（写真D）。フローリングの床と同様の色調ながら、天然レザーの質感がしっとりと落ち着いた雰囲気を醸す。服を着替えたり素足で歩く場所は、肌に優しくなじむ素材が心地良い。

しかし、床は直接足に触れるため、汚れが付着する可能性が高く、清掃性が重視される。このような場所には、その質感を表現しながらもメンテナンスが容易なレザー調タイルを取り入れるのも一考。建築家の横堀健一さんとコマタトモコさんが手掛けたM邸は、ゲストリビングの床に牛革を模したタイルを採用している（写真E）。室内にコーディネートしたパーソナルチェアには、クロコダイルの型押しを施した天然レザーを取り入れて統一感を図った。機能と質感を兼ね備えたフェイクレザーを効果的に用いた好例だ。

壁　面積が広い壁すべてにレザーを用いると、圧迫感を与える可能性がある。また、継ぎ目なく一枚でまかなえるサイズは最大でも成牛1頭分の約2.5m×約2m程度。さらに、生きた素材である天然レザーは気温や湿度によって伸縮するため、一枚を大面積に用いると剥離（はくり）が生じる可能性も。このような理由から、壁に取り入れる場合は、面積が小さいレザーをタイルのように貼り合わせるほか、壁の一部や壁面収納の扉にアクセントとして取り入れる方法が有効だ。

インテリアデザイナーの加藤吉宏さん設計のS邸では、白い牛革をドンス張りにしたパネルをリビングの壁の一面のみに貼った（写真F）。凹凸のあるリズミカルなデザインが空間に表情を与え、奥行きをもたらす。このような"ウオールレザー"と呼ばれる手法は欧米ではよく見られ、レザーの持つ吸湿性により調湿効果を発揮することも。また、横堀さんとコマタさんがマンションの一室をリノベーションしたK邸では、エントランスの壁面収納に室内のアクセントカラーとなるワインレッドの牛革を採用し、ゲストを迎える場をしつらえた（写真I）。この壁のレザーを始め、家具のローズウッド材やソファに張ったファブリックなど、同系色のさまざまな素材を用いて美しいグラデーションを描く空間を実現した。

横堀さんとコマタさんは前出のM邸でも、暖炉まわりの壁にワニ革を模したタイルを採用（写真G）。モノトーンを基調とした空間に、タイルでしか表現できない艶とワニ革独特のテクスチュアが映え、暖炉をシンボリックな存在として浮き上がらせた。また、ガレージの壁面収納にレザー調のダイノックシートを使用したのが芦原太郎さん設計のT邸（写真H）。無機質な印象を与えがちなガレージを居室のように仕上げるため、レザーのテクスチュアを効果的に取り入れた。

施工のポイント

レザーを使用する際にはまず、用途によってなめし方や塗料の種類を吟味することが大切。素材の経年変化を楽しむならタンニンなめしやアニリ

（73頁に続く）



A

LEATHER FOR HOUSES

FURNITURE

写真A. リビングと主寝室に造作したサイドボードの天板に牛革を使用したI邸。引き出しの割りつけに合わせてレザーを張り、ステッチを施している。壁やサイドボードの面材に白を用いて明るい印象とした空間にレザーの素材感が映え、奥行きをもたらす。厚みのあるレザーを蝋で固めてステッチで仕上げるデザインは天然レザーでしか表現できない。「I邸」設計／G2 DESIGN STUDIO（no.14に掲載） **写真B.** Sozzi邸のバスルームに配されたレザー張りのキャビネット。フレームや天板、引き出しまですべてに厚みのある濃茶の牛革を用いて重厚感を添えた。フレームの正面にあえてレザーの継ぎ目を見せ、赤のステッチを施したデザインに。馬具工房の流れを汲む職人でこそ成せる仕上がりが美しい。「Sozzi邸」（no.25に掲載） **写真C.** エイ革（ガルーシャ）を取り入れて上質な洗面カウンターを実現したSozzi邸。"石"と呼ばれる表面の硬いウロコがエイ革の特徴で、光沢のあるテクスチュアが自然光を柔らかに反射する。一般的に洗面カウンターには人造大理石や陶器といった硬質で耐水性のある素材を用いることが多く、水に弱い牛革や豚革を用いるのは難しいが、魚類であるエイ革を採用することでクールな印象を添え、家具のような仕上がりが実現。「Sozzi邸」（no.25に掲載）



A



B



B


D


C


C


E

FLOOR

写真D. ハワイの建築家、Peter Vincentによる設計のM邸では、主寝室とバスルームをつなぐウオークイン・クローゼットの床に牛革製タイルを採用。主寝室とウオークイン・クローゼットが洗面カウンターを中心とする回遊動線上にあり、シャワーを浴びて着替えるという一連の動作がスムーズに行えるプランで、柔らかな質感を持つレザーは素足で歩くことが多いプライベートスペースに有効だ。主寝室に貼った濃茶のフローリングと色調を合わせて統一感を与えながら、異なる素材で場を分けた。「M邸」設計／Peter Vincent & Associates LLC（no.16に掲載） **写真E.** 建築家の横堀健一さんとコマタトモコさんが手掛けたM邸のゲストリビングでは、床にアドヴァンの600角のレザー調タイル「マトーシュ クイル・タバコ」をセレクトして陰影のあるラグジュアリーな空間に仕上げた。耐候性や耐水性を持つため奥につながるテラスにも使用でき、屋内外の一体感を得ると同時にレザーの柔らかな質感を空間に取り込める。イタリア・ARMANI / CASAのラグや、カーテンに用いたオランダ・CARLUCCIのファブリックにもレザーを思わせるアイテムを採用。柔らかさとクールさを併せ持つレザーを、タイルやファブリックといったさまざまな素材に取り入れることでメリハリをつけた。「M邸」設計／横堀建築設計事務所（no.40に掲載）



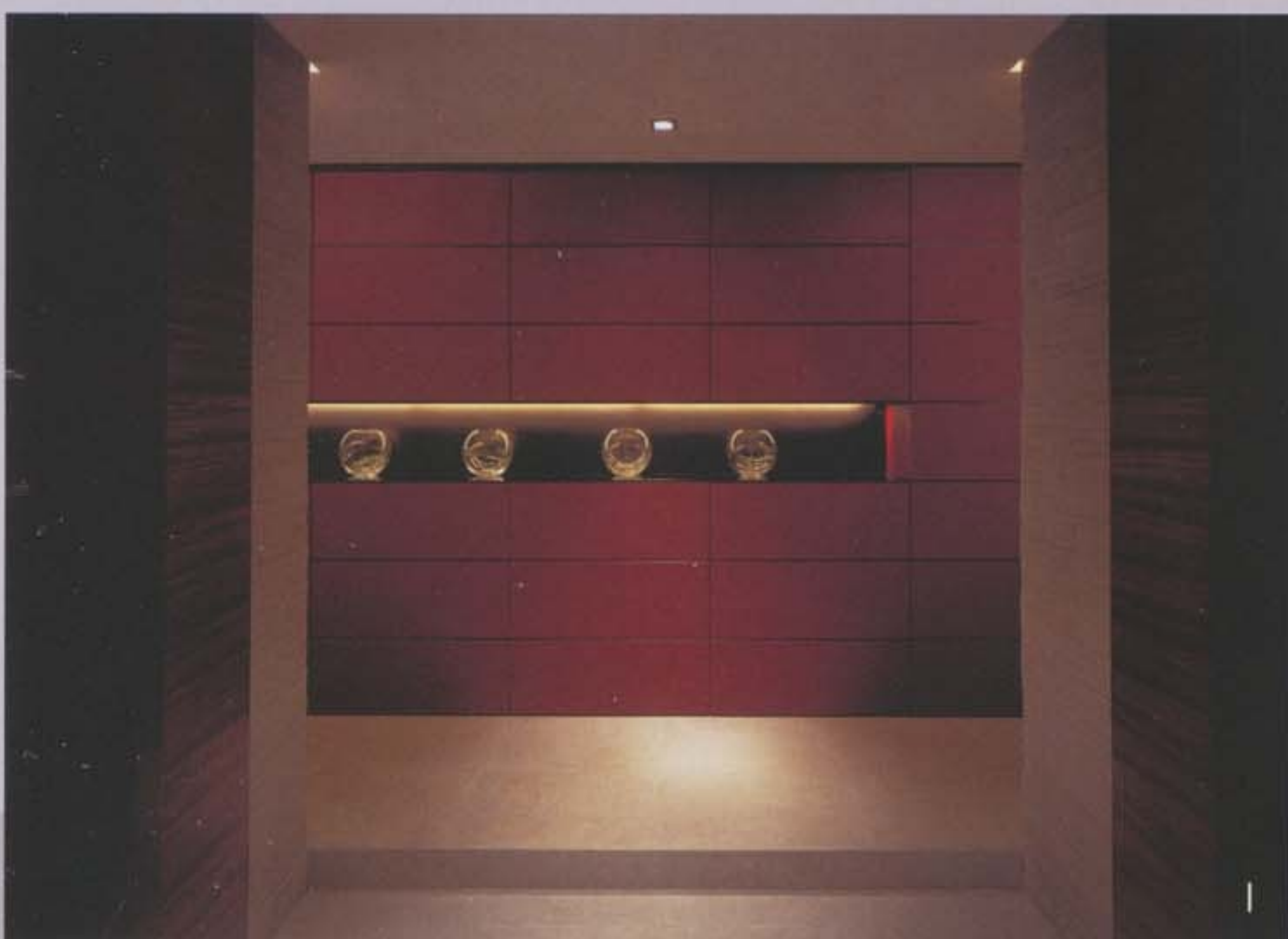
H



H



F



I



F

WALL

写真F. インテリアデザイナーの加藤吉宏さんが手掛けたS邸のリビング。モノトーンを基調に大理石貼りの床やガラスの間仕切りといったハードな素材でまとめながら、幅4500㎜×高さ2650㎜の壁一面に白い牛革をドンス貼りすることで柔らかさを添えた。このような"ウオールレザー"は空間の印象を決定づけると同時に、吸音性に優れ、ジャズを好むオーナーが音楽を楽しむ際には防音効果が期待できる。「S邸」設計／加藤吉宏アトリエ（no.23に掲載） **写真G.** 横堀さんとコマタさんが設計したM邸では、コージーアンドカンパニーの特注暖炉の壁にアドヴァンの600角のワニ革調タイル「マトーシュ クロコ・タバコ」を使用。天井高2700㎜いっぱいに配したシンボリックなこの壁がアイキャッチとなり、重厚感ある空間をかたちづくる。「M邸」設計／横堀建築設計事務所（no.40に掲載） **写真H.** 建築家の芦原太郎さん設計のT邸では、ガレージに設けた壁面収納の扉に住友スリーエムによるレザー調のダイノックシート「LE-1104」を採用。愛車を始め、ギター、スピーカー、パーソナルチェアなどが並ぶ趣味室を兼ねたガレージが無機質にならないよう、レザーのテクスチュアを取り入れて家具のような存在感を与えている。「T邸」設計／芦原太郎建築事務所（48頁に掲載） **写真I.** エントランスドアを開けると正面に現れる幅2600㎜×高さ2300㎜の壁面収納に、ワインレッドの牛革を張った横堀さんとコマタさん設計のK邸。家具のローズウッド材や、ソファに張ったファブリックなど、室内のアクセントカラーとして用いた色をレザーにも取り入れることでグラデーションが生まれ、上質な空間に仕上がる。中央に設けた幅2600㎜×高さ300㎜の飾り棚が、家具としての印象をより引き立てる存在。「K邸」設計／横堀建築設計事務所（no.20に掲載）



I



G

取材協力／コーヨープレス　工房スタンリーズ　トミタ　まるいち製革所
マルヒラ　メルクス　ワンダーインダストリアル　コマタトモコ(横堀建築設計事務所)　戸井田晃英(ATTA)　敬称略

ン仕上げ、アクセントに使用するのであれば型押しや着色したテクスチュアを採用するのも良い。天然レザーは耐光・耐水性に劣り、色移りの心配があるため、用途に応じてトップコートを施したものを使うか、直射日光が当たる場所や水まわりであればフェイクレザーが安心だ。天然レザーは一枚ごとに色が微妙に異なるうえに染めむらが生じるため、壁や床など広い面積に用いる場合に色調を均一にすることは難しいが、それを魅力と捉え、デザインとして取り入れたい。

また、天然レザーを使用する場合、施工前に室内環境に適応させておくことが必要だ。天然レザー製のタイルは、施工する室内に最低2日以上広げておき、中心部から貼るのが望ましい。さらに、一枚当たりの面積が大きくなるほど狂いや剥離が生じやすいため、細分化したレザーをパネル状にして組み合わせる方法が有効だ。このほか型押しの深いデザインの壁紙を施工する際には、フェイクレザーであっても圧着を十分に行う必要がある。

メンテナンス

天然のタンパク質からできたレザーは、人間の肌と同様に乾燥させたまま放置していると風合いが損なわれ、寿命が短くなってしまう。基本的にメンテナンスが不要なフェイクレザーと比べ、天然レザーは手間を要するが、それにより美しく変化していく。ここでは、レザーのメンテナンス方法を紹介したい。

アニリン(染料)仕上げの場合は、柔らかな布で乾拭きするのが基本。水分が浸透しやすいため、色素が内部に入り込み沈着すると除去できない。日頃から防水用のプロテクション剤を塗り込んでおくと、レザーの風合いを損なわずに撥水や色止めの効果を発揮する。ただし、クリームを用いるとシミやむらとなる可能性があるため、粒子の細かいヌバック用のスプレーが有効だ。まずは目立たない部分で試してから使用すると良い。

ピグメント(顔料)仕上げの場合も日常的には乾拭きし、軽い汚れは乾いた布で拭き取るかブラッシングする。部分的に汚れが付着した場合は、レザークリーナーを布につけて軽く拭き取ると良い。ベンジンやシンナー、中性洗剤は色落ちの原因となり、艶を損なう原因となるので避ける。ぬれてしまった場合は、タオルで叩くようにして水分を拭き取り、完全に乾いた後にレザー用乳化クリームを塗って油分を補う。

また、湿度の高い日本ではカビに対するケアも忘れずに行いたい。湿気がこもりやすい場所に施工する場合は、見えない部分もこまめに確認し、カビが生えたら乾いた布で拭き取る。起毛したスエードやヌバックは特に水分に弱いため、あらかじめ専用の防水スプレーをかけておくと良い。

このようなメンテナンスを施せば、レザーは風合いを増し、より美しく変化する。しかし、ソファやイスなど日常的に触れる家具は20年前後使用すると摩耗が目立つことも。その場合、購入したインテリアショップや張り替えを請け負うメーカーに相談したい。しかし、修理やメンテナンスに対応するメーカーは、ファブリックを中心とするところが多く、レザーを得意としない場合もあるため、イメージに合う張り地があるか否かなど事前にチェックする必要がある。また、自ら持ち込んだ張り地に対応するメーカーも。東京・目黒のオーダーソファ専門店、工房スタンリーズでは、メーカーを問わず張り替えに対応。自社で行うイスの座面の張り替えは、いずれも生地代は別途で、縫製なしの場合一脚3500円～、ソファは約3万円～で、2～3週間で仕上げてくれる。さらに、レザー本来の風合いが楽しめるタンニンなめし革をオリジナルでそろえ、幅広い要望に応じる。

これからのレザー

日本ではイタリアやフランス、スペインといったヨーロッパの高級レザーが輸入される一方、最近は中国やアジア諸国から安価な製品が輸入されるようになり、国内生産量は年々減少傾向にある(表5)。高度な加工技術を備える日本の天然レザーは品質の高さを誇るにもかかわらず、作業が分業で行われるためコストが上昇し、市場のニーズが加工業者に反映されにくいうえ、製品のプロデュース力に劣るという厳しい現状だ。急速なグローバル化に対応するためにも、業界の体質改善と共に魅力ある新商品の開発に尽力している。

そんななか日本皮革産業連合会が発表した2009～'10年秋冬の最新のコレクションは、これからのレザーを象徴する興味深い内容だ。「クラシックに新たな解釈を加える」をテーマに、古典的ともいえる植物タンニンなめしや、一週間ゆっくりとドラムでなめした後、天日干しした素朴なアイテムを始め、ヌバックやスエードといったレザー本来の魅力を備えた素材のラインアップは原点回帰ともいえる傾向だ。このようなトレンドの背景には、消費者の価値観の変化が垣間見える。レザーの文化が根づく欧米では、タンニンなめしやアニリン仕上げといった本来の質感が楽しめるものをインテリアに取り入れてきたが、日本では均一性やメンテナンスフリーであることが重視され、十分にコーティング加工を施したものの需要が高かった。しかし近年、"本物"を求める人が増加したためか、日本でも"レザーらしさ"へのニーズが徐々に高まっている。

また同コレクションには、100%土に還るエコロジカルな素材も登場。これはクロムなめし革のなかに、人体に有害とされるホルムアルデヒドや発ガン性物質を含んだものがあるとされ、環境問題として取り上げられていることとも関連している。そのため日本皮革技術協会では、消費者が安心して使える製品づくりを目指す「日本エコレザー基準」を'06年に発表。たとえば、食用肉の副産物、爬虫類や鹿であれば商取引証明書のある野生動物を素材とし、発ガン性物質やホルムアルデヒドを排除した染料を使用するなど、原材料から製造、消費、廃棄、リサイクルに至るまで基準を設けている。

また、高価な素材という印象があるが、これは使用しない端材の多さがその一因。不定形なかたちに加え、動物が持つ傷が敬遠されるため、大きな面積を必要とする場合は特にそれが多くなる。しかし、インテリアデザイナーの戸井田晃英さんが提案する、オリジナルで製作したイスの端材をインテリアに生かすといったデザイン(74頁)もまた、これからのレザーに求められる発想であり、そこから新たな空間が生まれるのではないだろうか。

堅牢さを備える一方、手になじむ柔らかなテクスチュアを持つレザー。ハードとソフトの両方の魅力を持ったレザーは、豊かな表情はもとより、加工が自在であるがゆえに発想次第でさまざまな用途や場所に使用できる。経年変化と共に風合いを増すレザーが、住まいを美しく彩る。

1 RESTAURANT

RIGOLETTO KITCHEN

設計／ATTA　戸井田晃英

Text : Chika Komori
Photographs : Nacása & Partners





"銀座の台所"と呼ばれる東京・銀座コリドー街の一角。ドアを開けると、地階とは思えないほど開放的な空間が広がり、オープンキッチンに並ぶ色鮮やかな食材が目に飛び込んでくる。

全国から旬の野菜や魚介を取り寄せ、素材そのものの味を生かしたスパニッシュイタリアンを提供する「RIGOLETTO KITCHEN（リゴレットキッチン）」。店内でひと際存在感を放つのが、幅8m×高さ3.6mにもわたるレザー張りの緩やかなカーブを描く壁面だ。外光が入らない地階を明るい印象にすると同時に、食材を引き立たせるため白を基調とし、大理石の床やタモ材で造作したテーブルと共に染色していないヌメ革を取り入れて質感でグラデーションを演出。間接照明の光が壁面を照らし出し、レザーのテクスチュアをドラマチックに浮かび上がらせる。

驚くのはこのヌメ革が、店内のベンチやイスに用いた素材の端材であることだ。レザーは端材が多いうえ、傷や穴があると廃棄される。そこで何枚もの端材を縫い合わせて幅150㎜×高さ3600㎜の板に張り、それを壁面に連続させる方法を発想。あえて切りっぱなしの端部が見えるように縫い合わせて表情を添えているため、1.2㎜のヌメ革の厚みが感じられる。年月を経ると共に飴色に変化する特性を生かし、"街や人と共に成長する店"というテーマを表現。水分が付着するとシミになりやすいヌメ革は、一般的に飲食店では敬遠されがちだが、手に触れる場所には本物の素材を使いたいという意向で採用された。広い面積にレザーを採用する場合、剥離やコストの問題が生じるが、このように小さな素材を張り合わせる方法は有効だ。

DATA

RIGOLETTO KITCHEN

東京都中央区銀座8-2-1 ニッタビル地下1階　TEL.03-5537-3351　営業時間／11:30～翌4:00 無休　URL : http://www.rigoletto.jp　客席／86席　予算／ランチ1,000円～ ディナー4,000円～　床面積／237.61㎡　主な仕上げ材料／床：大理石（アドヴァン）貼り　壁：牛ヌメ革（オーダー樋口）張り　天井：AEP塗装　什器：ベンチ、イス・牛ヌメ革張り　テーブル・タモ材（以上オーダー樋口）

ATTA
HEAD OFFICE 〒248-0007 神奈川県鎌倉市大町5-5-9 1階
TEL.0467-22-5894　FAX.0467-24-7005
TOKYO OFFICE 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿2-28-7 #301
TEL.03-5449-5854　FAX.03-5449-5898
e-mail : info@atta-design.com
URL : http://www.atta-design.com

LEATHER FOR SHOPS

レザーを効果的に生かした飲食店

ハードな印象を与えながら、実際に肌に触れると驚くほど柔らかな手触りのレザー。その魅力を生かすことで、デザインの可能性はさらに広がる。ここでは、天然レザーおよびフェイクレザーを効果的に取り入れた飲食店を通して、住まいにおけるインテリアデザインのヒントを探る。

2

BISTRO

L'edge D'or

設計／Jamo associates



Text : I'm home.
Photographs : Nacása & Partners



錆びついたアイアンの縦格子の奥に陰影を帯びたシックな空間が続き、パリの小さなビストロに足を踏み入れたかのような感覚に包まれる。東京・外苑西通りに面したビルの2階にひっそりと佇むのは、昔ながらのフランス料理と約400種をそろえるワインをサーブする「L'edge D'or（レジドア）」。中央にコ型のバーカウンターを配した店内では、間接照明の柔らかな光のなかでゆったりと食事が楽しめる。

コンセプトは“東京のビストロ”で、クラシックな要素を取り入れながら遊び心のある空間を演出。店内に落ち着いた印象を与えているのが、アンティーク調のフェイクレザー張りのイスとベンチだ。フランスの大衆食堂という意味を持つビストロだが、本国では重厚感を備えながらも気軽に使用できるフェイクレザーが効果的に用いられることが多いため、その雰囲気を再現することに。同時に、腰掛けた際の柔らかな質感によってくつろぎのひとときを過ごしてもらえるよう、オランダ・CARLUCCIのフェイクレザーを採用した。しっとりとした質感と、ダメージを与えたかのような風合いが味わい深い。また、天井にはレザーのようなテクスチュアにも見える半透明のアクリルパネルを配し、上部に設けた間接照明の光でニュアンスを添えている。

チョークボードペイントを施したディープグリーンの壁や有機的な装飾をあしらった大理石のバーカウンター、動植物をモチーフにした数々のオブジェと相まって、独特の趣を醸すレザーの存在感。フェイクレザーの豊かな表情と質感を生かした上質な空間がここにある。

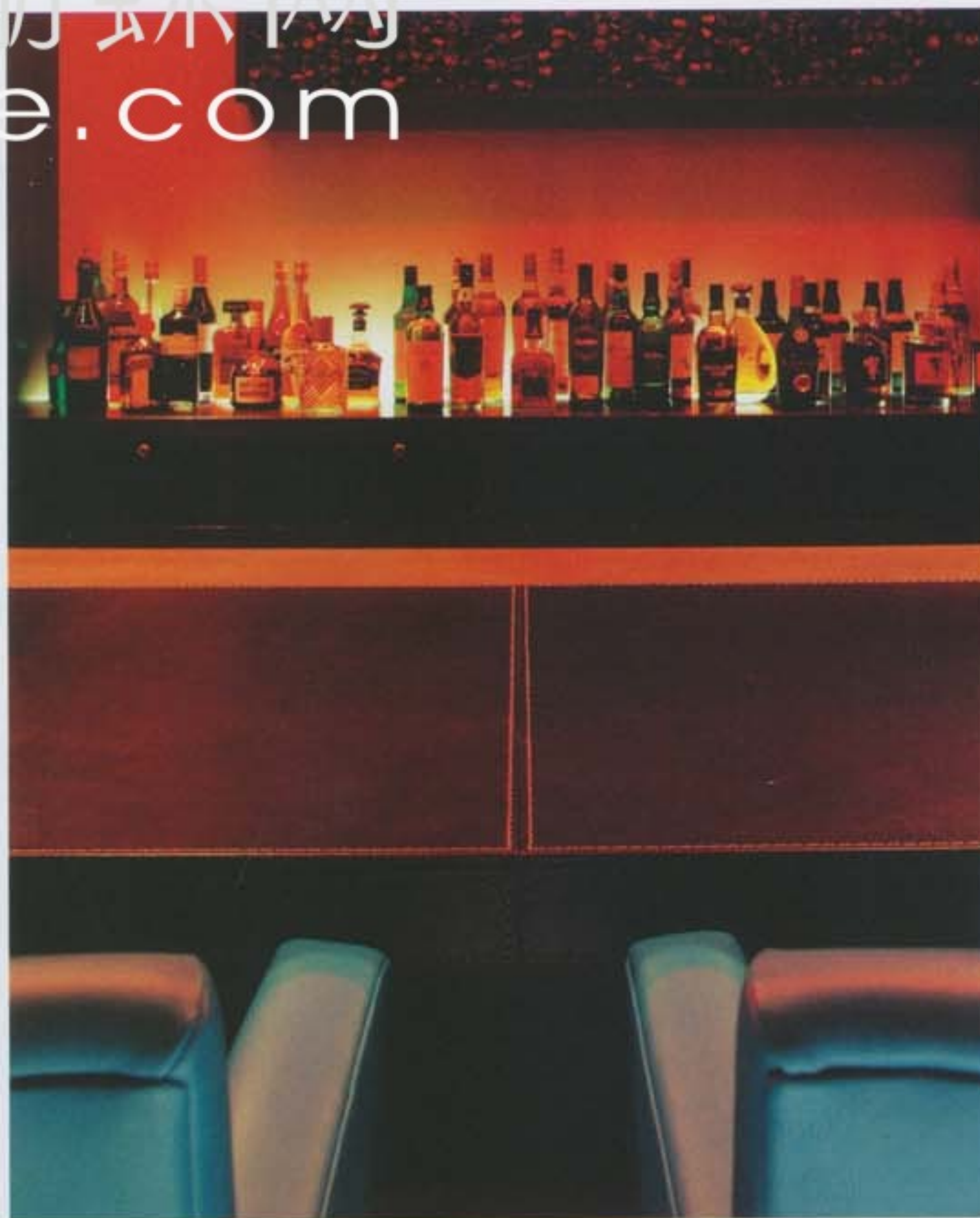
DATA

L'edge D'or

東京都渋谷区神宮前3-1-28　第二真砂ビル2階　TEL.03-5775-5911　営業時間／ディナー 18：00～24：00（LO 23：00）バー 24：00～翌3：00（LO 2：00）日曜定休　客席／38席　予算／ディナー 5,000円～　床面積／84㎡　主な仕上げ材料／床：特注大理石モザイクタイル貼り　什器：ベンチ、イス・フェイクレザー（CARLUCCI/CA7554-020／ナショナルインテリア）張り

Jamo associates

〒106-0041 東京都港区麻布台1-6-9
サンフラット飯倉ビル1階
TEL.03-5545-3639　FAX.03-5545-3629
e-mail : info@jamo.jp　URL : http://www.jamo.jp



3 BAR

TANAGOKORO THE BAR

プロデュース／カゲン　中村悌二
設計／ミシマスタジオ　三島サトル

Text : I'm home.
Photographs : Nacása & Partners

地階から漏れるほのかな光に誘われて階段を下りると、黒をベースとした空間に照明が浮かび上がる妖艶な空間が現れる。

備長炭専門店「掌」の地階には、“備長炭でつくる大人のバー”をコンセプトとした「TANAGOKORO THE BAR（タナゴコロ ザ バー）」がひっそりと佇む。カウンター8席、テーブル2席とわずかな席数ながら、1席ごとのスペースを十分に確保しているため、ゆったりと過ごせる。

特徴的なのは、備長炭、珪藻土、ホタテの貝殻を原料としてオリジナルで開発した空気清浄効果を持つ左官材仕上げの壁や天井。そして、そのなかでひと際存在感を放っているのが、周囲に人が行き来できるスペースのみを残して中央に構えた幅約3200㎜×奥行き約1800㎜のコ型カウンターだ。厚みを持たせた天板に黒の牛革を贅沢に使用し、このバーのシンボリックな存在とした。これはデザイナーと共に家具メーカー、コンプレックスが手掛けたもの。レザーの面積は最大でも牛1頭分と限られているため、この天板のように大面積に使用すると継ぎ目が生じるが、蝋で固めてグレーのステッチを施し、アクセントとすることであえて見せるデザインとした。レザーの切断面が表れた側面からは素材そのものの厚みが感じられ、重厚感を醸している。通常、木材が用いられることの多いバーカウンターだが、レザーを採用し、クールな印象を与えながらも、どこか温もりがある空間を表現した。

また、コンプレックスの既製品であったイスは、クライアントの要望により特注で牛革をターコイズブルーに染色して張り替えたもの。備長炭の黒をイメージしてダークにまとめた空間に、鮮やかな色合いのイスがアクセントを添える。

夜を彩る大人のバーにふさわしい重厚感を備えるレザー。このようにメーンとなる家具に使用すれば、上質な空間をかたちづくる要素となる。



DATA

TANAGOKORO THE BAR
東京都中央区銀座1-8-15　地下1階　TEL.03-3567-8466　営業時間／13：00～24：30（LO24：00）　土曜日曜祝日13:00～22:00（LO21:30）　年末年始定休　URL：http://www.tanagokoro.com　客席／10席　予算／3,000円～　床面積／76.00㎡　主な仕上げ材料／床：ココヤシ製タイル（上田敷物工場）貼り　壁：備長炭混入左官材（チャフローズコーポレーション）仕上げ＋ローズウッド突き板貼り　天井：備長炭混入左官材（チャフローズコーポレーション）仕上げ　什器：カウンター、イス・牛革（コンプレックス）張り

ミシマスタジオ
〒153-0051 東京都目黒区上目黒1-15-13 3階
TEL.03-6379-9405　FAX.03-6379-9406
e-mail: mishima@mishimastudio.jp
URL: http://www.mishimastudio.jp







JAB社は1946年にドイツで設立された、伝統あるファブリックとカーペットのトップメーカーです。
その多彩なコレクションとコーディネートの体感を、ぜひショールームで。

JAB社 日本総代理店 **NATIONAL INTERIOR**

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-2 ナショナル麻布スーパーマーケットビル5F・ショールーム
Telephone：03-3442-4791 Facsimile：03-3447-4048 http://www.nt-interior.com

有名百貨店、専門店でも取り扱っています。詳しくはお問い合わせください。



東京メトロ日比谷線広尾駅1番出口徒歩2分(有栖川公園

〔資料請求番号077〕

MATERIALS

Photographs : Nacása & Partners（＊以外）　※単位はすべて㎜

REAL LEATHER

ヨーロッパでは古くから、衣服はもちろん、家具やインテリアにおいてレザーが身近にかかわってきた。一方、日本では生活の道具の一部に取り入れていたものの、天然レザーは水に弱く、高温多湿な気候風土から建材としてはなじみがない。しかし近年、室内の壁や床の仕上げ材として使用できる天然レザーを輸入・販売するメーカーが増え、今後は柔らかな質感を持つレザーをインテリアに積極的に取り入れたい。型崩れしにくいタンニンなめし革にトップコートや型押しを施したもの、起毛したベロアやスエードを用いたものなど、多様なテクスチュアを楽しめる。床材は弾力性が得られる厚さ約3.5～5㎜が主流で、価格は約5.5万～15万円/㎡、壁材は厚さ約1.5～1.8㎜で約7千～1万6千円/㎡が目安。気温や湿度で伸縮し水跡が残りやすいため、水まわりの使用は避け、風通しが良い室内に採用するのが好ましい。ここでは、国産とアメリカ産の天然レザー製建材を取り扱うメーカーとその製品を紹介。


2


1


4


3


6


5

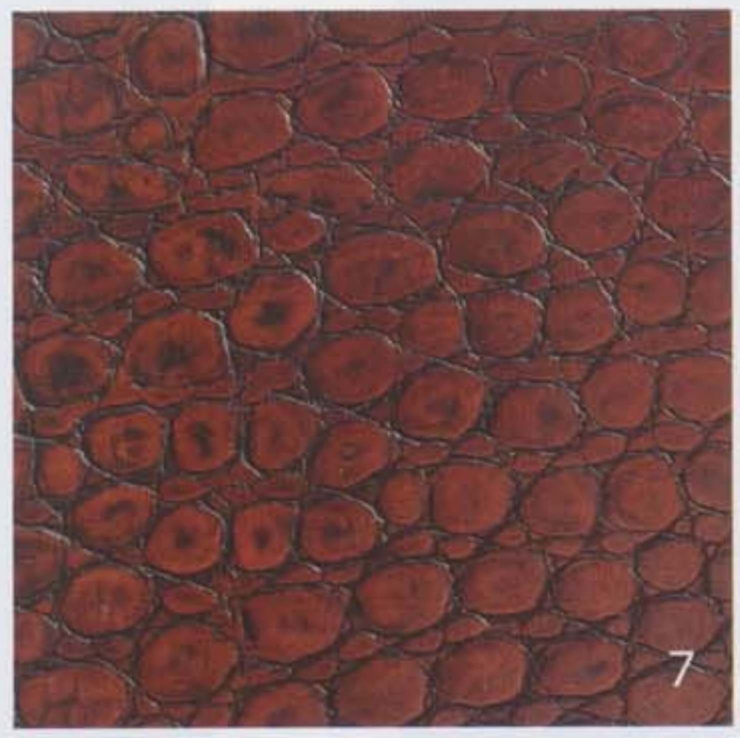
Carpet Force

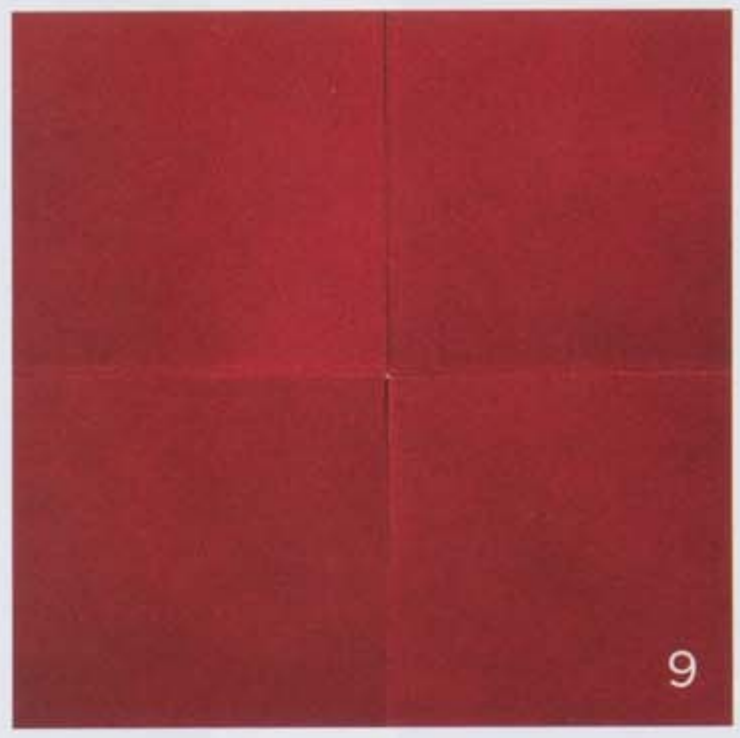
世界20カ国180社以上のブランドから、ファブリックや内装材を輸入・販売するカーペット・フォースは、アメリカ・Edelman社の天然レザー製内装材を取り扱う。ヨーロッパ産の一頭分の牛革から厚みのある中央部のみを厳選し、タイル状にした厚さ3.5㎜の床材が4種類、壁材やイス張りに使用できる厚さ1.5～1.8㎜のものが70種類そろう。色は風合いを生かしたアニリン仕上げで床・壁材は4～13種、イスの張り地は1～31種を用意し、オーダーも可能。サイズは4インチ（101.6㎜）角、12インチ（304.8㎜）角、18インチ（457.2㎜）角、2インチ（50.8㎜）×8インチ（203.2㎜）など7タイプそろえ、異なるサイズを組み合わせればパターン貼りが楽しめる。納期は通常7～10日（在庫による）、オーダー品は約6～8週間。販売単位はhide（1hide=牛一頭分。ただし製品により一枚の大きさやかたちは異なる）。

カーペット・フォース
東京都文京区西片1-17-8 KSビル5階　TEL.03-5689-0731　URL：http://www.carpet-force.co.jp　営業時間／9：00～18：00　日曜祝日定休

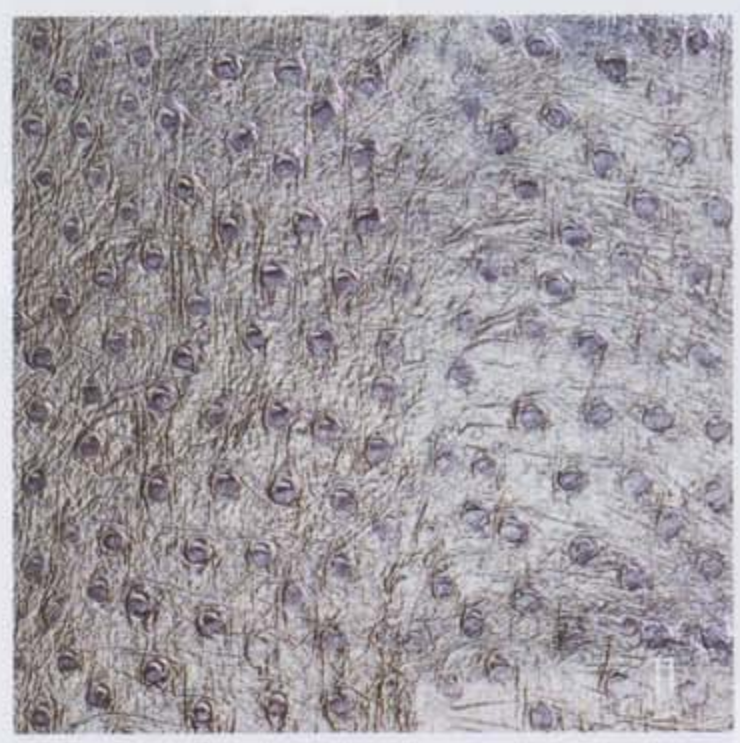
1.「**China - Tang Tan CH04**」濃茶の柔らかなカーフスキンに型押しした花柄を明るい茶で着色して浮き上がらせた（約2.8㎡×t1～1.2）252,000円/hide　種別・仕上げ：カーフスキン（タンニンなめしアニリン仕上げ）　色：7種　用途：壁材、クッションカバー、ソファ・イス張り地、テーブル天板　2.「**Cavallini-Tiger C11**」茶のハラコ調牛革に虎革をイメージした黒の斑点をプリント（約2.2㎡×t1.8）176,400円/hide　種別・仕上げ：カウハイド　色：27種　用途：壁材、クッションカバー、ソファ・イス張り地、ラグ（ラグは147,000円/㎡～）　3.「**Royal Suede - Chianti RS19**」ヨーロピアンアニリンで仕上げた柔らかな紫のスエード（約1.6㎡×t1.5）111,300円/hide　種別・仕上げ：シルキースエード（タンニンなめしアニリン仕上げ、防水・防汚加工）　色：31種　用途：壁材、クッションカバー、ソファ・イス張り地　4.「**Worn Leather - Natural WORN01**」滑らかな肌触りの牛革に濃淡で色むらを施してアンティーク調に仕上げた（約5.5㎡×t1.2）315,000円/hide　種別・仕上げ：カウハイド（アニリン仕上げ）　色：3色　用途：壁材、クッションカバー、ソファ・イス張り地　5.「**Sueded Python - Stillwater SPY6**」スエードをヘビ革調に彫り込んだ上から黒でプリントし、手作業でアンティーク加工を施した（約1.6㎡×t1.5）147,000円/hide　種別・仕上げ：シルキースエード（タンニンなめしアニリン仕上げ、アンティーク加工・防水・防汚加工）　色：1種　用途：壁材、クッションカバー、ソファ・イス張り地　6.「**Real Woven - Marble RW08**」艶のある幅5㎜の白いカーフスキンを編み込んだ（W990×t1.5～1.8）178,500円/m　種別・仕上げ：カーフスキン（タンニンなめしピグメント仕上げ、艶出し加工）　色：8種　用途：壁材、クッションカバー、ソファ・イス張り地

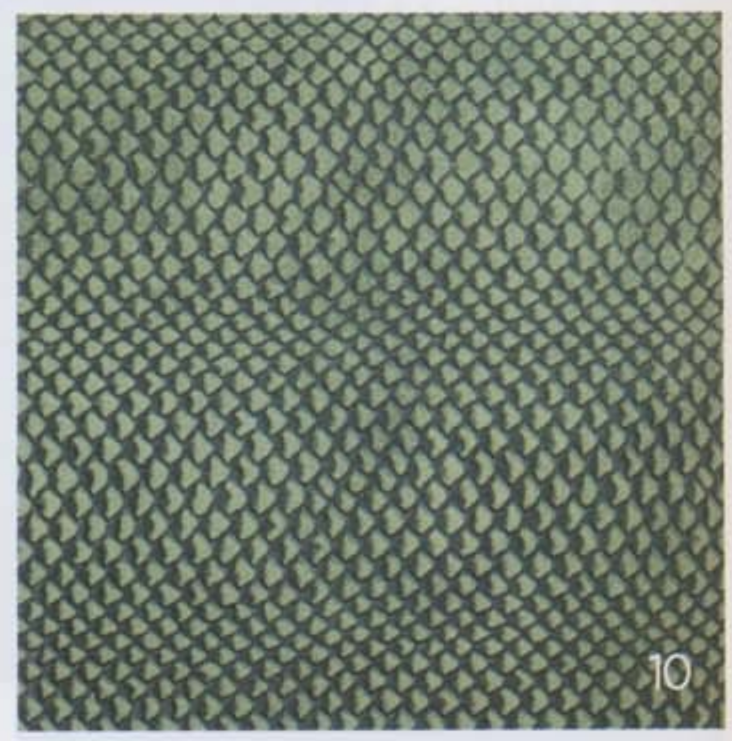

12


7


9


8


11


10

7.「**Crocodile - Antiqued Brown**」硬質な牛革にワニ革の柄を型押ししたフロアタイル（4・12・18inch角、2×8inchなど×t3.5）156,000円/㎡　種別・仕上げ：カウハイド（タンニンなめしアニリン仕上げ）　色：4種　用途：床材、壁材　8.「**Jumbo Crocodile-Tomato JC13**」赤茶の牛革にワニ革の柄を型押した後、手作業でアンティーク仕上げを施した（約2.6㎡×t1.3）235,200円/hide　種別・仕上げ：カウハイド（タンニンなめしアニリン仕上げ、アンティーク加工）　色：15種　用途：壁材、クッションカバー、ソファ・イス張り地　9.「**Smooth- Dark Red**」温かみのある赤に染色したフロアタイル（4・12・18inch角、2×8inchなど×t3.5）156,000円/㎡　種別・仕上げ：カウハイド（タンニンなめしアニリン仕上げ）　色：13種　用途：床材、壁材　10.「**Rattlesnake - Waterfalls**」硬質で厚みのある牛革をヘビ革調に型押しし、型に合わせて緑でプリントしたフロアタイル（4・12・18inch角、2×8inchなど×t3.5）156,000円/㎡　種別・仕上げ：カウハイド（タンニンなめしピグメント仕上げ）　色：6種　用途：床材、壁材　11.「**Night Life Ostrich-Silver Streak NL02**」ダチョウ革の柄に型押しした後シルバーに塗装し、凸部は青で斑点をプリント（約2.3㎡×t1～1.2）210,000円/hide　種別・仕上げ：カウハイド（タンニンなめしアニリン仕上げ）色：2種　用途：壁材、クッションカバー、ソファ・イス張り地　12.「**Sophisticated Boar-Brown**」階段の踏板に厚さ3.5㎜のフロアタイルを張り込んだ。種別・仕上げ：カウハイド（タンニンなめしピグメント仕上げ）　色：7色　価格は要問い合わせ＊




1

NEAT

海外からイスの張り地、カーテン、壁紙を輸入・販売するニート。国内で生産する天然レザー製床材「レザーフローリング」は、牛のスムース革のほか、イントレチャートやワニ革調に型押ししたものがそろう。また「ECOレザーシート」は、牛床皮を植物性タンニンでなめし独特な表情を与えると同時に、廃棄時に有害な物質を出さないよう配慮された壁材。納期は8～10日、受注品は約35日。

ニート ショールーム
東京都豊島区南池袋2-43-16　TEL.03-5979-0057　URL：http://www.neat-corp.com　営業時間／予約制　無休

1.「**EL-Vintage-02**」床皮を植物性タンニンでなめすことで独特の風合いを与えた壁材「ECOレザーシート」。600・900㎜角のオーダーも可能（300角×t約1.4）3,360円/枚　種別：カウハイド（タンニンなめしピグメント仕上げ、ウレタンコート）　色：3色　用途：壁材　2.「**ハラックス - CHOCOLATE**」厚み約4㎜の牛革の裏地にラバーを張り込むことで安定させ、ワニ柄を型押しした厚み4.5㎜のフロアタイル。サイズは400×80、300角、450×300がそろう（300角）5,775円/枚　種別：カウハイド（タンニンなめしアニリン仕上げ、ウレタンコート）　色：3色　用途：床材

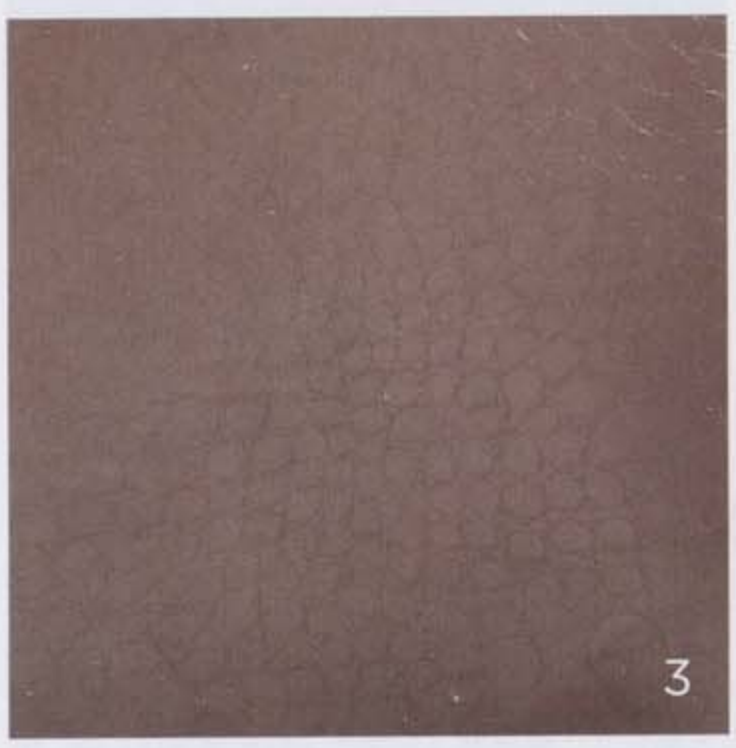
Fake Leather

天然レザーのテクスチュアを模したフェイクレザーの建材は、塩化ビニルや磁器質でつくられることが多い。塩化ビニルを原料としたものは壁紙やシート、タイル、デザインパネルと幅広く、なかでも壁紙やシール状のタックシートは比較的施工が容易なため、手軽にレザーの表情を取り入れることが可能だ。ただし、質感を表現するための型押しが深い場合は、壁への圧着を十分に行う必要がある。このほか、薄く軽量なデザインパネルも、家具の面材や壁材として使用しやすい。磁器質タイルは、焼き物独特の艶（つや）やしっとりとした質感を併せ持ち、バスルームや洗面室にもレザーの表情を取り込める。どちらも天然レザーにはない耐水性やメンテナンス性に優れるため、さまざまな場所で気軽に採用できる。ここでは、建材として使用する質感の良いフェイクレザーを紹介。

Vinyl

1. SANGETSU「SG-5363」ワニ革をイメージした大柄の型押しによりインパクトを与えるフランス・ÉLITISの塩化ビニル製壁紙。ピンク、白、黒、シルバーの4色そろえる（W700／リピート⇕510⇔700）4,116円/m　防火性能：準不燃／サンゲツ　写真右は施工例＊ 2. SINCOL「BEST 1000 BB 9495」防カビ処理が施された塩化ビニル製壁紙。赤のほか、焦げ茶の2色がある（W920）1,050円/m　防火性能：準不燃・難燃／シンコールインテリア　3. SANGETSU「REATEC／SG-6627」「リアテック」は塩化ビニルに粘着シートを張り合わせたシール状の硬質塩化ビニル製タックシート。裏面には微細な溝が設けてるため、施工時の空気抜きを容易で仕上がりが美しい。ワニ革をモチーフとした「クロコダイル」の色はグレーと黒の2色。柄合わせは不可（W1220／リピート⇕930⇔920）7,182円/m　防火性能：不燃・準不燃／サンゲツ　4. SANGETSU「SG-6296」防カビ加工を施した塩化ビニル製壁紙の上に、自社独自の特殊樹脂をコーティングすることで耐水性を高め、水まわりへの使用を可能にした。不均一な柄がワニやヘビのレザーを思わせるテクスチュア（W920／リピート⇕310⇔230）1,890円/m　防火性能：準不燃／サンゲツ　5. SANGETSU「SG-5423」防カビ加工を施した塩化ビニル製壁紙で、起毛した生地を表現したベース地に細かなドットを描いた。緑のほか、白、茶、グレーと全4色がそろう（W925／リピート⇕215⇔309）1,050円/m　防火性能：準不燃／サンゲツ　6. SANGETSU「REATEC／SG-6629」硬質塩化ビニル製タックシート「リアテック」の「プレーンレザー」シリーズ。黒の牛革をイメージした主張しすぎないテクスチュアが空間を引き締める。色は黒、茶、白の3色を用意（W1220）7,182円/m　防火性能：不燃・準不燃／サンゲツ


1


3


2


1

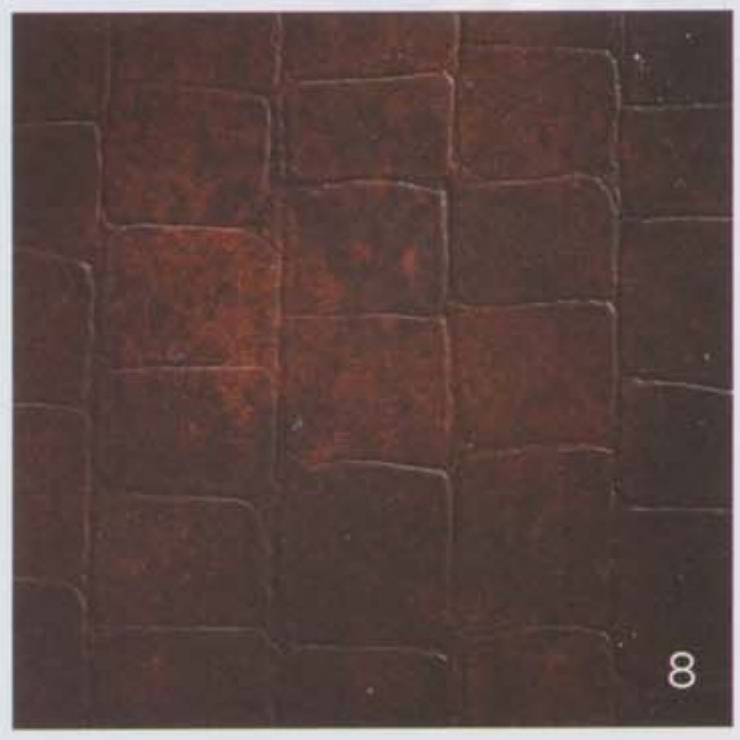

6


5


4



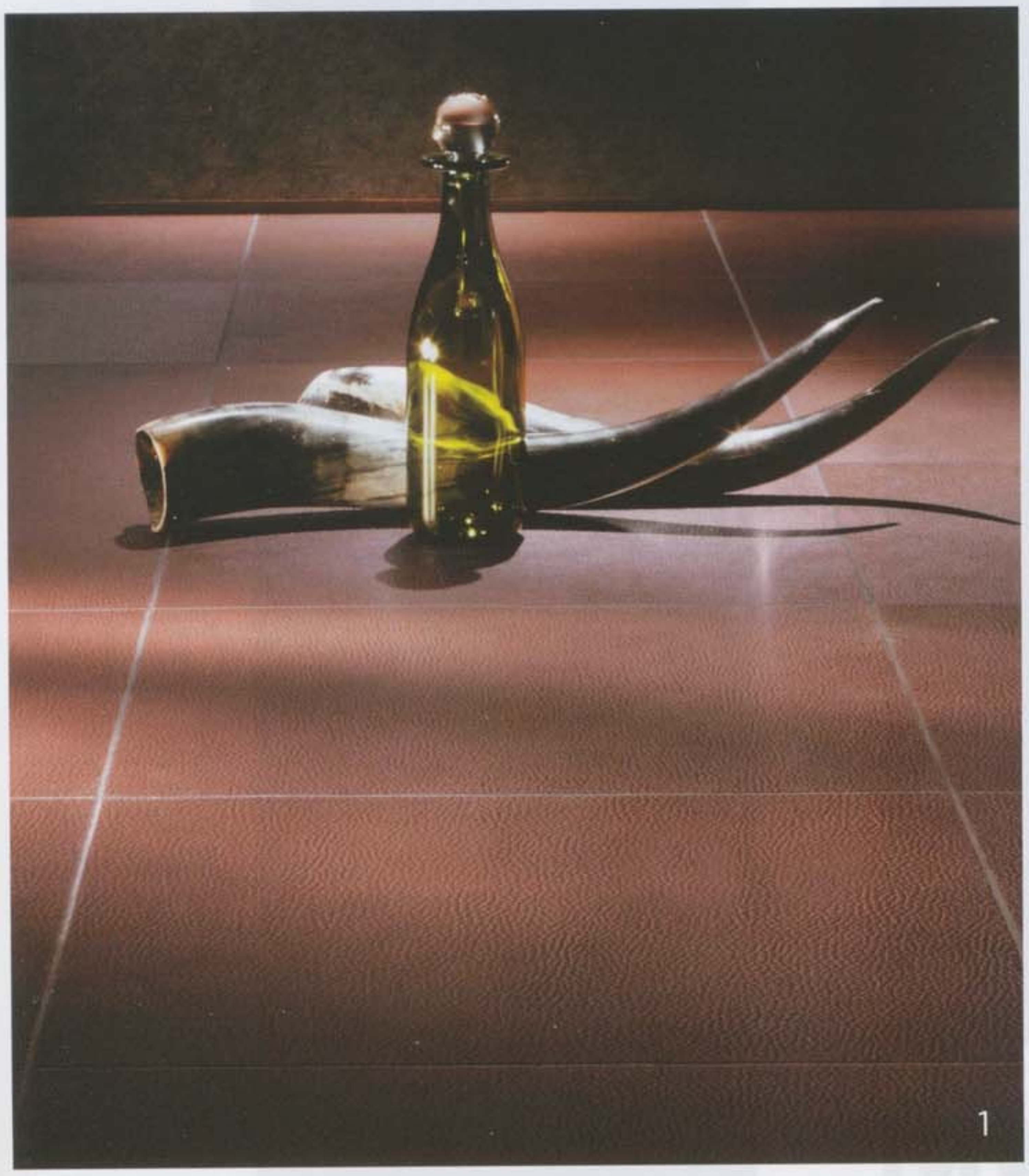








7. SINCOL「BIGACE BA 4003」防汚、抗菌、防カビ加工が施された「プレミア」シリーズの塩化ビニル製壁紙。細かなエンボス加工を施しており、大きな面積に使用しても主張しすぎない（W925）1,050円/m　防火性能：準不燃・難燃／シンコールインテリア　写真左上は施工例＊　**8. SANGETSU「フロアタイル クロコダイル」**「アーバン」シリーズの塩化ビニル製フロアタイルは、ワニ革をイメージした大柄のエンボスが施され、艶や皺など素材感を忠実に表現。下地に専用の接着剤を用いて貼る。色は茶と黒の2色（457.2角×t2.5）5,775円/㎡／サンゲツ　写真左下は施工例＊　**9. SANGETSU「REATEC／SG-6619」**硬質塩化ビニルタックシート「リアテック」の「ヴィンテージ」シリーズ。レザーの皺をイメー[illegible]た色むらとエンボスを組み合わせて使い込んだような風合いを表現。明るい茶と濃茶[illegible]2色がそろう（W 122[illegible]リピ[illegible]45⇔[illegible]00）7,1[illegible]円/m　防火性能：不燃・[illegible]／サ[illegible]



1

1. **SANGETSU「デザインタイル　ファインレザー」**豚革のエンボスを施した塩化ビニル製フロアタイル、「ファインレザー」。微妙な濃淡で天然レザーのような味わいを持つ。色はベージュ、茶、黒の3色がそろう（457.2角×t2.5）4,515円/㎡／サンゲツ　写真左は施工例＊　2. **SUGATSUNE「レザータッチパネル クロコ」**プラスチックの板をベースに塩化ビニル製レザー調シートを貼り合わせた「レザータッチパネル」。カッターでも容易に切断できるうえ、粘着剤がついているため施工しやすい。ワニ革をモチーフにしたクリームのほか黒や白、シルバーがそろう（2612×1000×t1.6）49,350円/枚／スガツネ工業＊　3. **SUGATSUNE「レザータッチパネル レグアン」**アルマジロのレザーを思わせる細かな柄を施した「レザータッチパネル」。表面はポリウレタン製でメリハリのあるテクスチュアが存在感を放つ（2600×1000×t1.6）70,350円/枚／スガツネ工業＊　4. **SUGATSUNE「レザータッチパネル ファンシーシーム」**牛革を表現した塩化製ビニルシートを張り、200ミリ間隔でステッチをあしらってアクセントとした。色は茶のほかクリーム、ダークブラウンの3種をそろえる（2600×1000×t1.6）69,300円/枚／スガツネ工業＊
5. **SUGATSUNE「レザータッチパネル レザー」**ポリ塩化ビニル製デザインパネルで、取り入れやすいベーシックな牛革のデザイン。色は茶、赤、オリーブなど7色がそろう（2600×1000×t1.6）48,300円/枚／スガツネ工業＊　6. **SINCOL「WALL PRO SWS 8286」**MDF板にダチョウ革調の塩化ビニル製シートをラミネートした非防火性壁用パネル（447角×t3）23,625円/㎡　防火性能：非防火／シンコールインテリア



3



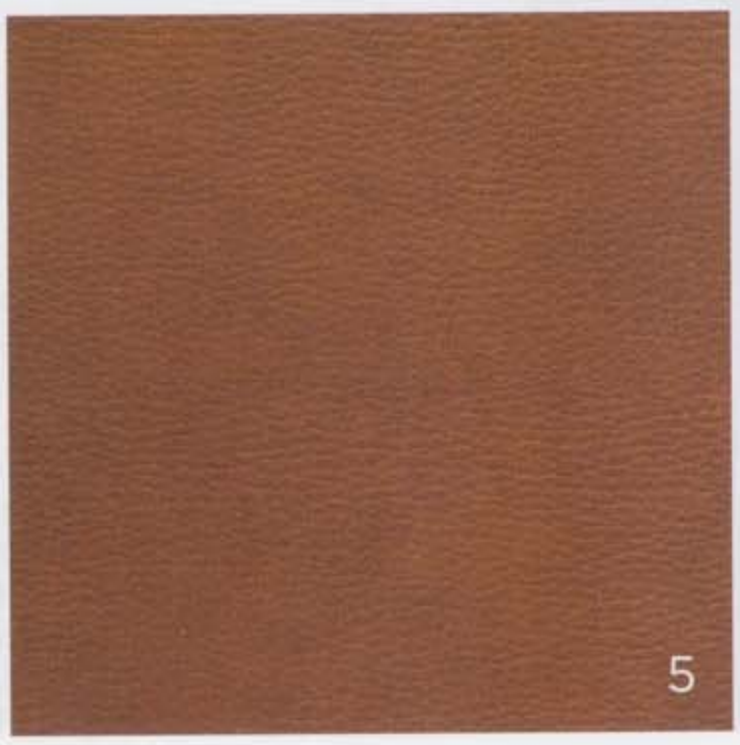
2



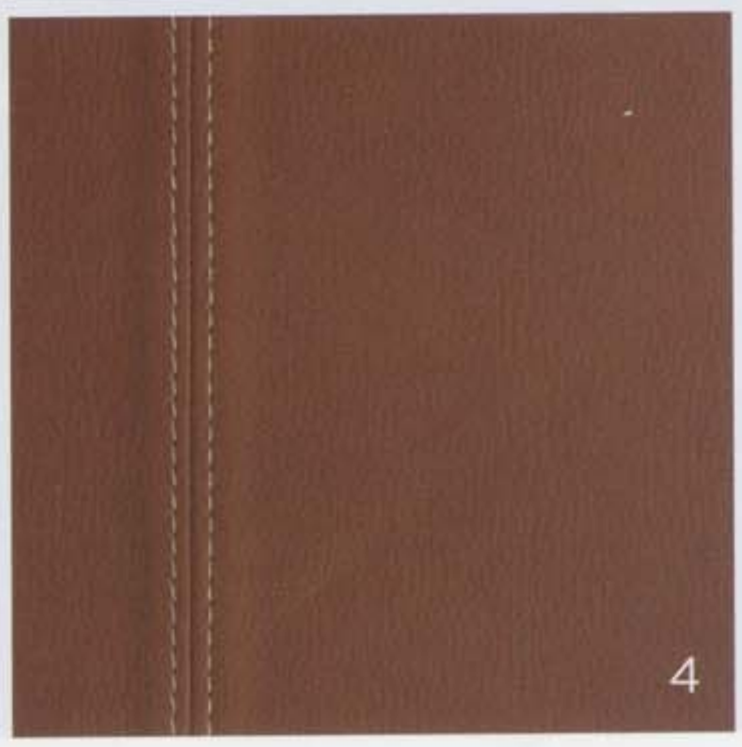
1



6



5



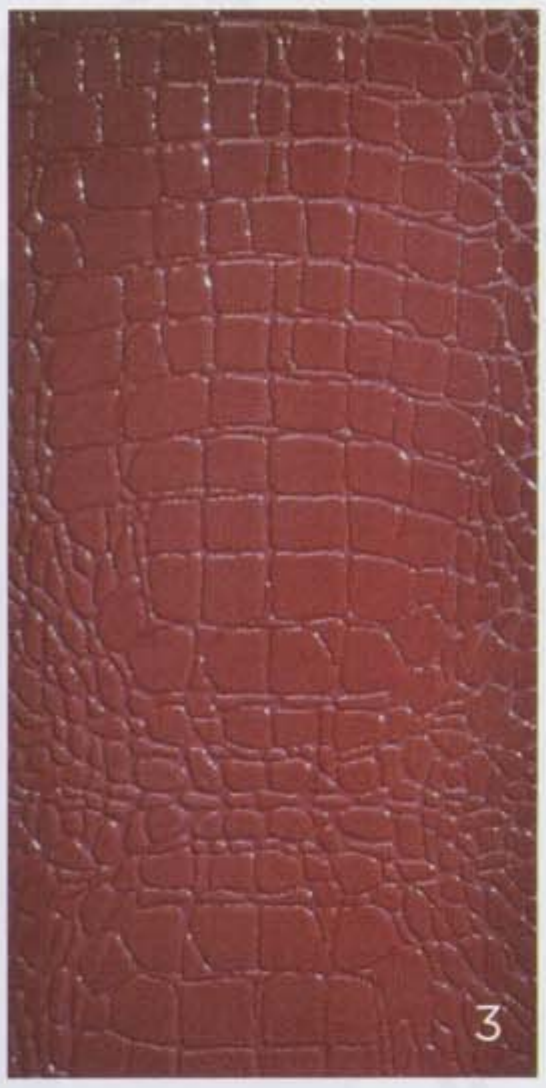
4

Ceramic

1. INAX「マテリアルシリーズ　レザート KW-315/K2」レザーの質感を表現した内装用せっ器質タイル。水色、白、黒、茶とどんな空間にも調和しやすい落ち着きのある4色をそろえる（295×145×t9）11,340円/㎡／INAX　写真下は施工例＊　**2. KURIYAMA**「**Super TM Wall LEATHER**」牛革のテクスチュアを模した内装壁用セメント成形型タイルは、軽量で表面に光沢を持つ。長年使い込んだような色むらを持つ茶やカーキ、さわやかな印象の白がそろう（292〜300×144〜150×t10〜15）9,450円/㎡／クリヤマ　**3. NITTAI**「**CROCOTILE**」施釉(せゆう)で艶を与えてワニ革を表現した磁器質タイルで、壁・床材として使用可能。色は赤や紫などの「JOYカラー」5色、黒や白などの「クラシックカラー」3色がそろい、型押しのないフラットタイプ9色と組み合わせてさまざまな表情のインテリアを演出できる（720×240×t10〜11）21,105〜85,869円/㎡／ニッタイ工業　**4. ADVAN**「**マトーシュ クロコ タバコ**」大柄のワニ革を型押しした磁器質タイルに釉薬を施した奥深い色合いと艶が、天然レザーのように重厚なテクスチュアを表現（597角×t12）10,500円/㎡／アドヴァン　写真左は施工例＊


4


4


3


2


1



PRODUCTS

DOOR

1. A&K「LEATHER」阿部興業のオリジナルプロジェクト、A-STYLERSが展開するドアブランドABEでは、銘木やレザーなど厳選した素材を用いた室内ドアを提案。「LEATHER」は、黒に塗装したカナディアンオーク材と同色の牛革を貼った質感のコントラストが美しい。アクセントとした牛革がしなやかな手触り（W840×D36×H2200、W920×D112×H2253）525,000円／阿部興業＊
2. COMFORT「Pelle collezione／Bruno」海外メーカーのドアやフローリング材を始め、建材や家具まで幅広く取り扱うコンフォート。同社オリジナルの室内ドア「Pelle」は、面材の中央に牛革を模した塩化ビニル製レザー「Bruno」を張った両開き戸を始め、素材・サイズ、開閉方式共にオーダーに対応する。素材は「Bruno」のほかトカゲの革を模したものなど12種の塩化ビニル製レザーがそろう（W1600×D38×H2200）価格は要問い合わせ／コンフォート＊


3


4


5


1


2

TASSEL

3. NATIONAL INTERIOR「ALIUM CUIR」フランスのタッセルブランド、HOULESによる、ポリエステルとコットンを編み込んだロープと子羊の革製のフリンジでできたダブルタッセルタイバック。ボリュームのあるレザーのフリンジに組み合わせたメタル製留め具のブロンズのような輝きがアクセントに。色は茶、黒、赤の3色がそろう（L900）65,625円／ナショナルインテリア 4. MANAS「マホガニー」マナ・オリジナルの「MANAS-TEX」コレクションで、南アフリカ製のシングルタッセルタイバック。ポリエステルとポリエチレンの繊維を混合したロープに、アクリル、アセテート製の長さ170㎜のフリンジをあしらった。留め具にアクリル樹脂を採用（L770）10,290円／マナトレーディング 5. IDC-OTSUKA「タッセル・SWTL レザー」IDC大塚家具オリジナルのタッセルで、牛革をよった細い紐（ひも）を幾重にも束ね、クリスタルMade with CRYSTALLIZED™の「*swarovski Elements*」を、一本一本に丁寧に散りばめた。色はビターブラウンのほか、ボルドーがそろう（L750）26,250円（メーカー希望小売価格）／IDC大塚家具



6

7



Knob & Handle

6. つまみ・ハンドル王国「KTH-B189」スガツネ工業のハードウェアシリーズ「つまみ・ハンドル王国」では、木材、ゴム、レザーといった素材感を生かしたデザインの家具用つまみやハンドルを展開する。イタリア製つまみ「KTH-B189」は、亜鉛合金製金具と牛のヌメ革を使用（W45×D42×H20）3,500円（25個以上から販売、納期約60日）／スガツネ工業 **7. つまみ・ハンドル王国「KTH-A084」**「つまみ・ハンドル王国」のイタリア製家具の引き手。レザーの表面を研磨し起毛させ、手にしっくりとなじむデザインとした。サイズはピッチ64㎜で、濃茶のピッチ24㎜といった製品もそろう。金具部分は亜鉛合金製（W76×D12×H48／P64）1,400円（50個以上から販売、納期約60日）／スガツネ工業 **8. KAWAJUN「1-DUC-C-LW」**ハードウェアからインテリアアイテムまで幅広く取り扱うカワジュンの内装ドア用ハンドル。台座、取っ手共に亜鉛ダイキャスト製で手に触れる部分に黒の牛革を貼り付けた。レザーは黒のほか茶、濃茶の3色、金属部分はこのほかクローム、パールクローム、サテンニッケルがそろう。空錠、表示錠に対応（W121×D59×H20）10,290円／カワジュン＊ **9. UNION「UL255-002S」**ドアの取っ手、手すりを始め住まいのさまざまなハードウェアを取り扱うユニオン。室内ドア用ハンドル「UL255-002S」は、アンティークを思わせる色合いに染色したアルミ製で、握りやすい緩やかな曲線のハンドル部分を濃茶の牛革でカバーリングしている。エッジを縁取るグレーのステッチがアクセントに。空錠、シリンダー錠、間仕切り錠、表示錠に対応（W127.4×D60×H73.4）43,050円／ユニオン **10. UNION「UL021-001S」**ステンレスミラー仕上げとした本体の直接手に触れる部分に牛の革紐をあしらった。滑り止めの役割を果たすと同時に年月を経るごとに深みを増して表情を添える。空錠、シリンダー錠、間仕切り錠、表示錠に対応（W145×D50×H70）28,350円／ユニオン **11. UNION「Romante 靭濡羽（ゆぎぬれは）」**ユニオンが伝統ある職人技と素材にこだわった「ロマンテ」シリーズのドアハンドル。いぶした真鍮（しんちゅう）を丁寧に縫い上げた牛のヌメ革でカバーリングし、型押しのテクスチュアやハンドステッチなど、ディテールにこだわって素材を生かしている。このほか真鍮と茶のレザーの組み合わせもそろう（W200×D80.5×H100）484,050円／ユニオン＊



9



8



10



11

Photographs : Nacása & Partners（＊以外）　※単位はすべて㎜

REAL LEATHER

天然レザーを取り扱うメーカーは、鞄や靴、車のシートを製作するメーカーへ素材を提供するほか、一般への販売にも対応することが多い。海外から製品を輸入する販売代理店と、自社で原皮から加工を行うメーカーがあり、いずれも天然レザーの性質や扱い方を熟知しているため、用途やメンテナンス方法を相談すると良い。柔軟性のあるクロムなめし、使い込むほど柔らかになるタンニンなめし、自然な風合いのアニリン（染料）仕上げ、色落ちを防ぎ傷をカバーするピグメント（顔料）仕上げ、型押しなど、加工方法はさまざま。床や壁に貼る建材をオーダーできるほか、家具のメンテナンス業者に持ち込み、イスやソファの張り替えを依頼することも可能だ。価格はds（デシ・1ds=100㎜角）を単位とし、国産で約20～200円/ds、輸入品は約200～300円/ds程度。ここでは天然レザーを取り扱うメーカー5社を紹介する。

WONDER INDUSTRIAL



国内やアメリカから仕入れた原皮を自社で一貫して加工し、鞄や財布のデザイン・製作までを手掛けるワンダーインダストリアルでは、色、硬さ、仕上げなどのセミオーダー、フルオーダーに対応可能。トップコートの種類により色落ちを防ぎ、防水・防汚性といった性能を備えることもできるため、用途に応じたレザーが見つかる。牛革のみでなく豚、ヤギ、羊、ヘビなど多様なレザーを取り扱い、型押しのバリエーションも幅広い。

DATA
原皮／牛、豚、ヤギ、羊、ヘビ　なめし／タンニン、クロム　色・仕上げ／ウレタン、ラッカー、カゼイン、エナメル、フィルム、撥水、水性ウレタン（500～600色）　型押し／牛革、ワニ革、ダチョウ革、ヘビ革、トカゲ革、シュリンク　価格／25～60円/ds　主な製品／「牛革スムース」レザー本来の質感を備えながら退色に強く、耐光性に優れる（t1.2）40～60円/ds　加工方法：クロムなめしセミアニリンラッカー仕上げ　「牛革ベロア」耐水性が高く肌触りが柔らか（t1.4）25～30円/ds　加工方法：クロムなめしアニリン撥水仕上げ　「牛革型押し」退色や変色に強く、ワニやヘビなどさまざまなレザーの模様が楽しめる（t1～2）45～60円/ds　加工方法：タンニンなめしアニリン水性ウレタン仕上げ　写真／〈右から〉「ソフトスムース」「シルクベロア」「バレンシア」「クロコIII」「Wメッシュ」「ソフィア」

ワンダーインダストリアル
兵庫県たつの市揖保町栄192-3　TEL.0791-67-2035
営業時間／8：30～18：00　日曜祝日定休

TOCHIGI LEATHER

栃木に構える自社工場で原皮から加工するレザーは、伝統を受け継ぐ職人の技術と自社の厳しい品質基準の下、20～25の工程を経て製作される。主にタンニンでなめした硬質な「ヌメ革」、ガラスで磨いた「ワイルドレザー」、1カ月半をかけてなめした滑らかな「多脂革」、キップスキンをタンニンでなめした「タンニンキップ」などがそろう。

DATA
原皮／牛　なめし／タンニン　色・仕上げ／アニリン（素材別に多色あり）　型押し／受注生産（応相談）　価格／50～150円/ds　主な製品／「ジーンズ」使い込んだような色むらを表現したもので、ソフトシュリンク加工が可能（t1.8）　加工方法：タンニンなめしアニリンラッカー仕上げ　「Wコガシ」シュリンク加工を施した硬質なレザー（t約1.7）加工方法：タンニンなめしアニリンワックス仕上げ　「オイルバケッタ」弾力性を備え色に深みがある（t2.3）　加工方法：タンニンなめしアニリンワックス仕上げ　「アースレザー」レザー本来の温かみを持つヌメ革（t2.3）　加工方法：タンニンなめしアニリン仕上げ　「吟ズリオイル」マットな色で起毛地のような手触り（t1.2）　加工方法：タンニンなめしアニリン仕上げ　「ブォーノアニリン」高級感のある艶を持ち、鮮やかなカラーバリエーションがそろう（t2.3）　加工方法：タンニンなめしアニリンラッカー仕上げ　以上価格は要問い合わせ　写真／〈右から〉「ブォーノアニリン-16」「オイルバケッタ-3」「Wコガシ-11」「Wコガシ-9」「Wコガシ-10」

ハシモト産業
〈本社〉大阪府大阪市天王寺区夕陽丘町3-21　TEL.06-6771-6911　〈東京営業所〉東京都墨田区本所3-20-14　TEL.03-3829-4735　URL：http://www.hashimoto-sangyo.co.jp　営業時間／8：30～17：30　土曜日曜定休



Bridge of Weir

スコットランドの老舗レザーメーカー、ブリッジオブウェア社では同国のみに生息するハイランドブルという品種を扱い、2歳までの雄牛の上質なレザーを厳選。家具を始め、車や飛行機のシート、鞄などのブランドに高いクオリティーのレザーを提供する。製作過程では廃棄物や消費エネルギーを最小限に抑えて環境に配慮。鮮やかなカラーバリエーションが特徴だ。販売単位はhide（ハイド・牛一頭分。1hide＝約5㎡）。



DATA

原皮／牛　なめし／タンニン、クロム　色・仕上げ／ピグメント（Skye 9色、Grampian51色、Caledonian31色）　型押し／受注生産（応相談）　価格／200～230円/ds　主な製品／「Grampian」柔軟・弾力・耐熱・染色・耐久性に優れる（t1.1～1.3）202円/ds　加工方法：クロムなめしピグメント水性トップコート仕上げ　「Caledonian」特殊なタンニンなめしで高い柔軟性を持たせた高級ラインの銀付きレザー（t1.2～1.4）214円/ds　加工方法：クロムなめしピグメント水性トップコート仕上げ「Skye」植物タンニンでなめした柔らかく堅牢なレザー（t1.3～1.5）227円/ds　加工方法：タンニンなめしピグメント水性トップコート仕上げ　写真／〈右から〉「Grampian109-INDULGE」「Grampian104-VIRTUAL」「Skye08-TOSCANA TAN」「Grampian111-TOTEM」「Caledonian43-PEAT」「Grampian54-BLUEBERRY」

grege（Bridge of Weir 日本総代理店）
大阪府大阪市西区西本町1-9-9 LAID bld.1階　TEL.03-4530-3613　URL：http://www.feel-grege.com　営業時間／10：00～18：00　土曜日曜祝日定休

AURA



レザー、ガラス、竹などを用いた多様なインテリアマテリアルを製作し、住宅や店舗などの施工までトータルで行うアウラ。西陣織の手法で幅約2～5㎜の牛革とポリエステルを始めとする繊維を織り込んだ「縅錣」は、レザーの風合いを生かし鎧や兜をイメージしたデザインを日本の伝統技術で実現した。着物、壁材などさまざまな用途に使用できる。フッ素加工を施したレザーは防水・防汚性に優れ、カラーバリエーションも豊富にそろう。

DATA

原皮／牛、鹿　なめし／クロム、タンニンほか　色・仕上げ／アニリン、ピグメント、柿渋（素材別に多色あり）型押し／多種（要問い合わせ）　価格／50,000円/m～　主な製品／「縅錣」幅約3.5㎜の牛革を縦糸と織り込んでいる（W900～）50,000円/m　加工方法：オーダー　写真／〈右から〉「C-01」「D-01」「N-01」

アウラ
京都府京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町620　COCON烏丸ビル1階　TEL.075-353-6567
URL：http://www.aura-inc.co.jp　営業時間／9：30～18：30　隔週、土曜日曜祝日定休

MELX

国内を始め欧米から仕入れた原皮を自社で加工し、家具や車のシート、靴用のレザーを提供するメルクス。色や型押しなどの仕上げはオーダー制で、自社の高い品質基準に基づき、厚さや風合い、柔軟性、弾力性にこだわった豊富な種類がそろう。また工業排水や廃棄時の排気など環境への配慮にも徹底している。



DATA

原皮／牛　なめし／タンニン、クロム　色・仕上げ／ピグメント、アニリン、セミアニリン（基本6～24色、オーダーに対応）　型押し／ワニ革、ヘビ革、トカゲ革など約200種類　価格／55円/ds～　主な製品／「プルアップ」オイル仕上げの重厚感がある（t1.5）68円/ds～　加工方法：クロムなめしアニリンオイル仕上げ、ウレタンコート　「ハイマート」素仕上げで滑らかな肌触りとレザー本来の豊かな表情を持つ（t1.8）68円/ds～　加工方法：クロムなめしアニリン仕上げ　「ニュースムース」素材感を生かしたピグメント仕上げの耐摩耗性に優れるイス張り用レザー（t1.2）65円/ds　加工方法：クロムなめしピグメント顔料仕上げ、ウレタンコート　「デコラス.T」1.3㎜と厚めのイス張り用レザーで、弾力性を持つ（t1.3）55円/ds　加工方法：クロムなめしピグメント型押し仕上げ、ウレタンコート「ピレネー」牛革の型押しにアンティーク調の塗装を施したイス張り用レザー（t1.3）57円/ds　加工方法：クロムなめしピグメント型押しアンチック仕上げ、ウレタンコート　写真／右から「ピレネーX4-786」「ピレネー R5-783」「デコラスT H3-733」「ニュースムース W6-611」「デコラスT Q4-727」

メルクス
東京都墨田区東駒形3-5-10　TEL.03-5819-7312　URL：http://www.melx.jp　営業時間／9：00～17：30　土曜日曜祝日定休

FAKE LEATHER

ポリエチレンや塩化ビニルを用いて天然レザーに近い質感を表現したフェイクレザーは、耐水性に優れメンテナンスを必要とせず取り入れやすい。ファブリックの表面を塩化ビニルでコーティングすることで、天然レザーに近い滑らかな肌触りを実現したもののほか、さまざまな色や素材の生地と編み込んだイントレチャート、天然レザーでは出せない色彩など、バリエーションが豊富だ。また、あえて天然レザーと異なるテクスチュアのコットンや起毛した生地を用いて、プリントや型押しなどの加工を施した製品がそろうのも魅力。これらは天然レザーに比べて軽量でカーテンとしても採用可能。価格帯は幅1400㎜で約5千〜6万円/㎡と幅広い。ここでは、個性あふれるフェイクレザーを扱うファブリックメーカー7社を紹介。

TOMITA



フランス・PIERRE FREYやLELIEVRE、METAPHORESを始め、ヨーロッパ、アメリカ、タイといった海外ブランド20社の幅広いファブリックを取り扱うトミタ。天然レザーでは染色が難しい鮮やかな色や、ファブリックを塩化ビニルでコーティングして型押ししたもの、天然レザーとは異なるテクスチュアを持つコットンを用いてプリントや色で本物にはない表情を実現したもの、化学繊維によってファーを模したものなどがそろう。

写真／〈右から〉モルモットの毛を模したフェイクファー「MARMOTTE F2076-001」（PIERRE FREY）コットン50%＋アクリル50%（W1400）48,720円/m　花や葉の型押し・ベージュ「FOLIO 454-06」　赤「FOLIO 454-03」（LELIEVRE）塩化ビニル77%＋ポリエステル11%＋コットン9%＋ポリウレタン3%（W1370／リピート⇕720）各12,810円/m　ヘビ柄プリント・茶「BOA71141-005」　水色「BOA71141-010」（METAPHORES）コットン100%（W1400／リピート⇕270⇔680）各28,875円/m

トミタ 東京ショールーム
東京都中央区京橋2-3-16　TEL.03-3273-7552　URL : http://www.tominet.co.jp
営業時間／平日10：00〜18：00　土曜10：00〜17：00　日曜祝日定休

NATIONAL INTERIOR

ドイツ・JAB、オランダ・CHIVASSOやCARLUCCIを始めとする海外ブランド5社のファブリックやカーペットを輸入・販売するナショナルインテリア。塩化ビニルを用いた牛革調のものを始め、エイ革や、ワニ革などの天然レザーに近いテクスチュアを表現したファブリックを多くそろえる。



写真／〈右から〉深緑を帯びたゴールドのヘビ柄「SNAKE 1-1118-130」・ゴールド（JAB）ポリウレタン59%＋コットン41%（W1400）17,640円/m　ワニ革の柄を表現した「CROCO CA7480-099」・黒 塩化ビニル72%＋コットン25%＋ポリウレタン3%（W1500／リピート⇕370）30,450円/m　ウナギ革を模した「BLOCK CA7910/080」・ターコイズブルー（以上CARLUCCI）塩化ビニル96%＋ポリウレタン4%（W1500／リピート⇕490）34,650円/m　牛革柄「PHIL 1-1056-157」・青（JAB）塩化ビニル69%＋ポリエステル15%＋コットン15%＋ポリウレタン1%（W1400）7,980円/m　ヘビ革柄「COBRA CA7481/022」・茶（CARLUCCI）塩化ビニル72%＋コットン25%＋ポリウレタン3%（W1500／リピート⇕170）30,450円/m

ナショナルインテリア ショールーム
東京都港区南麻布4-5-2　TEL.03-3442-4791　URL : http://www.nt-interior.com
営業時間／10：00〜18：00　日曜祝日10：00〜17：00

SINCOL MATERIAL

床・壁材、カーペットなどのアイテムを取り扱うシンコールマテリアル。オリジナルデザインのソファの張り地を85柄690点そろえ、レザー調の張り地は95柄983点と、幅広い色やテクスチュアのファブリックを展開する。国内製のため価格も比較的安価で、防汚・防水・難燃など性能面が充実。



写真／〈右から〉イントレチャートの表情を型押しした「Cordia L-8073」・黒 塩化ビニル100％（W1220）2,800円/m　ワニ革の型押し「Dolce Maxima L-8015」・モスグリーン 塩化ビニル100％（W1350）5,500円/m　スエード調「Q Life L-8077」・黄 ポリエステル70%+ナイロン30％（W1400）4,000円/m　ベーシックな牛ヌバック革を模した「Nubuck Velvet L-8005」・茶 塩化ビニル100％（W1370）4,200円/m　アンティークな風合い「Nifty」・赤 ポリウレタン100％（W1350）3,500円/m

東京シンコーレザー
東京都荒川区東日暮里4-12-1　TEL.03-3803-0151
東京シンコール
東京都北区西ヶ原1-46-13　TEL.03-5961-1151　URL : http://www.sincogroup.co.jp
営業時間／11：00～19：00　日曜祝日定休

SANGETSU



サンゲツオリジナルデザインによるレザーを表現したソファの張り地。海外製を多数そろえ、クラシックやアンティーク、ヴィンテージと豊富なテーストや色を用意し、96色を展開するシリーズも。比較的安価ながらも防汚・抗菌・吸放湿性など性能の高い製品をそろえ、肌触りや質感にこだわっている。

写真／〈右から〉スペイン製の牛革調「アンティークメタル UP6557」・シルバー ポリエステル60％+コットン40％（W1380）5,460円/m　光沢を与えたスペイン製「メタリックスエード UP6571」・ゴールド ポリエステル60％+コットン40％（W1380）5,775円/m　ダチョウ革を表現したスペイン製「オーストリッチ UP6568」・茶 ポリエステル100％（W1320）5,775円/m　トルコ製ワニ柄の起毛生地「UP6006」・ゴールド アクリル88％+ポリエステル7％+ナイロン5％（W1420／リピート⇕220⇔300）9,135円/m　ワニ革を模したスペイン製「Real texture UP6552」・黒 ポリエステル50％+コットン50％（W1390）9,975円/m　牛革のテクスチュアを忠実に表現「吸放湿ビニールレザー UP6649」・緑 ポリエステル65％+レーヨン35％（W1220）3,570円/m

サンゲツ
愛知県名古屋市西区幅下1-4-1　TEL.052-564-3314　URL : http://www.sangetsu.co.jp
営業時間／8：30～17：30　土曜日曜祝日定休

Textile Iida

オーダーカーテンを中心に、イタリア・MISSONI HOME、スペイン・Gaston y Danielaを始めとするヨーロッパ、アメリカなど海外ブランド14社のファブリックを販売するテキスタイル飯田。MISSONI HOMEでは、直線を交互に描いた独特のテキスタイルをレザー調に展開し、同ファブリックをあしらったクッションやオットマン、ベッドなどもそろう。



写真／〈上右から〉牛革を忠実に表現した「NAPA ANTIGUA」・茶（Gaston y Daniela）コットン55％+ポリウレタン45％（W1380）15,645円/m　MISSONI独特の幾何学柄を型押しした「JAEN 41」・ベージュ（MISSONI HOME）ポリエステル60%+ポリウレタン40％（W1400）21,105円/m　型押しでヘアラインのような光沢のある繊細なテクスチュアを与えた「CHEVAL LAVANDA」・紫（Gaston y Daniela）ポリウレタン100％（W1400）15,015円/m　「JAEN 41」同様、直線で構成したデザインがシャープな印象「JAEN 32」・グレー（MISSONI HOME）ポリエステル60%+ポリウレタン40％（W1400）21,105円/m　深い皺が表情豊かな「NAPA RELIEVE」・茶（Gaston y Daniela）塩化ビニル74％+ポリウレタン17％+コットン9％（W1380）15,645円/m

テキスタイル飯田 東京ショールーム
東京都渋谷区東1-25-11　TEL.03-5468-5001　URL : http://www.textileiida.co.jp
営業時間／11：00～19：00　日曜祝日定休





MANAS TRADING

マナトレーディングではフランス・ÉLITIS、ドイツ・SAHCO、イギリス・Nina Campbellといった海外ブランドを中心に18社以上のファブリックを取りそろえる。幅1.5㎜にカットした複数の色のレザー調ファブリックを編み込んだ表情豊かなものや、天然レザーを思わせるテクスチュアを実現したものなど、幅広いバリエーションを展開。ベルギー・LIMITED EDITIONの本革をパッチワークしたラグも取り扱う。

写真左上／〈右から〉幅1.5㎜の金と濃茶のレザー調ファブリックを編み込んだ「LW 176 99」(ÉLITIS) ポリウレタン93%＋ポリエステル7% (W1380) 65,940円/m　エイ革を模したファブリック「Cerlse 2357-03」・ゴールド (SAHCO) ポリウレタン64%＋ポリエステル36% (W1400) 14,910円/m　黒地に細かなゴールドのパールをあしらった「MATADERO NCF3470/08」・黒 (Nina Campbell) コットン55%＋ポリウレタン45% (W1400) 15,960円/m　幅2㎜のレザー調紐をベージュの濃淡2色で編み込んだ「Xatex 2217-01」・ベージュ ポリウレタン62%＋コットン38% (W580) 45,255円/m　異なる幅の黒いレザー調生地を編み込んだ「Erol 2305-02」・黒 ポリウレタン100% (W1000) 63,735円/m　クマの毛色を模したフェイクファー「Grizzly 2179-01」(以上SAHCO) ポリアクリロニトリル100% (W1400) 37,800円/m　写真左下／淡い濃淡でサークルをプリントした遮光・難燃タイプのカーテン生地「discus」(VIS)。イスの張り地としても使用でき、オフホワイト、ベージュ、茶の3色を展開する (W1490／リピート ⇕605⇔495) 4,935円/m＊

マナトレーディング 東京ショールーム
東京都目黒区上目黒1-26-9　中目黒オークラビル4階　TEL.03-5721-2831　URL：http://www.manas.co.jp　営業時間／平日10：00～18：30　土曜日曜祝日10：00～18：00　年末年始休業





CHELSEA INTERNATIONAL

チェルシーインターナショナルでは、自社オリジナルの製品を始め、ドイツ・ZIMMER＋ROHDE、イギリス・ANDREW MARTINなど海外ブランド12社の製品を取り扱う。天然レザーを忠実に再現したファブリックを幅広くそろえ、なかでも軽くて表情豊かなファブリックは、カーテンにも使用できる。ANDREW MARTINは天然レザーも展開し、ハラコに型押ししたもの、スエードなど多岐にわたるレザーをそろえる。(天然レザーの販売単位はhide (ハイド・牛一頭分。1hide＝約5㎡)。

写真右上／〈右から〉天然牛のハラコにワニ革の型押し「Tattoo」・白 (ANDREW MARTIN) 152,200円/hide　幅約2㎜のレザー調ファブリックと麻紐のイントレチャート「750/F」・赤 (CHELSEA INTERNATIONAL) ポリウレタン53%＋コットン47% (W1000) 24,200円/m　大柄なトカゲ革の型押し「WYOMING」・アイボリー (ANDREW MARTIN) 108,600円/hide　トカゲ革の型押し「10197 983」・グレー (ZIMMER＋ROHDE) 塩化ビニル75%＋ポリエステル11%＋コットン9%＋ポリウレタン5% (W1350) 17,900円/m　レーザー加工を施した黒のハラコ「Slash」(ANDREW MARTIN) 52,200円/hide　幅5㎜のゴールドのフェイクレザーと光沢ある糸のイントレチャート「8808 128」(ZIMMER＋ROHDE) ポリウレタン50%＋ポリエステル25%＋コットン13%＋アセテート12% (W1400) 31,500円/m　写真右下／〈右から〉牛革調の皺加工とベージュのステッチを施したファブリック。色は茶、赤、アイボリーがそろう「coyote」・茶 (ZIMMER＋ROHDE) コットン77%＋ポリウレタン23% (W1400) 18,200円/m　フェイクファーに型押し加工を施し麻紐で刺繍を施した「CAROUSEL」・黒 (ANDREW MARTIN) ポリエステル100% (W1500) 20,800円/m

チェルシーインターナショナル ショールーム
東京都新宿区南元町4-45　TEL.03-5367-1061　URL：http://www.chelsea-international.com
営業時間／9：00～18：00　土曜日曜祝日定休

Custom

オーダー家具やオーダーキッチンメーカーは、既製品の生産が難しい天然レザーやインテリアに使用できるレザー調パネルを用いて、オリジナリティーあふれるアイテムを実現する。天然レザーを用いる場合、キッチンでは特に高い耐久性や耐水性が求められるため適したレザーの選定が難しいが、希望のレザーに防水・防汚のコーティングを施してくれる場合もある。また、カスタムキッチンを請け負うメーカーの多くは、メンテナンスが容易なレザー調の面材を取りそろえ、オーダーに比べて短期間、低コストで実現できる。ここでは、オーダー、カスタムを請け負うメーカー4社を、施工例と共に紹介する。

Photographs : Nacása & Partners（＊のみ） ※単位はすべて㎜



YAMAGIWA

国内外の照明や家具を取り扱うヤマギワは、住宅やマンションの専有部分のリフォームをトータルでサポート。間取りの変更からキッチン、水まわり、収納のほか、ホームシアターやSOHOの新設、バリアフリーやセキュリティー対策まで幅広く対応する。施工例はベッドルームの壁面に牛革を使用したもの。黒のヌメ革をドンス張りした10枚のパネルをあしらっている。

写真／壁面レザー張りパネル（W4500×H1240・横5枚×縦2枚）価格は要問い合わせ　素材：牛革　色：応相談　施工：合板t12下地ウレタンt15詰めの上牛革t1.5ドンス張り

DATA

サイズ：オーダー　素材：レザー（牛革）、木（チーク突き板）　保証：1年　納期：60日

ヤマギワ 名古屋店
愛知県名古屋市中区葵1-22-20
TEL.052-931-2111　URL : http://www.yamagiwa.co.jp
営業時間／10 : 30〜19 : 00　火曜水曜祝日定休



CUCINA

創業72年の歴史を持つモーリコーポレーションのシステムキッチンブランド、クチーナ。ライフスタイルに合わせた多様なサイズ、素材、色をそろえ、幅広いデザインをオーダーできる。すべて受注品で、長年の経験から培った技術でつくられるキッチンは高いクオリティーを誇る。面材はオレフィンシートを貼ったレザー調化粧板を用いた「VALIGIA」を始め、木や樹脂など30種類以上そろえ、防水・防汚性に優れるため、メンテナンスを要さない。アンティーク調の牛革を表現した色むらが柔らかな印象だ。



写真上／コ型カウンター「VALIGIA」（4672×2740×H2174・カウンターD690×H 855）4,550,000円（機器、施工費別途）　素材：ワークトップ・人造大理石「モデスト スノー」　面材・レザー調オレフィンシート　框・ブナ無垢材　色：2種　写真右／明るい茶色の同じレザー調オレフィンシートを貼った。濃茶と明るい茶色の2色をそろえる

DATA

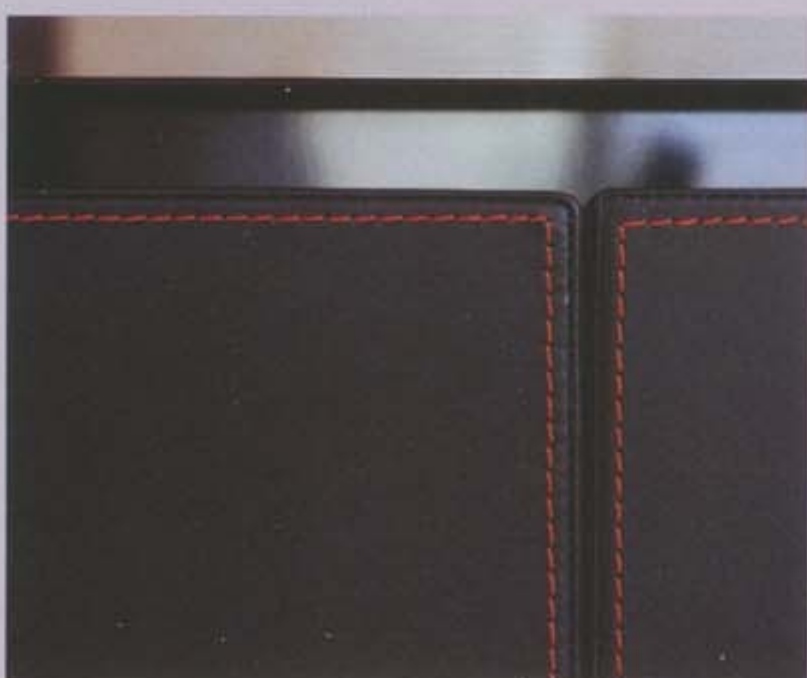
サイズ：オーダー　素材：ワークトップ・人造大理石「モデスト」　面材・レザー調オレフィンシート、メラミン化粧板、突き板、ガラス　取っ手：多種（他社製品にも対応）　ビルトイン機器：国内外に対応　保証：2年　納期：約30日

モーリコーポレーション 代官山ショールーム
東京都渋谷区鉢山町15-1
TEL.03-3496-1003　URL : http://www.mohly.co.jp
営業時間／9 : 30〜17 : 30　水曜定休

Linea Talara

オーダーキッチンメーカー、リネアタラーラでは、キッチンカウンターを空間としてトータルに考え、木、ガラス、石、金属の持つ素材感を生かした個性あふれる機能的なデザインを生み出す。ダイニング側の面材に使用したレザーは牛のスムース革で、ステッチの色や太さ、間隔までこだわった。防水性を高めるウレタン塗装を施しているため汚れが付着しにくく落としやすい。足元には間接照明を設け、印象的なキッチンまわりを演出する。





写真／I型カウンター（W3300×D1000×H900）1,820,000円（施工費別途）　素材：ワークトップ・ステンレス、スーパーアルミ　面材・牛革（ウレタン塗装）　色：約90種（オーダー色に対応）　施工：木製パネルt33の上牛革t1.2貼り＊

DATA

サイズ：オーダー　素材：ワークトップ・大理石、人造大理石、ステンレス、アルミ、ガラス、タイル、木材各種など　面材・レザー（牛スムース革、スエード、型押し革、豚革など各色）、木材各種、ガラス、天然大理石、人造大理石、ステンレス、メラミン化粧板、タイルなど　取っ手：他社製品に対応　ビルトイン機器：国内外に対応　保証：2年　納期：40日

リネアタラーラ
東京都世田谷区用賀3-12-19 マドビル3階
TEL.03-3708-8555　URL : http://www.linea-talara.net
営業時間／10：00〜19：00　日曜定休

LIBRE



厳選した国内外の無垢材を用いるオーダーキッチンメーカー、リブレではキッチンを料理するだけの場ではなく、家族のコミュニケーションの場として捉え、ユーザーの望む使いやすく快適な空間を最新技術によって実現する。面材は、メンテナンスを要さず防水・防汚に優れるフェイクレザーシートをイス職人が手作業で張り込んだ。間接照明を取り入れたステンレス製フードとセットで、質感のコントラストが楽しめる。



写真／アイランド型カウンター（W2710×D1000×H900）2,000,000円（施工費別途）　素材：ワークトップ・ステンレス　面材・フェイクレザーシート　色：オーダー色に対応　施工：MDFパネルt21の上フェイクレザーシートt1.5貼り

DATA

サイズ：オーダー　素材：ワークトップ・ステンレス、大理石、人造大理石、水晶、木材各種　面材・フェイクレザーシート、メラミン、ステンレス、ガラス、木材各種、突き板　取っ手：約20種（他社製品にも対応）　ビルトイン機器：国内外に対応　保証：3年（框、扉は無期限）　納期：約30日

リブレ 本社ショールーム・工場
宮崎県北諸県郡三股町蓼池3628-3　TEL.0986-52-6850

福岡ショールーム
福岡県福岡市中央区薬院1-8-5 1階
TEL.092-713-7765　URL : http://www.libre-kitchen.com
営業時間／10：00〜18：00　無休



エネルギー・フロンテ
TOKYO GA
4人の家から、
みんなの家へ。
家を新築するから。お風呂のリフォームをするから。
給湯器が古くなったから。家族がふえたから。
エコのことを真剣に考えているから。
最先端の技術に触れてみたいから。
国の補助金があるから・・・。
そんなさまざまな理由から、
エネファームでエネルギーをつくる家が
どんどんふえています。
ひろがっています。エネルギーをつかう家から、つくる家へ。家庭用燃料電池、エネファー
エネファームは、都市ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させて、電気をつくります。しかも、
発電時に出る熱まで有効活用し、給湯や暖房にも使えるようになりました。クリーンな都市ガスを使って
自宅で発電することで、エネルギーをムダなくつかえる
エネファーム。それは、快適な暮らしはそのままに、CO2を
減らす生活。低炭素な未来にむけて、次はあなたの家へ。
ENE・FARM
エネファーム
低炭素な
未来を
つくる。
●今お住まいの家を、エコな家に変えたい方、ぜひご相談ください。●今年度の補助金は140万円(上限)。補助金適用には期限があ
お問い合わせ・資料請求は、0120-593039
受付時間／月～金10:00～17:00(土日祝除く)
●補助金募集期間は、平成22年2月10日(水)17時(必着)まで。設置工事完了期日は、平成22年3月10日(水)まで。
〔資料請求番号093〕

Open Garden Showcase



太陽の光を浴び、さわやかな風にそよぐ庭の緑。自然の存在を感じられる住まいが伸びやかな気持ちにさせてくれる。今回は、デッキテラスを囲むように配した二世帯住宅やアプローチと中庭をひとつながりにした住まい、趣の異なる庭を随所に設けた住まいなど、立地条件に合わせて豊かな外部空間を実現した3軒を紹介。

CASE-01

二つのエントランスとデッキテラスが迎える開放的な住まい

F邸 東京・大田区

設計／スタジオCY　撮影／ナカサ＆パートナーズ　文／早瀬美智子



94・95頁／オーナーである子世帯のエントランスから南側のデッキテラスを見る。天井高2.7m、約17㎡の広々とした天然石貼りのエントランスは、ジャラ材のデッキテラスとフラットにつなげてオープンな空間とした。階段下に見える220㎜の段差によって室内と場を分けている。紺色に塗装した幅3.4m×高さ2.7mの特注スチールサッシと、視線が抜ける浮遊感のある階段が、開放的な空間をさらに強調。Philippe Starckによるイタリア・FLOSのペンダントライト「ROMEO MOON S2」や、以前の住まいから使っている家具が柔らかな雰囲気を添えている。シンボルツリーとしてエゴノキを植えたデッキテラスからさわやかな風が通り抜ける心地良いスペースだ
右／デッキテラスを挟んで東側に配した親世帯のエントランス。子世帯側と同じ素材、仕上げとした幅2.6m×高さ2.5mの開口越しに見える収納の引き戸に貼った東京・川島企画の薮柑子柄の唐紙がオリエンタルな雰囲気を醸し出す。室内の床までデッキテラスのジャラ材を延長させ、外部との連続性を持たせた



さんさんと光が降り注ぐデッキテラスに面した二つのエントランスが、訪れる人々を温かく迎える。すがすがしい空気が流れる開放的な住まいには、朗らかな笑い声があふれていた。

東京・大田区の緑豊かな池上本門寺の西に広がる碁盤目状の地域。古くから門前町として栄え、その情緒を今もなお残す一角にF邸は立つ。祖母が住んでいた土地を譲り受けたオーナーは、当初、夫妻と子どもたちで暮らすための新たな住まいを検討。しかし、共働きながらまだ子どもが幼いことを考慮し、両親と話し合い二世帯住宅を建てることに。以前の住まいで祖母が日本舞踊を教えていたことから、幼少期より多くの人と触れ合う環境で育った妻は、新居にもオープンな空間を希望した。

そこで建築家の堀内　雪さんは、3層の子世帯の棟と2層の親世帯の棟を東西に分けながらも、2階はそれぞれをつなぐプランに。2棟の間を通るアプローチの先に設けたデッキテラスを介して、振り分けた二つのエントランスがほど良い距離感を保っている。ヨーロッパのコートハウスのような開放感あふれるこのデッキテラスを囲む子世帯側の幅3.4m×高さ2.7m、親世帯側の幅2.6m×高さ2.5mのスチールサッシ（no.42に掲載）は、妻のこだわりにより海外で見掛けた趣のある窓を参考に紺色に塗装。シンボルツリーのエゴノキが柔らかな木漏れ日を落とし、さわやかな風が吹き抜けていく。

アプローチ東側の白い外壁の建物が親世帯で、エントランス正面の収納扉に薮柑子柄の唐紙を貼り、和の印象に。その北側に[illegible]り、南側に父親が能の稽古をつける和室を設け、室は床座からの目線を考慮して幅2.4m×高さ1.5mと高さを抑えた開口からデッキテラスの緑を眺められる落ち着いた空間に仕上げた。一方、外壁にグレー染色のレッドシダー材を貼った西側は子世帯。ガレージから約600㎜上がってつながる天然石貼りのエントランスをデッキテラスと連続させることで、サッシを開け放てば室内外が一体となる伸びやかなスペースを生み出した。また、アプローチの途中にある吹き抜けに面した壁には約1.5m角のFIX窓を設けて

（100頁へ続く）



アプローチから、ひとつながりのデッキテラスを見る。右側が子世帯、左側と奥が親世帯のスペースで、外壁をそれぞれの好みに合わせてグレー染色を施したスギ材とアクリル系塗り壁材で凹凸のある仕上げとした白塗装に分けた。アプローチの上部は住まいのほぼ中心を貫く吹き抜けで、室内に明るい光を導く。その下部にある右手に配した約1.5m角の開口を通して、子世帯側のエントランスとデッキテラスが垣間見え、広がりを感じさせる



Open Garden Showcase

上／家族や友人が集う3階のオープンキッチンは、オーダーキッチンメーカーのホッブスに依頼。天板は人造大理石、面材はウェンゲ材浮造り仕上げにグレー染色を施し、壁づけしたつり戸棚の扉には黒板塗料を塗装した。フード下のフックに調理器具、キッチンの面材と同素材で造作した右上のオープンシェルフに日常的に使う食器やカトラリーを収めている。ドイツ・グローエ社の水栓を採用した右手の1600角×高さ860㎜のアイランド型カウンター下部には、食器や食材だけでなく、ダストボックスも収納。壁づけの幅約4000㎜×奥行き650㎜×高さ860㎜としたI型カウンターの左手にもパントリーを設けて、すっきりと見せた。左手前に見えるGEの冷蔵庫やキッチンの収納、パントリーの取手のデザインを統一。左手は洗面、トイレ、ランドリーなどを一カ所にまとめたスペースとバスルームで、右手にはリビングダイニングが

左頁／キッチンとワンルームでつながるリビングダイニング。4400㎜×465㎜のトップライトから差し込む光が南側の壁に映し出され、時間の経過と共に角度を変えていく。チェリー無垢材のダイニングテーブルはコンランショップ、籐を編んだダイニングチェアはIDÉEで購入したもので、以前から使用。グレーのソファは気分に合わせて茶色のカバーに変えている。照明はマックスレイ、左手の収納はIKEAで購入





採光を確保。住まいのほぼ中心を貫くこの吹き抜けが各階に光を導いている。

エントランスから浮遊感のある階段を上った2階には子ども部屋と主寝室をレイアウト。階段正面の扉で両親のリビングダイニングとつながるため、互いが自由に行き来できると共に、子どもが祖父母の近くで過すことができる。そして、メーンフロアとなる3階は東側にワンルームのリビングダイニングとキッチンを配置。「夫婦でキッチンに立つことが多く、友人たちにも自由に使ってもらいたい」との思いから壁づけのI型カウンターとは別に1600㎜角と大きなアイランド型カウンターをデザインした。下部には食材や食器、ダストボックスを収納してすっきりと見せたほか、ハイスツールを置いて軽い食事が取れるスペースも。今では家族や友人と会話をしながら調理したり、脇のダイニンテーブルやリビングのソファでくつろいだりなど、皆の団らんの場となっている。

キッチンの北側には、洗面、トイレ、ランドリーが一体となった機能的な一室があり、さらにその奥のバスルームはテラスに面する。これは、仕事で多忙な夫に家ではゆったりとバスタイムを過ごしてほしいという妻の考えにより実現。塀の高さは近隣からの視界を考慮し、空だけが切り取られるよう西側を2.7m、そのほかを1.6mに設定した。吹き抜けを中心に各居室を回遊できるプランとしているため、テラスには階段脇のワークルームからも出入りが可能だ。

また、堀内さんは部屋の面積が大きいほど室内が暗くなることを懸念し、吹き抜け以外にも光を取り込む工夫を随所に施した。たとえば、デッキテラスに面する階段の南側は全面ガラス張りとし、キッチンの西側は天井高いっぱいに開口を確保。一方、敷地の南側は建物が隣接するため、リビングの南側にトップライトを配し、一日を通して光の移ろいを楽しめる演出とした。

家族がそれぞれのスペースを持ちながらも互いの気配を感じられる豊かな空間を実現したF邸。キッチンで家族や友人と語らい、バスタイムにはゆったりと星を眺める。オーナーの人柄が表れた伸びやかな住まいには、今日も明るい笑い声が響きわたる。





右頁／ダイニングテーブル脇から吹き抜け越しにテラスを望む。さまざまな角度から採光を確保するため、吹き抜けに面して幅1.5m×高さ2.4m、キッチン西側に幅3.6m×高さ2.4mのガラス張りの開口を設けた。採光量を調節するファブリック製の白いロールスクリーンが柔らかな表情を添える。また、吹き抜けを中心に各部屋が回遊できるプランとし、開口を通じてほかの空間が見渡せるよう配慮することで、視覚的にもつながりを持たせた。手前のアイランド型カウンターにはハイスツールを置き、軽い食事が取れるスペースに
上／バスルームから直接アクセスできる開放的なテラスでは、夜になると満点の星空が迎えてくれる。壁を光沢のある茶色いタイル貼りとしたバスルームは、木製ブラインドを閉めてこもる雰囲気でくつろぐことも可能だ。右手前の開口奥はワークルーム　右／キッチンから一直線でつながる北側の水まわりを見る。右手の収納には身支度や家事をスムーズに行えるよう、洗濯乾燥機や衣類などを収納。この収納や洗面カウンター下部の面材、ブラインドを茶色で統一するほか、トイレには木製の蓋がつけられるTOTOの製品を採用することでインテリアを調和させた。手前左に見えるキッチンに配した冷蔵庫脇の壁にも収納を設け、スペースを有効に活用





上／敷地の最奥に当たる親世帯の1階南側に配された和室は、父親が能の稽古をつける場所。床はしっとりとした質感のヒノキ材と本畳、壁は漆喰とするなど、素材にこだわった。床座からの視点を考慮して、高さ1500㎜と低めに設置した開口から中庭の緑を眺められる。幅250㎜×高さ750㎜と縦長に割りつけた障子が和の風情とモダンな印象を醸す　下／和室東側の襖もエントランスと同様、川島企画の唐紙を採用。一つひとつ手作業で刻印された金色の桐の紋が味わい深い。愛嬌のあるひょうたん型の引き手はご両親のお気に入りだ

左頁／全面道路に面する北側外観。ガレージのあるグレーの建物が子世帯、正面奥の白い建物が親世帯の住まいだ。手前には妻が建築家の堀内 雪さんと共に選んだジューンベリーやカシワバアジサイを植樹した。2棟の間に配したアプローチを通り抜けるとデッキテラスが現れる



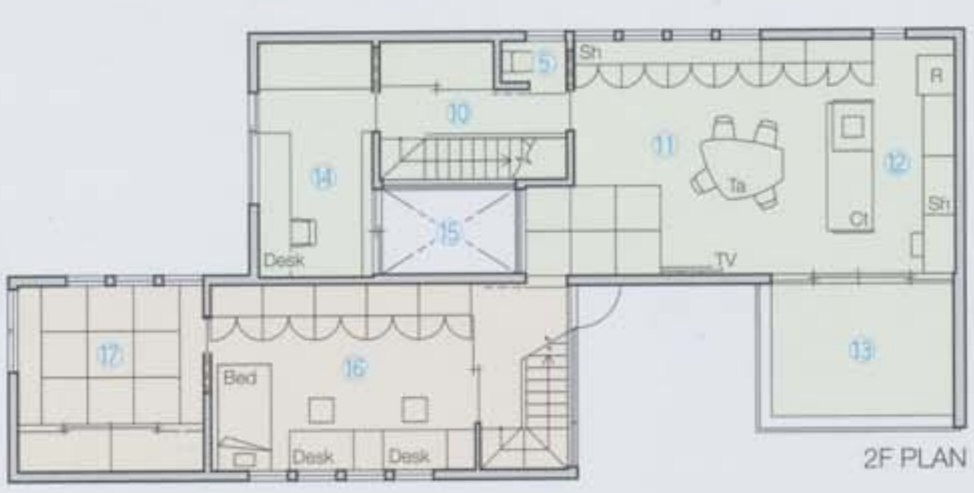
DATA

構造と規模／木造　地上3階建て
敷地面積／185.32㎡　建築面積／103.09㎡
床面積／1階94.81㎡　2階93.16㎡　3階64.17㎡　合計252.14㎡
家族構成／夫（40歳）　妻（38）　長男（7）　次男（3）
父（69）　母（64）

※設計データは206頁に掲載

① GARDEN
② APPROACH
③ DECK TERRACE
④ GARAGE
⑤ TOILET
⑥ ENTRANCE HALL
⑦ JAPANESE-STYLE ROOM
⑧ POWDER ROOM
⑨ BATHROOM
⑩ HALL
⑪ LIVING & DINING
⑫ KITCHEN
⑬ TERRACE
⑭ STUDY ROOM
⑮ VOID
⑯ KID'S ROOM
⑰ BEDROOM
⑱ WORK ROOM

子世帯　親世帯



2F PLAN



3F PLAN



1F PLAN 1:250



X-X' SECTION 1:250

Open Garden Showcase



CASE-02

アプローチと中庭を兼ねたオープンスペース

S邸　東京都・杉並区

設計／彦根建築設計事務所　彦根 明
撮影／ナカサ＆パートナーズ　文／早瀬美智子



右頁／玉砂利洗い出し仕上げの前面アプローチから北側外観を臨む。幅約2.7m×高さ約5.4mのグレーに塗装したスギ材の縦格子が、外部からの視線を適度に遮ると共にリシン掻き落とし仕上げの白い外壁とのコントラストを生み出す。さらに西側に高さ約5.5mの壁を設けることで、周囲を住宅に囲まれながらもプライバシーを確保した開放的な空間を実現。右手には四季の移ろいを感じられるようモミジやソヨゴを植樹
上／アプローチからエントランス越しに奥の中庭を見る。二つの庭に挟まれたガラス張りのエントランスは、まるで外部空間の一部のようだ。モミジやシマトネリコ、ハナイカダなどを植樹し、小さな池を配した中庭はすべて夫の大輔さん自らの手によるもの。アプローチに面した左手の寝室は、庭の景色を楽しめるようすべての開口を天井高いっぱいの2.3mに設定。上階に浮遊する[illegible]スはアウトドアリ[illegible]ヴを楽しめる[illegible]格子は外からの視線を遮るだけでなく、中[illegible]ている。

右／床を大谷石貼りとしたエントランス奥にも玉砂利洗い出し仕上げの中庭を配置。シンボルツリーのモミジに合わせて下草にコグマザサやシダなどを選んだ。庭の手入れは大輔さんの数多い趣味のうちの一つ。外壁と同じリシン掻き落とし仕上げの白壁に、自然が描くさまざまな葉影が映り込む
左頁／2層を吹き抜けとした階段室から上下階を見る。幅765㎜の細長い空間に使用したホタテ貝殻やもみ殻を原料とした塗り壁材「チャフウォール」の質感が独特の風合いを醸し、柔らかな陰影をつくり出す。正面は2階から小屋裏の納戸へと続く梯子で、その奥に見えるのは中庭上部に突き出したデッキテラス



古の時代から東京・武蔵野の地に住む人々の生活を潤してきた神田上水。井の頭池の水源にほど近い久我山橋を渡ると、涼やかなせせらぎに迎えられる。生い茂る緑が残り、どこかレトロな雰囲気さえ漂う懐かしい街並みは「長い年月を経ても色あせないニュートラルな家を建てたかった」と話す夫妻の人柄に良く似合う。

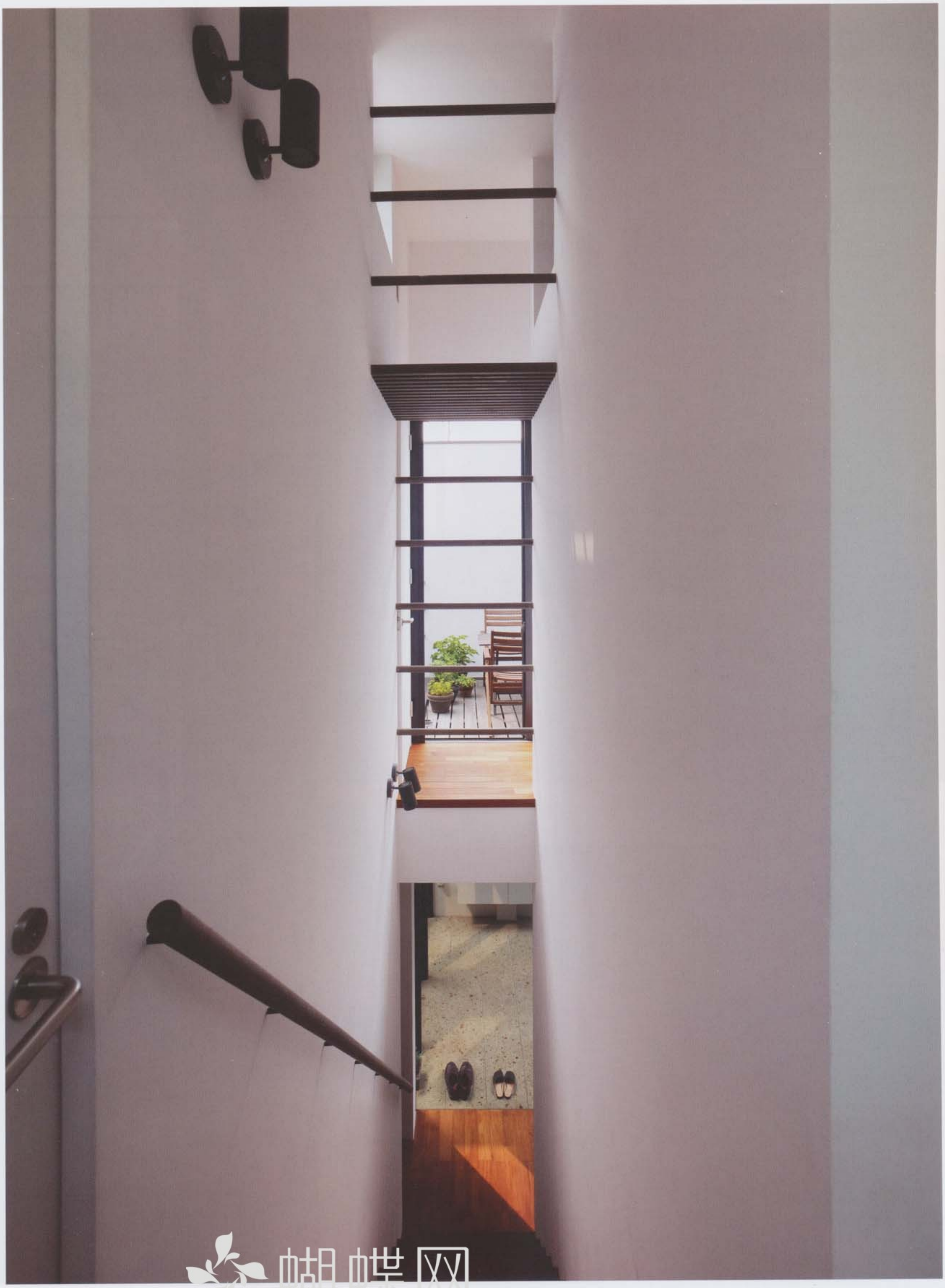
木造地上2階建てのS邸は、白のリシン掻き落とし仕上げを施した白い外壁と、前面道路から約4mセットバックさせたグレーの縦格子から成るファサードとのコントラストが印象的だ。アプローチに沿って植樹したモミジが季節の移ろいを感じさせ、時折吹く風がさらさらと葉の擦れる音を住まいへと運ぶ。

スギ材を用いた高さ5.4mの縦桟はエントランスとつながる中庭への入り口。幅2.5m×奥行き5.4mの細長い空間の壁沿いにモミジやシマトネリコ、ハナイカダなどを夫の大輔さんが自ら植樹し、手づくりの庭を完成させた。適度な透過性を持たせながら、外部空間のアプローチと半屋外空間である中庭を仕切ることで風の流れを損なうことなく、通りからの視線をほど良く遮っている。さらに住まいの最奥には、エントランスを介してもう一つの中庭を配置。すべての居室をこの中庭に面してレイアウトし、どこからも緑と風を感じられるよう計画した。

そして、エントランスは中庭側にガラスドアを設け、外部と一体化したオープンな雰囲気に。床材には先代のお祖父さんの住まいに使われていたこともあり、どこか愛着を感じる大谷石を選んだ。また、隣地との境界線に配された壁はファサードと同じ仕上げを採用。光に反射したまぶしいほどの白壁が木々の緑をより鮮やかに強調する。

かつて母方の祖父が住んでいたこの土地に自邸を構えようと思ったのは約3年前。建築家の彦根 明さんの存在を雑誌やインターネットで知り、初めて接見した時期も同じ頃だった。夫の大輔さんは、彦根さんの人やものと向き合う姿勢に共鳴し、依頼する決意を固めたと話す。彦根さんもまた、夫妻について「望むことが明確で軸がはっきりしていた」と当時を振り返る。

（109頁へ続く）









右頁／2階のダイニングからキッチンとテラスを見る。3.5mの天井高を確保することで、空間をより広々と感じさせている。中庭に面した幅3.5m×高さ2.3mの開口は、風光を取り込むため床レベルからの掃き出し窓とし、高さ1100㎜の位置に落下防止のスチール製の手すりを設置。オーク無垢材のダイニングテーブルは都内のインテリアショップ、hikeオリジナルによる「Bigテーブル」、ダイニングチェアはArne JacobsenデザインのFritz Hansen社製「SEVEN CHAIR」
上／中庭からの自然光が降り注ぐリビングは北欧テーストのしつらえ。ソファはArne JacobsenがデザインしたFritz Hansen社の「3300シリーズ」で、チーク材製のテーブルと合わせている。シナ材でできた造作AVボードには、同じくArne JacobsenによるLouis Poulsen 社のデスクランプ「AJ TABLE」が　左／リビング[illegible]の壁に設置したサイドボードはhikeで購入した味わい深い[illegible]ンティーク家具。[illegible]さんにとって思い入れのあるオー[illegible]ィ[illegible]ンプや[illegible]など[illegible]のあるコーディネートでバランス良くま[illegible]ている


Miele
SAS
UNITED
POSTAL





右頁／リビングの北側には壁を介してワークスペースを兼ねたストックルームを配置。AVボードの左右に天井高まである幅910㎜×高さ3500㎜の引き戸を設けて回遊できる空間とし、家族の気配を感じつつ作業にも集中できるほど良い距離感を保つ。壁面には大輔さんがアメリカで購入したスカンジナビア航空のポスターを飾り、その手前にはアンティークのイスをディスプレイ
上右／納戸の両側には壁面いっぱいに造作書棚を設けて収納量を十分に確保した。幅4750㎜×奥行き1500㎜ほどの細長い空間でありながら3.5mの天井高が圧迫感を緩和。大輔さんが長年を費やして収集した雑誌や書籍、アンティークの工業製品が並べられている　上左／キッチン東側から階段室越しにバスルームを見る。バスルームは白で統一し、チーク材貼りのリビングダイニングとは異なる雰囲気に。人造大理石製の洗面カウンターは特注で製作したもの

夫妻が住まいに求めたテーマの一つが「風や光、自然を感じるオープンスペース」。そして、このテーマを実現させるために重要な鍵となったのが中庭の存在だった。

室内に一歩足を踏み入れると、住まいに漂う柔らかな雰囲気に心が和む。廊下や階段も含めすべての居室の床材にチーク無垢材を用い、壁はホタテ貝殻やもみ殻を原料とした塗り壁材「チャフウォール」を塗装。白い壁が室内に光を回り込ませ、自然素材の持つ温もりを引き立てるよう配慮されている。エントランスから2階へ続く階段を中心に左手に寝室、右手にバッグデザイナーである妻の有里子さんのワークルームを配置。有里子さんが創作活動をする床面積12.4㎡ほどの部屋には、かつて大輔さんの祖父が使用していた重厚感のあるアンティークのデスクが。ここからも中庭を臨め、季節の変化を感じながら作業に専念できる。2階へと続く階段の北側は26㎡の広さを持つワンルームのリビングダイニング。天井高を3.5mと高めに設定し、階下の中庭に面して幅3.5m×高さ2.3mの大開口を設けることで、2階からも緑の存在を感じられると同時に、住まいに開放感を与えている。さらに、リビング奥には幅1.6m×奥行き4.4mの細長いストックルームを確保。雑誌や書籍などを収めるだけでなく、天井高いっぱいの引き戸を設けることで、独立してデスクワークができる空間とした。

これらのスペースは、共にクリエイティブな職業に携わる夫妻それぞれのアイデンティティーを反映した家具や小物の数々で彩られている。アルネ・ヤコブセンによるデザインのイスや白い革張りソファ、デスクランプなど北欧テーストのアイテムを中心にセレクト。さらに、木の温もりあふれるアンティークのサイドボードや棚には有里子さん好みのナチュラルで素材感のある小物、工業デザイナーの大輔さんがコレクションする時計やラジオ、オーディオアンプといったアンティークの工業製品やポスターがバランス良くディスプレイされている。これらの小物は8年前、仕事の関係で赴任したアメリカ・ニュージャージー州の蚤の市やマサチューセッツ州のシェーカービレッジに通って少しずつ買い集めたものも多い。

一方、ダイニングに面したキッチンは壁で仕切られてはいるものの、両サイドに廊下を設けてスムーズな回遊動線を実現した。さらにキッチン西側には、エントランスの屋根となる部分に中庭に飛び出すようなデッキテラスを配置。イペ材張りのウッドデッキにハーブや野菜を植えた鉢物のほか、アウトドア家具を置いて、自然を楽しむもう一つのスペースを生み出した。「このテラスでたまに晩酌することも」と夫妻。また、階段を介してキッチン南側に配したバスルームはタイルや人造大理石製のカウンターに白を採用し、さわやかな雰囲気に。バスタブに面したガラス張りの開口越しに中庭からの日差しが降り注ぎ、心地良いバスタイムを演出する。

「住まいを建てることでこれまで集めてきたものを思う存分置ける場ができた」と話す大輔さん。本当の意味で住み手の価値観やライフスタイルに寄り添う住まいが実現した。







上／妻の有里子さんがバッグをつくる際に使用している１階のワークルーム。オープンシェルフに飾られたカゴはかつてアメリカ・マサチューセッツ州のシェーカービレッジで購入したもの。日常を取り巻く些細（せんさい）な道具にも着目するなど、ものに対するこだわりが垣間見える。大輔さんの祖父から譲り受けたデスクは緑を眺めながら作業できるように中庭に向かって配置。デスクランプとフロアランプはアメリカの蚤の市で見つけたアンティーク　左／廊下から北側に配された寝室を見る。IKEAで購入した木製ブラインド越しに中庭からの柔らかな日差しが差し込む。寝室と階段室の間に設けた手前の壁面は妻の有里子さんがデザイン、製作したバッグを飾るギャラリーのような空間に
左頁右／休日になると何時間もこもってしまうというガレージは、古い車のメンテナンスが趣味である大輔さんのこだわりの部屋。丁寧に並べられた工具から、一つひとつの道具に対する愛着が伝わってくる。愛車はイタリア・アルファロメオ社の1960年代のジュリアスーパー　左頁左／リシン掻き落とし仕上げの外壁と中庭の視線を遮る縦格子のコントラストが美しい北側外観。ガレージのシャッターは夫妻が自ら探し出したガレージドア専門メーカー、レムコのもの。前面道路から4mセットバックした右奥の縦格子が玄関へと続く中庭のアプローチとなる



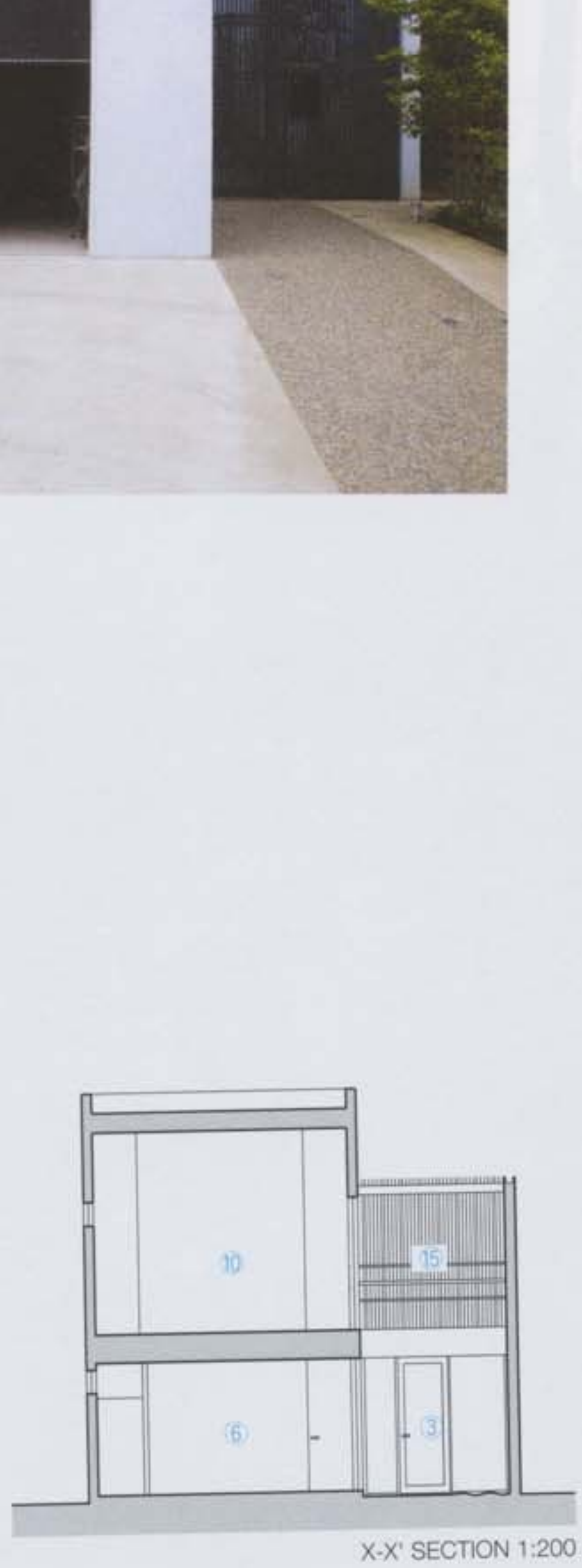


DATA

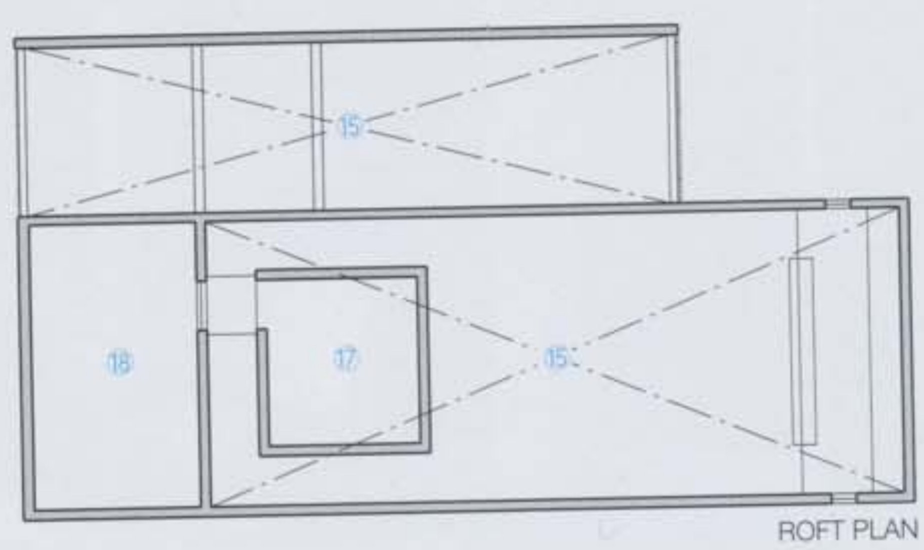
設計と規模／木造　地上2階建て
敷地面積／166.61㎡　建築面積／66.62㎡
床面積／1階66.62㎡　2階61.65㎡　合計128.27㎡
家族構成／夫（41歳）　妻（41）

※設計データは206に掲載

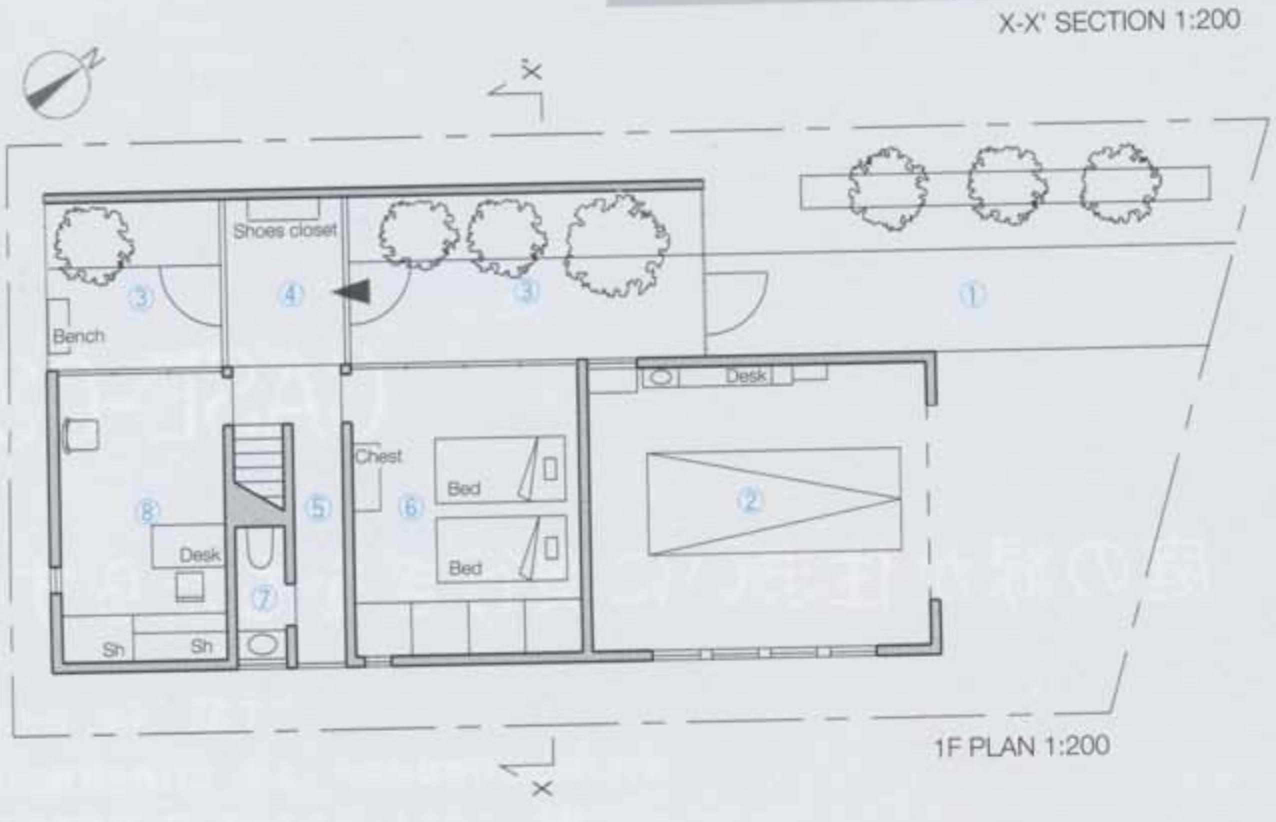
① APPROACH
② GARAGE
③ COURT YARD
④ ENTRANCE
⑤ GALLERY
⑥ BEDROOM
⑦ TOILET
⑧ WORK ROOM
⑨ KITCHEN
⑩ DINING
⑪ LIVING
⑫ STOCK ROOM
⑬ POWDER ROOM
⑭ BATHROOM
⑮ VOID
⑯ TERRACE
⑰ LOFT
⑱ ROOF TERRACE



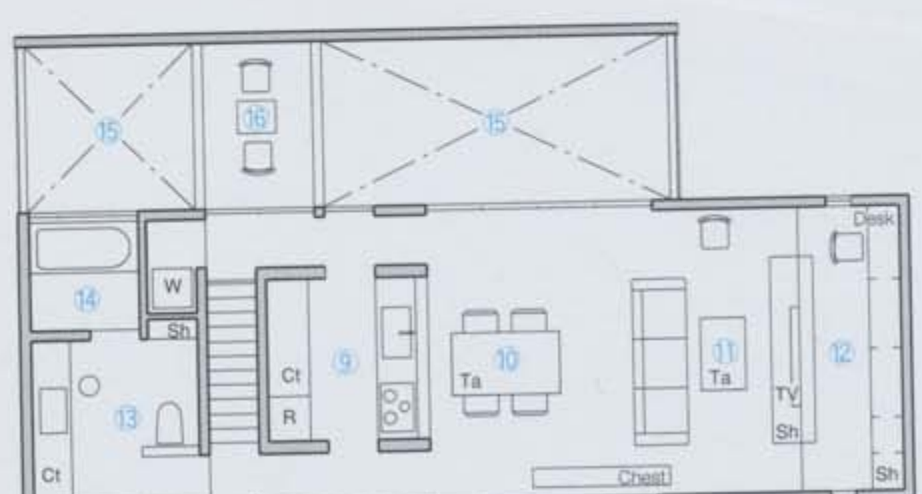
X-X' SECTION 1:200



ROFT PLAN



1F PLAN 1:200



2F PLAN



CASE-03

庭の緑が住まいに奥行きをもたらす

T邸　兵庫・神戸市

設計／田頭健司建築研究所　造園／荻野寿也景観設計
撮影／ナカサ＆パートナーズ　文／中畑美智子

Open Garden Showcase



右頁／東側に位置する子世帯の約50㎡の庭に敷いたのはコウライシバ。周囲は造園家の荻野寿也さんが山採りし大切に育てているなかから、アズキナシ、ムシカリ、ハクサンボクなど30種を選定。枝振りが自然のままに広がり、完成したばかりだが調和のとれた風景をつくり出している。南側の前面道路や東側の遊歩道との境界には、コンクリートの型枠に杉材を用いて表情を持たせた列柱を設置

上／ガレージの脇に配した長さ約10mのアプローチ奥にある約10㎡の中庭を介して親世帯の玄関を見る。中高木のアオハダ、低木のコデマリ、シダ類、コケ類、と高さの異なる植物を大胆に組み合わせ、砂利や手水鉢（ちょうずばち）など日本庭園に用いられる要素を取り入れた。春にはコデマリが白い花を咲かせ、季節の移ろいを感じさせる。右手の子世帯の玄関ホールや2階へとつながる階段からも緑が垣間見え、移動する楽しみを与えてくれる存在だ


sally storey



天井高3300㎜とした、明るく開放的な印象の子世帯のリビングダイニング。Ritzwellのソファ「Gina」に座ると、幅3675㎜×高さ2250㎜の大開口を介して庭が望め、その先は隣接する遊歩道の緑へと続く。壁は柔らかな乳白色の珪藻土で仕上げ、床は濃茶のヨーロピアンウォールナット無垢材を採用するなど、随所に用いられた自然素材が柔らかな雰囲気をつくり出す。奈良・吉野の吉野銘木製造販売に依頼してテレビボードや左手の家事室の壁はウォールナット突き板、シンプルなフォルムのセンターテーブルはアッシュ材で造作。家事室にはリビングの家族とコミュニケーションが取れるよう、一部に開閉可能な幅1100㎜×高さ700㎜の開口を設けた。奥のダイニングはリビングより900㎜北側にずらすことで、ワンルームとしながらも緩やかに場を分けている



Open Garden Showcase

すがすがしい風がそよぎ、葉影が揺れる午後のひととき。かすかに聞こえる葉音に心が和み、穏やかな空気に包み込まれる。どこにいても感じられる緑の気配が、落ち着きのある住まいに奥行きをもたらす。

約20年前に開発された兵庫・神戸市内の閑静な住宅地。角地に当たる2区画分約422㎡の敷地に、T邸は立つ。以前は1区画に立つ建て売り住宅に暮らしていたオーナー夫妻だが、近い将来、両親と同居することを考慮して新たに隣地を購入し、二世帯住宅として建て替えることに。大阪を拠点に住まいづくりをサポートする会社、スマートを通じ、以前から自然素材を効果的に用いた柔らかな作風に引かれていた建築家の田頭健司さんに設計を依頼した。

「それぞれが完全に独立した二世帯住宅」という要望を受けた田頭さんはまず、敷地のほぼ中央にガレージとアプローチを配置し、東側と2階に子世帯、西側に親世帯を振り分けることに。また、前面道路から1m以内に塀や外壁を設けることができず、空き地には植樹するというこの地域の条件を踏まえ、南側に広々とした庭を確保。造園は10年以上前から田頭さんと共に数多くの庭を手掛けてきた造園家の荻野寿也さんによるものだ。

緑に包まれた外観を眺めながら門扉を開けると、約10m続くアプローチの脇にも和庭が設けられていることに気づく。ガレージの奥に当たるこの中庭には、コデマリや六甲ツツジを中心にシダ類、コケ類など高さの異なる植物を組み合わせ、中央には苔むした阿蘇石の手水鉢(ちょうずばち)を配してゲストを迎えるスペースに潤いを添えた。土間のある子世帯の玄関ホールから、幅2[illegible]5㎜×高さ2450㎜のガラス張りのFIX窓を介して趣あふれる庭が眺められ、リビングへと進む際には、涼やかな一角に自然と目が向く。

そして、子世帯のリビングダイニングは、南側のテラスを介して約50㎡にわたるコウライシバの若々しい緑を望む伸びやかな空間。周囲には山採りの自然な枝振りをそのままに生かしたヤマツツジ、カラタネオガマタ、アズキナシなどの中高木が植えられ、雑木林を彷彿(ほうふつ)とさせる。





右頁／子世帯側のダイニングに配したalfrexのイス「Rena」に合わせてアッシュ材で造作したダイニングテーブルは、ゲストや親世帯を含めた家族が集うことを考慮して六人が座れる幅1700㎜×奥行き800㎜に。照明は上下左右のバランス調節やパーツの追加が可能なIngo Maurerの「YaYaHo」をセレクトした。正面の壁には敷地の東側に隣接する遊歩道の緑を切り取る幅1450㎜×高さ400㎜のスリット窓と、ウォールナット材で造作した長さ2300㎜の飾り棚を設けて空間のアクセントに。左手に対面式のキッチンが配されている
上／妻が最もこだわったキッチンは、収納量と使い勝手を入念に検討。ダイニングから見たときに手元が隠れるよう、高さ1100㎜のカウンターをウォールナット材で造作し、奥には幅2700㎜×奥行き1000㎜×高さ860㎜と広めのキッチンを設置。料理しながら洗濯ができるよう、左手には洗濯機とスロップシンクのスペースを設けた。左手前の収納棚の下段には、キッチンと家事室を行き来できる愛犬のためのスペースが。正面の開口は洗濯物を干すためのドライエリアに続く
左／2階へ上る階段下からキッチンを見る。リビングダイニングを通ることなくキッチンへアクセスできる動線を設け、そのライン上にバスルーム、家事室を配すことで、すべての家事がスムーズに行える。家事室は雑多なものを収めるスペースとしても活用



上／2階に設けた夫の書斎は、北側と西側2方向の窓から光と風が回り込む心地良い空間。正面の幅1883×高さ2250の開口は、愛煙家である夫のために設けられた小さなデッキテラスにつながる。休日にはアメリカ・シモンズ社による革張りのリクライニングチェア「Fjords Alfa」に身を委ね、読書や趣味を楽しむなど多くの時間をここで過ごす。向かいに配した子ども部屋の様子が分かるよう、カウンターデスクを設けた廊下側の壁に幅1200㎜×高さ650㎜の開閉可能な開口を設置　下右／2階トイレと洗面スペース。北側は隣家が迫るため、窓の位置を高めに設定した。洗面器はフォンテトレーディングを採用。奥に見える開口は和室を介してルーフテラスへとつながる　下左／子ども部屋と書斎の間の廊下。子世帯のプライベートスペースを配した2階は、親世帯の上階に当たる敷地の西側に位置する。右手の主寝室や子ども部屋と左手の書斎は467㎜のレベル差で場を分けた。左手の開口から見えるのが書斎のカウンターテーブル。目線の高さに設けた幅850㎜×高さ450㎜の正面開口が中庭の緑を切り取る







東側の屋上に設けた35㎡の広々としたルーフテラスは、子世帯のリビング3300㎜とダイニング2300㎜の天井高により生じる950㎜の高低差を生かし、二つのフロアを設けて場を分けた。高さ1250㎜の壁で囲うことで、周囲からの視線を気にせず食事や読書といったさまざまなシーンに活用。床に用いたウリン材の端材で造作したテーブルとベンチの存在が、アウトドアで過ごす時間をより心地良いものにする

ソファからは庭の全景が見渡せ、東側にある遊歩道の緑へと視線を促す。敷地内の木々が周囲の樹木と溶け込み、その連続性が風景に奥行きを与えている。「15年以上この土地に暮らしてきたが、庭の存在により街の印象までもがこれまでと異なって見える」と妻。

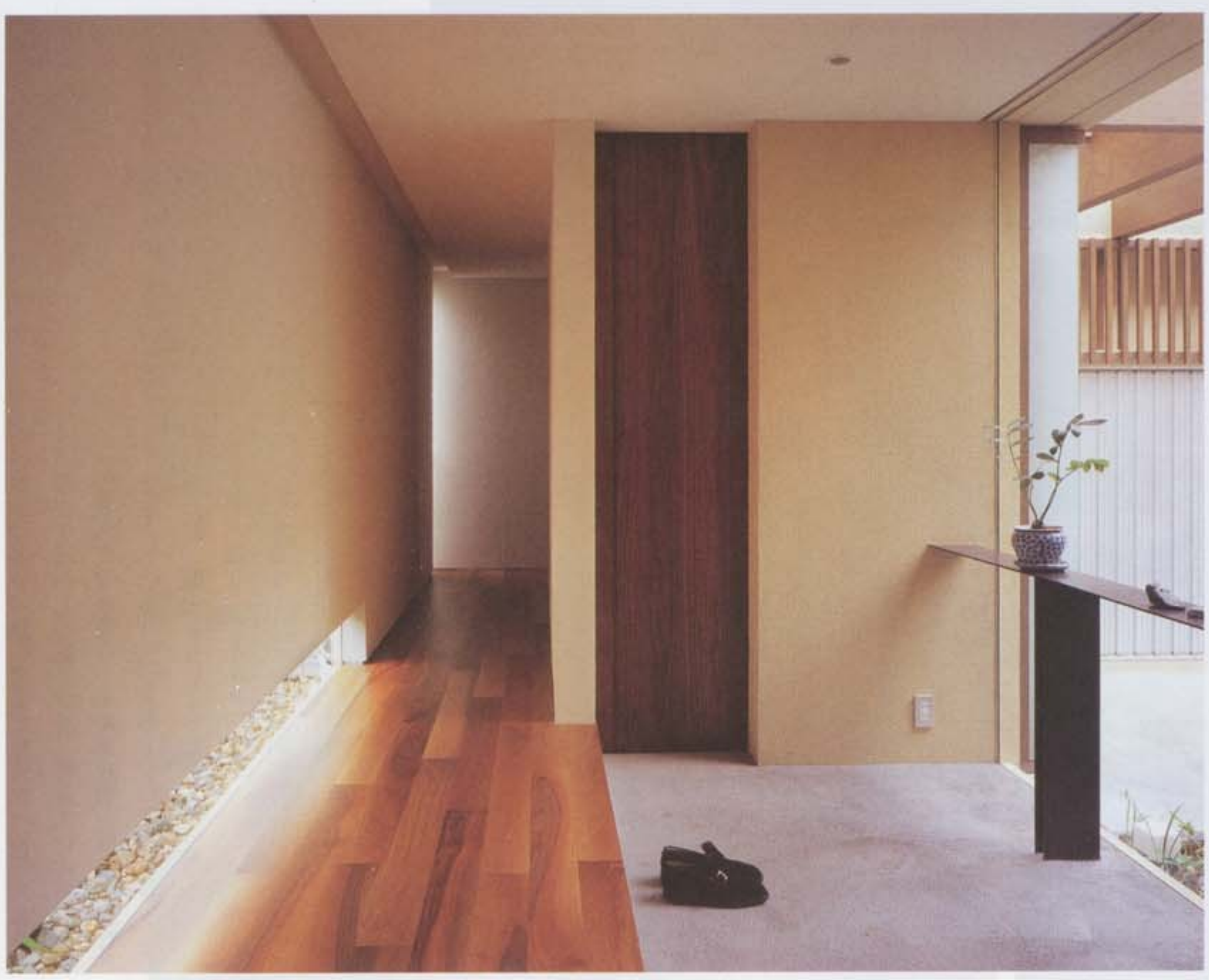
天井高3300㎜とし明るく開放的なリビングを設けた子世帯とは対称的に、親世帯は天井高2700㎜に抑えて落ち着いた印象に。道路に面する南側の壁を背景に緑が映えるしっとりとした雰囲気の庭を設け、縁側のようなデッキテラスを設置。リビングダイニングや和室、さらに寝室から眺めると、高さや広がりを考慮して植樹したヤマモミジ、バイカツツジといった樹木が襖絵のような存在感を放ち、陰影のある美しい空間を生み出している。

さらに、東側の屋上には約35㎡の広々としたウリン材張りのルーフテラスが。プライバシーを確保するため周囲に設けた高さ1250㎜の壁と、950㎜の高低差をつけた二つのフロアによって、食事や読書を楽しむなどさまざまな用途で活用できる場となった。外部からの視線を気にすることなく、緑と空のみを眺めながら過ごす時間に心が和む。

また、T邸の柔らかな雰囲気をつくり出しているのが、随所に用いた木材を始めとする自然素材。子世帯、親世帯共に、壁と天井は乳白色の珪藻土(けいそうど)で仕上げ、フローリングや造作収納に濃茶のウォールナット材を取り入れることで、空間を引き締めながらも統一感を持たせた。ほとんどが無垢材を採用したこれらは、木の育成から施工までを手掛ける奈良・吉野の吉野銘木製造販売に施工を依頼。このほか玄関に設けたヒバ材の格子戸や、各居室に配したウォールナット材の引き戸など、木材の特性を知り尽くした職人が細部までこだわって仕上げた建具は、時を経るごとにその美しさを増していくだろう。

「季節の変化が感じられると同時に、ほど良い緊張感が漂う暮らしが心地良い」と夫妻。随所に配された庭やテラスが住まいに多様な表情を与え、日々の生活に彩りを添えてくれる。自然の恵みを十分に享受できる温もりに満ちたこの空間で、穏やかな日常が営まれていく。





上／敷地の西側に位置する天高2700㎜とした親世帯の1階和室から南側のリビングダイニングを介して庭を望む。ベージュのモルタル塗りの壁を背景に植樹したヤマモミジ、バイカツツジなど4本の樹木が、幅6050㎜×高さ2250㎜の開口に切り取られ、まるで襖に描かれた日本画のよう。手前の和室には縁なし畳を採用し、一部に掘りごたつを設置　左／幅2625㎜×高さ2450㎜のFIX窓を介してガレージの中庭を望む子世帯の玄関。広々とした土間に設けた幅2500㎜×奥行き150㎜×高さ825㎜の鉄製飾り棚と、幅3517㎜×高さ300㎜の地窓が空間の奥行きを強調する。土間の脇に配した天井高2450㎜いっぱいのウォールナット材の引き戸を開けるとコートや靴の収納を兼ねたファミリー用の玄関へとつながり、奥の扉から室内へアクセスできる



南側外観。2区画分の敷地に建つ二世帯住宅だが、周囲に圧迫感を与えないよう幅や高さの異なる大小八つの直方体を並べてボリュームを抑えている。外壁の色は現地で色見本を並べて検討し、温かみのあるベージュを選んだ。荻野さんが植樹したアオダモやアズキナシが柔らかな印象を添える



2F PLAN

DATA

構造と規模／木造　地上2階建て
敷地面積／422.24㎡　建築面積／197.40㎡
床面積／1階193.06㎡　2階88.97㎡　合計282.03㎡
家族構成／夫（48歳）　妻（48）　両親（70代）
長女（15）　長男（12）　パフ（メス・4）
※設計データは207頁に掲載

①APPROACH
②ENTRANCE
③FAMILY ENTRANCE
④ENTRANCE HALL
⑤LIVING
⑥DINING
⑦KITCHEN
⑧DECK TERRACE
⑨CORTYARD
⑩JAPANESE STYLE ROOM
⑪TOILET
⑫POWDER ROOM
⑬BATHROOM
⑭WALK-IN CLOSET
⑮BEDROOM
⑯STORAGE
⑰UTILITY
⑱DRY AREA
⑲TERRACE
⑳GARAGE
㉑STUDY ROOM
㉒KID'S ROOM
㉓MASTER BEDROOM
㉔BALCONY
㉕VOID

子世帯　親世帯



1F PLAN 1:300



X-X' SECTION 1:300

Photographs : Nacása & Partners（＊以外）
Interior Styling : Madoka Fujii



1

Leather Collections

さまざまな素材のなかでも、レザーは独特の質感を持つ。牛革を中心に豚やヤギ、エイなどの天然レザーを用いた家具は時を経るにつれ光沢と風合いが増し、より深い表情が生まれる。今回は、素材や加工方法により一つひとつ異なる質感や色合いを持つ天然レザーに加え、軽量で安価なフェイクレザーを用いた家具や小物までを紹介。クールな印象と柔らかな触感を併わせ持つレザーアイテムをコーディネートに取り入れて上質な空間をつくる。



2



3



4



5



6

1. 背面に牛革、マットレスにウールを使用したブランケット付きデイベッド「CARNABY」(W1350×D1620×H760／MH350)1,470,000円・マットレスが牛革のタイプ 1,560,000円／Minotti＊ 2. 19世紀イギリス・エドワード王朝時代のデザインをリプロダクションしたイタリア、ポルトローナ・フラウ社製牛革ソファ「CHESTER」・ダークブラウン(W2080×D910×H670／SH430)1,770,000円／IDC大塚家具 ポルトローナ・フラウ日本橋＊ 3. サイズなどを日本仕様にアレンジしたドイツのブランド、ドミシールの牛革ソファ「DM-6082N」・ブラウン(W1880×D870×H720／SH430)380,000円／IDC大塚家具 有明本社ショールーム＊ 4. 牛革製シートに施したステッチやダーツが柔らかな雰囲気を醸す、ポルトローナ・フラウ社製アームチェア「Archibald」・ダークブラウン(W830×D800×H750／SH410)689,000円※11月末入荷予定／IDC大塚家具 ポルトローナ・フラウ日本橋＊ 5. シートに牛革を使用したラウンジチェア「CORTINA」(W730×D970×H710／SH380)572,000円／Minotti＊ 6. イタリア、B&B Italiaのパトリシア・ウルキオラによるデザインのソファ「TUFTY-TIME」写真は牛革製カバーリングのシャドウグレー色で、モジュールを組み合わせて多目的な用途に使える〈写真右上より〉「102/3オットマン」(W1020×D1090×H380)543,900円～ 「102/3アームレスソファ」(W1020×D1090×H680／SH380)2点各750,750円～／B&B Italia Store Tokyo＊



1

SOFA & CHAIR



2

1. イタリア人デザイナー、アントニオ・チッテリオによるデザインの牛革製アームチェア「BOSS」(W740×D900×H860／SH380) 875,700円～／PROSPECT＊　2. 本体に牛革、座面にベルベットを用いたイギリス製シングルソファ「WESSEX」(W770 ×D700×H780／SH440) 357,000円／ザ・コンランショップ新宿本店＊　3. 緩やかな曲線を描くアームが上品な印象のポルトローナ・フラウ社製牛革のシェーズロング「VESTA」・黒 (W1930×D700×H630／SH460) 665,000円／IDC大塚家具 ポルトローナ・フラウ日本橋＊　4. 牛革に施した独特の色むらが使い込むことで風合いを増すイタリア・ズマーニア社製三人掛けソファ「LUDOVICO」・マローネ (W2550×D940×H950／SH460) 2,310,000円 (パッチワークのクッションは別売)／サァラ麻布＊



3

4



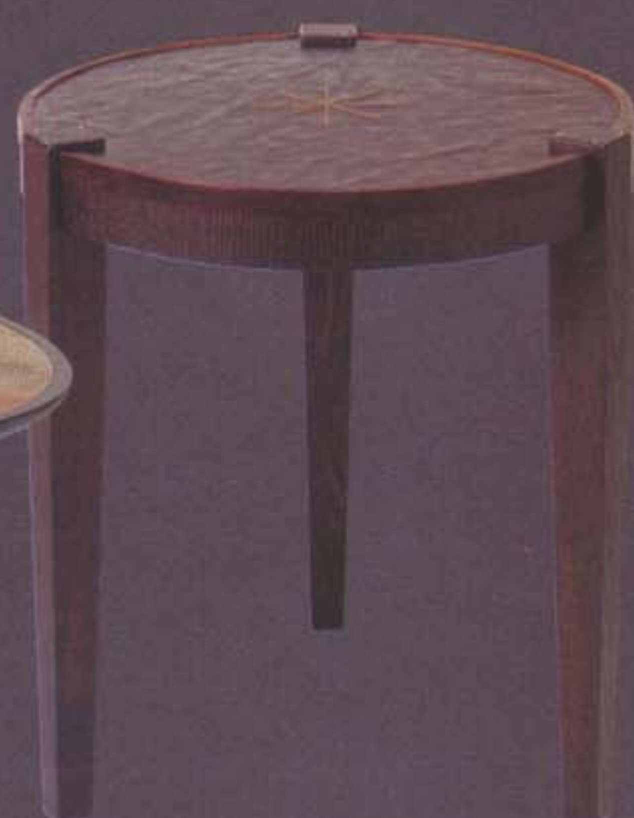


6

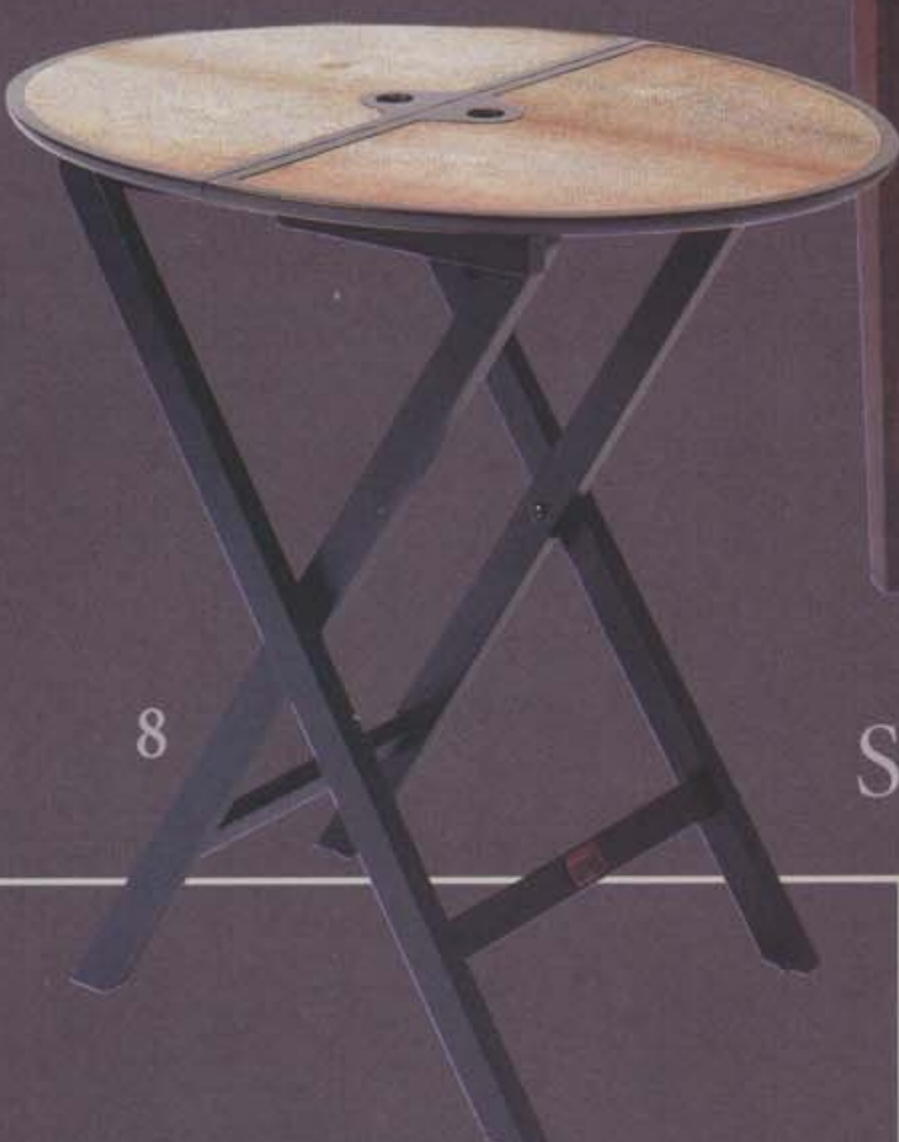


5

7



8



SIDE TABLE & LIGHT

9



5. ざっくりと編み上げた濃茶の牛革製シェードと、高さを調節できるクローム製支柱、木製ベースとの質感のコントラストが美しいズマーニア社製フロアランプ「EXTER」(360角×H1360〜1730・白熱球60W×1)161,700円／サァラ麻布＊ 6. B&B ItaliaよりMAXALTOシリーズの牛革製オットマン「SIMPLICITER・8T132/1オットマン」。レザーの色、種類が豊富にそろい、クッション性と肌触りの良さを追求した(W1320×D900×H470)559,650円〜／B&B Italia Store Tokyo＊ 7. 天板に牛革を用いたサイドテーブル「TAVOLO CAFE RIGIDO ROTONDO」(φ520×H550)231,000円／HENRY BEGUELIN 8. イタリア人デザイナー、ロメオ・ソッジによるデザインのエイ革を天板に用いたイタリア・プロメモリア社製サイドテーブル「BATTISTA」(W630×D475×H570)320,250円／トミタ 9. シートに黒い牛革、フレームにビーチ材を用いたソファ「ALISON BLACK LAC」(W1400×D975×H630／SH400) 1,161,000円(クッション込み)／Minotti＊



1

BED & CONSOLE



2



3

1. ヘッドボードは茶色の牛革ヌバック仕上げカマロレザー製のパネルを3枚組み合わせ、フレームにはウェンゲ材を採用したズマーニア社製キングサイズベッド「EBER」(W2120×D2200×H1400) 1,176,000円(枕、シーツ、ベッドカバー別売)/サァラ麻布＊ 2. 白い牛革張りのヘッドボードが洗練された印象のイタリア人デザイナー、ティト・アニョーリによるポルトローナ・フラウ社製キングサイズベッド「AURORA」(W1900×D2210×H1100/MH490〜) 799,000円(マットレス別売)/IDC大塚家具 ポルトローナ・フラウ日本橋＊ 3. B&B ItaliaのMAXALTOシリーズよりベッド「AFRODITE」。牛革張りとしたフレームの色はブラックで落ち着きある雰囲気を演出。ヘッドボードのないタイプもそろう「ヘッドボード」(W1700〜2100×D80×H1300) 546,000円〜「MSMLベッド」(W1700〜2100×D2100×H310※本体高さ) 326,550円〜(マットレス別売)/B&B Italia Store Tokyo＊



5



4



6

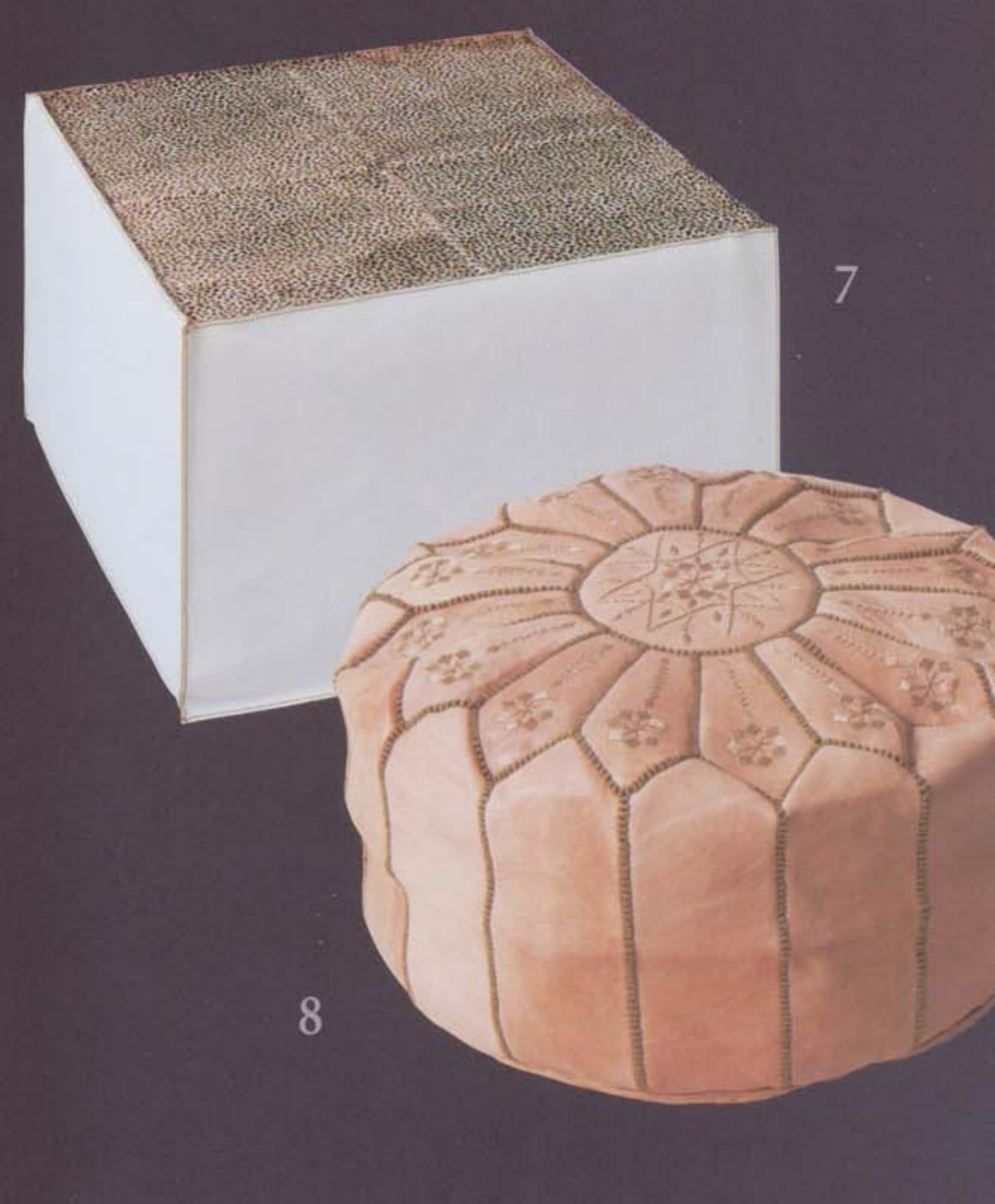
LAMP & CUSHION SOFA

4. ロメオ・ソッジによるデザインのプロメモリア社製、型押しの牛革を用いたシェルフ「'700 CASSETTIERA」・朱色(W955×D430×H770)1,386,000円／トミタ＊ **5.** シェードに合皮、ベースにインド製の牛革を使用したテーブルランプレザーベース「ランプコロンヌ」(φ180×H450・白熱球60W×1)50,400円 シェード「EM PHYTON」(φ490×H300)24,150円／メゾン ドゥ ファミーユ 青山本店 **6.** 型押しの牛革製トランク「ワトソントランク」(W1300×D800×H400)226,800円／メゾン ドゥ ファミーユ 青山本店 **7.** トップにポニー、サイドに牛革を用いたスツール「POUF DADONE」(730角×H440)336,000円／HENRY BEGUELIN **8.** モロッコ・ディアモロッコのヤギ革製オットマン(φ500×H300)42,000円／CIBONE AOYAMA＊ **9.** ロメオ・ソッジによるプロメモリア社製、キャスター付きの牛革を用いたテーブル「TAM TAM」・大(φ300×H460)361,200円 小(φ400×H370)388,500円／トミタ＊

9



7



8

DINING CHAIR



2



1



5



4



3



7



6



8

RUG & CUSHION

1. 座面に牛革、脚部にブナ材を使用したロメオ・ソッジによるプロメモリア社製のハイスツール「CAFFE' SCRANNO」・藤色(W515×D520×H1020／SH800)315,000円／トミタ＊ **2.** タバコ色のリザードレザーを使用したアームチェア「CLASSIC」(W650×D630×H725／SH460) 1,506,750円／アルマーニ / カーザ＊ **3.** ポリアミド製フレームを牛革でカバーリングした、イタリア・zanotta社のチェア「KATE」・黒(W530×D550×H800／SH460) 198,450円／ヤマギワリビナ本館＊ **4.** 牛革のハラコを用いた「スポレットチェア」(W470×D597×H800／SH470)357,000円／ノールジャパン＊ **5.** アントニオ・チッテリオによるデザインのシートとアームに牛革を用いたアームチェア「HOLLYWOOD」(600角×H760／SH400)472,500円／PROSPECT＊ **6.** 〈右奥から時計回り〉中央に縫い合わせでクロスを描いたラムレザークッションカバー・アイボリー(450角)14,490円／CIBONE AOYAMA デザイナー、佐藤明美によるIMECAのオーストリッチの毛を用いたクッションカバー・茶(450角)12,600円／ニーディック イギリス・オーエンバリー社のハラコ製クッションカバー・白(450角)23,100円／BALS TOKYO リネン&ラムレザー製クッション・白(430×240)23,940円／STYLE MEETS PEOPLE 表面が牛毛、裏面がリネンでできたフランス・メゾン ド ヴァカンスのクッション・オレンジ(350×500)25,200円／CIBONE AOYAMA フェイクファーを用いたフランス・アレクサンドルチュルポー社製のフェニックスシリーズのクッション・シルバー(400角)19,530円／ASAHEI フランス・ベルガスの白と茶のハラコ製格子柄クッションカバー「COW HIDE」・茶(450角)10,500円／SHOP DETAIL NAKAMEGURO 山ヤギの毛を用いたクッションカバー「モンゴリアンクッション」・黄緑(550角)57,750円／BALS TOKYO IMECAの牛革型押しに銀箔プリントを施したクッションカバー「リザードシルバーSL パッチワーク」(450角)17,640円／ニーディック イタリア製ラビットファーを用いたクッションカバー・ベージュ(500角)49,800円／マチュリテ ベルガスのハラコ製格子柄クッションカバー・赤「COW HIDE」10,500円／SHOP DETAIL NAKAMEGURO **7.** 毛足が長い牛革に、シベリアンタイガー柄のプリント仕上げを施したズマーニアのラグ「Tigre Siberiana」(約2500角)635,250円／サァラ麻布＊ **8.** 〈右上から時計回り〉イタリア製ラビットファーを用いたラグ・グレー(2000×1400)149,000円／マチュリテ イタリア・Parentesi Quadraのヤギ革製ファーカーペット「KID」・白(φ1300)340,000円 同ブランドの羊革製ファーカーペット「BIG PUNK」・黒(1500×1700)420,000円／以上アルチザンサンク



2



1



3

RUG & CUSHION

1. ベルギー、リミテッド・エディション社製の牛革を編み込んだラグ「ZANZIBER」(1650×2200)630,420円／マナトレーディング 東京ショールーム＊　**2.**〈右奥から時計回り〉オーエンバリーの牛革ハラコ製クッションカバー「ヘアークッションカバー」・茶(450角)23,100円／BALS TOKYO　牛革に鋲を施したIMECAのクッションカバー「レザーリベット」・黒(450角)13,440円／ニーディック　ホースヘアー&ラムレザーを用いたクッション・黒(480角)67,200円／STYLE MEETS PEOPLE　アレクサンドルチュルポー社製、サマラシリーズのフェイクファーを用いたクッション・黒(250×500)17,220円／ASAHEI　羊革スエード製クッション「BAZAR BICOLORE」(450角)71,400円／HENRY BEGUELIN　IMECAのオーストリッチの毛を用いたクッションカバー・グレー(450角)12,600円／ニーディック　水牛の革を編み込んだクッション・茶(460角) 14,640円／ヒッカドゥワ 西麻布店　イギリス・オーエンバリー社の牛革スエード製クッションカバー・黒　グレー(450角)各12,600円／リビング・モティーフ　中央に縫い合わせでクロスを描いたラムレザークッションカバー・赤茶(450角)14,490円／CIBONE AOYAMA　**3.**〈右上から時計回り〉フランス・ベルガスの赤い牛革ハラコ製ラグ「COW HIDE」(2000×2090) 99,750円／SHOP DETAIL NAKAMEGURO　牛革のラグ「KOLDBY カウハイドアソートパターン」(2600×2100) 24,900円／イケア・ジャパン　IMECAのチベットラムの羊毛皮付きマルチカバー「チベットラム マルチカバー」・緑(1000×1500)83,790円／ニーディック

4. アメリカ・BDDWのフレームに牛革を用いた壁掛けミラー「CAPTAIN'S MIRROR M」(φ530×t50) 304,500円／STYLE MEETS PEOPLE　5. 牛革製トレー「VASSOIO ROUND」(φ500×H40) 147,000円／HENRY BEGUELIN　6. 牛革製の黒いトレー「LEATHER SQUARE TRAY」(400角×H60) 16,800円／ザ・コンランショップ 新宿本店　7. 格子柄の型押しを施した牛革製の黒いハンドル付きバスケット「THOR」(φ300×H300) 147,000円／アルマーニ / カーザ＊　8. リプロダクションのフレームにレザーを用いたミラー「TOBACCO」(W650×H1630) 262,500円／ロイズ・アンティークス エゴイスト　9. フランス・ミディピー社製牛革のマガジンラック (W300×D240×H235) 31,500円／リビング・モティーフ

GOODS



4



5

8





6



7



9



STAY IN BARCELONA

HOTEL 1898

魅力あふれるスペイン・バルセロナには年間約800万人の観光客が訪れる。地中海性の穏やかな気候、陽気な人々、多くの芸術遺産…。そんな活気あるこの街の中心を走るLa Ramblas通り沿いに、19世紀の趣を色濃く残すクラシックな佇まいのHOTEL1898は立つ。建物内には、コロニアル様式にモダンな要素を添えた静謐(せいひつ)でゆったりとした空気が流れていた。

Photographs : Nacása & Partners
Coordinate & Text : Michiko Hirata



右頁／スペイン・バルセロナに佇むHOTEL1898。かつてタバコを商業栽培していたフィリピン・タバカレラ社の本部として使用されていたコロニアル様式の建物だ。5階にあるコロニアルスイートは、リビングとベッドルーム、テラスにはプライベートプールを有する。コロニアル様式のレザー張りのイスや上質なファブリックのソファが落ち着きのある空間を演出。壁面にはかつて植民地だったフィリピンの情景を写した写真が。コーディネートはネオ・クラシック（新古典）様式を取り入れ、ディテールとマテリアルにこだわるスペイン人デザイナー、Rosa Rosellóが手掛けた。ホテル全体を黒・茶・白の3色のコンセプトカラーで統一している
左／同じくコロニアルスイートのベッドルームはにぎやかなGracia通りに面しているが、室内はとても静かだ。黒を基調とした空間に黒と白のストライプのファブリックを使用して、クラシックな空間を軽やかにまとめた。天井やラグの白が海や船をイメージさせる。左の奥はバスルームへと続く

スペイン・バルセロナの午後9時。旧市街の中心、ゴシック地区にあるランブラス通りは日が落ちてもなお活気にあふれている。海岸近くに立つコロンブスの塔からカタルーニャ広場まで、約1㎞にわたってブティックや飲食店が立ち並び、中央の歩行者専用道路では多くの人々が大道芸人を囲む。ちょうど、仕事帰りに仲間と軽く飲んだ人々が夕食へと向かう時間だ。

通りのほぼ中心に位置するＨＯＴＥＬ１８９８。その名はアメリカとの間に起きた米西戦争によりスペインが植民地のフィリピンを失った１８９８年に由来している。かつて、フィリピンのタバコ産業が隆盛に向かっていた19世紀初頭から、タバコを商業栽培するフィリピン・タバカレラ社の本部として使用されていたコロニアル様式の建物で、ランブラス通りのなかでも特に優雅な存在感を放つ。

ピント・フルトゥン通りに面した正面玄関でポーターに荷物を渡すと、スペイン語訛り(なま)の英語でレセプションまで案内される。約１７０の客室を用意するこの建物のインテリアは、数多くのホテルを手掛けるスペイン人デザイナー、ローズ・ローセオによるものだ。彼女は近年のデザインホテルに多く見られるミニマルな空間とは一線を画し、18～19世紀にヨーロッパを風靡(ふうび)したネオ・クラシック（新古典）様式をベースとしたエレガントなスタイルを得意とする。ロビーはタイル、レンガ、木材を用いたフロアにレザー張りのソファを合わせて重厚感を演出。さらに濃紺、赤、緑と白が美しいストライプのファブリックを張ったソファをアクセントにあしらうことで、軽やかさを与えて空間のバランスを図っている。また、壁や天井、家具などの装飾は、海や船をテーマに全体の雰囲気を統一。そこにはランブラス通りの喧騒(けんそう)が別世界のように静寂な時間が流れている。

5階にある〝コロニアルスイート〟ルームへと薄暗い廊下を進み、扉を開けると、ロビーと同じく黒、茶、白を基調にコーディネートされた室内にテラスからの光が柔らかに差し込んでいた。色合いや表情の異なる木材やクロムメッキを施したドアハンドルから、妥協のないディテールへのこだわりが感じられる。壁に使用され

（１３９頁に続く）





上／バスルームからベッドルームを見る。壁紙やカーテンなど、随所に黒と白のストライプを用いてモダンな印象を添えた。ベッドルーム脇のバスルームは、白くペイントされたドアや框と、床や壁、洗面台にあしらった大理石が描くコントラストが美しい。クラシックとモダンがバランス良くミックスされ、心地良い空間をつくり出している　右／室内には15種類の紅茶のセレクトボックスとスイーツが用意され、午後の時間をゆっくりと楽しめる
左頁／バルセロナの街を見渡すことができるコロニアルスイートのルーフテラス。アウトドアリビングやダイニング、プライベートプールが配されたこの場所で、スペインの日差しを思い切り満喫できる



STAY IN BARCELONA

HOTEL 1898





右頁／地下1階のリラクセーションゾーンに設けた室内プールは、アーチ状に積まれた赤茶のレンガと真っ青なタイルが美しいコントラストを描き、照明が幻想的な空間を演出する。マッサージメニューが充実したスパは、小さなフィットネスセンターも併設されている
上／バルセロナの中心に位置するHOTEL1898では多くのビジネスミーティングが行われるため、コンベンションルームの機能も備えている。ビジネスからプライベートまで幅広い用途に対応

ている炭化処理をしたウッドパネルはアフリカから取り寄せたもの。そして、リビングとベッドルームに面したテラスには、アウトドアダイニング、さらに一段上った場所にはアウトドアリビングとプライベートプールが配されていた。眼下には葉を茂らせるプラタナスの木の間からグラシア通りのにぎやかな様子が垣間見える。壁や床に貼った緑と黒が美しい濃淡を描く大理石が印象的なバスルームで旅の疲れを癒し、キングサイズのベッドに身を沈めてゆったりと眠りに就く。

日差しがさわやかな夏には、バルセロナの街の眺望を堪能できるルーフトップのデッキテラスで、屋外プールを楽しみたい。プール脇のレストラン、ラ・イザベラでは、真っ白なパラソルの下、リラックスした雰囲気にコーディネートされたテーブルで朝食を取ることも。周囲の建物の間から顔をのぞかせる歴史的な建造物に思いを馳せながら、特別なひとときを過ごすことができる。また、屋内に設けられたリラクセーションゾーンにも、アーチを描く赤茶のレンガと真っ青なタイルがコントラストを描き、幻想的な雰囲気が漂うプールが。その横には、スパ、フィットネス、サウナを用意し、至上のくつろぎを提供する。

ホテルのレセプションでパーソナルショッピングサポートを依頼すれば、事前に興味のあるものをヒアリングし、バルセロナ中の店舗を熟知したアドバイザーがショッピングプランを作成し、案内してくれる。ピカソ美術館やサンタ・マリア・デル・マール教会を散策した後は、地元の人でにぎわうバル(タパスと呼ばれる小皿料理を出す店)でカタロニア料理を味わう。そのままホテルまで歩き、日中のさわやかな雰囲気とは異なる表情のラ・イザベラでカクテルをオーダー。モンジュイックの丘の向こうに夕日が沈み始め、バルセロナの空が鮮やかな赤に染まるなか、湿気を帯びた風を感じながらスペインの太陽の余韻を楽しむ、最高の贅沢がここにある。





STAY IN BARCELONA

HOTEL 1898



HOTEL INFORMATION

LOCATION：スペイン、バルセロナ・エル・プラット空港から車で16km　最寄りのメトロCatalunya駅から徒歩約10分

「HOTEL1898」
Address : La Rambla, 109, 08002 BARCELONA, SPAIN
Tel.+34 93-552-9552
Fax.+34 93-552-9550
e-mail : 1898@nnhotels.com
URL : http://www.hotel1898.com

ROOMS：169室
OFFICIAL RATE
Classic 182.92～219.35€
Junior Suite 385.20～444.05€
Colonial Suite 1300.05～1460.55€
※シーズンによって変動するため詳しくはウェブサイト参照

右頁／ロビーの一角にあるBar H1898。左手のバーカウンターは夕方になると多くの人々でにぎわう。近くのBoqueria Market（ボケリア市場）から仕入れる新鮮な素材を使用したタパスも数種類そろう。このバルのほかにRestaurant H1898とルーフトップのバル、La Isabelaでも食事が楽しめる
上／重厚感が漂うロビーのインテリアは、ソファのレザーに黒と白のストライプがシャープな印象。白く塗装した天井と梁も室内を軽やかに見せる演出の一つ　左／ピント・フルトゥン通りに面した正面玄関。17～18世紀にかけて発達したコロニアル様式の建物で、最小限の装飾のディテールにも伝統が感じられる。正面のアーチは建物内まで続き、門をくぐると大理石の床や柱が美しい造形を見せる

Sequence of Lighting



自然と交わり命を宿した建築は、生き物のように自由に羽を広げ、独創的な居住空間へと姿を変える。自らの宇宙観に基づいた異彩を放つデザインを生み出す一方、家族の安らぎと心の潤い、快適さを追求し、日本の文化や自然観を込めながら住宅の本質を探る建築家、髙﨑正治。人や自然、素材が響き合う「環境建築」をモットーに、構想27年・施工期間3年半を費やし、2009年5月に「天地のいえ」と名づけた住宅を完成させた。世界に通用する新しい日本の木造住宅を通して、彼が考える建築、住宅、そして住まいに対する思想に触れる。

多様な光に包まれた造形的な木造住宅

伊藤邸　愛知・名古屋市

設計／高崎正治都市建築設計事務所
撮影／ナカサ＆パートナーズ　文／川瀬みゆき


自動車・原付

142・143頁／「生きた建築をつくる」をテーマに5年がかりで完成させた木造地上2階建ての伊藤邸。道行く人も振り返る独創的なデザインが、街のランドマークとなる。凝った意匠の一つひとつに意味を込め、自然環境を最大限に取り込みながら、人と住まいが一体となる生命力あふれる建築を創造
左頁／四方に広がるガルバリウム鋼板の屋根が光を反射し、見る角度によって千変万化する建物を北側から俯瞰する。宇宙船や工場の煙突を思わせるキューポラを有した4本の「交流管」は、ファサードを印象づけると同時に、採光と通風の役割を担う



髙崎正治　Takasaki Masaharu

1953年・鹿児島県生まれ。'77年・新建築国際住宅設計競技グランプリを受賞したことをきっかけに、23歳でヨーロッパに渡り、建築家ピーター・クック教授に師事。ドイツ・シュツットガルト大学、オーストリア・グラーツ工科大学の教授と協働を経て、'82年・TAKASAKI物人研究所、'90年・髙崎正治都市建築設計事務所設立。現在、王立英国建築家協会名誉フェロー、京都造形芸術大学教授、インスブルック大学教授。主な作品は、'91年・アトリエ・住居「ゼロのいえ」(鹿児島)、'92年・玉名市コミュニティー施設「玉名天望館」(熊本)、'95年・輝北町コミュニティー施設「輝北天球館」、保育園「照明保育園」、'96年・美術館「南溟のいろ」、'98年・高齢者複合施設「なのはな館」、2000年・住宅「しろのいえ」(以上、すべて鹿児島)

4本のキューポラを有する交流管が突出したメタリックなドーム型の屋根、縦横無尽に広がる軒、弧を描く外壁……。住宅の概念を超越し、まるで宇宙船が舞い降りたかのような住まい。周囲に住居や町工場などが混在する愛知・名古屋市内の準工業地域でひと際目を引くその意匠は、唯一無二の個性を放ち、建築が持つ無限の可能性を感じさせる。

　オーナーの昌代さんと三人の子どもたちが暮らす木造地上2階建ての住まいは、昌代さんの母、敬子さんが主導となり実現。約5年前、敬子さんが息子夫婦と暮らす二世帯住宅を手掛け、今回、新居の施工も任されていた地元の建築施工会社、夢建築ホロンの安藤友治さんの紹介で、建築家の髙崎正治さんと出会ったことが設計を依頼するきっかけとなった。以前から、髙崎さんの建築に対する思想に共感を抱いていた安藤さんは、敬子さんと共に鹿児島にあるアトリエを訪問。光をテーマに小宇宙を創造した近未来的なアトリエや、髙崎さんが設計した指宿市内にある広大な高齢者複合施設「なのはな館」などを見学し、想像を絶するスケール感、どのシーンにも意味のある奥深い心の建築に感銘を受けた。

　髙崎さんの建築は、「ものに人の心を宿す」という一貫したテーマを持つ。「光、風、水、木、土といった自然の要素を取り入れ、空間に生命を与えながら人と一体化させ、五感に響く生きた建築をつくる」。曲線を多用するのも、常に揺れ動く自然界の姿を表現するためだ。また、つくり手のエゴイズムや合理性を優先した「建物」や「物件」ではなく、住まいは人の手で大切につくり上げる「建築」と呼ぶことにこだわる。

　以前、工場を併設する古いビルに暮らしていた経緯から、新居は台風時の強風を受け止め、木の温もりあふれる「丸味のあるデザイン」を望んでいた。漠然としたイメージと最低限の要望だけを伝え、デザインや素材についてはすべて髙崎さんに一任。プランニングに1年半を要して施工に入った伊藤邸は、日を追うごとに斬新なかたちが構築され、ふんだんに用いた自然素材の鼓動が空間の中で徐々に力を増していく。独創性あふれる生き物のような建築に近隣の住人さえも想像力を掻き立てられ、完成までの3年半、誰もが見守っていた。

　大胆な造形のファサードとは対照的に、この住まいのストーリーは柱や壁に包まれた静かな路地から始まる。奥に控えた中門をくぐり、緩やかにカーブするアプローチを飛び石伝いに歩くと、右手にビオトープへと続く〝水を招く階段〟、正面には玄関へと続く〝人を招く階段〟が。この手前で靴を脱ぎ、白く塗装された階段を上がると、太陽を意味する丸窓をしつらえた瀟洒な玄関扉が迎えてくれる。角地を生かし、東側から北側へと緩やかに蛇行した住まいを囲むビオトープは、東側にヤマモミジ、北側に灰の木を植樹して〝心〟の字形を表現した。「家族の世界へと切り替わる大切なアプローチに心の文字を込めた。またビオトープを結界に見立てることで水が人や住まいを清め、神聖な場所となる」と髙崎さん。

　室内は3層を一体とした地上2階建てで、それぞれテーマを持たせた各層が吹き抜けを介してつながり、光と風が満ちる「循環空間」となっている。1層は、階段が取り囲む舞台のようなパブリックリビングをメーンに、キッチンやバスルームなど生活機能を集約。パブリックリビングの中心には住まいのシンボルでもある「光柱」と呼ぶ逆円錐形の大黒柱が鎮座し、この柱を起点として、床に鏡を埋め込んだ12本のライン「光線」を放射線状に施し、太陽の輝きを表現した。通気孔を兼ねた七つの天窓は空気の流れを促す役目を果たしてる。サクラ材のフローリング、ヒバやヒノキ材の円柱群が風と自然光をまとい、住まいの中心から放たれる光の筋により、まばゆい森のような空間を生み出した。多角形を成すリビングは階段のレイアウト





Sequence of Lighting

も変化に富み、家族やゲストが思い思いに腰掛けて互いに心を通わせながら時間と空間を共有する。どっしりと根を張る光柱を丸く囲み、温かな団らんが繰り広げられる。そんな情景をイメージした髙﨑さんは、人が集う1層を「円居の空間」と名づけた。

2層は、らせん状に広がる吹き抜けが3層へとつながるダイナミックな「日向の空間」。吹き抜けを中心に四つのプライベートルームを配し、各居室の形状やデザインを変化させて個性と自由を謳歌できる空間とした。1層から階段を上ると、壁伝いに動線がカーブし、視界が開ける吹き抜けへとおのずと導かれる。吹き抜けに架かる「曲・太鼓橋」も自然な曲線を描き、橋から上を仰ぐと、ドーム型の天井に設けられた「天鏡」が万華鏡のように輝く3層「円空の空間」が迫る。この天井を支えるように林立する12本の柱と1層から続く光柱が吹き抜けを貫き、屋根から突き出た4本の「交流管」がもたらす光や風と戯れながら天へと吸い上げられ、宇宙への広がりを創出。柱は日本家屋の象徴で、この伊藤邸を「天地のいえ」と名づけたのも、柱が天と地をつなぐ住まいの要であることを表すためだ。

曲・太鼓橋を渡ると、光と外の景観を大胆に取り込む大小多数の窓が見える。「窓に角度をつけることで外部が多彩な表情で切り取られ、周辺の環境をより楽しめる」と髙﨑さん。また、窓の角度と大きさ、配置は、東西へと移動する太陽の軌道に沿って設計。さまざまな視点から内外の風景を眺め、曲線に従い自然と体が動く空間は五感を刺激して暮らしを活性化させる。このような建築を「クオリア空間」と呼び、長年の経験の末に行き着いた新たなテーマとする。

伊藤邸は柱や梁、筋交い（柱と柱の間に斜めに入れた補強部材）といった木の部材を組み立てて建物を支える日本の伝統的な「木造在来工法」を採用。コンクリートや鉄骨でも不可能ではないが、無垢材の持つ魅力や木造軸組工法の良さを引き出し、新しい木造建築、森の哲学（木は集まって森となる）を日本から世界に発信





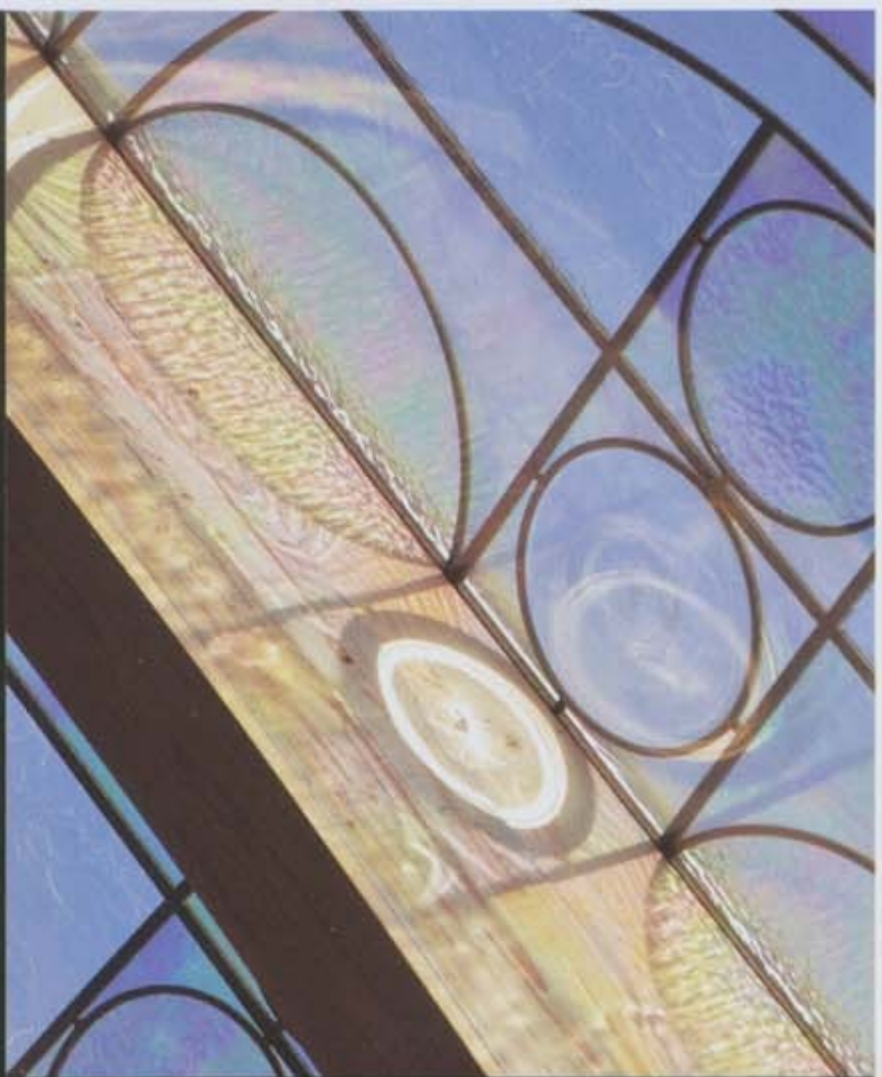
右頁／奈良産のサクラやヒノキ、ヒバなどの無垢材をふんだんに使用し、階段をしつらえた1層のパブリックリビングは美しい音楽ホールのよう。直径最大600mmの大黒柱である「光柱」を起点として床に鏡を埋め込んだ12本の「光線」を放射線状に這わせ、住まいの中心から太陽が光を放つストーリーを表現。公園の緑や自然光が北斗七星を描く七つの円窓に映り込み、室内に幻想的な風景をつくり出す。通気口を兼ねた開閉可能な円窓の蓋は南向きに開く仕様。間仕切りとした円柱群の奥はダイニングキッチンと、オーナーの昌代さんが主催するケーキやパン教室のための業務用キッチンをしつらえた
右下／2層の居室にある円窓から「曲・太鼓橋」を眺める。約180mmの壁厚を生かした奥行きのある円窓は生き物の目を表し、「住まいの中の小宇宙をのぞく」という設定　左上／玄関ホールから右手にパブリックリビング、左手にアプローチを望む。多様な形状の窓は、東西南北の光と周辺環境を最適なかたちで受け止めるよう綿密に計算して配置。ビオトープの中にしつらえた高さ7.6mの門柱は寺社仏閣の屋根をモチーフとし、日本の建築美を表現した　左下／前面道路柱と壁に囲まれた路地からヤマモミジや門柱、ビオトープを垣間見る。緩やかな蛇行により「心」の字形を成すビオトープは、外部との関係を援やかに仕切る結界でもある



することを目指した。一般的に水平垂直の部材で構成されるこの工法は、大工道具として不可欠な曲尺（かねじゃく）（直角に曲がった物差し）と下げ振り（垂直を計る道具）を使用するが、大工にとって未経験である立体的かつ直線や直角に囚われない自由な建築は、高度な技術が要求された。

夢建築ホロンを始め、大工を含めた現場に携わるおよそ5人と完成した空間イメージを共有するため、髙﨑さんの事務所では全体と部分の両方が分かるよう「外観モデル」「内観モデル」「架構モデル」を1／30のスケールで製作。さらに、玄関や曲面の壁、「ゼロの空間」といった最も複雑な形状は、より詳細な1／10の模型も用意した。これらの模型と1年半をかけて髙﨑さんが手書きで完成させた膨大な数の図面を現場に持ち込み、それを基に作業を開

（150頁へ続く）









右上／蜘蛛の巣のようにデザインされた壁や窓、ツノが伸びた軟体動物のような壁。宇宙観に包まれた階段が未知の世界へと誘う。南九州のシラス（火山灰）で塗り固めた壁に、筒状の窓をあらゆる方向に施した「ゼロの空間」の内部は、長女の奈未さんの部屋。室内にそのまま表れた化粧垂木がリズミカルな印象を与える　右下／階段を上ると動線は壁伝いに自然とカーブし、吹き抜けに架かる曲・太鼓橋へと導かれる。障子が垣間見える右手の居室は昌代さんの寝室。上部のステンドグラスからこぼれる光を受けつつ橋を渡ると、長男・伊佐武さんと次男・幸司さんの居室「仙居の空間」　上／建築家の髙﨑正治 さんがデザインし、ステンドグラス作家の相馬　修さんとつくり上げたトップライト。「透明感あふれる水紋をイメージした、日本的なステンドグラス」と髙﨑さん。このほか、居室の扉や玄関扉にもオリジナルのステンドグラスをあしらっている　下／玄関扉へと続く階段の一歩手前にある踏石に、白い砂利で「人」の文字を描いた。家族の住まいが始まることを意味する神聖なこの場所で靴を脱ぐ

左頁上／天空とのつながりを表現した吹き抜けのドーム内。「血潮」家族の絆（きずな）をイメージした直径1500㎜と4000㎜の赤いサークルから12本の円柱を生やし、中心には1層から続く高さ12ｍの光柱が天井まで貫く。林立する円柱群に自然光や「天鏡」の輝きが木漏れ日のように降り注ぎ、すがすがしい森のような空間を創出　左頁右下／和の趣を呈した昌代さんの寝室。障子の両脇の壁は水平方向のスギ板と垂直方向のスギの角材を交互に組んで、日本の伝統工法「大和貼り」とした。空間を引き締める直径240㎜のヒノキ材の磨き丸太は背もたれの役目も　左頁左下／33個の円窓を配した奈未さんの居室。壁と天井にシラスを塗り込んでいるため窓には奥行きがある。床にしつらえた円窓と光線は1層と同じ配置で、空間につながりを持たせた。調湿・断熱・清浄作用のあるシラスやフローリングの無垢材が新鮮な空気をもたらす









東側外観。待合をしつらえた静かな路地から中門をくぐると、住まいのストーリーを描くドラマチックなアプローチが始まる。路地の上部は2層の居室からつながるテラス「空の舞台」。周辺環境と積極的に交わり、光と風が戯れる心地良い木の住まいは、「ものに人の心を宿す」という建築ポリシーと独創性あふれる感覚、職人の伝統技術、そして自然の力によって生まれた

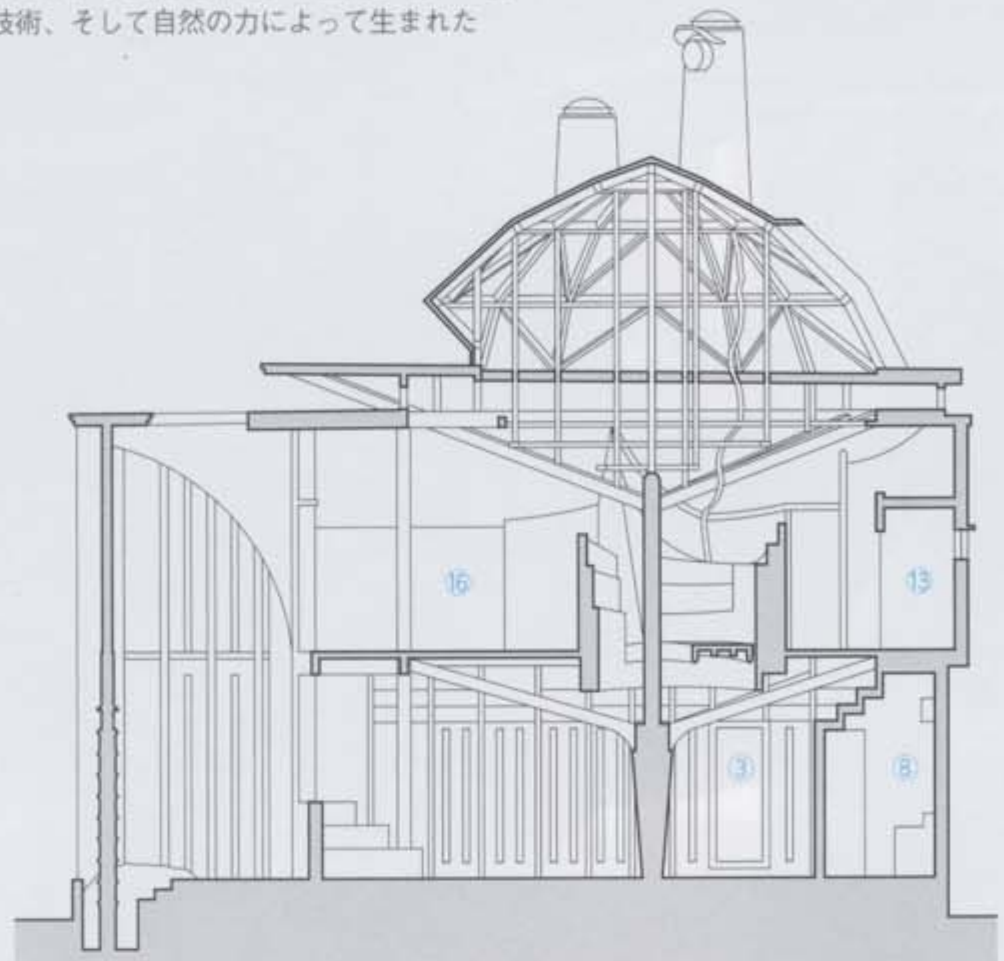
DATA

構造と規模／木造　地上2階建て
敷地面積／172.52㎡　建築面積／102.44㎡
床面積／1階90.88㎡　2階60.65㎡　合計151.53㎡
家族構成／伊藤昌代（48歳）　伊佐武（22）　幸司（19）　奈未（18）

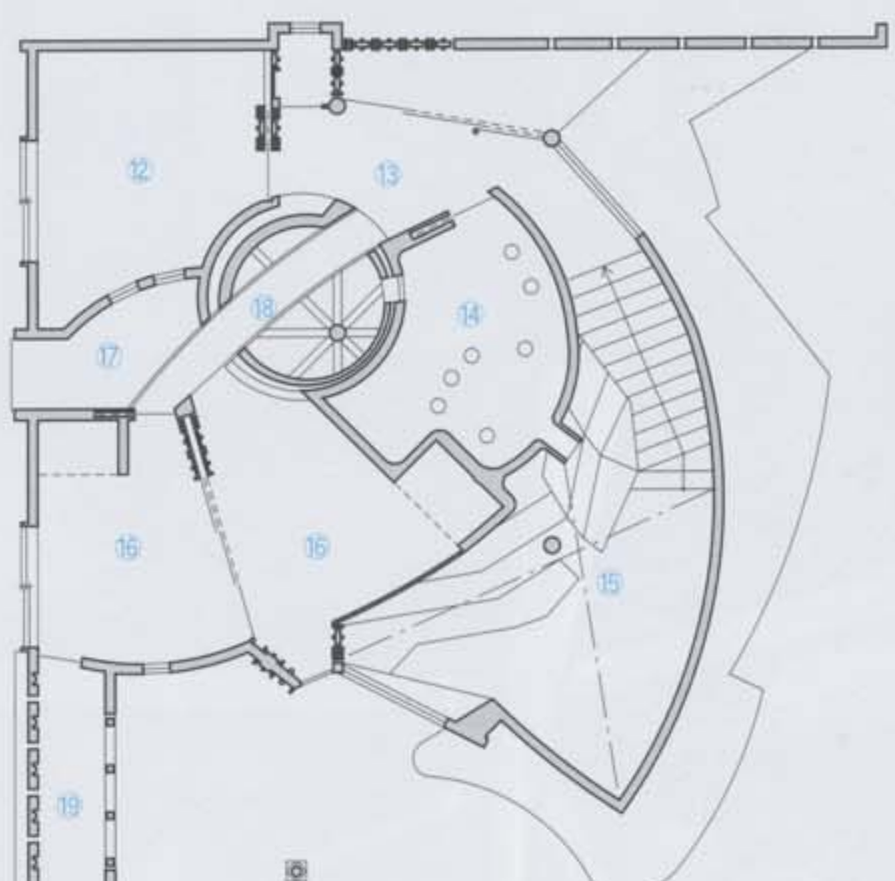
※設計データは207頁に掲載



1F PLAN 1:200



X-X'SECTION 1:200



2F PLAN

① APPROACH
② ENTRANCE
③ PUBLIC LIVING
④ DINING & KITCHEN
⑤ LOUNGE
⑥ STUDY SPACE
⑦ TOILET
⑧ POWDER ROOM
⑨ BATHROOM
⑩ PARKING
⑪ BIOTOPE
⑫ MASTER BEDROOM
⑬ PRIVATE LIVING
⑭ SPACE OF ZERO
⑮ VOID
⑯ SPACE OF SENKYO
⑰ ROOM OF YAMANOZE
⑱ BRIDGE
⑲ STAGE OF SKY

始。髙﨑さんは施工途中の現場に月に2、3回、仕上げの時期は週に1回の頻度で通い、さらに同じ模型を事務所にも用意して互いの意図を伝えながら進めた。

まず、コンクリートで基礎を打ち、その上に柱や梁、筋交いを始めとする各部材を1層から順に組み上げ、架構をつくる。構造柱であるビオトープの門柱や3層を貫く光柱などはすべて無垢のヒバ材やヒノキ材を使用し、継ぎ目なく1本で製作。寸法や角度、曲率の異なる部材は実寸大で確認しながら組み合わせ、複雑な曲面は木それぞれの特性を踏まえながら少しずつ丁寧に鉋（かんな）で削り、生活の美をつくるという信念で進めていった。さらに、継ぎ手や仕口といった複雑なジョイント部分の納まりは現場で髙﨑さんと職人が協議のうえ決定。軸組が完成するまでにおよそ1年間を要するほど、試行錯誤の連続だった。現代の住宅における施工期間は1年が一般的となっているが、伊藤邸は約3年半を費やして完成。哲学的思考を持つ意識と手、心のこもった作業は、髙﨑さんを筆頭に施工会社と大工というチームワークがあってこそ成し遂げることができたのだ。

1977年、新建築国際住宅設計競技グランプリを受賞したことをきっかけに、23歳で渡欧。審査員として髙﨑さんを見い出したのは、英国王立芸術アカデミーで教鞭（きょうべん）を取る建築家、ピーター・クック教授だった。彼に師事すると同時に、ドイツやオーストリアの大学教授と協働することで、西洋建築の歴史と伝統を学び、経験を積む。海外から日本文化を客観的に見ていた髙﨑さんは帰国後、日本の伝統や自然観を海外に確認するべくその素晴らしさを木造建築に託し、世界への発信を目指す。職人と共に手掛け、時間をかけてつくり上げ、木、紙、土でできた古来の日本家屋を現代によみがえらせた集大成となる伊藤邸。独特の意匠は奇をてらうものではなく、自然の摂理に従いながら独自のエッセンスを加えた髙﨑さんならではのデザインだ。斬新な現代感覚と太古より息づく自然観を融合させた建築は、次世代へとつながる日本の新しい住まいを予感させる。



OKITE

ITALIAN QUARTZ SURFACES

OKITE® is:

- クオーツを主成分とした傷に強く汚れにくい、メンテナンスが容易なワークトップです
- あらゆる商業施設、住空間でのご使用に適しています
- NSFより「衛生的で食品を扱う場所での使用に適している」との認証を得ております
- 業界唯一のユニークな意匠を持つVenati collectionをはじめ、豊富なラインナップが特徴です
- 環境に優しい商品です

NSF. CE GREENGUARD

www.okite.com

〔資料請求番号151〕

Made in



Heating in comfort

快適な温熱環境の住まい

目に見えない温度や湿度、風などは快適性を大きく左右するため、住まいを計画する際に考慮すべき重要なポイントだ。今回は建築設計と設備設計の両面から、快適な温熱環境を実現するための方法を考察する。

Text : Masayoshi Inoue
Photographs : Nacása & Partners（＊以外）

Chapter 1.

温熱環境の課題

右頁／豊かな緑に囲まれたM邸(スウェーデン・ストックホルム)は、リビングとダイニングキッチンを約50㎡のワンルームに収め、南側に複層ガラスを入れた幅約6400㎜×高さ約3000㎜の大開口を配置。春分、秋分の日の正午の太陽の高さが、東京は地平線から55度に対し、ストックホルムは30度と、年間を通して20～25度低いが、日照時間は夏は長く冬短い。そのため、寒い時期に斜めから射し込む日射熱を取り入れて部屋全体を暖めている。リビングダイニングの床に用いたモミ無垢材は日射熱を蓄熱して夜間まで保温する効果を持つ。リビング西側にはアメリカ・ファイヤーオーブ社の天井つり下げ型薪(まき)ストーブを設置。宙に浮いた燃焼炉は360度の方向に熱を放ち室内を暖めるだけでなく、炎の温かさを視覚的に感じられる点も魅力。
「M邸」設計／Claesson Koivisto Rune（no.38に掲載）

新緑が揺らぐ初夏にはさわやかな涼が得られ、枯れ葉が舞う秋の小春日和には心地良い温かさが感じられる。日本には四季の移ろいに敏感な文化があり、春や秋の穏やかな気候は快適な温熱環境の手本といえるだろう。暑い夏や寒い冬の室内の温熱環境を快適にする鍵は、「温度、湿度、風」のバランスにある。そこで、心地良い室内環境をつくり出す方法について、建築設計と設備設計の両面から解説したい。躯体や開口といった建築と冷暖房やヒートポンプなどの設備機器に加え、周辺の気候や地形、そして求めるライフスタイルなどを加味したトータルな視点が重要だ。

1章　温熱環境の課題

温度と湿度

快適な室内環境をつくるには湿度が大きく関係し、室温が同じでも湿度によって感じ方が異なる。空気中の水分子(水蒸気)量を示す湿度は、一般的に40～60%が快適といわれ、湿度の上昇に比例して体感温度が高く感じられる。これは、水が空気中に蒸発する際に熱量を得ているため。たとえば「気温25℃、湿度80%」では蒸し暑く、「気温25℃、湿度40%」ではさわやかに感じる。日本の多くの地域は、夏は湿度が高くて蒸し暑く、冬は湿度が低く寒さが厳しい。反対に、夜間に見られる窓ガラスの結露や草木のしずくは、水蒸気が水に変化する現象で、気化熱とは逆の熱移動がある。

気化熱には、夏の打ち水が地面の熱をうばって蒸発し、熱の移動が微風を引き起こすことで室内が涼しくなるといった効果も。通気窓を取り、室内にたまった湿気を屋外に逃がす手法を取り入れるなど、湿度をコントロールすることが快適な住まいの実現につながる。

温熱環境をコントロールする

住宅の温度と湿度をコントロールする方法は、大きく二つに分かれる。一つは建物を高気密・高断熱にして人工的に換気を行う。もう一つは、高断熱とする一方、適度な気密状態にして自然換気を取る方法だ。

前者の長所は、北海道を始めとする寒冷地において暖房費(消費エネルギー)を大幅に削減できる点で、北欧では高気密・高断熱住宅に機械換気(熱交換機併用)を取り入れた住宅が普及している。スウェーデンでは、断熱材を約500㎜確保し、部屋に取り込んだ日射熱と家電の排熱だけで室温を保つ「無暖房住宅」も少なくない。これは高気密・高断熱住宅だが、夏は冷房設備を使わずに窓からの通風のみで快適な状態に保てるため、前者と後者を季節によって使い分けた好例だ。また、24時間冷暖房を行う全館空調を取り入れるケースもあり、日本と同様、夏は高温多湿なアメリカのジョージア州やフロリダ州にはこのタイプの高級住宅が多く見られる。猛暑日でも室内は機械によって常に均一な温度と湿度に保たれるため、24時間すべての部屋を使う場合はエネルギー効率が高い。しかし、必要のない部屋まで冷暖房をする点でエネルギーのムダが大きく、結果的にエネルギー消費量が増えてしまう。省エネルギーの観点だけでなく、外気と遮断した均一な室温が〝不自然な体感温度〟となる点にも疑問がある。

一方、自然換気を取る方法は、すべての居室の温度を均一にするのではなく、その土地の環境を生かす考え方。たとえば、冬は日射熱を取り入れて室内に蓄熱し、天井付近にたまった熱を微風で循環させ、夏はトップライトや格子窓から夜間の涼しい風を取り入れ、屋内にたまった熱を排出する方法がある。これらは省エネルギーにつながると共に、冷暖房のランニングコストを抑えることが可能だ。

建築と設備のコスト管理

コスト管理は建物の不動産評価額や設備の更新時期を踏まえて20年以上の期間で考えたい。一般的な住宅の不動産評価額は築20年でゼロになり、冷暖房設備は10～15年で取り替え時期を迎える。

コストを考慮した「長寿命住宅」を実現するために大切なのは、十分な断熱性だ。自然換気を取る方法でも、断熱性が高いと冬は日射熱の保温効果が高まり、夏は天井や壁に受けた日射熱を室内に伝えない遮断効果が得られる。1999年に建設省(現国土交通省)が定めた「次世代省エネルギー基準」で躯体や開口に必要な断熱性能が示されたが、その後2008年までに新築された住宅のうち、基準値を満たすものは約30%のみ。EU(欧州連合)ではより厳しい性能を新築住宅に義務づけているなか、日本は先進国のなかでも著しく遅れているのが現状だ。関東から西の温暖な地域に建設費2000万円の住宅を建てた場合、断熱に要するイニシャルコストは100万円程度。開口の大きさや数を始め条件によっても違いがあるが、標準的なケースだと建設費の5～10%で十分な断熱性が確保でき、冷暖房の維持費削減の差額で回収できる。

一方、冷暖房設備は10～15年程度で更新する計画を念頭に置く必要がある。エアコンの省エネルギー技術の進歩は目覚ましく、たとえばダイキン工業が'09年に発売したエアコン「AN40KRP」の年間消費電力量は1336kWhで、11年前の同性能を持つ製品に比べ約32%の省エネルギーを実現。そのほか、新しい高効率設備が開発されているが、初期コストとランニングコストとの収支を慎重に見極めて採用したい。

このように、住まいを計画する際は、デザイン性だけでなく自然の力を生かす開口の配置や大きさ、断熱・気密性など目に見えない部分への配慮も大切にしたい。それが過剰な冷暖房設備の無駄を防ぎ、省エネルギーにもつながる。

（156頁に続く）

建築面から実現する温熱環境



2



1

写真1.2 図1 建築家、Rita Huysの自邸（ベルギー・ルーセラーレ）は、ベルギーやドイツ、北欧などの木造住宅において多く採用されている「ダブルスキン」構造。二重壁の内壁に約200㎜の断熱材を充填（じゅうてん）し、60㎜の通気層を挟んで外壁を設置。夏は外壁が日射熱を受け、通気層内の空気が暖められ上昇気流が起こり、下から入った冷たい空気が屋根の垂木と外壁の間に設けたスリットから外へと排出されるため、躯体に熱がたまりにくい。冬は冷たい季節風を外壁が防ぎ、通気層が外壁で受けた冷気を躯体に伝えにくくする緩和効果がある。「H邸」設計／BURO II and BURO Interior（次号no.44に掲載） **写真3.4.5** 鉄筋コンクリート造地上4階建ての集合住宅「M-1」（神奈川県・藤沢市）は、設備の更新を考慮してスケルトン（＝躯体）に建築基準法が定める水道、トイレなどの最低限のインフィル（＝設備）だけを配置。構造壁とそれ以外の雑壁は型枠の種類を変えてあるため、将来的な間取りの変更時に解体できる壁の判断が容易。設備だけでなく壁の位置や仕上げなど、住み手自身がインフィルを考えることで、暮らし方を見つめ直す機会にもつながる。開口部には断熱性の高い木製サッシと複層ガラスを採用。「M-1」設計／ミリグラムスタジオ 内海智行＊ **写真6** 左頁表1参照 **写真7** ガラスは熱損失が大きく、断熱性を確保しにくい。複層ガラスとは空気の断熱効果を利用したもので、2枚の板ガラスを窓枠に固定し、一般的に6㎜、12㎜の空気層を確保することにより、単板ガラスに比べて高い断熱性を実現。層内に空気よりも断熱性の高いアルゴンガスを封入したものや、真空にしたもの、空気層の中心に熱線反射フィルムを挟んで日射熱を遮るものも。木は熱伝導率がアルミの約1/1500と低いため、木製サッシは断熱性が高く、見た目にも温かい印象を与える。マーヴィンウインドーズ＆ドアーズでは空気層12㎜の複層ガラスを標準仕様とし、アルゴンガス入りでガラス面に金属膜をコーティングした「Low-E II ガラス」にも対応＊



5



4



3


9

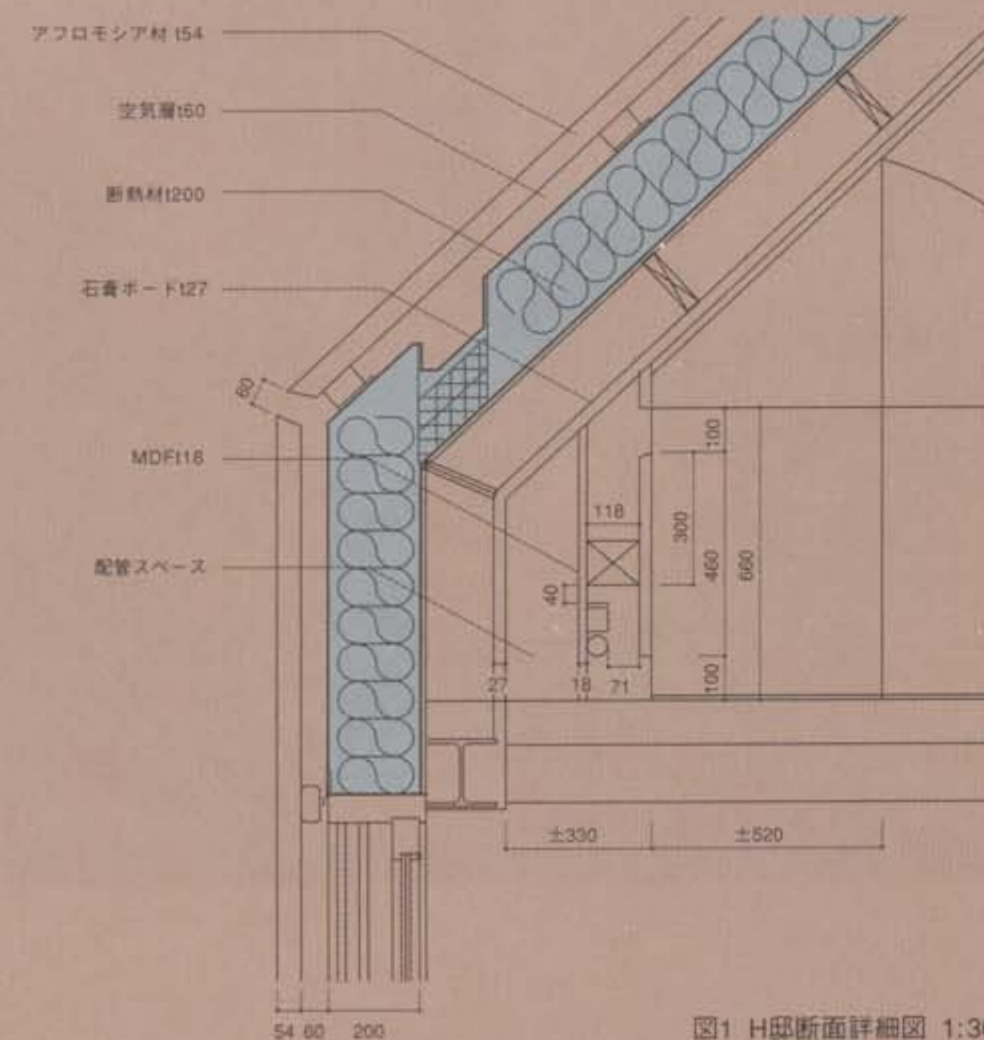


図1 H邸断面詳細図 1:30


6


7

提供／Marvin Windows & Doors

表1　主な断熱材の種類

セルローズファイバー（木質繊維）	古新聞紙を主原料に難熱、防虫、防カビ、撥水性能を付加した断熱材。吸放湿性があり、壁内の湿度調整が可能。外壁と内壁の間に機械で吹き込み隙間なく施行する。木質素材のため“カーボンニュートラル”の考えを適用し、廃棄時に焼却して出るCO_2は木が成長時に吸収した量と等しく、土に還すこともできる。フィンランドのVTT（国立技術研究所）などで開発され、同国の住宅では一般的に使用。ドイツや日本でも製造、販売されている（写真6）　参考／日本製紙木材
ロックウール	玄武岩や鉄炉スラグなどを高温で溶解し、繊維状にした断熱材。ヨーロッパでは1880年頃から使われ、スウェーデンでは主流。断熱性はグラスウールより20%ほど高く、耐火性、耐水性など総合的に優れた性能
発砲ウレタン	断熱性や施工性に優れた断熱材。石油が原料のため耐火性に劣り、製品によっては燃えた際に発生するガスの安全性に懸念がある
グラスウール	廃ガラスをガラス繊維に加工した綿状の素材で、ローコスト。国内で最も一般的な断熱材


8

写真8 A邸（東京・目黒区）では、中庭のテラスを臨むリビングの開口部に、ガラスの引き戸と室内側に木製可動式ルーバーを設置。ルーバーの羽根の角度を調節することで夏は日射を遮ると共に、夜は外側のガラス戸を開放してルーバーの鍵を閉めることで、室内に冷風を取り込める。冬は羽根を閉じると空気層ができ、断熱性が向上。「A邸」設計／横堀建築設計事務所（no.24に掲載）　**写真9**　1階西側に配した幅約2400㎜×高さ約3000㎜の開口の外側にストライプ柄のオーニング（天幕）を張り、日射熱を柔らげる工夫をしたA邸（岐阜・可児市）。さらに強い日差しとプライバシーを考慮し、室内にロールスクリーンを設置。キャンバスなどのファブリックを庇のようにして使うオーニングは、手軽に開口部の日射をコントロールできると共に、デザインも豊富で窓辺を彩る効果も。夏は遮光、冬は日射熱を取り込むなど機能性も高く、防水性ファブリックの場合は雨も防ぐ。突風に弱いというデメリットもあるため、長所と短所を踏まえて取り入れたい。「A邸」設計／服部信康建築設計事務所（no.36に掲載）

Chapter 2.
建築設計の手法

2章　建築設計の手法

建物の躯体及び構造の耐用年数と、設備の寿命は大きく異なる。2009年に「200年住宅（長期優良住宅）」の補助制度がスタートしたが、これは長持ちする建物を優遇する制度で、一定の基準を満たす建物は補助金や税制の優遇が受けられる。建物を長く使い続けるためには、建築設計でやるべきことを満たし、設備の取り替えを前提とした計画が大切だ。最初に、建築設計による手法を取り上げる。

スケルトンとインフィルの分離

スケルトンとは柱、梁、床などの躯体（構造体）のことで、インフィルは設備や内装の総称。建物の躯体は、高い耐久性を確保し、適正なメンテナンスをすれば200年住宅のような長寿命化を図れる。実際に木造の古民家は築100～200年を経た建物が少なくない。しかし、躯体が長持ちしても時間が経ち、ライフスタイルが変わると電気やガス、水道などの配線や配管、冷暖房設備、浴室やキッチンなどの内装設備を取り替える必要が出てくる。スケルトンとインフィルを分離する「S／I分離」は、ライフスタイルの変化や設備の更新時に、新たな設備の導入やリフォームの自由度を高めるために重要な考え方だ。現在、欧米ではこの方式が基本となっているが、日本の建築基準法ではスケルトン状態の引き渡しを認めていない。20年ほど前から当時の建設省（現国土交通省）の建築研究所がこの研究を進めてきたが、いまだに完全なかたちの法制化は実現していない状況だ。

そんななか、建築家の内海智行さんはS／I分離の考えを取り入れた鉄筋コンクリート造の中層集合住宅「M-1」を展開（写真3～5）。建築基準法が定める水道やトイレなどの最低限のインフィルのみを備え、開口部の位置や間取りを変えられるスケルトン設計にしているため、家族構成が変化したときのリフォームが容易なうえ、ライフスタイルの変化に伴って最適な設備機器に変更できる。

住まいの断熱方法

次世代省エネルギー基準を満たした関東から西の温暖な地域に立つ150㎡の木造2階建て住宅の場合、熱損失は床・壁・天井が35%、開口（約40㎡）が50%、換気が15%。一般的に断熱効果を高めるためには、躯体の内側または外側にグラスウールやロックウールのような断熱材が用いられる（表1）。なかでも近年注目を集めるのは古新聞紙を主原料としたセルローズファイバーで、吸放湿作用があり、壁内の結露を防止する機能を持つ（写真6）。また、最も熱損失の大きい開口は、熱伝導率がアルミに比べて約1500分の1の木、約1000分の1の樹脂を使ったサッシと複層ガラスを採用することで断熱性が向上（写真7）。幅2500㎜×高さ2000㎜のアルミサッシ＋単板ガラスが5万円程度であるのに対し、同サイズの樹脂サッシや木製サッシ＋複層ガラスでは約2～10倍のイニシャルコストがかかるが、断熱の重要な要素であることを理解し、積極的に取り入れたい。

このほか、外壁を二重壁とし、中間に空気層を設けて断熱効果を高めた「ダブルスキン」構造もある（写真1、2、図1）。夏は日射により躯体が直接暖まらないだけでなく、断熱材の外側に通気層を挟んで外壁材を張り、空気層を密閉せず、風のエネルギー利用により床下から屋根へと通気させることで、建物の外周の温度と調整する作用があり、室内にたまった熱の放出方法として活用できる。

日射のコントロールと太陽熱の有効利用

太陽光は、明るさと日射熱を持つ。開口から入り込む日射熱が室内を暖めるため、冬は有効利用する一方、夏は遮光して日射熱を防ぐ考え方が基本となる。それには、開口の位置が重要だ。一般的に日本では東や南向きに開口を確保することが好まれるが、午前中の強い日射熱を室内に取り込むと熱がたまってしまう。

寒冷地の場合は日射量が多い方向に大開口を設けると良い。また、熱を床や壁などの躯体、仕上げ材に蓄熱する方法も有効だ。これは自然エネルギーを利用する「パッシブソーラー」の基本となり、エネルギー変換によるロスが少ない。たとえば昼間は留守にすることが多いライフスタイルや週末住宅で、暖房利用が少ない場合にも日射熱が蓄えられ、屋内の冷え込みを防ぐことができる。

一方、夏は開口の外側に植物、ルーバー、ブラインド、簾などを設けて、日光を遮る工夫をすることで、室内の温度上昇を防ぐ（写真9）。屋外から遮光できない場合は、室内に遮光カーテンやブラインドを配する方法も。また、庭やテラスなどの屋外に植栽を配して日陰をつくる、打ち水をするといった工夫で温度差による微風が生まれ、室内に涼しい空気を取り込むことが可能だ。樹木は落葉樹を選べば、冬の採光を妨げない。

通気の取り方

空気の循環を起こすことで、夏は室内にたまった熱と湿気を室外に排出し、冬は天井付近に集まる熱を足元まで下げることができる。夏でも夜になると涼しい時間帯があるため、通気用の開口や錠つきの格子戸、ルーバーなどを設ければ、防犯性に配慮しながら冷気を取り入れることが可能だ（写真8）。冬は換気口を少しだけ開けることで、屋内に微風の循環を引き起こす。

都市部の狭小住宅でも、室内の温度差によって階段スペースに気流の道をつくるといった方法により、天井付近から排気する〝煙突効果〟が実現できる。また、対角線上に高低差をつけて二カ所以上に開口を設けると風が通りやすい。片側にしか確保できない場合は、床と天井付近に開口部をつくることで、風の流れを起こすことが可能だ。通気窓の利用は、隣地が住居か緑地かといった、個別の立地条件に大きく左右されるため、建設地の周辺環境に適した方法を慎重に考えたい。また、中庭や吹き抜けの配置は、外部に対して開口が設けられない場合に有効だ。

（160頁に続く）



11



10

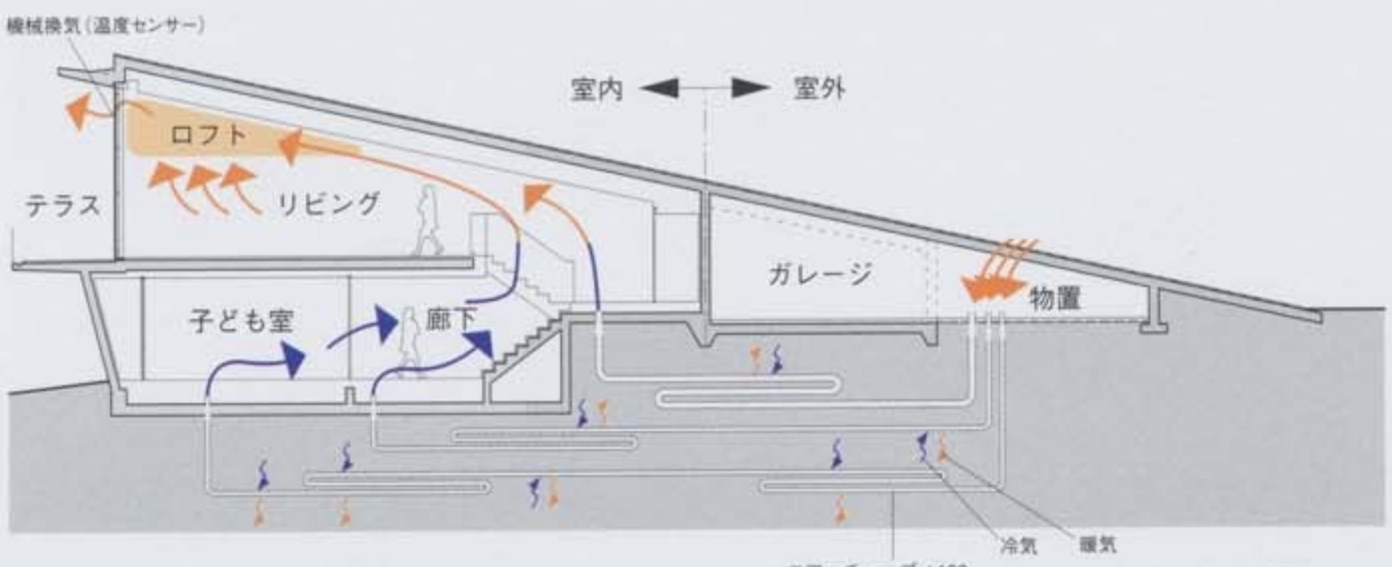
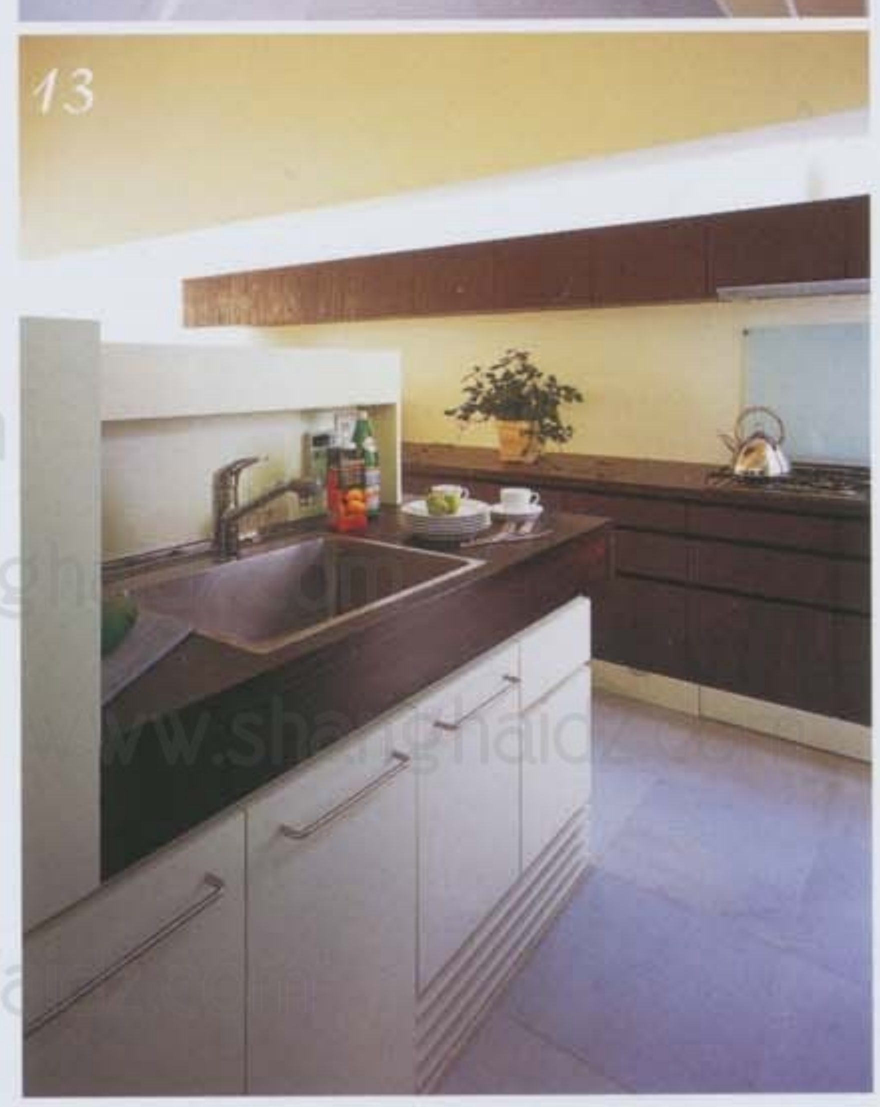


図2 P邸温熱環境図 1:300



12



13

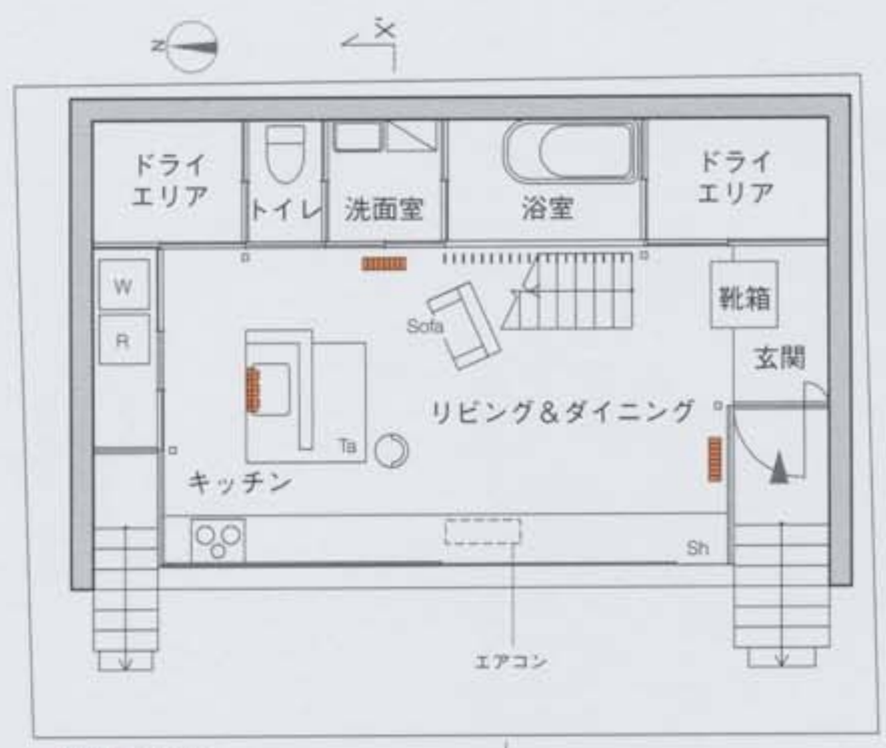


図3 O邸1階平面図 1:150

写真10.11 図2 一年を通して15℃前後と一定な地中熱を利用し、地中に通した直径100～150㎜程度のチューブから冬は温かく、夏は涼しい空気を取り入れる。この「エアーチューブ」は建築の形状や敷地の条件が合致すれば、シンプルな仕組みでイニシャルコストも抑えられ、温度差により自然に起こる空気移動のため動力が必要なく、維持費もかからない。鉄筋コンクリート造地下1階、地上1階建てのP邸（静岡・伊東市）は、直径120㎜の管を3本地中に巡らせ、北側の物置に設置した吸気口から取り入れた空気が地階の子ども部屋、1階の玄関脇の2カ所から吹き出す仕組み。屋根を約12度傾斜させて上部に熱だまりをつくることで温度差による空気循環を生み出すと共に、ロフトに温度感知式の換気システムを設けることにより、夏は室内の熱を外部へ排出する。また、リビング上部のロールスクリーンを配したスリット内には排気システムを設置し、室内の空気循環を促した。「P邸」設計／ミリグラムスタジオ　内海智行（no.36に掲載） **写真12.13 図3.4** 鉄骨造+鉄筋コンクリート造地上3階建てのO邸（東京・江東区）は、ワンルームとしたリビングダイニングとキッチンの西側に配した造作収納内にエアコンを設置。エアコンから吹き出た温風を床下に通し、北、南、東の3カ所に吹き出し口を設けて「オンドル式床暖房」とし、床面全体を満遍なく暖める。また、この吹き出し口は冷気が入りやすい玄関や洗面室のガラス面のそばに配置することで、その流入を防ぎ、室温を保つ。北側の吹き出し口はキッチンカウンター下部の収納に組み込み、家事の間、足元が暖かいよう配慮。さらに、1階から3階までを吹き抜けでつなげ、上部に開口を設けることで住まい全体の排熱が可能となり、天井付近の熱だまりを解消する。「O邸」設計／アーキテクトン（no.9に掲載）

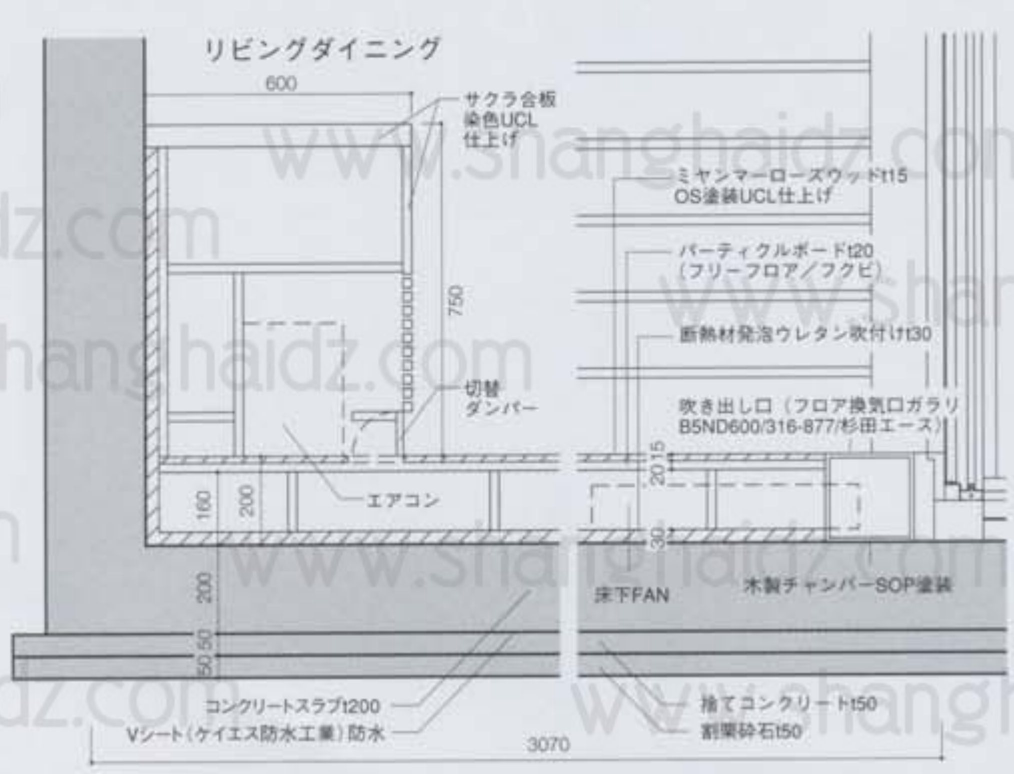
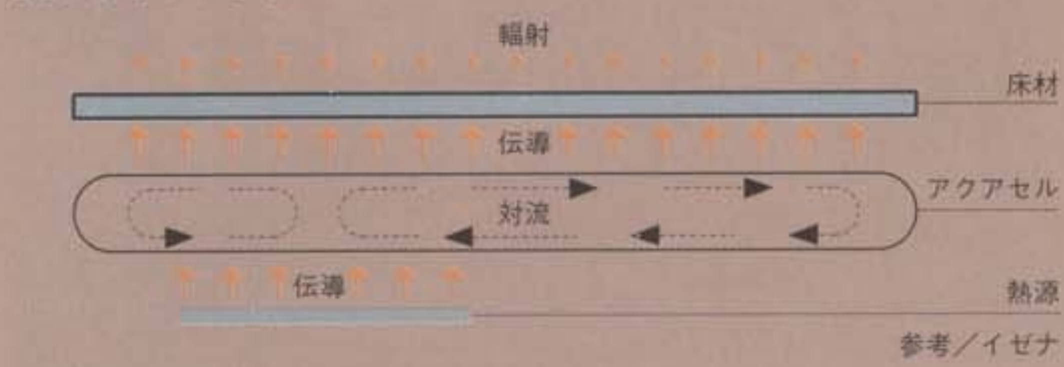


図4 O邸リビングダイニングX-X'断面詳細図 1:30

Aqua Layer アクアレイヤー

床下の根太間に設置したアクアセル（水パック）を電気シートヒーターや太陽光によって暖める水蓄熱式床暖房

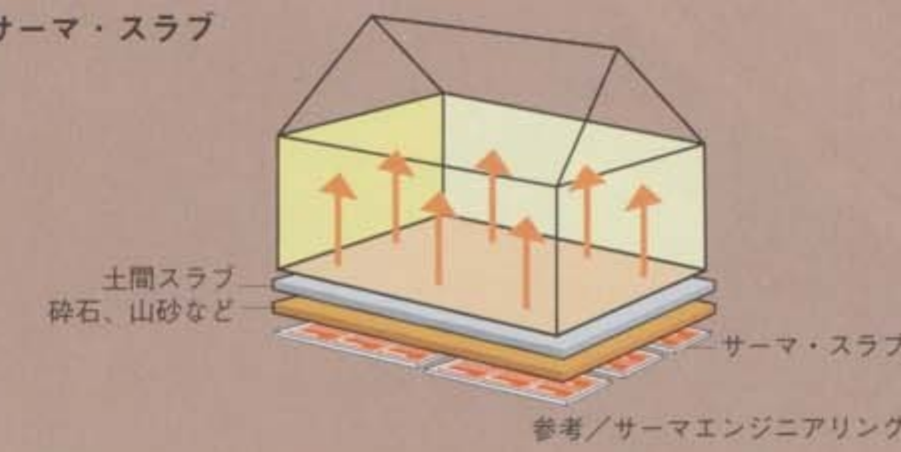
図8 アクアレイヤー



Therma Slab サーマ・スラブ

建物の床から約300㎜下にヒーターパネルを埋設し、深夜電力を利用して地中に熱を蓄熱する土壌蓄熱式輻射床暖房

図5 サーマ・スラブ



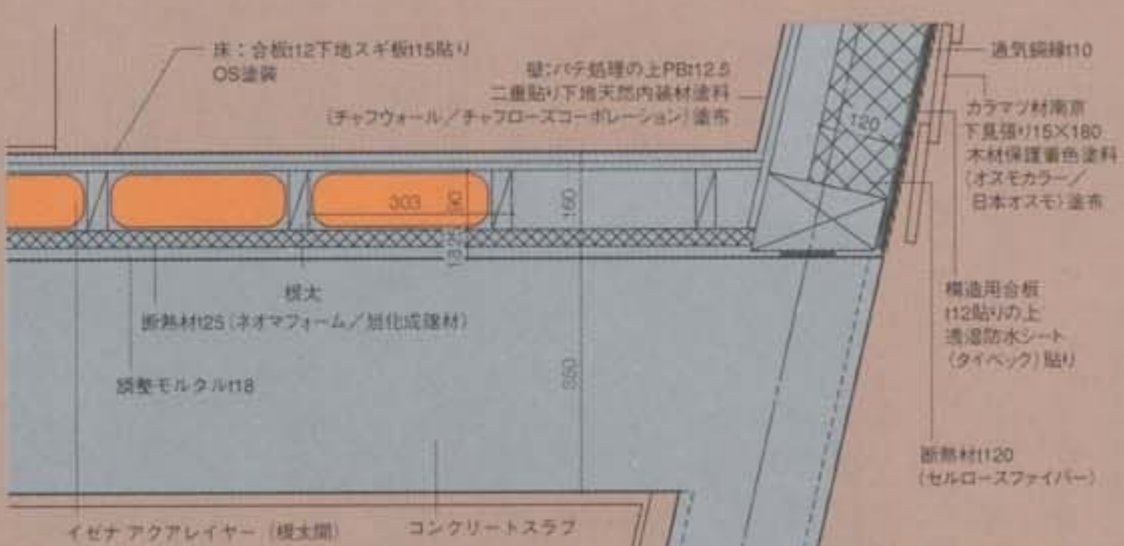


図9 S邸断面詳細図 1:20

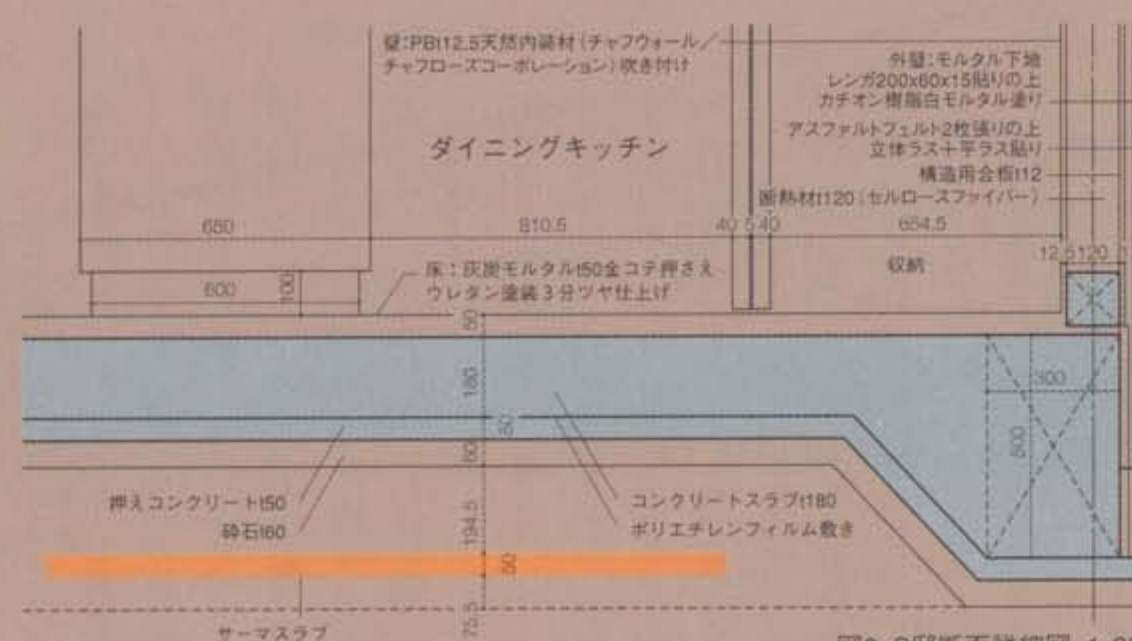


図6 S邸断面詳細図 1:30

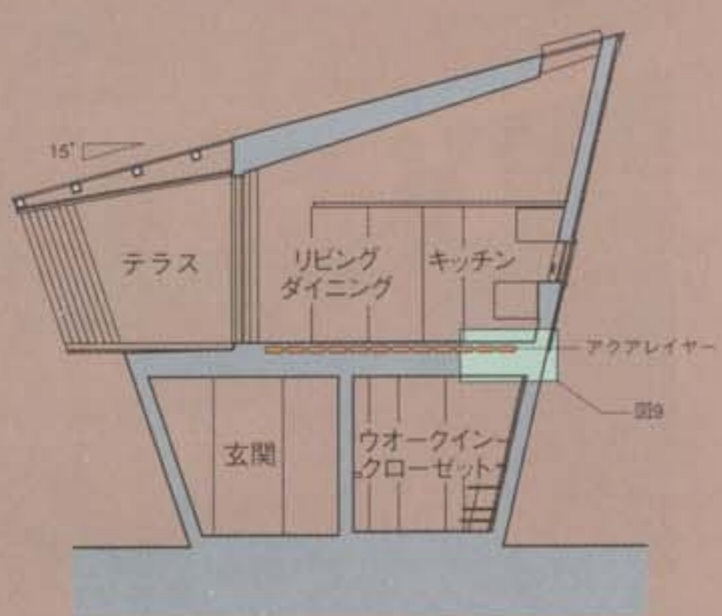


図10 S邸断面図 1:200

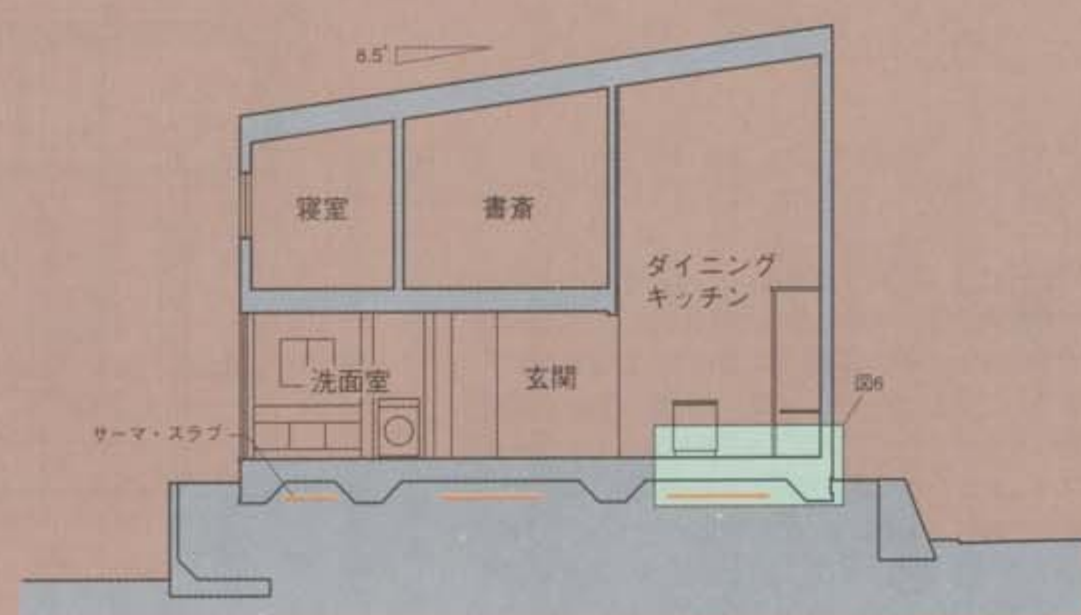


図7 S邸断面図 1:200

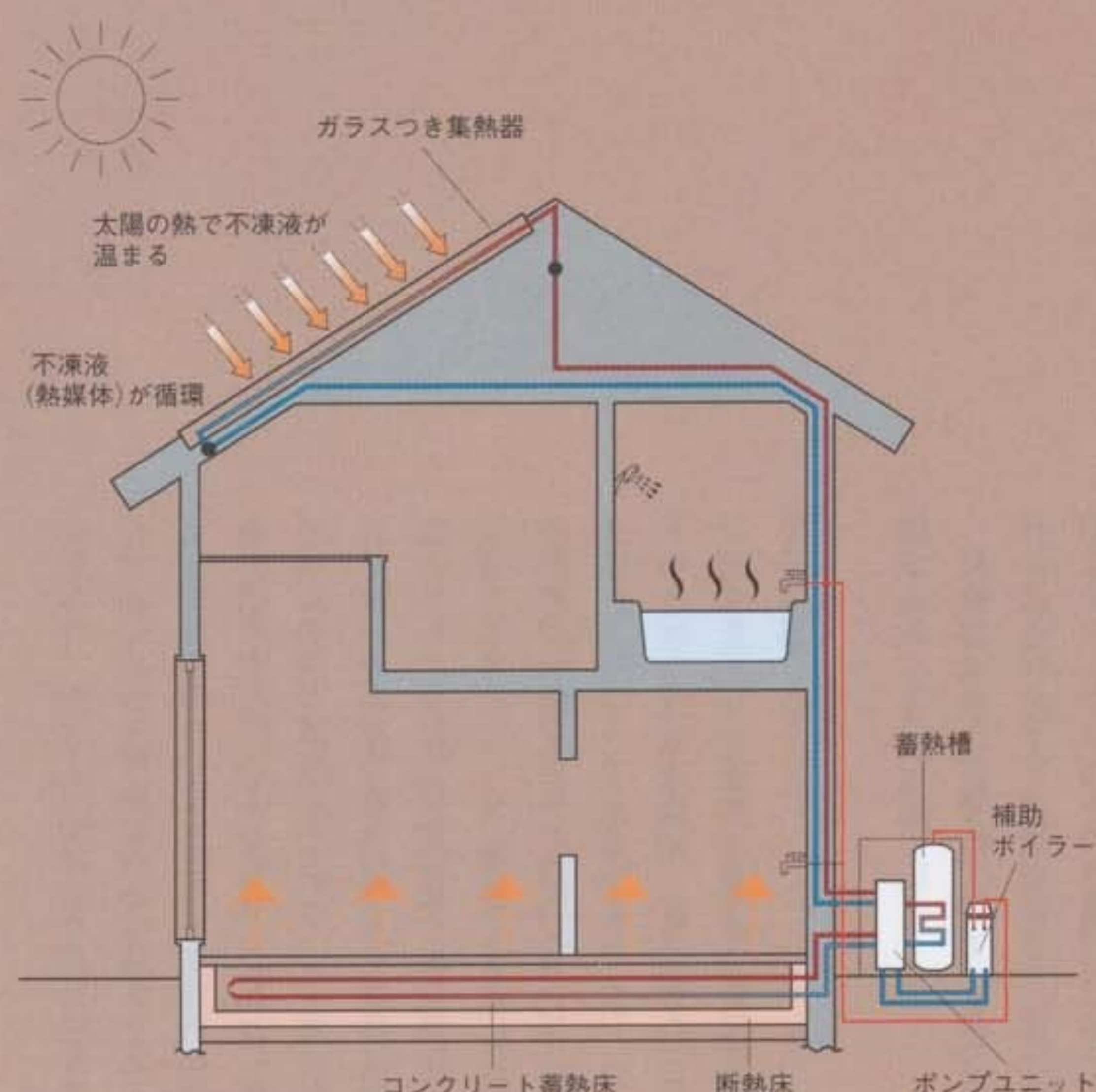

15


14

Solar System ソーラーシステム

太陽エネルギーにより暖められた集熱器内の水や空気などの熱媒体を循環させ、給湯や床暖房に使うシステム

図11　ソーラーハウス水集熱式



参考／社団法人ソーラーシステム振興協会

図11 太陽熱温水器は自然循環型の「太陽熱温水器」と強制循環型の「ソーラーシステム」に分類される。受けた太陽エネルギーに対して利用できる熱エネルギーはどちらも約50％で、約20％程度の太陽光発電よりも高効率。太陽熱温水器は、温度が上がると移動する水の性質を利用して自然に循環させるため、動力は不要。一方、ソーラーシステムは集熱器を屋根に乗せ、蓄熱槽を地上に設置するのが一般的で、二つを配管でつなげて集熱回路とし、ポンプの力で熱媒を循環させる。太陽熱温水器に比べて屋根上の集熱部を軽量化でき、面積を広く取ることが可能。熱媒に不凍液などを用い、貯湯タンク内の熱交換器で湯をつくる間接加熱式と、給湯や床暖房に使う水をそのまま熱媒として用いる直接加熱式がある

表2　高効率設備

エコキュート／電力（自然冷媒ヒートポンプ給湯機）	空気が熱源となるヒートポンプ式給湯システム。空気の熱を熱交換器で冷媒に集め、コンプレッサーで冷媒を圧縮して熱量を高めることにより、動力に使用した電気エネルギーの3倍以上の熱エネルギーを得る。その熱でつくった湯は給湯や床暖房などに利用可。従来の燃焼式給湯器に比べてエネルギー消費量を約30%、CO_2排出量を約50%削減。ヒートポンプの原理は、気体が圧縮すると高温に、膨張すると低温になる性質を利用したもので、冷蔵庫やエアコンの熱コントロールにも使われる。価格は300～550ℓまでそろう貯水タンクの量や風呂の追い炊きといった機能により約40～100万円
エコウィル／ガス（家庭用コージェネレーションシステム）	都市ガスやLPガスを燃料にエンジンを稼動させ、家庭で1kWを発電。発電時に発生する2.8kWの熱で湯を沸かして貯湯タンクに蓄え、給湯や床暖房に利用するシステム。送電の際などに約60%のエネルギーロスを発生する電力に対し、東京ガスの試算ではエネルギー効率は約77%と高い。価格は約85万円
エネファーム／ガス、灯油（家庭用燃料電池コージェネレーションシステム）	2009年5月に一般販売が開始された設備。燃料電池は、都市ガスやLPガス、灯油から取り出した水素と空気中の酸素の化学反応によって発電する仕組みで、CO_2排出量を大幅に削減できる。1kW発電する際に発生する熱で湯を沸かし、貯湯タンクに蓄える。東京ガスではエネルギー効率を約80%と試算。一方、本体価格は約350万円と高価なのが現状

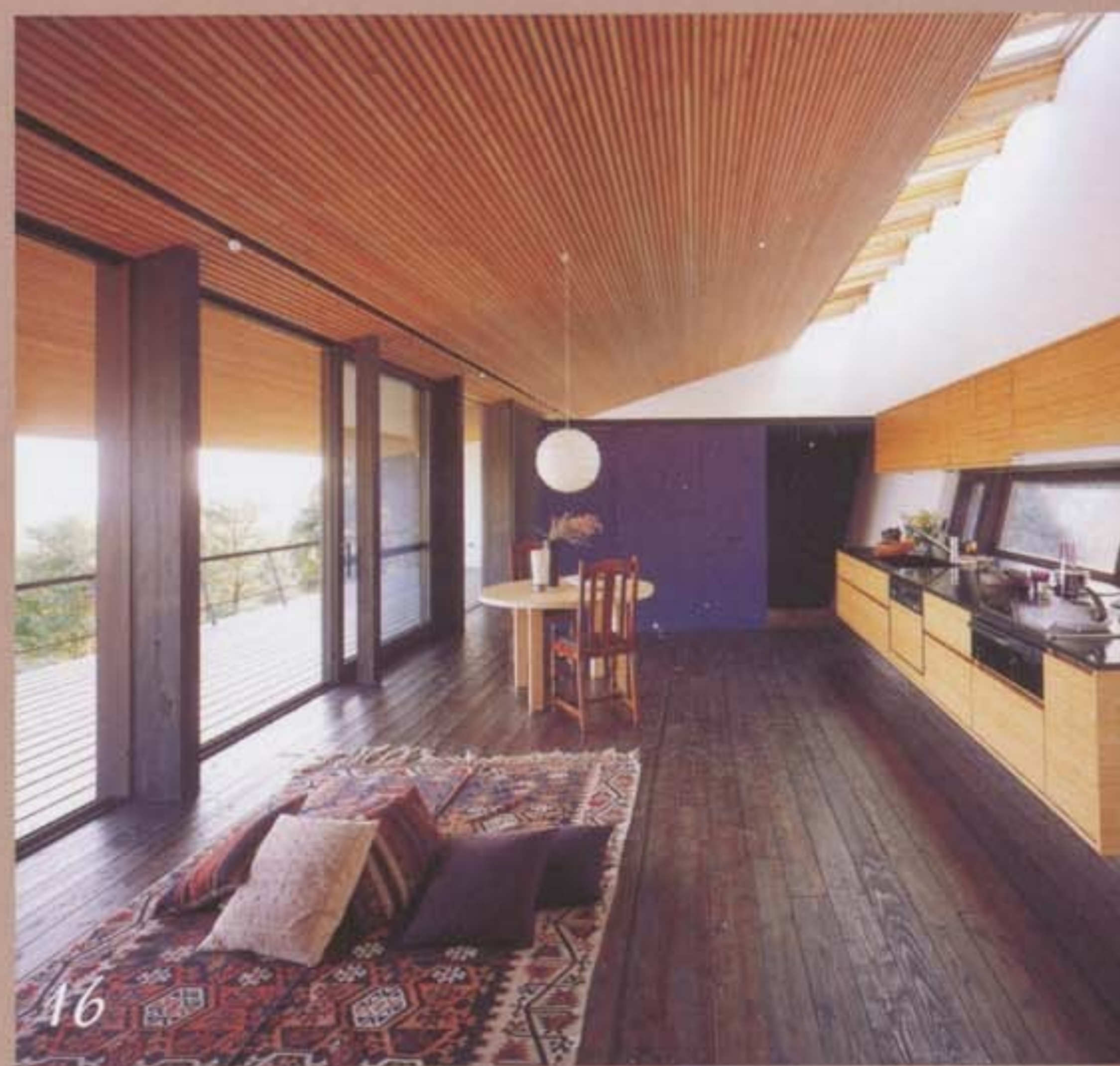




図5 サーマエンジニアリングによる土壌蓄熱式輻射床暖房システム「サーマ・スラブ」（163頁）は、建物の床から約300㎜下にヒーターパネルを埋設。深夜電力を利用して暖められたパネルの熱が駆体と地中に伝わるが、地中は深さ約2mでもともとの地熱15～18度と等しくなり、それ以上の深さには熱が進まないため、より温度差が大きい室内側に放熱される仕組み。蓄熱材となる土壌の体積が大きいことから低温で蓄熱でき、床面は25℃程度にコントロールするため、やけどや躯体への影響の心配がなく、一日を通して快適な温度に保てる。システムはヒーター線とコントローラーのみのシンプルな構成のため、施工費も含めて1㎡当たり約15,000～20,000円と安価。ヒーター線はメンテナンスフリーで半永久的に使え、維持費がかからない点も魅力　**写真14.15 図6.7** 木造2階建てのS邸（東京・町田市）は、外周部に断熱を施したコンクリート基礎に囲まれた土壌内に「サーマ・スラブ」の電熱パネルを設置。1階のダイニングキッチン上部を吹き抜けとすることで、コンクリートスラブの放射熱が住まい全体に行きわたるよう配慮。少ない電力消費量で昼夜を通して20℃程度に維持できるだけでなく、低温暖房はゆっくりと室内を暖めるため湿気の移動が少なく湿度が50％程度に保たれる安定した温熱環境。蓄熱に割安な深夜電力を利用し、ランニングコストを節約。「S邸」設計／彦根建築設計事務所　彦根アンドレア　**図8** イゼナの水蓄熱式床暖房「アクアレイヤー」は、床下の根太間に設置したアクアセル（水パック）を電気シートヒーターや太陽光によって暖める仕組み。アクアセルの一部に熱が加わると、温水はシート内の上部に移動して床材に熱を伝導し、温度が下がると下部に移動するという自然対流により、従来の温水式床暖房のように強制循環させることなく床面をほぼ一定に保つ。コンクリートに比べ、水は体積比で2倍、重量比で5倍もの熱を蓄えられる特徴を生かした製品。アクアセル自体の温度は30℃前後、35℃以下と低温なため、床に無垢材を使用できるほか、躯体への影響や低温やけどの心配もない。熱源はヒートポンプやボイラーなどにも対応可能だが、標準品はないので住まいに合わせて設計、製作。都内で電気シートヒーターによる床暖房とした場合、約20㎡（約12畳。アクアセル5300㎜×11本）で約245,000円（材料費のみ、45㎜タイプ、50W/㎡の場合）と低コストなうえ、熱源が太陽光、電気シートヒーターの場合はメンテナンスが不要　**写真16.17 図9.10** S邸（千葉・南房総市）は1階が鉄筋コンクリート造、2階は木造の混構造。2階の床下に敷設したアクアレイヤーの電気シートヒーターが発した熱をアクアセルに蓄熱し、スギ無垢材張りの床を暖める。東側のテラスに面して設けた幅12600㎜×高さ2500㎜の大開口からは明るい光を取り入れた。室温は20℃前後に保たれ、片流れ屋根の最も高い位置に当たる西側には、トップライトを設置しているため、夏は開け放てば風が流れ、涼しさを感じる。「S邸」設計／彦根建築設計事務所　彦根アンドレア（no.33に掲載）

Chapter 3.

設備の手法

そのほか、チューブの片方を屋外に、もう片方を室内に出して地中に埋め、外の空気を冬は温かく、夏は涼しい空気に変えて室内に取り入れる「エアーチューブ」がある。これは一年を通して15℃前後と温度が安定している地中熱を利用する仕組みだ。現在、住宅用の製品は販売されておらず、電設資材を保護する硬質ポリエチレン管を使用することで実現できる。建築の形状や敷地の条件が合致すれば、シンプルな構造でイニシャルコストも抑えられ、ランニングコストもかからない（写真10、11、図2）。このような工夫を施し、通気による屋内の空気循環を効果的に取り入れたい。

床下スペースの活用

温熱環境をコントロールするために床下スペースを利用する方法がある。建築家の米田明さんは、エアコンの温風を二重床とした床下に流し、床面全体を温める「オンドル式床暖房」を採用（写真12、13、図3、4）。温風を出入り口やガラス面といった冷気が入りやすい箇所とキッチンの計3カ所から出すことによって、室内に気流を起こし、満遍なく温かさを行きわたらせている。このほか、密閉したコンクリート基礎内に空間を設けて蓄熱層とするといった方法もあり、簡単な仕組みながら非常に効果が高い。

湿度の調節

現在の技術では、加湿器、除湿器以外で大幅に湿度調節を行うことは難しい。しかし、床・壁・天井の素材に珪藻土や漆喰（しっくい）、床下に活性炭や備長炭を敷き詰めるなど、調湿機能のある多孔質な素材を用いる手法はわずかながら効果がある。そのほかでは、キリやスギなどの木材、大谷石、調湿機能を持つタイルも。しかし、これらの素材は湿気を吸収できる限度を越えると調湿作用を発揮しない。

乾燥が著しい冬は、燃焼式暖房を採用すれば暖を取ると同時に加湿作用が得られる。これは、ガスや灯油、薪（まき）が燃焼する際に水蒸気が発生するためで、加湿器を併用すると過加湿を招く。一方、床暖房や放射式暖房、電気ヒーターは使うほど乾燥するため加湿器を併用すると良い。20〜35℃程度の低温でゆっくりと暖める床暖房であれば、湿度を保ちやすい。過加湿は結露を発生させ、躯体や素材を痛めるため、湿度計を置き50〜60％の状態を保つよう調節することが大切だ。気候に応じて通風を調節し、それでも対処できない夏の多湿や冬の乾燥には、除湿器や加湿器で補うといった使い分けは考慮すべきポイントだ。

3章　設備の手法

建築設計は長く住み続けるための工夫や配慮が大切であり、設備は寿命があるため、15〜20年後の取り替えを考えておかなければならない。住まいの温熱環境を左右する冷暖房や、それとかかわる給湯設備などの設備機器は、日本が得意とする技術で、交換時期には設備機器の効率や方式も進歩する。次々と新製品が開発され選択肢が多いだけに、選び方が難しい。設備は、表2のように電力や都市ガスなどのエネルギーを効率良く冷暖房や給湯に使う高効率設備と、日射熱を利用するシンプルな設備があり、政府は地球温暖化対策のため、太陽光発電システム（太陽電池）や家庭用燃料電池のような、エネルギーを住まいで自給する設備の普及を促進している。ここからは、設備のエネルギー源も含めて設備段階での工夫を取り上げたい。

エネルギーのベストミックス（複合利用）

設備機器を検討する際、まず選択するのはエネルギー源。エネルギー利用には冷暖房や給湯、IHヒーターまですべてを電力でまかなう「オール電化」と、都市ガス（天然ガス）と電力会社の電力、太陽光発電などを使い分ける「ベストミックス（複合利用）」があり、それぞれ長所と短所がある。たとえばオール電化は、使用量に対する料金が5％割り引かれるプランがあり魅力的だが、停電すれば一切のエネルギーが使えなくなるリスクを持つ。国内の電力の約30％は原子力発電が供給しているが、地震や事故で運転停止することが少なくない。そのため、自家発電や都市ガスなどほかのエネルギーを併用するベストミックスが有効となってくる。

都市ガス（天然ガス）は原油と異なり、10年以上の長期契約で輸入されているため価格が安定。都市ガスやLPガスで発電し、そのときに発生した熱で湯をつくり給湯や床暖房用に利用できる「コージェネレーションシステム（電熱供給）」は、総合エネルギー効率が高くメリットも大きい。たとえば発電所で発生した電気や熱のエネルギー量を100％とすると、約60％のエネルギーを送電の際などにロスするのに対し、東京ガスから発売されている「エコウィル」（162頁）は、自宅で発電することでエネルギー効率は77％となる。

一方、太陽光発電は、2005年に終了していた設置する際の補助金制度が'09年4月より復活。また、同年11月から電力会社が買い取る余剰電力の価格が2倍に引き上げられ、1kWh当たり48円になった。このためイニシャルコストを回収しやすくなったが、火力発電のコストが1kWh当たり7〜10円程度と、家庭用太陽光発電の買い取り価格48円との差額は40円近くになる。この差額は、太陽光発電の設置の有無にかかわらず、電力会社から供給される電気の料金の値上げでまかなうため、一般家庭への負担は月額100円程度になる見込みだ。

今後は太陽光発電や家庭用燃料電池などエネルギーの自給とパッシブな太陽熱や通風により、より柔軟に住まいに適した設備を選択できるようになるだろう。快適性と省エネルギー効果、コストなどトータルで考えることが重要だ。

Heating in comfort

※注1：各エネルギー形態から異なるエネルギー形態へ変換した場合に得られるエネルギー量の割合

取材協力／内海智行（ミリグラムスタジオ）　彦根アンドレア（彦根建築設計事務所）
米田 明（アーキテクトン）　敬称略

蓄熱による暖房

蓄熱は、蓄えたエネルギーを必要なときに利用でき、温度差により自然に室内の空気を対流させるため、不快な温度差や風を感じることがない。躯体や基礎、水などに蓄熱する方法と、電気やガスで湯を沸かして貯湯タンクに蓄熱する方法に分かれ、いくつかの事例と共にその特徴を紹介したい。

木材は温度変化が少なく保温性が高いため、内装材に木材を多く用いた高断熱の木造住宅では室内全体で日射熱が蓄熱できる。これはドイツやスウェーデンの省エネルギー住宅では基本的な方法。一方、熱伝導率が高いコンクリートは暖まりやすく、冷めやすいため、蓄熱性は低い。しかし、質量が大きい分、熱を吸収する熱容量も大きく、それを生かせば効果的なコンクリート蓄熱が実現する。ただし、鉄筋コンクリート造で断熱材を使用しないと外の冷気を吸収してしまうため、コンクリート蓄熱は適切な断熱材を施すことが前提条件だ。

このほか、地階にコンクリート基礎を埋め込む、地下室を設けるといった方法でも外気の熱を遮断することができ、蓄熱効果は向上。土壌の蓄熱効果を生かした床暖房「サーマ・スラブ」とコンクリート蓄熱を組み合わせた効果的な事例もある（写真14、15、図5～7）。

水に蓄熱する

水は人体に安全な物質で、温度管理がしやすいため、日射熱を水に蓄える方法は古くから取り入れられてきた。たとえば、ギリシャの住宅では屋上にためた雨水を日射熱で温め、シャワーに使用している。日本の都市部では、電力やガスで沸かした湯をためて給湯や床暖房に利用する設備が普及してきた。また、床下に水が入ったアクアセル（水パック）を敷き詰める水蓄熱式床暖房「アクアレイヤー」は、アクアセル下部に敷いたヒートポンプ熱源用の配管や電気ヒーターの熱により水に蓄熱する仕組み（写真16、17、図8～10）。さらに、床面に差し込んだ太陽光の日射熱でも蓄熱できる。屋外に蓄熱用タンクを設置して温水を循環させるタイプと異なり、外気の影響を受けず設置スペースを取らないのもメリットだ。

太陽熱温水器も日射熱を水に蓄え、給湯や床暖房に利用する設備（図11）。太陽エネルギーを利用するシンプルな原理のため、エネルギー変換効率（※注1）は約50％と高い。集熱器と貯湯タンクを屋根の上に設置するタイプが一般的で、価格は約10万円からと低価格なのも特徴だ。

このような蓄熱システムは、イニシャルコストの点から見ても併用しやすく、室内をゆっくり快適に暖める低温式の魅力も備える。

輻射式暖房と燃焼式暖房

暖房機器には、パネルヒーターや床暖房など輻射熱を発生する「輻射（放射）式暖房」と、薪ストーブやファンヒーターのように燃料を燃やす「燃焼式暖房」があり、対照的な特徴を持つ。

輻射式暖房は断熱性の高い建物に適した方式で、空気を汚さないが、急速な温度の上昇はできない。一方、燃焼式暖房は着火後すぐに温度が上がるが、燃焼時にCO_2などを排出するため、高気密・高断熱住宅には適さない。しかし、炎は暖房だけでなく照明や、インテリアのアクセントの役割も果たし、調理機能を兼ね備えることも。薪ストーブを進化させた「ペレットストーブ（165頁）」は、木の樹皮やおがくずなどの製材端材や間伐材を原料とするペレットが燃料。1kg当たり40～50円で販売され、ランニングコストは灯油と比べて同程度かそれ以下だ。灰や煙が少ないため、都市部や都市郊外の住宅地でも取り入れやすい。

高効率設備とは

「高効率設備」とは、電力や都市ガスなどを家庭で冷暖房や給湯などに利用する際にエネルギー効率が高い機器のことで、地球温暖化対策の一環として政府が普及を推進している。たとえばエアコンは、空気を圧縮すれば高温になり、膨張させれば温度が下がるという原理により、空気の熱を利用して消費電力に対する冷暖房の熱量を3倍以上に高める「ヒートポンプ」という技術が使われ、近年では6倍以上と高効率なエアコンも登場。ヒートポンプと蓄熱を組み合わせ、給湯や床暖房用の湯をつくる「エコキュート（164頁）」も技術革新のスピードが速い。

また、これらの高効率設備を設置する場合、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業に申請すると補助金が受けられる。地方自治体によっては独自の補助制度を設けているところも。都市ガスやLPガスで発電機を動かして電気をつくり、その際に発生する熱で給湯や暖房用の湯を沸かす家庭用ガスコージェネレーションシステム「エコウィル」（162頁）や、ガスから取り出した水素と空気中の酸素で発電する家庭用燃料電池「エネファーム」（162頁）のほか、太陽光発電システムも補助金制度の対象だ。

それぞれの高効率設備をすべて先進技術だが、実際に住まいへ導入するときの方法が課題となる。たとえば、日射熱や通風を活用した建物にヒートポンプ蓄熱を組み合わせても相乗効果がないが、アクアレイヤーは日射熱を取り込むこともできるなど、各技術を効果的に活用して快適な温熱環境を実現したい。メーカーが推奨する仕様よりも小型で割安の高効率設備を導入し、断熱や通風などパッシブな建築設計によって「低温暖房」にするといった、視点を変えた方法が考えられる。

目に見えない温度、湿度、微風などがつくり出す快適な空間は、断熱を始め躯体の構造と設備を総合的に計画することで実現できる。さらに、イニシャルコストとランニングコストの収支を考えると、建築後に改修が困難な躯体構造を優先すべきだろう。心地良い環境を生み出すさまざまな方法を効果的に取り入れ、ライフスタイルに合ったより良い住まいをつくりたい。

Products

冬の住まいの温熱環境を快適にするためには、設計段階での工夫と共に暖房設備の選択が重要。暖房設備の熱源は電気、都市ガス、LPガス、灯油などがあり、主に電気と都市ガスが使用される。一般家庭のエネルギー消費量は毎年数パーセントずつ増加を続けているため(※1)、エネルギー消費を抑え、ランニングコストを削減できる設備を選びたい。たとえば、日本はガスや電気を使用して効率良く給湯や暖房に利用する“高効率設備”と呼ばれるシステムにおいては、世界でもトップレベルの技術を誇る。ガスの場合、自宅で発電し、その際に出る熱を利用して湯を沸かす「コージェネレーションシステム(電熱併給)」、電気の場合は空気中の熱を取り込み、稼働エネルギーの数倍に当たる熱エネルギーを生み出す「ヒートポンプ」がその例だ。また、環境への配慮や原油の価格高騰に加え、燃焼時に発生するCO_2は植物が成長する際に吸収するCO_2の量と同等とみなす「カーボンニュートラル」の考えから、植物を原料とする熱源が注目されている。なかでも、木のおがくずや樹皮などを原料につくられるペレットは、国内の生産量が2008年に4万トンを超え、5年前の15倍以上に増加。これを燃料としたペレットストーブを始め、薪(まき)ストーブ、暖炉は炎を目で楽しめることからも人気を集める。ライフスタイルと共に総合的に考え、最適な設備を選びたい。※1 資源エネルギー庁調べ

01



ENE·FARM & ECO WILL

エネファームとエコウィルは、都市ガスやLPガスなどを利用して自宅で発電し、その際に出る熱を利用して湯をつくり出す、一つの装置から二つのエネルギーを供給する「コージェネレーションシステム」。発電所でつくられた電力や熱の総エネルギーを100％とした場合、利用場所が離れているため送電ロスや活用できないエネルギーの廃棄により約60％を損失するが、自宅で発電するとエネルギー利用率はエネファームが約80%、エコウィルが約77％と効率が良い。エネファームは約350万円、エコウィルは約85万円とイニシャルコストはかかるが、国が補助金制度を用意。エネファームは燃料電池普及促進協会(FCA)に申請すれば上限140万円まで、エコウィルは都市ガス振興センターに申請すれば、12万4千円の補助が受けられる(共に2009年度の場合。各種条件、対象台数あり)。さらに、地方自治体によっては独自の補助制度を設けている場合も。東京ガスの利用対象エリアでは、これらのシステムを設置すると「発電エコぷらん」(詳細は同社ウェブサイトや資料を参照)が適用され、ガス料金が割安に。今回は、ガス会社数社から同等の製品が販売されているなかから、東京ガスのものを紹介する。

02



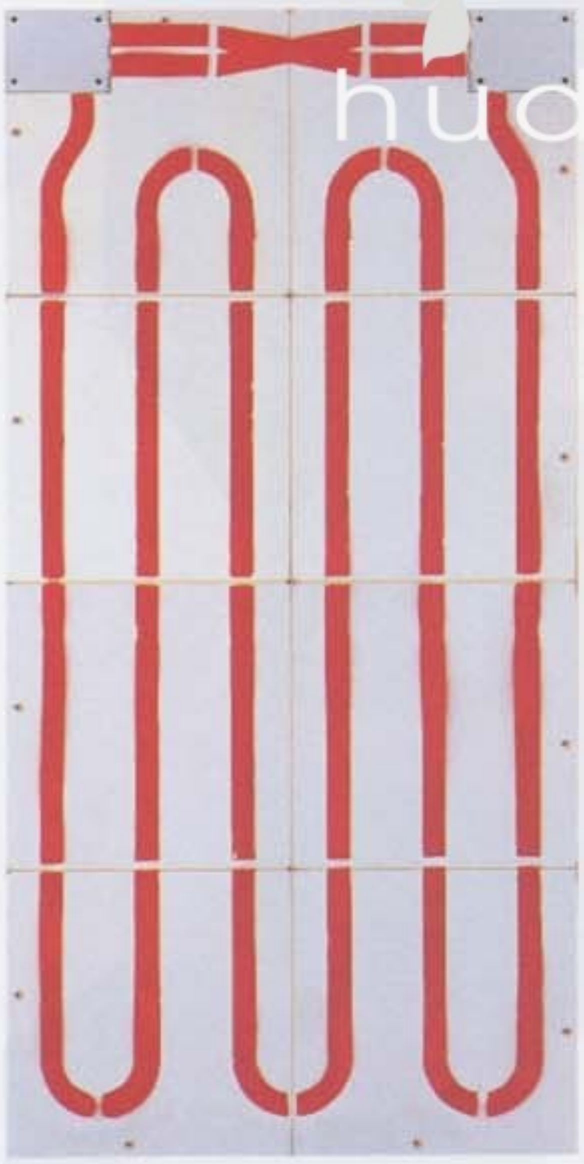
01. 2009年5月から一般販売が開始された東京ガスの家庭用燃料電池「エネファーム」は、都市ガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させて自宅で発電。その際に出る熱を利用して約60度の湯をつくり、給湯や暖房に利用するコージェネレーションシステムだ。各家庭の生活パターンに合わせて無駄がないように自動運転を行うため、エネルギー消費量を抑えられる。貯湯ユニット(200 ℓ・W750×D480×H1883) 燃料電池ユニット(W780×D400×H860)セットで3,465,000円(リモコン込み)/東京ガス 02. 東京ガスの「エコウィル」は、都市ガスを燃料にガスエンジンで発電し、エネファームと同様に発電時に出る熱でつくった湯を給湯や暖房に利用できるシステム。生活パターンに合わせて発電するため、効率的に湯を貯められる。瞬間式の補助熱源機が付いているため湯切れの心配がなく安心だ。設置後10年または運転2万時間の早い方に達するまで、定期点検や修理に無償で対応。貯湯ユニットGCTシリーズ(137 ℓ・W700×D400×H1500) 発電ユニット(W580×D380×H880)セットで841,050円(リモコン込み)/東京ガス

FLOOR HEATING

床暖房は、空気の汚れや乾燥などを引き起こす心配がなく、輻射熱(ふくしゃ)によって室内全体を穏やかに暖められる。種類は床下に電気ヒーターを敷く電気式と、水の入ったシートや循環パイプを設置する温水式に分かれ、前者の熱源は電気、後者の熱源は電気、ガス、灯油がある。電気式はすぐにヒーターが暖まるため、高温に設定して部屋を暖めた後に低温にするといった温度調節が容易。しかし、ラグや家具を置いた箇所のみが熱くなるため、過加熱を自動で防止する製品を選択したい。一方、温水式は電気式に比べて低温で均一に暖めることから安全で、電源を切った後は緩やかに温度が下がり室温が持続しやすく、将来的により効率の良い熱源が登場した際、機器はそのままに熱源が変更できるものも。ただし、ほとんどの製品は屋外に熱源機の設置場所が必要だ。室内をゾーン分けして温度設定が可能なタイプは両者共にそろう。このほか、床暖房の長時間利用を考慮すると、割安な深夜電力（割引率、時間帯は各エリアの電気会社のウェブサイトや資料を参照）を利用できるヒートポンプや躯体への蓄熱を組み合わせれば、ランニングコストを抑えられる。現在では、躯体下の地面に電気パネルを埋設し、土壌に蓄熱させるシステムも登場。これらの価格は方式や条件によってさまざまだが、8畳（約13㎡）の場合、電気式は30～50万円、温水式は40～70万円、ヒートポンプ温水式は熱源機のみで約40万円を目安にすると良い。

01







02





03

01. 三菱電機のヒートポンプ式温水床暖房「エコヌクールピコ」は、湯をつくる際に使うエネルギーの内、約1/2から2/3に大気の熱を利用するため、消費電力を削減できる。40畳、4部屋まで対応可能で、55度の温水で暖める通常モードに加え、新たに60度送水モードを搭載。床材の下に設置する温水パネルはさまざまなサイズをそろえ、一部屋だけのリフォームにも適した断熱材付きも用意する。床材はフローリング、畳、コルクタイルなどに対応。室外ユニット（W800×D285×H550）198,450円　熱交換ユニット開放式（W370×D230×H430）231,000円　床暖房用パネル根太上設置タイプ1畳用（W750×L1500×t12）27,300円／三菱電機　02. サーマエンジニアリングの土壌蓄熱式床暖房「サーマ・スラブ」は、建物の地下土壌に直接ヒーターパネルを埋設する仕組み。熱が躯体を暖めると共に、地中に放出され、地面から深さ約2m程度で15～18℃の地中熱とほぼ等しくなる原理により、地表面近くに大きな蓄熱層が形成されるため、床面全体から24時間暖めることが可能だ。作動は電気料金の安い夜間に行うほか、各電気会社の割引システムにより、都内の一般的な住宅であればランニングコストを年間数千円に抑えられる。また、ヒーターパネルはメンテナンスフリーで半永久的に使用できる耐久性を持つ。低温で暖めるため、無垢材のフローリングにも対応可能。サーマスラブ電熱パネル（W455×L1365×t12.5）参考価格15,000～20,000円/㎡（部材、施行費込み）／サーマエンジニアリング　03. 東京ガスの温水式床暖房「NOOK」は約60度の温水をマット内に循環させ、床を25～30度にむらなく暖めることで、輻射熱(ふくしゃ)により部屋全体が快適に暖まる。床の仕上げ材はフローリングやタイル、カーペットなどバリエーションが豊富。リフォームの場合も最短1日から施行ができる。割安な料金プラン「暖らんぷらん」が適用されるため、ランニングコストを抑えることが可能だ。参考価格277,305円（6畳。仕上げ材、温水マット、熱源機、据え置き台、リモコン込み）／東京ガス

02



01



ECO CUTE

エコキュートは、空気の熱でCO_2冷媒を暖め、コンプレッサーで圧縮することでさらに高温にし、その熱で暖房や給湯に利用できる湯を沸かすヒートポンプの原理を利用したシステム。使用する電力を1とした場合、その何倍の熱エネルギーを生み出せるかが年間給湯効率（APF）という数値で表わされる。暖房と給湯は家庭で年間に使用するエネルギーの50％以上を占めるが、エコキュートは3倍以上の熱エネルギーが生み出せるため省エネルギーだ。また、通常料金と比べて割安な深夜電力を利用できる料金プランを始め、ライフスタイルに合った契約内容にすればランニングコストを抑えられる。キッチンや風呂の給湯だけでなく、自動お湯はりや追い炊き、床暖房や浴室暖房乾燥などを加えた多機能タイプのほか、高層階や複数の箇所で同時に湯を使用してもシャワーの勢いを保つ水道直圧式、デザインにこだわったシンプルでコンパクトな製品など、種類はさまざま。ヒートポンプユニットと貯湯ユニットの二つで構成され、貯湯量は一般的な370ℓ、460ℓのほか、300ℓ、550ℓがそろう。価格は容量やデザイン、機能によって異なり、40～100万円程度。

03



01. '09年11月に発売された日立アプライアンスの「ナイアガラ出湯　薄型タンク（プレミアム）BHP-FSV46GD」は、従来の製品と同様に貯湯タンクを介さず、水道水を瞬時に沸き上げて給湯する水道直圧方式により、3階でも勢いのあるシャワーを使用できる。蛇口やシャワーへの給湯配管には錆びにくく汚れにくいステンレスを採用。また、風呂の追い炊き時に湯が循環する配管では、ステンレスの採用と排水時に配管内を自動洗浄する機能の搭載により、清潔な状態を保つことが可能だ。貯湯タンクユニット（460 ℓ・W415×D1320×H1790）　ヒートポンプユニット（W792×D299×H720）セットで1,102,500円／日立アプライアンス　02. コロナの「一缶式・多機能（フルオート）ふろ追いだき床暖房機能付CHP-H4619AT」は、給湯、風呂の自動お湯はりのほか、最大26畳まで床暖房に対応。湯と水を混ぜる給湯ミキシングバルブの弁に、設定温度に合わせて変形する形状記憶合金を使った「SMA方式」を採用しているため、シャワーの湯を最適な温度に保ち、停電時にも湯が使える。また、お湯はりと給湯はそれぞれ異なる温度で同時に使用可能だ。APF3.1。貯湯タンクユニット（460ℓ・W700×D795×H1870）　ヒートポンプユニット（W900×D300×H690）セットで1,134,000円／コロナ　03. '09年7月発売のパナソニックによる「KUCシリーズ パワフル高圧フルオートKE-KU46CQS」は、季節や時間による温度の変化を学習する「湯温学習制御」により、保温時間をコントロールすることで、入浴していないときのエネルギー消費を抑える。浴室用のリモコンに搭載されたセンサーが人を感知して素早く加熱を開始するため、いつでも温かい風呂に入ることが可能だ。高耐圧貯湯タンクを搭載し、地上3階でも勢いのあるシャワーを使用できる。APF3.4。貯湯タンクユニット（460 ℓ・W600×D680×H2170）　ヒートポンプユニット（W780×D289×H690）892,500円／パナソニック電工　※以上すべて一般地仕様

PELLET STOVE

ペレットストーブは、おがくずや樹皮などの製材端材や間伐材を粉砕、乾燥させ、圧縮することで溶け出した木材の成分によって直径6～8㎜程度の小さな円筒状に固めた「ペレット」を燃料とするストーブ。1970年代に石油の代替燃料として生産が開始され、その後一時下火となったものの、環境問題、化石燃料の高騰などを背景に近年、再び注目されている。有害物質を含まず、煙と灰が少ないうえ、十分に乾燥しているため安定した炎が得られるのが特徴だ。ワンタッチで着火が行え、自動で火力調整や燃料供給ができる製品も多く、手軽に薪ストーブのような力強い炎が楽しめる。また、ほとんどが煙を外部に排出する強制給排気(FF)式を採用しているため、室内の空気を汚さない。ペレットの価格は約40～50円/kgで、製品や火力によって異なるが、平均1kgで1時間ほど持続でき、価格変動の激しい灯油に比べてランニングコストは同程度かそれ以下だ。ストーブ本体は国内外メーカー共に豊富なデザインがそろい、価格は10～100万円。

01



01. 1960年の創業以来、200万台以上の暖炉や薪ストーブを生産するイタリア・PIAZZETTA社「P961」は、2重構造の庫内で暖められた暖気を足下から吹き出す同社の特許技術「マルチフォーコシステム」により、室内の空気を循環させて均一に暖める。本体に加湿器を内蔵しているため水を入れれば温度上昇と共に室内を加湿できるだけでなく、アロマオイルを垂らして香りを楽しむことも可能。すべての製品が安全性、環境性などを厳しく定めたドイツ工業規格(DIN)に認定されているほか、職人の手作業によって製作されるイタリアの陶器、マジョリカ焼きを外装に用いるなど、高いデザイン性も魅力だ。カラーはオフホワイト、ボルドーなど全5色(W675×D550×H1160)850,000円(リモコン込み) 重量:193kg 暖房能力:3.7～12kW 適用面積:要問い合わせ タンク容量:35kg 燃料消費量:0.9～2.7kg/h／WoodHood 02. 岐阜を拠点とするペレットストーブ専門メーカー、シモタニの「concord EMERSON」は、上下2方向から温風が吹き出すほか、着火タイマーや過加熱防止センサー、地震を感知して自動停止する機能が付いているため、安心して使用できる。コンパクトなサイズとシャープなデザインが特徴で、カラーはレッドのほかオレンジ、シルバー、ブラックを用意(W480×D535×H663)オープン価格 重量:80kg 暖房能力:2.5～6.5kW 適用面積:約40㎡ タンク容量:10kg 燃料消費量:0.25～1.25kg/h／シモタニ 03. PIAZZETTA社の「P962」は、マジョリカ焼きを用いたクラシックな外装と四角いモダンなフォルムの組み合わせが美しい。リモコンで容易に火力やタイマー設定が可能で、「P961」と同じく本体に加湿器を内蔵。カラーはオフホワイト、ベージュ、アンティークブルーなど全5色をそろえる(W610×D550×H1180)899,000円(リモコン込み) 重量:203kg 暖房能力:3.7～12kW 適用面積:要問い合わせ タンク容量:35kg 燃料消費量:0.9～2.7kg/h／WoodHood



03

02



WOOD STOVE

薪ストーブの魅力は、パチパチと薪が燃える音の心地良さと、炎の揺らぎを眺められること。上面や庫内で調理ができる製品や、アンティークストーブなど、デザインや大きさ、機能などの違いにより種類が豊富。暖房方式は主に3タイプに分かれ、最も一般的なのはストーブ本体からの輻射熱によって室内を暖める方式で、燃焼効率が良く早暖性があるが、本体が高温になるため注意が必要だ。二重構造の庫内に室内の空気を循環させて暖める対流式は、輻射式に比べて本体が高温にならず、壁面付近にも設置できるため、室内でのレイアウトが自在。前面をオープンとした開放式は、燃焼効率は悪いが、薪の香りや炎をじかに楽しめる。燃焼方式は、近年、薪を燃やした際に発生する木炭ガスを庫内で再燃焼させる二次燃焼方式を採用し、燃焼効率を高め、クリーンな煙を排出するものが多い。価格は大きさ、性能などにより3～100万円以上と幅広いが、一般的には15～40万円程度。



01



02



03

01. 最新の薪ストーブやペレットストーブを始め、デンマーク・コペンハーゲンを拠点とするCASO社によって一つひとつ丁寧に復元されたアンティークストーブを取り扱うノーザンライトストーブ。1930年代のドイツ製アンティークストーブ「"Bartz" Cooking Stove」は、表面にホワイトエナメルが施された上品なデザインが特徴だ。天板に二つの調理プレート、前面にオーブンがついているため本格的な料理も楽しめる。天板はIHヒーターに変更することも可能だ。下部はキャスター付き収納（W740×D960×H740）420,000円　重量：120kg／ノーザンライトストーブ　02. スリムで洗練されたフォルムが美しいPIAZZETTA社の「E917」は、正面に配した幅250㎜×高さ350㎜の耐火ガラスから炎の揺らめきを眺められる。庫内を独自開発による耐熱性、蓄熱性の高いセラミック素材「ALUKER」で覆っているため、燃焼効率に優れ、火を消した後も室内を柔らかに暖める。また、同社のペレットストーブ（165頁）と同じく本体に加湿器を内蔵。レッド、アンティークブルーなど全8色の豊富なカラーを展開（W550×D460×H1020）482,000円　重量:151kg　暖房能力:7kW　適用面積:要問い合わせ　燃料消費量:2.4kg/h／WoodHood　03. ノーザンライトストーブの1930年代デンマーク製アンティークストーブ「L.Lange Cooking Stove」は、火力の微調整ができるよう、三つの吸気口が設けられている。扉に施されたデザインが表情を添えるほか、取っ手がついた天板には繊細な“すかし”が彫られており、開けると調理プレートが二つ現れる（W560×D390×H870）300,000円　重量:70kg／ノーザンライトストーブ


PS
HR-C

HEATING PRODUCTS









1. 炎でインテリアを演出するガス暖炉「Arriva」

リンナイの「Arriva（アリーバ）」は、炎をインテリアの一部として取り入れることができるガス暖炉。強制給排気（FF式）により、機密性の高い空間でも安全に使用でき、灰や排気も残さないためメンテナンスも容易だ。炎の揺らぎで、心を和ませ、安らぎの空間をつくり出す。炎のレベルはリモコンで7段階に調整でき、気分に合わせた演出が可能だ。フロントパネルに曲面ガラスを使用した「MIDNIGHT」と「PLASMA」のほか、ステンレス製のフラットパネルを採用した「SHINE」の3種類のなかから選べる。

「PLASMA」サイズ：W902×D123×H679（壁埋め込み部W852×D365×H660）（mm）
価格：924,000円（給排気部材、工事費別途）

リンナイ　TEL.052-361-8219

資料請求番号**601**

2. 輻射式薪ストーブ「Cook 4」

デンマーク・スキャン社による「SCAN」シリーズの薪ストーブ「Cook（クック） 4」は、天板に3枚のホットプレートが付き、調理用としても楽しめる。内部はキャタリスティックコンバーター（触媒）を使わずに二次燃焼を起こすシンプルな構造で、高機密性と高い燃焼効率を実現。また、独自の予熱エアータンクシステムとセラミック製バッフルプレートにより完全燃焼を達成し、室内の空気をクリーンに保ちながら心地良く暖める。

サイズ：W745×D440×H825（mm）
価格：414,750円

新宮商行　TEL.047-361-3800

資料請求番号**602**

3. クラシックなフォルムの薪ストーブ「Classic 4」

デンマーク・ワム社の「Classic 4」は同社の設立初期からラインアップされている人気商品。コンロの機能も持ち併せ、本体の上にはオーブンの取り付けもできる薪ストーブだ。新鮮な外気をストーブで暖めて室内に供給するシステムで、効率的に二次燃焼を起こしクリーンな暖気を排出する。また、独自の燃焼コントロールシステム「HWAM AUTOMATIC」で自動的に最適な空気配分を行ってくれる。

本体＋オーブン＋ウッドセクション
サイズ：W600×D400×H1121（mm）
価格：630,000円（本体のみ399,000円）

DLD　TEL.0265-94-6133

資料請求番号**603**

4. 輻射式薪ストーブ「アイランドⅠ」

1972年の創業以来、高品質と優れたデザインの薪ストーブを製造し続けるイギリス・チャーンウッド社。薪ストーブ「アイランドⅠ・HI-ISL01」は直線的なデザインで、どのようなテーストの空間にも溶け込む。レバー1本で操作可能な4段階空気調整機能、本体ドアガラスへの防汚性を高める独自開発の「エアーウォッシュシステム」を搭載するほか、三次燃焼方式の「クリーンバーニングシステム」でクリーンな排気を実現した。

サイズ：W554×D393×H578（mm）
価格：179,550円

アドヴァン　TEL.03-3475-0281

資料請求番号**604**


WOOD STOVE | WOOD FLOORING | WOOD WINDOWS | LOGSPLITTER | CHIPPER SHREDDER | AXE | VACUUM SHREDDER | WALK-BEHIND MOWER | SNOWTHRO
DANISH DESIGN
北欧の先進デザイナーが贈る
新しいスタイルの薪ストーブ「HWAM ワム」
北欧、デンマークで高い評価を受けている薪ストーブ。
スタイリッシュかつモダンな洗練されたデザインが、
ガラス越しに見える炎の美しさをさらに引き立てます。
HWAM HEAT DESIGN
reddot design award
winner 2006
from Denmark
FUNCTIONAL DESIGN
バーモントの美しく、厳しい自然の中で
生まれたストーブです。
オーナーの期待に応える抜群の暖房性能の高さと
長期間の使用に耐える確かな品質。
アメリカ・バーモントの森が生んだ極められた名ストーブです。
DUTCHWEST
from U.S.A.
HWAM 3320
上下にスライドする大きな一枚のガラスが特徴のデザイナーストーブ。
美しい、ピュアなラインを保つため、ハンドルやグリップは
ついていません。その流麗な容姿からは、
作り手の炎に対する強いこだわりが感じとれます。
Designed by Christina Strand + Hvass
家具デザイナーである二人は、" Designfondens Designpris " をはじめ、
様々なデザインアワードを獲得。
手がけた作品にはMenuet chair、Rex chairなどがあります。
3320は単に暖をとるための家具としてだけでなく、
部屋の中の美しい芸術品としてデザインされました。
Federal Convection Heater FA26
アメリカニューイングランド地方、バーモント州で作られている
ウェストストーブは、全て熟練工の手作業によって組み立てられ
コンベクションヒーターFA265は、高出力低燃費な燃焼をコン
に、環境への不可が最も少ない燃焼方式、キャタリティックコン
ー（触媒）を採用しました。
鋳鉄製、200kgの本体からは、一軒の家全体を暖めることがで
どのパワーが放出されます。
HWAM Vivaldi
HWAM WALL
HWAM Classic4
HWAM Figaro
NEW
Randolph FA210
NEW
Bethel FA208
Sequoia
Enlight
Federal Convection Hea
THE BEST PRODUCTS WITH THE BEST SERVICE.
DLD Inc.
+ dweL Woodstove Pro shop Kitchen & Bath Wear
株式会社 ディー エル ディー ［ワム日本総輸入元］［MTDパワープロダクツ日本総輸入元］
本 社／長野県伊那市高遠町上山田2435 TEL.0265-94-6133 FAX.0265-94-5133
東 京／東京都港区南青山1-15-22-102 TEL.03-5410-8557 FAX.03-5410-8559
www.dld.co.jp
ショールーム 東京 / ディウェル 長野 / 伊那 / 郡山 / 仙台 / 名古屋
〔資料請求番号169〕
COMING SOON
盛岡オープン予
詳しくはお問い合わせくださ

HEATING PRODUCTS









1. 壁掛け式ガスストーブ「Fire Wall」

イギリスの老舗ストーブメーカー、エッセ社の壁掛け式ガスストーブ「Fire Wall（ファイヤーウォール）」は煙突が不要のため施工が容易。都市ガス仕様で（オプションでLPG変換キットあり）安定した炎とクリーンな暖気が得られるほか、室内の酸素濃度に反応する酸素濃度センサーを搭載。室内の酸素濃度が規定レベル以下になると、ガス供給とバーナーが自動的に閉じる仕組みだ。また、立ち消え安全装置や過熱・過電流防止装置なども装備して機能性とデザイン性の高さを実現した。
サイズ：W1060×D137×H605（mm）
価格：600,000円

グランビル　TEL.0120-40-2234

資料請求番号**605**

2. コンテンポラリーなデザインの薪ストーブ「HWAM3320」

北欧の先進デザイナーとのコラボレーションにより生み出されるデンマーク・ワム社の薪ストーブ。同国のデザイナーユニット、Strand+Hvassによる「HWAM（ワム）3320」は炎の美しさを引き立てるために上下可動式としたフロントガラスが特徴で、ハンドルやグリップがない洗練された仕上がりだ。独自の「HWAM AUTOMATIC」システムで面倒な空気調整を自動で行い、効率的な暖房能力を発揮。そのほかにもフロントガラスを美しく保つAirwashシステムや、面倒な灰の始末も、バキューム式の灰入れバケツで簡単に吸い取ることができメンテナンスも容易。フリースタンディングと壁付けの2タイプがそろう。
サイズ：W590×D459×H741（mm）
価格：588,000円

DLD　TEL.0265-94-6133

資料請求番号**606**

3. 心地良い温熱環境をデザインする「ecowin」

ハイブリッドサーモシステム「ecowin（エコウィン）」は日本で開発された輻射式冷暖房システム。高効率のヒートポンプを採用し、従来の空調設備に比べ大幅な省エネを実現している。遠赤外線による輻射熱によって冷暖房を行い、自然対流式のためほこりを巻き上げず、心地良い温熱環境を創出する。また大型ながらシンプルなフォルムはあらゆる空間に溶け込むようデザインされている。写真のパネル型は横位置にも設置できるほか、360°方向へ輻射可能なタワー型もあり、それぞれ取り入れるスペースに合わせたサイズでのオーダーも可能。
標準サイズ：W1260×H2550（mm）
価格：735,000円（熱源機、工事費別途）

エコファクトリー　TEL.096-381-7033

資料請求番号**607**

4. ディンプレックス・ジャパンの電気ヒーター

ローハイトタイプの「センシュアルSAS ラジエターヒーター」は、高さ270mmと低く設定され窓下など限られたスペースを有効に利用できるフランス・ミューラー社製電気ヒーター。コンパクトながらも強力な輻射熱を発生する「特殊アルミ製エレメント」の表面に波状加工を施すことで、輻射熱の大部分をヒーター前面に放射して効率良く室内を暖める。背面に熱を逃がさないため、周囲への影響もほとんどなく、設置場所を選ばない。また高性能電子式サーモスタットが、無駄な消費電力を抑えて室温を調整するため電気代の節約につながる。200V・750Wと1000Wの2タイプがそろう。
サイズ：W 925（1145）×D85×H270（mm）
価格：99,750円（750W）、104,790円（1000W）

ディンプレックス・ジャパン　TEL.03-6272-3792

資料請求番号**608**



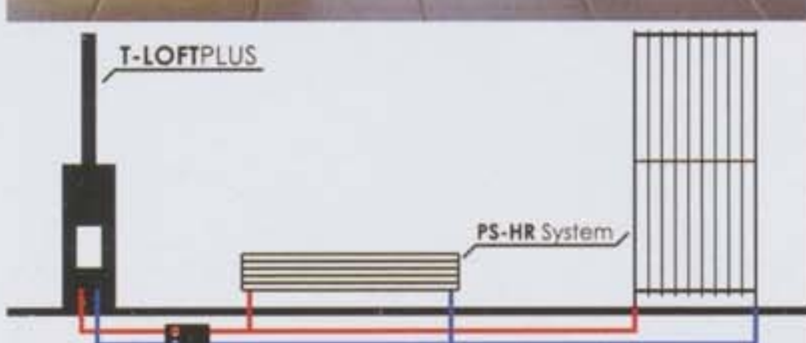
エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS
床暖房にした私の判断は、正しかった。
新居についていて
嬉しかった設備No.1
ガス温水床暖房の満足度は、数ある住宅設備の中でダントツトップ。足元からお部屋全体を暖め、静かで風を感じない
ことが人気の秘密です。家族構成や年齢を問わず喜ばれるガス温水床暖房。長い目で見ても賢い選択ですね。
ココロもカラダもほっとする
ガス温水床暖房のある暮らし
ガス温水式
体にやさしい
POW
パワフル
部屋全体が暖かい
30 years
約30年耐久
お手入れ不要の温水パイプ
¥
エコノミー
おトクなガス料金メニュー
暖らんぷらん
いい家にしよう ガス温水床暖房
●資料請求・お問合せ 0120-478-302 受付時間／10:00-18:00（日・祝日除く、月～土）
●スペシャルサイト公開中! ▶ www.tg-yukadan.com
〔資料請求番号 171〕



1



2



3



4



HEATING PRODUCTS

1. 東京ガスの「ガス温水床暖房」

東京ガスのガス温水床暖房は、熱源機でつくった約60度の低温水を温水マットに循環させて室内を暖める。床面からの輻射で室内全体が暖まるので、ほこりを巻き上げる不快な風や音もない。電気パネル式に比べて立ち上がりが早く、床面の温度ムラも少ないうえ、ランニングコストも割安で、同社が推進する家庭用燃料電池「エネファーム」や、マイホーム発電「エコウィル」との組み合わせで、環境に配慮した心地良い住まいを実現できる。
仕上げ材「ビーチ／ヨーロッパクリスタル」の場合（戸建住宅6畳）
価格：277,305円（熱源機込み、工事費別途）

東京ガス　TEL.0120-478-30

資料請求番号**609**

2. ピーエス「HRヒーター」＋薪ストーブ「T-LOFT PLUS」のハイブリッド暖房システム

薪ストーブ「T-LOFT PLUS」は周囲を蓄熱性に優れたセラミックで覆うことで、燃焼後も約8時間暖かさが持続。また、つくられた熱の最大50％を温水に変え、ピーエスの「HRヒーター」内に循環できるため、環境への負荷をかけることなく、住まい全体を柔らかく暖めることが可能だ。
ストーブサイズ：W520×D525×H1375（mm）
薪ストーブ「T-LOFT PLUS」価格：886,000円～

ピーエス　TEL.03-3485-8189

資料請求番号**610**

3. デロンギの新作オイルラジエターヒーター

イタリア・デロンギ社の新作オイルヒーター「VENTO DeLonghi（ヴェント　デロンギ）・V551115EFS」。独自開発のf字型フィンで暖気の自然対流を促進し、輻射熱によって室内を穏やかに暖める。ヒーター幅が約135mmとスリムなデザインも特長の一つ。室温を一定に保つ「サーモスタット」やトラッキング事故を防ぐ「安全プラグ」を搭載し、快適性と安全性を追求した。
サイズ：W540×D245×H630（mm）
価格：44,100円

デロンギ・ジャパン　TEL.0120-064-300

資料請求番号**611**

4. 新日本石油の家庭用燃料電池「エネファーム」

新日本石油が販売する家庭用燃料電池エネファームは、LPガスなどから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させて自家発電するシステム。さらに、発電時に発生する熱でお湯をつくり、お風呂やキッチンで利用できる。住み手のライフスタイルに合わせて効率的に自動運転するほか、バックアップ給湯器がついているので“お湯切れ”の心配がない。
サイズ：発電ユニット「FCP-075CPG2」W900×D350×H900　貯湯ユニット「FCG-201-RT（標準タイプ）」W750×D440×H1900（mm）
価格：3,200,000円（工事費別途）

新日本石油　TEL.0120-56-8786

資料請求番号**612**

www.advan-shop.com

アドヴァンダイレクト　検索

ADVAN DIRECT
アドヴァン ダイレクト

ネットで買える。建材のオンラインショップ。

世界のNew建材 ADVAN



















ショールームで現物の商品がご覧いただけます。

www.advansr.com

TOKYO SHOWROOM

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-32-14
TEL 03(3475)0194

交通
●JR山手線「原宿」駅下車 徒歩7分
●地下鉄千代田線・副都心線「明治神宮前」駅下車 5番出口 徒歩3分
●首都高速「外苑」出口より車で10分



立体駐車場完備

OSAKA SHOWROOM

〒541-0053 大阪市中央区本町3-3-12
TEL 06(6245)0573

交通
●地下鉄御堂筋線「本町」駅下車3番出口 徒歩3分
●地下鉄堺筋線「堺筋本町」駅下車16番出口 徒歩5分



立体駐車場完備

NAGOYA SHOWROOM

〒460-0005 名古屋市中区東桜2-22-18
日興ビル（CBC放送前）
TEL 052(932)3400（代）

交通
●地下鉄「新栄町」駅下車 徒歩5分



※駐車場は台数に限りがあります。事前にご確認ください。

FUKUOKA SHOWROOM

〒812-0025 福岡市博多区店屋町6-1
ランダムスクウェア1階
TEL 092(291)1011（代）

交通
●地下鉄「中洲川端」駅下車7番出口 徒歩5分



※駐車場は台数に限りがあります。事前にご確認ください。

【ショールーム営業時間】月～土 10:00～19:00（休館日:日・祝・年末年始・夏期休暇）
※東京ショールームのみ日曜日も営業いたします。10:00～17:00（ご予約を承わっております。）

世界のNew建材 ADVAN 株式会社 アドヴァン 通販事業部 TEL 03-3475-0291 FAX 03-3746-4328 www.advan.co.jp

〔資料請求番号173〕

HEATING PRODUCTS

1. 家族の団欒(だんらん)を演出する彩工芸企画の囲炉裏

職人の手技によって生み出される彩工芸企画の囲炉裏。木部には板目が整ったインテリア性の高い広葉樹の無垢材と、南部鉄製の炉を採用したこだわりの逸品。バリエーション豊富な規格品に加え、デザインや天板のサイズのオーダーにも対応している。写真は掘りごたつの縁に合わせて脚をつくり、すっきりとしたデザインと座りやすさを両立したセミオーダー品。囲炉裏を移動すれば掘りごたつとしても使える。
サイズ：天板t100　炉540角（mm）

彩工芸企画　TEL.046-294-1770

2. 環境瓦＋瓦一体型太陽光発電システム

陶器瓦の表面に苔を敷くことで、これまで困難とされてきた勾配を持つ屋根の緑化を可能にした環境瓦「グロウ」。苔の保水性や蒸散作用によって屋根からの熱を遮断できる。太陽電池モジュールを組み込んだ平板瓦一体型太陽光発電システムと併用することで省エネルギー効果が得られる。通常の瓦工事との同時施工で軽量化、低コストを実現。

新東　TEL.0566-53-2631

資料請求番号613

3. 遮熱性能を搭載した透湿防水シート「アルミナシート」

「アルミナシート」は従来の透湿防水シートの難点だった耐久性を確保し、アルミを蒸着させる特殊加工を施すことで外壁から室内へと伝わる輻射熱を遮断。アルミの持つ遮熱性能を格段に向上させると同時に透湿・防水・防風・耐久性も実現し、室内外の温度差を平均マイナス1度以内に抑えた。また、会社名やロゴを印刷したオンネーム製作にも対応している。10年間の保障付き。
サイズ：W1m×50m（2本梱包）
価格：29,400円/本　560円/㎡　※2本より受注

ロッキーズコーポレーション　TEL.042-328-2130

4. 世界最先端の高性能窓「ENER Sign Window」

ドイツ・Pazen社の「ENER Sign Window（エナサンウィンドー）は世界で最も厳しい基準が設けられている同国の省エネルギー住宅に採用される高性能な窓。厚さ50㎜の3層ガラスを採用し、屋外側のフレームにグラスファイバー、室内側は木製フレーム構造としながらも、厚みを従来の2/3以下に薄くした。サイズは600㎜角の小窓から2m以上の大開口などオーダーでき、開け方は内開き、内倒しの二通りをそろえる。
価格：120,000円～

日本省エネルギー住宅協会　TEL.045-670-7111

資料請求番号614











THE INNOCENT RELATIONS

二世帯を心地良い距離感でつなぐ中間領域

U邸　京都・北区

設計／ケンチクイロハ　造園／GARDEN WORKS園三
撮影／ナカサ＆パートナーズ　文／川瀬みゆき



前頁／子世帯が暮らす3階のダイニングキッチンから見下ろす2階のワークスペース。天井高最大6167㎜の吹き抜けを貫く薪ストーブの煙突が、垂直方向の広がりをさらに強調する。ストーブは暖炉・薪ストーブの専門店、憩暖のもの。家族やゲストのコミュニケーションの場としてデザインされた幅2500㎜、勾配34度のタモ集成材の階段が、住まいを特徴づける存在だ。左手の幅600㎜×高さ2100㎜の木製サッシを縦に2枚設けた開口から光を回り込ませている。左側に置かれた2脚のイスは住まいに合わせて新たに購入したPaul Kjaerholmによるデザインの「PK22」
下／住まいの最奥に当たる2階西側からギャラリーを見返す。ギャラリーからのつながりを意識して、ワークスペースの床は大階段と同じオレゴンパイン材で統一。3階へのアプローチとなる幅と素材に変化を持たせた二つの階段が、空間をリズミカルに切り取る。ギャラリーとワークスペースは、太鼓貼りの障子で仕切ることが可能だ。正面上部に見える白い腰壁の向こうは子世帯のダイニングキッチン



作家として活躍するオーナーの作品を展示する2階のギャラリーには、幅5500㎜、勾配27度のゆったりとした大階段が配置されている。この大階段からはさまざまな高さや角度で作品を鑑賞でき、段差を生かした展示も可能なほか、客席として利用すればギャラリーが舞台にも変化。その延長には家族共有のワークスペースや書斎があり、奥に見える階段を介して視線が3階まで抜ける。右側の白い階段を上ると3階のダイニングキッチンが。手前の作品はジュート麻の経糸に羊毛を綴織（つづれおり）で織り上げた『黄色い円盤』（小名木陽一・2008年・直径2000㎜）

京都・北区の賀茂川沿いでは、5月に京都三大祭りの一つ"葵祭"が華やぎを見せる。王朝装束に身を包み、牛車と共に古典行列が練り歩く加茂街道は、京都御所から下鴨神社、上賀茂神社へと続く。古都の風景を代表する街道の途中に立ち、まるで平安絵巻のような風雅を望める住まいは、京都で生まれ暮らしてきた家族にとって誇りともいえる大切な場所だ。

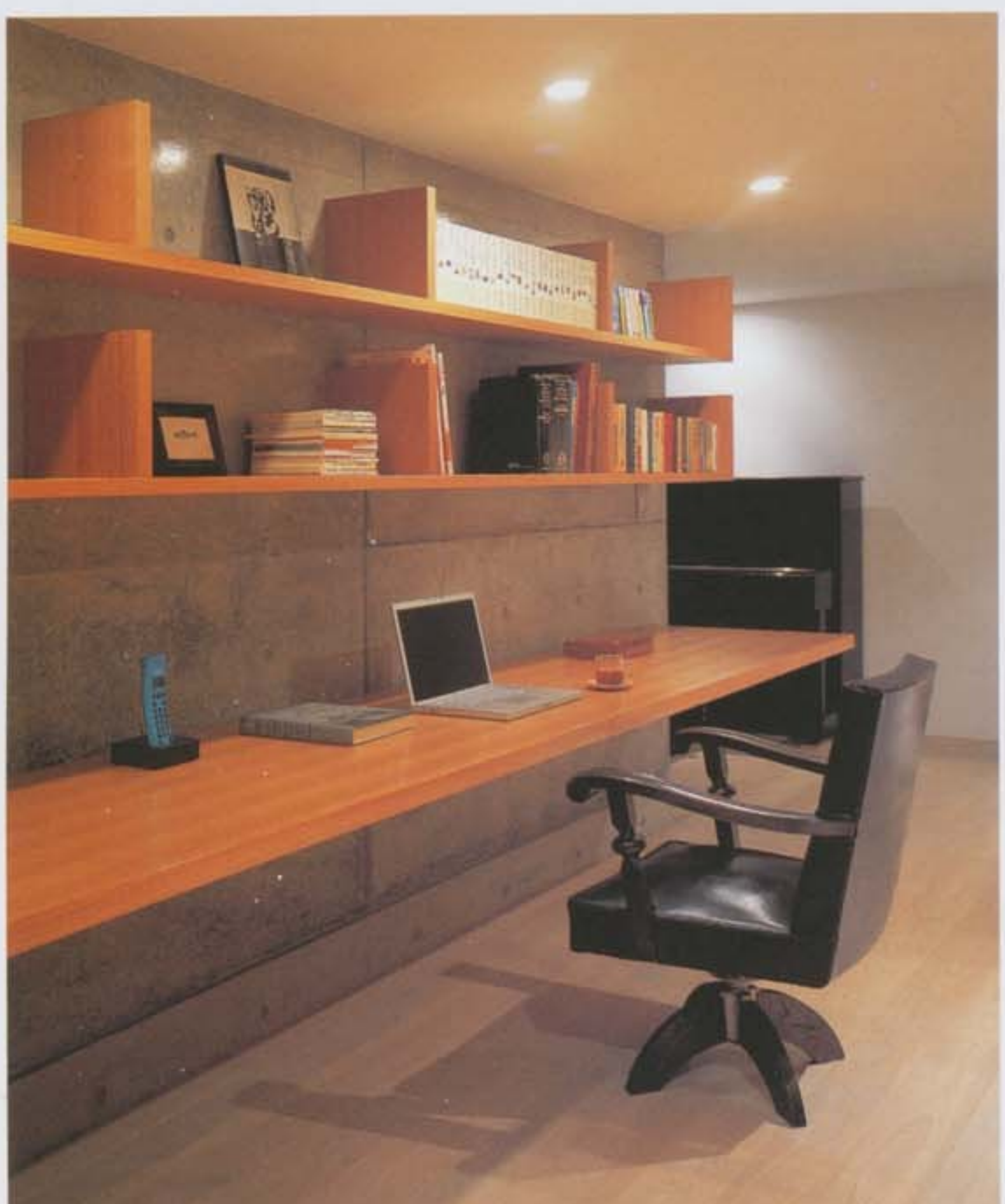
伝統を感じさせる生壁（なまかべ）色の外壁と寄棟屋根が周囲の景観に溶け込みながらも、光を反射する鮮烈な白い漆喰（しっくい）塗りの塀と大開口がモダンな印象のU邸。織物や染色を専門とし、京都にある芸術大学の教授として教鞭（きょうべん）をふるっていたオーナーは、約10年前に退職してからは作家活動に専念してきた。そのため、新たな住まいはギャラリーとアトリエを設けることを前提に計画。設計は建築家の植南草一郎さんと田岡佳江子さんが担当し、将来は子世帯も同居することを踏まえて二世帯住宅としてプランニングした。

まず、北東側の加茂街道と前面道路の約2ｍの高低差を生かし、街道と同じレベルに2階を設けることに。街道沿いに幅9.2ｍ×高さ2ｍの大開口を設け、生い茂る緑へ視線が抜ける開放的なギャラリーを生み出した。このガラス張りの大開口がショーウィンドーとなり、展示された作品が道行く人の目を楽しませる。さらに、その延長に幅5.5ｍものゆったりとした大階段を配置して空間をひとつながりに。階段が視線の高さに変化を与え、さまざまな角度から作品や外の風景が眺められると同時に、段差を生かしたディスプレイが可能となる。

そして、大階段を介したギャラリーの西側には床面積約70㎡の広々としたワークスペースを配置。「個室を確保するよりも機能を特定しない場を充実させるほうが、家族のコミュニケーションを育む豊かな空間を実現できる」と田岡さん。この住まいでは1階をオーナーである親世帯、3階を子世帯とし、中心となる2階に家族共有のワークスペースを配した。ギャラリーとつながる大階段のほか、素材や幅に変化を持たせた二つの階段は、家族やゲストとの読書を楽しむ、本を読むなど自然と人が集う場でもある。

（18[illegible]頁へ続く）

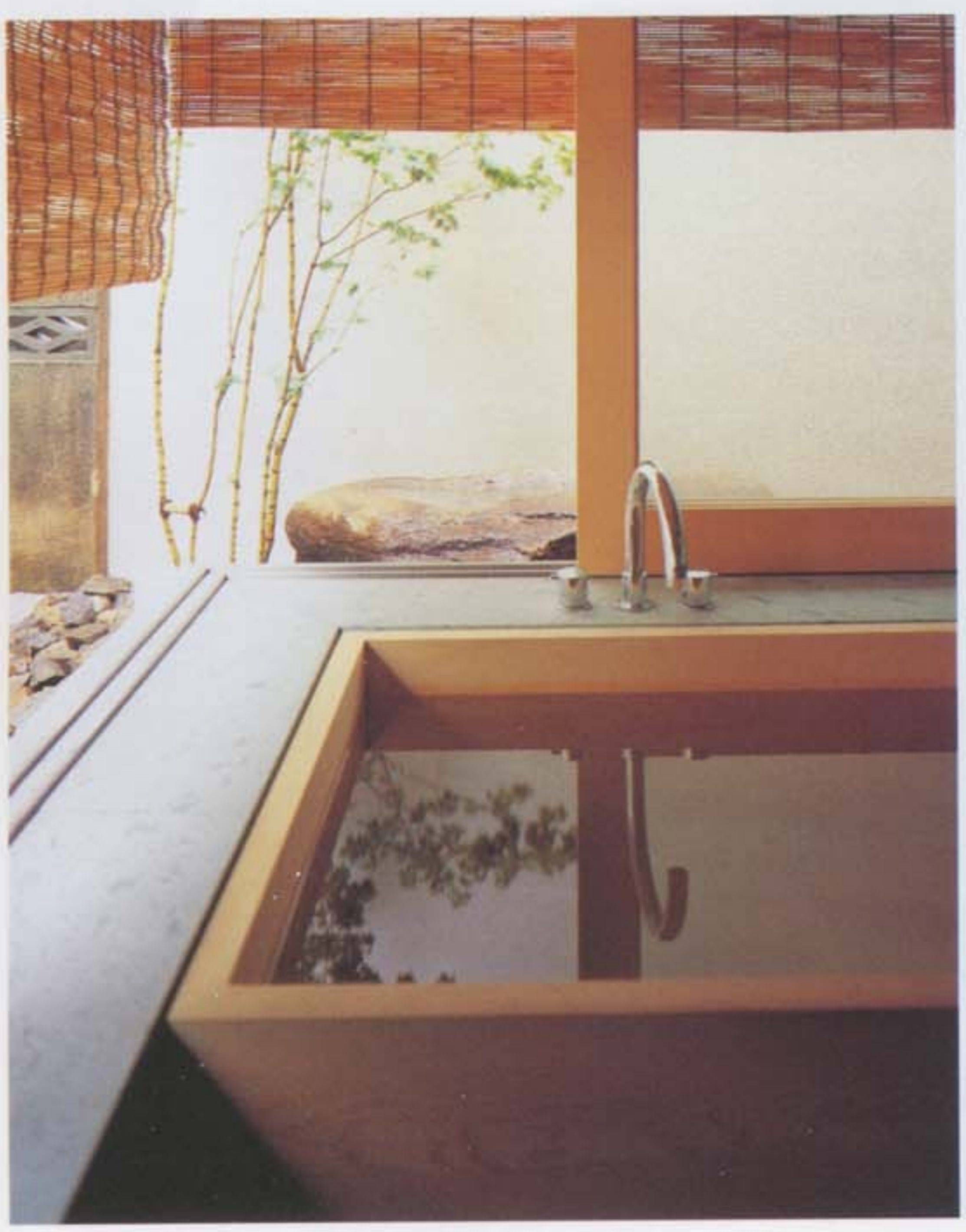




上／幅9200㎜×高さ2000㎜の大開口を介して京都・加茂街道沿いの緑を望むギャラリーでは、入居後初の個展が開催されていた。『補遺』と名づけられたこの展覧会には、「やり残した仕事を新しい場所で補っていきたい」というオーナーの想いが込められている。天井高は、これまでに手掛けた作品の最大寸法に合わせて3400㎜に設定　左／開放的なワークスペースの北側には、コンクリート壁で仕切られた書斎をレイアウト。壁一面に造作した幅9020㎜×高さ2100㎜の書棚に家族が持ち寄った本や雑誌が並ぶ。誰でも自由に使えるライブラリーのような空間は、家族で過ごす有意義な時間を与えてくれる
左頁／上階のモダンな空間とは一転、親世帯が暮らす1階南側には趣あふれる和庭が広がる。木曾石を用いた飛石から手水鉢、そして和室へと茶室の露地を思わせる庭は、岐阜を拠点に活躍する造園家、田畑　了さんが手掛けた。自然のままの枝振りを見せる樹木は、東北地方の山で自生していたもの。割栗石に用いる砕石を犬走りにあしらうなど、スケール感のある作庭が印象的だ







上／南側の庭にシンボリックにあしらったヤマモミジとヤマボウシを1階の居間から望む。天井高2300㎜の空間に奥行き1000㎜の深い庇が、陰影のあるしっとりとした和の情緒を演出。幅1270㎜×高さ2300㎜のサイズで特注した雪見障子は、コンクリート塀の高さ1400㎜に合わせてガラスをはめ込む位置を決めた。障子を開けた際、ガラス窓がピクチャーウィンドーとなり、塀を背景にした樹木と芝生の緑が楽しめる。また室内は琉球畳敷きとし、オーナーの希望から円卓の下に掘り炬燵を設けた。照明はコイズミ照明のもの　左／親世帯が使用する1階の浴室は、浴槽に木曽の高野槙を用い、秋田の十和田石で周りを取り囲んで自然を感じられる空間に。コーナーを開け放てば、庭のハウチワカエデやソヨゴを眺めながら露天風呂のような気分でくつろげる。窓外に見える水盤は自然石のかたちを生かして田畑さんが造作
左頁／3階のダイニングキッチン。天井高2050㎜に設定し、幅5200㎜×高さ2000㎜の開口を介してテラスと一体化したオープンな空間から、加茂街道沿いの豊かな緑を望む。木製サッシのレールは床と天井に埋め込んでフラットにつなげた。床はタモ材フローリングで、幅5500㎜×奥行き2500㎜としたテラスはイペ材を用いている。オーダーキッチンメーカー、プリマヴェーラに特注した幅3360㎜×奥行き950㎜×高さ850㎜のアイランド型キッチンカウンターは、手前のウォールナット材の突き板が上部に跳ね上がり、テーブルとしても活躍



また、2階を緩やかに仕切るコンクリート壁の北側には、明るいワークスペースとは対照的に、こもるように落ち着ける書斎が。北側の壁一面に造作した書棚には家族それぞれの本や雑誌が並び、長さ4890㎜ものカウンターテーブルで思い思いのひとときを過ごすことができる。このように、ワンルームでつながるコミュニケーション空間が、1階と3階に分けた二つの世帯を結ぶ役割を果たす。

シンプルに構成された2階とは一変、親世帯の1階は伝統素材を生かした和のしつらえが印象的。和室には未晒(みさら)しで漉(す)き上げた京都・綾部の黒谷和紙や、唐長(からちょう)の唐紙(からかみ)があしらわれ、玄関の土間は京都・伏見の深草砂利を使用した三和土(たたき)仕上げ、クリ材の板の間にはなぐりが見られるなど、この地の伝統素材を用いて古来の工法で丁寧につくり込んでいる。「伝統を継承しながらも斬新さを併せ持つ素材を探すと、おのずと京都のものに行き着く。それら一つひとつが主張しすぎることなく空間になじむよう配慮した」と田岡さん。さらに、庭は建築とのバランスが大切であることから、岐阜の造園家、田畑 了さんに依頼。木曾石のダイナミックな階段、東北地方の山に自生していたヤマモミジやヤマボウシなどを植樹し、野趣に富んだ伸びやかな庭を完成させた。

一方、ワークスペースと吹き抜けでつながる子世帯の3階は、面材にウォールナット材を採用したアイランド型キッチンカウンターが目を引き、モダンな印象を与える。デッキテラスとつながる東側の引き戸を開け放てば、ここからもまた、賀茂川沿いの豊かな緑と空を目前に望むことが可能だ。1階は趣あふれる庭、2階は加茂街道の緑、3階は澄み渡る青空と、各階において異なる手法で取り込まれた周囲の景色が、室内を移動するたびに新鮮な気持ちにさせてくれる。

パブリックスペースであるギャラリーとワークスペースを住まいの中心に配することで、それぞれが心地良く感じられる距離感を生み出したU邸。シーンごとに異なる表情を描く住まいが、家族の暮らしを優しく包み込

上／3階北側のワークスペースからつながる踊り場の延長に配置した左手前の子ども部屋は、間仕切りのないオープンな空間に。壁面にしつらえたガラスの黒板は、子どものイマジネーションを広げる大きなキャンバス。左手前のカーテン奥がウオークイン・クローゼット、150㎜の段差を上がった左手が寝室で、正面が浴室。間仕切りにはモリカゲマユミさんによるデザインのファブリックを取り入れ、空間を緩やかにつないでいる　下／3階浴室から廊下を見渡す。左手は壁や建具で完全に仕切るのではなく、200㎜の段差を設けて廊下と緩やかに場を分けたダイニングキッチン。洗面スペースとトイレを仕切るパーティションを兼ねたタオルウォーマーや横長のモザイクタイルが、水平方向の広がりを生む
左頁／北東側外観を見る。京都の賀茂川沿いという土地柄、外壁の色や屋根勾配の角度にまで規制がある厳しい建築条件のなかで設計されたU邸。風景になじむ落ち着いた佇まいを基本としながらも、大開口を介して垣間見えるギャラリーや階段が個性を放つ

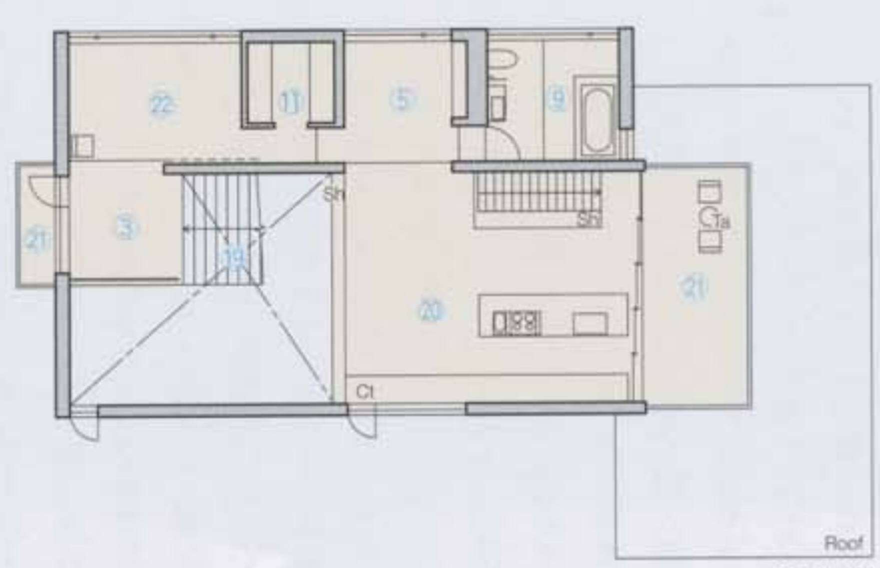








2F PLAN



3F PLAN

DATA

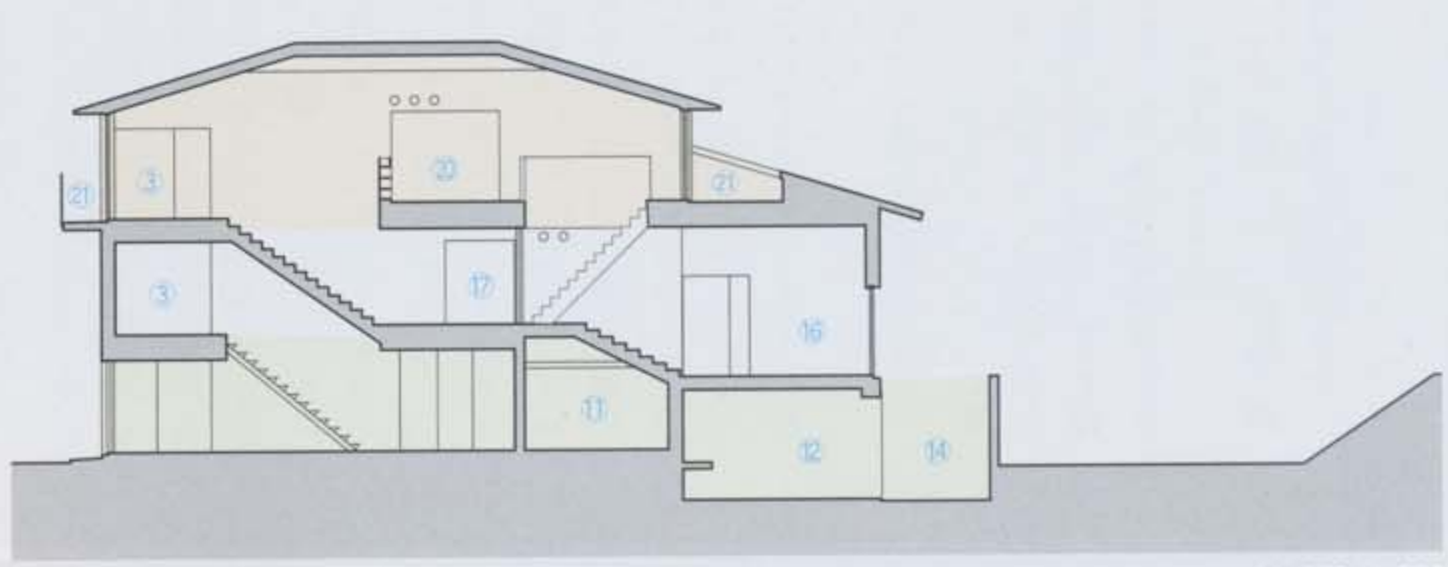
構造と規模／RC造　地下1階　地上3階建て
敷地面積／386.21㎡　建築面積／151.55㎡
床面積／地下1階53.25㎡　1階98.30㎡
2階144.97㎡　3階91.55㎡　合計388.07㎡
家族構成／父（77歳）　母（73）
夫（41）　妻（40）　長男（15）　長女（7）
※設計データは208頁に掲載



1F PLAN 1:300

子世帯　親世帯

① APPROACH
② ENTRANCE
③ HALL
④ KITCHEN
⑤ BEDROOM
⑥ LIVING
⑦ POWDER ROOM
⑧ TOILET
⑨ BATHROOM
⑩ JAPANESE STYLE ROOM
⑪ WALK-IN CLOSET
⑫ ATELIER
⑬ STORAGE
⑭ GARDEN
⑮ GARAGE
⑯ GALLERY
⑰ WORK SPACE
⑱ STUDY ROOM
⑲ VOID
⑳ DINING & KITCHEN
㉑ TERRACE
㉒ KID'S ROOM



X-X' SECTION 1:300



左／「HOPPEN DAKKO」のレザー製品はほとんど手づくりのため少量生産。ステッチごとに心が込められ、手仕事の温もりが伝わってくる。手前はお菓子をヒントにつくられたキーケースの「フィナンシェ」7,500円。左奥がイタリアのサンドウィッチ、パニーニをイメージした長財布「パニーノ」44,000円。さまざまな色や素材を使用したカードケースと小銭入れを引き出せるのが特徴。製品により革の配色やステッチの変更も可能。フルオーダーのバッグ製作も受けつけている　右上／長屋をイメージして民家を改築した「土屋鞄製造所」鎌倉店は、木がふんだんに使われた風情あるつくり。奥に細長い店内はまるでギャラリーのようにレザーの鞄や小物がディスプレイされている。工房を併設した東京・足立区西新井の本店を始め、白金台、京都、2009年夏にオープンした神戸店がある　右下／鎌倉店でしか見ることのできない店舗限定品ユニック。ラージ、トール、ハンディ3種のトートバッグ34,000円〜、長財布23,000円、コインケース7,000円などがそろう。人気の「オイルヌメ」はパスケース6,800円、ショルダー52,000円、トートバッグ52,000円などがラインナップ

HOPPEN DAKKO
URL : http://www.hoppendakko.com

土屋鞄製造所　鎌倉店
神奈川県鎌倉市由比ガ浜1-10-2
TEL.0467-61-3300
URL : http://www.tsuchiya-kaban.jp

Leather

繊細な手仕事で生まれた温かみのあるレザー製品

Text : Maki Sato　Photographs : Nacása & Partners





レザー製品というと、イタリア製や有名ブランドのものが注目されがちだが、古くから職人魂が息づく日本でも年を経るごとに深みが増し、愛着がわく国内製の逸品に出合うことがある。

その一つが今年で創業44年を迎える神奈川・鎌倉の「土屋鞄製造所」の鞄。流行を追わず、デザインはあくまでもシンプルながら、素材の風合いが生かされた上品かつ上質な製品は、時と共に表情を変え、長年寄り添ってくれる魅力がある。ロングセラー「オイルヌメ」は、植物の渋（タンニン）でなめしてオイルをたっぷり染み込ませた牛革を使ったシリーズで、丈夫だが手触りはしっとりと柔らか。「使うほどに油分が染み出て艶を増し、色も深みが出てレザーの個性が出てくる」と話すのは鎌倉店のスタッフ、木村小百合さん。小物を購入後、ファンになり、今度はショルダーバッグやトートバッグといった鞄を求める人も多いという。

「シボ（革表面の凸凹）や皺など、一つひとつ異なる表情も天然レザーならではの面白さ」。ひとくちに牛革といっても、部位によって質感は異なり、個々の皺やシミなど特徴も違う。そんなレザーの個性を見極め、魅力を存分に引き出せるのは職人の確かな目と技術があってこそ。ベテランも若手職人も皆、レザーに愛情を注ぎ、製品一点一点に心を込める姿勢は変わらない。

つくり手の個性と芸術性が生かされた、ユニークなレザー製品からも目が離せない。

「HOPPEN DAKKO」がつくり出す財布やメガネケース、キーケースなどのレザー製品はオーソドックスだが、どれも優しい丸みを持ち、手の中でしっくりとなじむ。色の組み合わせも独特で、手に取るだけでワクワクし、誰かに自慢したくなるような楽しさに満ちている。

作品を手掛ける山本浩一郎さんに聞くと、デザインのヒントの一つは「無骨だが温かな丸みを帯びた古い時代の作品。たとえば、直線と丸みのバランスが絶妙な1960年代の実験的な家具、イス」だとか。かたちはシンプルでもかっこよく、かわいく、驚かせたいと、手仕事にこだわり、長年愛着の持てるものづくりを心がけている。レザーと対話するようにデザイン、配色を考え、表情を読み取りながら使う部分を決め裁断。縫製までの全工程は、すべて山本さん自身の手で行われる。美しい縫い目は"クチュール・セリエ"というヨーロッパの伝統技法によるもの。ミシンよりも強度があり、縫う箇所に応じて力を加減できるのが手縫いの良さだという。

また、レザーは主に、透明感のある発色と手入れの楽しさからイタリア・フィレンツェの高級牛革・ミネルバボックス（タンニンなめし）を使用。オイルを豊富に含み、傷がついても指でこすればすっとなじんで目立たなくなるため、使う人にとってもありがたい。

繊細な技と想いが込められたレザー製品。身近に置けば、暮らしがより豊かなものになる。



全米ホテルベッドシェアNo.1

Serta エッセイコンテスト／Serta30周年キャンペーン開催中!

http://www.serta-japan.jp



ドリームベッド株式会社 〒733-0812 広島市西区己斐本町3丁目12-39

ショールーム:東京 TEL(03)6419-8228／大阪 TEL(06)6253-7065／広島 TEL(082)271-4201

dream bed

〔資料請求番号185〕

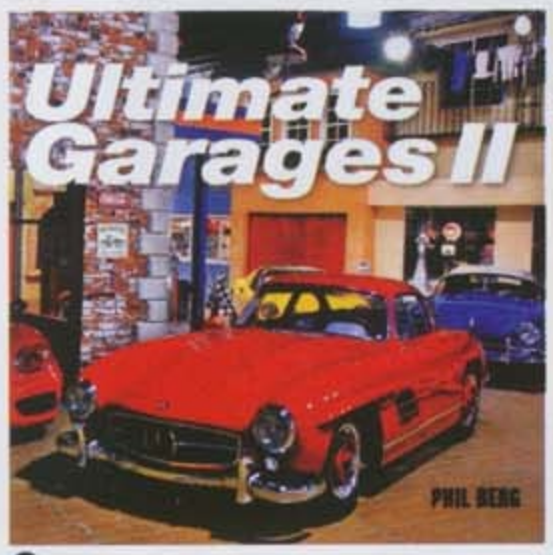
❶ Ultimate Garages II　6,060円／嶋田洋書
ビンテージカーのリストアを手掛けるオーナーを始め、車のコレクターが所有するショールームのようなガレージを紹介する『Ultimate Garages』の第二弾。車を格納するだけでなく"魅せる"空間として内装材や照明にまでこだわり、壁にはポスターや写真を飾って居室のようにコーディネートした実例を24軒収録している。イギリス・ジャガーの車をずらりと並べたアメリカ・デトロイト州の農場にある大規模なガレージや、フローリング貼りの床にクラシックカーを組み合わせたシックなガレージなど、ユニークなアイデアが満載。物件ごとに、コンセプトや総工費、床面積などのデータがまとめられているため分かりやすい。

❷ Garage　6,352円／嶋田洋書
居室と比べて天井高が高く広々としたガレージは、工夫次第でさまざまな用途に使用できる可能性を持つ。本書では、"ガレージは必ずしも駐車スペースである必要はない"という考えに基づき、ショップやオフィス、趣味室、リビング、ライブラリーとして利用する手法を紹介。住み手のライフスタイルを踏まえて心地良い空間を実現した実例を50軒以上掲載し、写真と図面で分かりやすく説明している。内装材の選び方や開口部の取り方など、細部にわたる実用的な設計手法が充実。

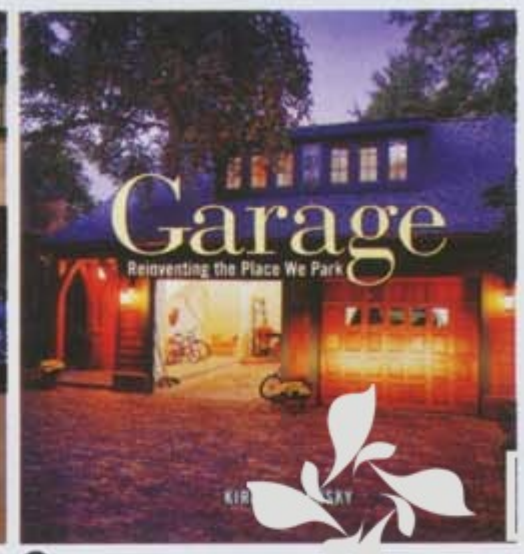
❸ Ultimate Garages　3,927円／嶋田洋書
流れるようなラインを描く美しいフォルムや、ビビッドな色で彩られたボディー……。オブジェのような存在感を放つスポーツカーを収めるためのガレージは、機能性だけでなくインテリアにもこだわりたい。アメリカの25軒のガレージを収録した本書は、「宮殿としてのガレージ」をテーマにまとめられた第一章で、車を美しくディスプレイした実例を掲載。第二章は「現実的なガレージ」、第三章は「伝統を覆すガレージ」と題され、それぞれに個性的な空間を紹介している。プランや内装材、そこに合わせる家具までを厳選した魅力的なスペースを参考に、理想のガレージを計画してほしい。

❹ Big Book of Garages　4,095円／嶋田洋書
倉庫のように無機質なガレージを、リビングのようなくつろぎの空間としてリノベーションする方法を紹介する一冊。収納の位置、大型バイクや自転車の格納スペースの設け方といったプランニングから、内装材の選び方、さらには入り口のドアやシャッターといったディテールまで、トータルで提案する。テレビやデスクを配したり、バスルームを隣接させたりと、住まいの一部としてデザインされた空間は、もはやガレージとは思えないほど。改装前の写真も掲載されているため、それらを参考に自分で手を加えてコーディネートを楽しみたい。

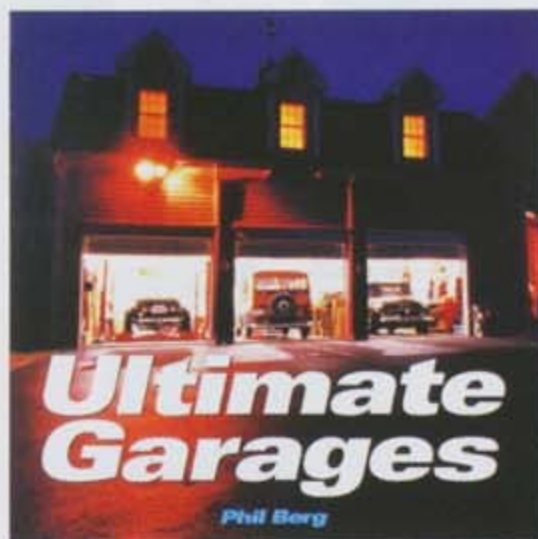
嶋田洋書／TEL.03-3407-3863



❶



❷



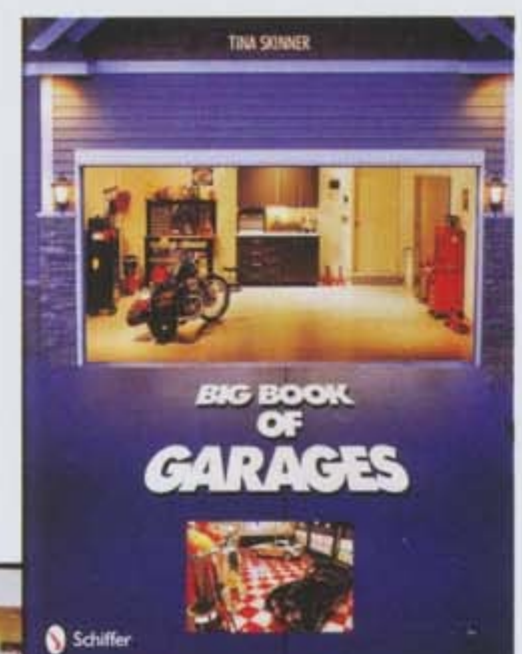
❸



愛車を主役にした住まいとガレージの本

Text : I'm home.　Photographs : Nacása & Partners

Book



❹



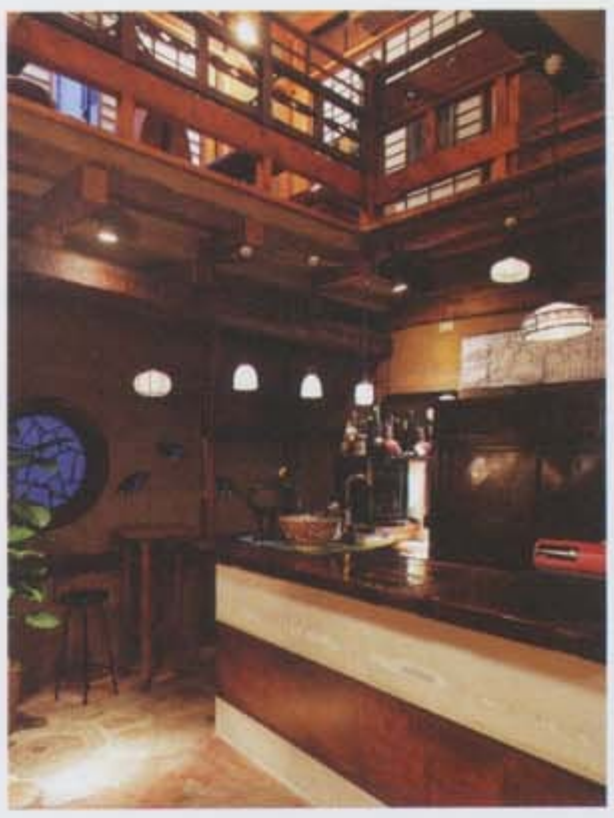


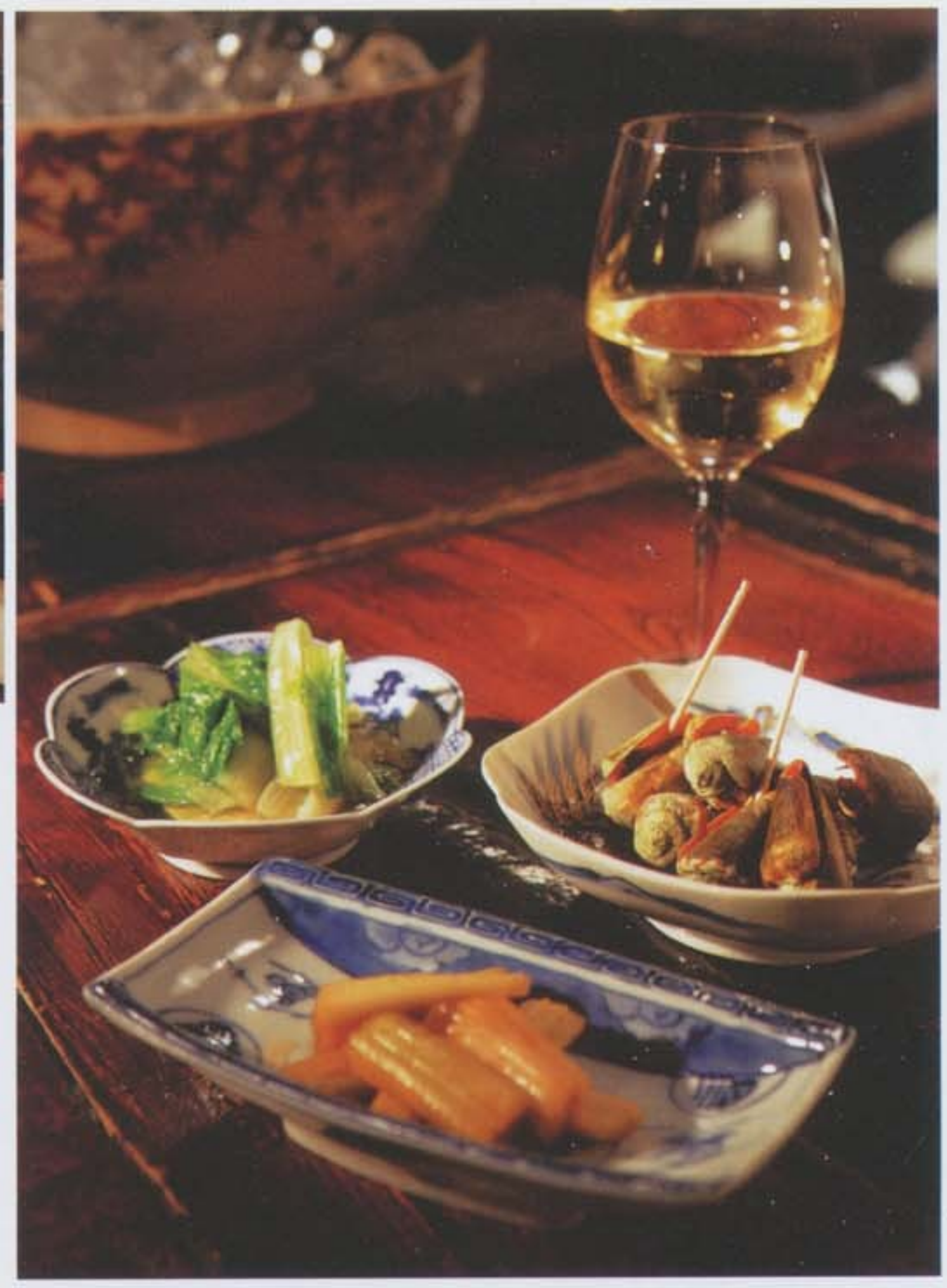
閉じるとフラット、開いても扉が邪魔にならない。
極めつけの“省空間金物”
モノフラット PAT
建具用
MonoFlat FAD
大型扉用 扉質量 35kg以下（扉1枚あたり）
開き戸よりも小さな軌跡で開口する室内ドアシステム（最大引出し量約450mm）。開けば大きな開口。閉じれば壁面とフラットに。
■No.170 カタログ 3/3巻 394～395ページ掲載
モノフラットFAD本体
詳細は弊社WEBサイト掲載の No.170 デジタルブックをご覧ください
モノフラットFAD（開時）
モノフラットFAD（閉時）
蝴蝶网
hudie.com
LAMP® 用途に合わせて豊富なバリエーション
フラット扉金物シリーズ
扉を閉じると金物が見えない
フラットな空間を創造
スムーズな動き
ショールームで展示中!!
LIN-X450（扉幅400～500mm）に加え“扉幅600mmのLIN-X600”が新登場
NEW
家具用
新感覚の扉用金物
MonoFlat LIN-X hinge®
モノフラット リンクスヒンジ PAT
小型扉用 扉質量 17kg以下（扉1枚あたり）LIN-X450
●閉じるとフラット！ 開けばフルオープン！内部スペースを有効活用できる！
●扉の持ち出しが少ないので作業性も抜群！狭い場所でも使用できます。
フリーストップ
ソフトクロージング
●開き戸と異なり、開閉時も開閉後も「扉が邪魔にならない」
開き戸
フラット扉
扉が邪魔にならない！
開き戸
フラット扉
扉が邪魔にならない！
開き戸と比べ扉の軌跡も小さく、狭い場所でも有効に活用できます。
●さまざまなキャビネットデザインに対応できる！
L型コーナースペースをフルオープンにして活用。
4枚扉の中央2枚を左右に開いて間口を広く。
アイランド型のコーナーをフルオープンに。
出し入れしやすい
金具は天地ではなく、側板に取り付けます。金具が物の出し入れを邪魔しないため、吊り戸や地袋等に最適です。
詳細はWEBサイト掲載のNo.171 カタログをご覧ください
SUGATSUNE
ISO 9001(JSAQ384)
ISO14001(JSAE597) 審査登録
ISO14001：千葉事業部 千葉工場および物流事業部
スガツネ工業株式会社
http://www.sugatsune.co.jp
アーキテリア事業部 東京都千代田区岩本町 2-5-10 〒101-0032 TEL 03(3864)1122(代)
東京ショールーム 東京都千代田区岩本町 2-5-10 〒101-0032 TEL 03(3864)1122(代)
大阪支店・ショールーム 大阪府大阪市中央区内淡路町 2-2-6 〒540-0038 TEL 06(6910)1122(代)
仙台営業所 宮城県仙台市青葉区本町 1-11-1（8階）〒980-0014 TEL 022(716)1122(代)
名古屋営業所・ショールーム 愛知県名古屋市北区大曽根 3-15-3 〒462-0825 TEL 052(982)1122(代)
福岡営業所 福岡県福岡市博多区博多駅南 1-8-31（6階）〒812-0016 TEL 092(461)1122(代)
No.170 総合カタログ
デジタルブック版完成
カタログ内容がWEB上でご覧いただけます
〔資料請求番号 187〕

右／2009年6月に東京・西麻布にオープンしたワインバー「葡呑」。年月を経た古材が熟成したワインのイメージと重なる。1階の立ちのみスペースは、つまみとワインを軽く1～2杯という粋な使い方も良く似合う。もとが魚屋だけあり、珍しい魚貝のメニューも並ぶ。右からチャンバラ貝900円、セロリ漬500円、山東菜500円　下／東京・西麻布のレストラン＆ワインバー「オールド・ヴァイン」はレストランとワインバーで構成。ワインバーに設置されたイタリア製ワインディスペンサー「エノマティック」はレストランでも使用できる。ワインの産地はオーストラリア、ニュージーランドが中心だ。プリペイドカードは、3,000円、5,000円、10,000円。チャージは1,000円単位

葡呑（ぶのん）
東京都港区西麻布[illegible]
TEL.[illegible]3406-2207
営業時間：1[illegible]:00～24:00（L.O）
[illegible]曜金曜土曜～13:00～翌2:00（L.O）　日曜祝日定休

OLD VINE
東京都港区西麻布1-10-6　NISHIAZABU 1106BLDG
TEL.03-5771-2439
営業時間：17:00～翌3:00（L.O）　日曜祝日定休





Food

ルールは自由でカジュアル。ワインバーの新スタイル

Text : Kaoru Shibasaki　Photographs : Nacása & Partners





かつての日本人にとってワインとは「飲む前の知識」が必要なものだった。1990年代後半には、蘊蓄（うんちく）やルールを説明するマニュアル本を頼りにぎこちない仕草でグラスを回したり、ヴィンテージチャートを覚えたりといったワインブームが起こる。それから10年、ワインは日本にしっかりと定着し、最近では、ビオワインを始めとするリーズナブルながら高品質なものや、国産ワインの台頭を後押しに、カジュアルに楽しめる個性豊かなレストランやバーが人気を集めている。

とりわけユニークなのが、東京・西麻布のレストラン＆ワインバー「オールド・ヴァイン」のワインのセルフサービス。イタリア製ワインディスペンサー「エノマティック」にプリペイドカードを差し込み、種類と分量を選んでボタンを押すと料金が精算され、グラスにワインが注がれるという自動販売機さながらのシステムが画期的だ。個性を楽しんでもらえるよう種類は赤・白各8種類の違いが分かりやすいワインをラインアップし、分量は30cc、60cc、120ccの3種類から選べる。「遊び感覚でいろいろ試しながら、自分なりの楽しみ方を見つけてもらいたい」と話すのはオーナーの木下二郎さん。グラスを変えて同じワインをテイスティングするのも良し、料理とのマリアージュを探し当てるのも良し。既成概念を取り払い、自分の創造力で新しいワインの飲み方を開拓してみたい。

一方、風情漂う古民家で、魚料理や和惣菜とワインが楽しめるのが、2009年6月に西麻布にオープンしたワインバー「葡呑」（ぶのん）。1階がスタンディング、2階はテーブル席で、吹き抜けを配した店内は天井が高く開放感がある。壁に貼られたお品書きには「きんぴら」「青菜おひたし」「ポテトサラダ」など家庭的なメニューがずらりと並ぶ。魚屋の三代目であり、食通の間でも知られる割烹「赤坂 湊」の店主でもあるオーナーの中湊 茂さんは、和食とワインの組み合わせを提案した先駆者的な存在だ。立ちのみで和食を肴にワインを一杯、というオリジナリティーに富んだワインの楽しみ方は、日本人だけでなく、外国人も惹きつけ、来日した海外のワイン生産者も和惣菜とワインのマリアージュを楽しむという。異国の食文化にも柔軟に調和し、和のくつろぎであふれた空間にワインの魅力の真髄（しんずい）が息づいている。

ブームから始まったワイン文化は愛好家の裾野を広げ、定着を経て独自のスタイルをつくり出しつつある。ルールやマナーに縛られず、気の合う仲間とグラスを交わしたい。



❶

心が洗われるような安らぎに満ちた音楽

Text : Jun Condo

Music

❶SURF SOUND ORGANIC STYLE

日本プロサーフィン連盟に推奨された本作は、ジェイソン・ムラーズ、ドノバン・フランケンレイター、コルビー・キャレイが生み出す現代のサーフミュージックに加え、フリーソウルバンド、フィフス・アベニュー・バンドや、ダニー・コーチマーといった1970年代に活躍したミュージシャンが肩を並べるコンピレーション。時代を越えて海をキーワードにセレクトされた楽曲の数々は、休日のリラクセーションタイムを優しく包み込む。

❷AQUARIUS
／Joyce Moreno featuring Joao Donato

ブラジル音楽界をリードするジョイス・モレーノとジョアン・ドナートが、2000年にリリースした「TUDO BONITO」に続き、2作目となる共演作を発表。ドナートの初期ナンバーからタイトルを取った本作は、彼がアレンジしたジョイスの代表曲「フェミーナ」や、二人が書き下ろしたナンバーが収録されている。プロデュースは日本におけるブラジル音楽界の重鎮、スピック&スパンのドラマー、吉田和雄。彼らが奏でる軽快でみずみずしいブラジリアンサウンドはクオリティーが高く、ゆったりとした気分で耳を傾けることができる。

❸UNIVERSITY OF CALYPSO
／Andy Narell & Relator

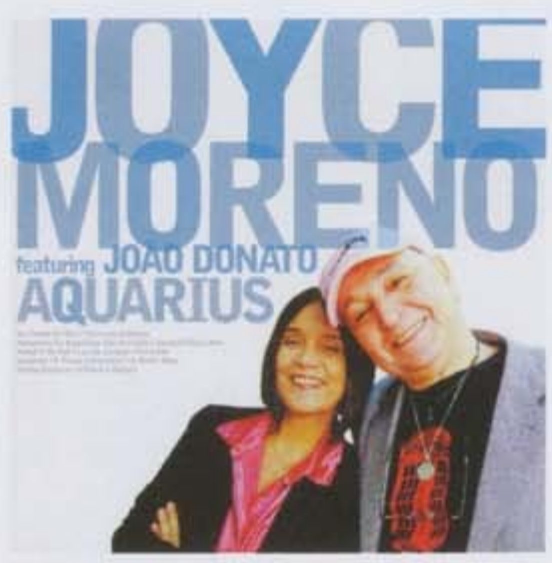
アメリカのスティールパン奏者、アンディー・ナレルが、カリプソ界の大御所ミュージシャン、ロード・リレイターと共演したアルバム。"カリプソ大学"と称された本作は、古典的なカリプソナンバーを、ラテンジャズ界のそうそうたるメンバーでレコーディングした入門盤ともいえる内容だ。流れるような美しいスティールパンの調べ、リレイターの陽気なボーカル、ロード・キチナーを始めとするメンバーの確かな演奏……。南国の日差しをいっぱいに浴びたオーセンティックサウンドは、極上のラテンテーストが満載だ。

❹PASSACAILLE／中島ノブユキ

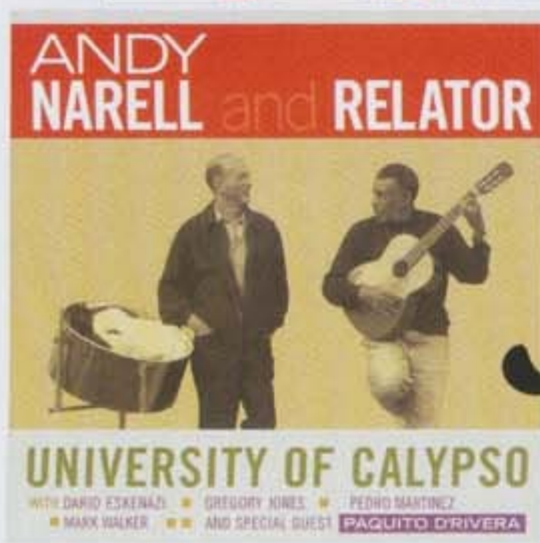
"美しい"のひとことに尽きる名盤。ゴンチチや畠山美由紀のプロデュースを始め、UAと菊池成孔によるジャズアルバムのオーケストレーションも手掛けるピアニスト、中島ノブユキ。彼の生み出す旋律からは、澄み渡る透明感と静寂が感じられ、どこか切ない。本作は彼のピアノに、ボーカルやギター、ストリングス、サックスなどの優しい音色が溶け合い、現代の印象派ともいうべき調べが漂う。ワルツ、シャンソン、ソナタ、アリアなど、淡いトーンで彩られたさまざまな楽曲が心に安らぎを与えてくれる。

❺ZEE AVI／Zee Avi

ジャック・ジョンソンが立ち上げたレーベル、ラッシュファイヤー・レコーズが、初めて契約した女性アーティスト、ジィ・アーヴィ。マレーシア・ボルネオ島出身の23歳が歌うアコースティックなサウンドは、素朴さと優しさが溶け合うようだ。初々しさが残る彼女の楽曲は、イギリスのバンド、フェアグランド・アトラクションを思わせ、多くのリスナーを虜にする。友人に聴かせるため、YouTubeで自作の歌を配信したことをきっかけにデビュー。21世紀のシンデレラシンガーの歌声を堪能してほしい。



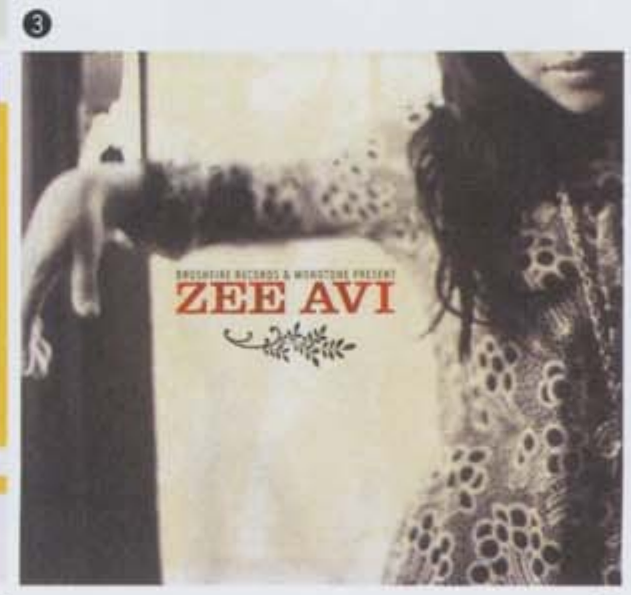
❷



❸



❹



❺

うちでお茶しませんか？ no.38

Text : Kaori Doi　Illustration : Yoko Matsumoto



リセットボタン

最近、次男の任天堂DSを夜中に無断で借りている。「トモダチコレクション」というゲームにはまっているのだ。オリジナルキャラクターを百人分つくり、ゲーム内のマンションに住まわせる。住人たちのトラブルを解決すると、お金やお礼品をもらえる。私が一番気に入っているのは、住人から部屋の模様替えを頼まれ、インテリアショップに行き、ヨーロッパ貴族風とか業界風とかいった、いろんな種類のインテリアから好きなものを選び、住人にプレゼントした途端、背景が一新し、住人も大喜びする、という模様替えのシーンだ。住人の性格によって好みがあるので、やみくもに買い与えると気に入らない場合もあり、そういうときは何も見返りがない。その住人に合うかどうか、あれこれ考え選ぶのが、とても楽しい。

我が家は、間もなく、築10年を迎える。10年分の蓄積はかなりのものだ。なかでも、問題は机。うちにはやたらと机がある。購入順にいえば、まず、10年前にTime&Styleで買ったキッズデスク。これは、長男がよく使ったが、今は子ども部屋の隅に。二番目は、幼稚園の参観日に夫と長男が協力してつくった小机。今は子ども部屋で、キーボード台に。三番目は、長男の小学校の入学祝いに父が贈ってくれた勉強机。北欧のデスクセットで、とてもおしゃれ。あの頃は、キッチンのロフトを





読書&勉強コーナーにと考え、3畳ほどのスペースにその机と絵本の棚を入れた。しかし、いつしか本棚は「ドラえもん」を始めとしたマンガたちに浸食され、今や「マンガ部屋」に変身。よって、誘惑に弱い受験生の長男は、ダイニングテーブルで勉強している。四番目はミシンデスク。娘の幼稚園バックなどをつくるのに、母が20年貯金（!）でお嫁入り道具に持たせてくれたミシンを使ってみた。これが、なかなか楽しくて、「よし、ミシンコーナーをつくろ!」と思い立ったその日に、Francfrancで購入。が、娘の入園グッズができ上がると、なんとなくミシンに気持ちが向かなくなり、そのままに。五番目は2年前に買ったパソコンデスク。白い枠にガラス板がはめられクールな感じ。最初こそ、「SOHOっぽーい!」と一人盛り上がっていたが、元来ものぐさなので、パソコンを使う度に、いちいちデスクに行くのがめんどくさくなってきて、結局今は、ダイニングテーブルでMacBookを開く。ワイヤレスになり、持ち運びも可能になったので、家族が出掛けた後はソファに寝転がりながら、ネットでニュースチャンネルなどを見ている始末。

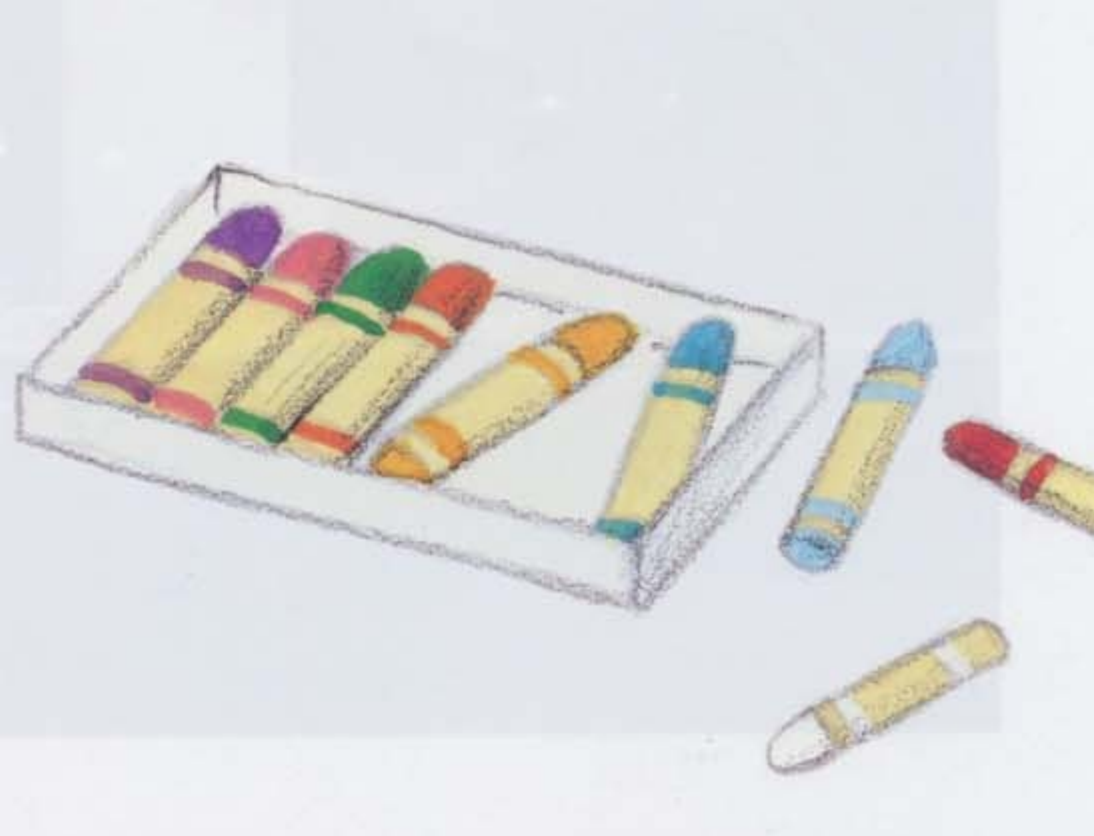
それにしても、ネットはニュースが速い! 最近、新聞を読むたび、デジャブ現象かと思うことがある。たとえば、山での遭難事故の記事を読み、「これ、前にも読んだ!」なんてドキッとするが、よくよく考えてみれば、昨夜寝る前に、ネットのニュースで読んだ記事と同じだった、と気づく。夕刊発行以降に起こった事件は、翌朝の紙面に載る。その点、ネットニュースは、事件発生から間もなく記事が流れる。こうなってくると、紙新聞の役割とは、なんぞや、と思う。今では、ネットニュースの後追いでしかない。ニュース＋αが必要になってくる。

最近は、お料理コーナーや、エココーナーなど、主婦向けと思えるページが増えた。我が家では、投稿コーナーが人気。なかでも朝日新聞の『ひととき』は粒ぞろい。この間は「お見合いで結婚し、わがままな夫に従って30年、昨年、リウマチにかかり、痛くて食事の準備もままならないことが続いたら、『こんな不良品をつかまされて』と吐き捨てるように言われた」という記事を夫が見つけ、二人で泣いた。夫は、監督する映画『ハナミズキ』がクランクインし、北海道~ニューヨーク~カナダ・ロケで、年内はまったく家にいない。「『ひととき』に良い話があったら、取っといて」と言い残して出掛けた。今、私がダイニングテーブルで『ひととき』の記事を切り抜いている向かい側で、長男が宿題をし、その隣で次男が本を読み、私の隣で娘がお絵描きしている。結局、ダイニングテーブル一つで、事足りるのだ。分かっていた。分かっていたのに、4月には、次男の勉強机を買ってしまった。しかもディノスで。しかも「2台なら40%割引」に魅かれ、2台買ってしまったのだ。2階の子ども部屋はものであふれているので、結局、リビングに勉強机を並べた。すると、次男が7歳の誕生日に突然「ぼく、机のそばでお兄ちゃんと寝たい」と言い出した。今までは、家族五人で、地下の主寝室に、川の字ならぬ、バーコード状に寝ていた。朝になると、頭と足の位置だけでなく、人間の位置も入れ替わっていて、安眠環境とはいえなかったが、家族の一体感はあった。そこへ、次男から突然の「二人寝」宣言。実は、次男が6歳になった頃に、二人を子ども部屋に寝かせようとしたことがあった。その時は、深夜に次男が泣きながら地下に降りてきて、2階では、長男が「やっぱりぼくには無理」と布団をかぶったまま泣いていた。二人寝に慣れたら、子ども部屋をリフォームするつもりだったが、あえなく失敗、そのまま一年が経っていた。主寝室が地下にあるため、2階の子ども部屋との間に1階が入り、子どもたちには、親のベッドが遠く感じられたのだろう。

今回も、その二の舞の可能性があった。が、次男の提案は1階のリビングに寝るというもの。なるほど、リビングなら、階段をはさんで、壁なしでダイニングとつながっている。私も夫もかなり遅くまでそこで過ごしているから、明かりもついていて、安心であろう。勉強の様子も階段越しに見え、教科書の下に漫画を重ねて読む、という長男得意の作戦も、見破りやすい。今まで、暖炉と夫の仕事机があるだけの、リビングとは名ばかりの空間だった。そこに、子どもの机と布団が入り、部屋の様子はすっかり変わった。仮の子ども部屋のつもりだったが、知らぬ間に、次男の描いた猫の絵が貼られ、長男の仮面ライダーの人形が並び、すでに子ども部屋っぽくなっている。夫の仕事机は今や子どもたちのランドセル置き場となってしまい、仕事の資料がダイニングテーブルの上に……。今日、通販カタログが届いたのだが、気づけば私は、夫の仕事用デスクを探していた。いけない! また、机が増えるではないか。いったい、どうしたらいいの、この悪循環。トモダチコレクションみたいに、ボタン一つでインテリアををリセットできたらいいのにな……。

土井かおり
1963年・長野県生まれ。秘境を巡る紀行番組やドラマ制作などの仕事を経て結婚。自邸は本誌no.5に掲載。東京FMラジオドラマの脚本を執筆している。今年は、生きたもみの木のクリスマスツリーを予約中。役目を終えたら、また森に植え直すそう。

マツモトヨーコ
1958年・大阪府生まれ。'84年京都市・立芸術大学大学院版画専攻修了。書籍の装画、新聞、雑誌、PR誌、カレンダーなどのイラストを手掛ける。イラスト&エッセイ集『マツモトヨーコの脱日常紀行』（飛鳥新社）出版。



PRODUCT FILE

KITCHEN


1


2


3


4

1. イタリア・ジェシィ社のキッチン用水栓

イタリア・ジェシィ社の「オキシジェンハイテック GS-00903.031」は、食器の予洗いや鍋などの調理器具、シンクの洗浄などに便利なシャワー付きキッチン用混合栓。業務用厨房でも見られるような立ち上がったフォルムが存在感を放つと共に、効率的な作業を可能にする。シャワーはグリップに付属したレバーで吐水・止水ができるので、片手で簡単に操作可能だ。
サイズ：D242×H886（mm）　価格：166,950円
アドヴァン　TEL.03-3475-0281

資料請求番号615

2. ティデアのオーダーキッチン

使い手の要望を実現するため、綿密なヒヤリングによってキッチンに関するさまざまな要望を引き出し、合理性、機能性、デザイン性を兼ね備えた一味違う"Best Made Kitchen"を提案するオーダーキッチンメーカー、ティデア。写真は空間に合わせて幅4800mmを確保し、シンクやガスコンロを配した壁付けI型カウンターと、対面に調理台として使用できるアイランド型カウンターを組み合わせた施工例。面材は両カウンター共白のメラミン化粧板を用いて統一感を出し、天板は壁付けにステンレス、アイランド型に人造大理石を用いている。
サイズ：壁付けI型カウンター W4800×D600×H900（mm）
アイランド型カウンター W2800×D550×H900（mm）
ティデア　TEL.0422-27-2020

資料請求番号616

3. INAXのシステムキッチン「Granpiasse LEVILUS」

INAXのシステムキッチン「Granpiasse LEVILUS（グランピアッセ レビラス）」は、家具のようにインテリアへ溶け込む美しいデザイン。キッチンの機能を壁面に集約させることで凹凸をなくし、ラインをそろえすっきりと見せることでリビングやダイニングに広がりを生み出す。使わないときは、収納の足元と天井の間に空間をしつらえ、効果的に組み込まれた照明がくつろぎの時間を演出してくれる。機能面においても1枚扉のデザインを活かしたトール収納やウォール収納が優れた作業性を発揮する。サイズ：W3450×D650×H2200（mm）　価格：写真のセットプラン3,101,175円
INAX お客さま相談センター　TEL.0120-1794-00

資料請求番号617

4. クチーナのシステムキッチン「CRITERIO」

クチーナのシステムキッチン「CRITERIO（クリテリオ）」は長期にわたって使い続けられるキッチンを目指し、基本モジュールの設定、扉の種類、使用部材を厳選することにより、上質ながらリーズナブルな価格を実現。扉材は上質な仕上がりが特徴のエナメルウレタンUV塗装を採用。また水のはねる音を抑えるオリジナルシンクはステンレスのほか、ホワイト、イエローから選択でき、IHヒーター、食器洗浄機、レンジフードなどは、国内外問わず対応可能だ。また天板の種類やキャビネットの組み合わせも選べ、天板高さは1mm単位での調節ができる。
サイズ：W2750×D970×H855（mm）　価格：1,350,000円（食器洗浄機などの設備機器含む、諸経費別途）
モーリコーポレーション（CUCINA）
TEL.03-5773-0077

資料請求番号618

LIVING AND COOKING

Anytime's a good time to enjoy cooking.

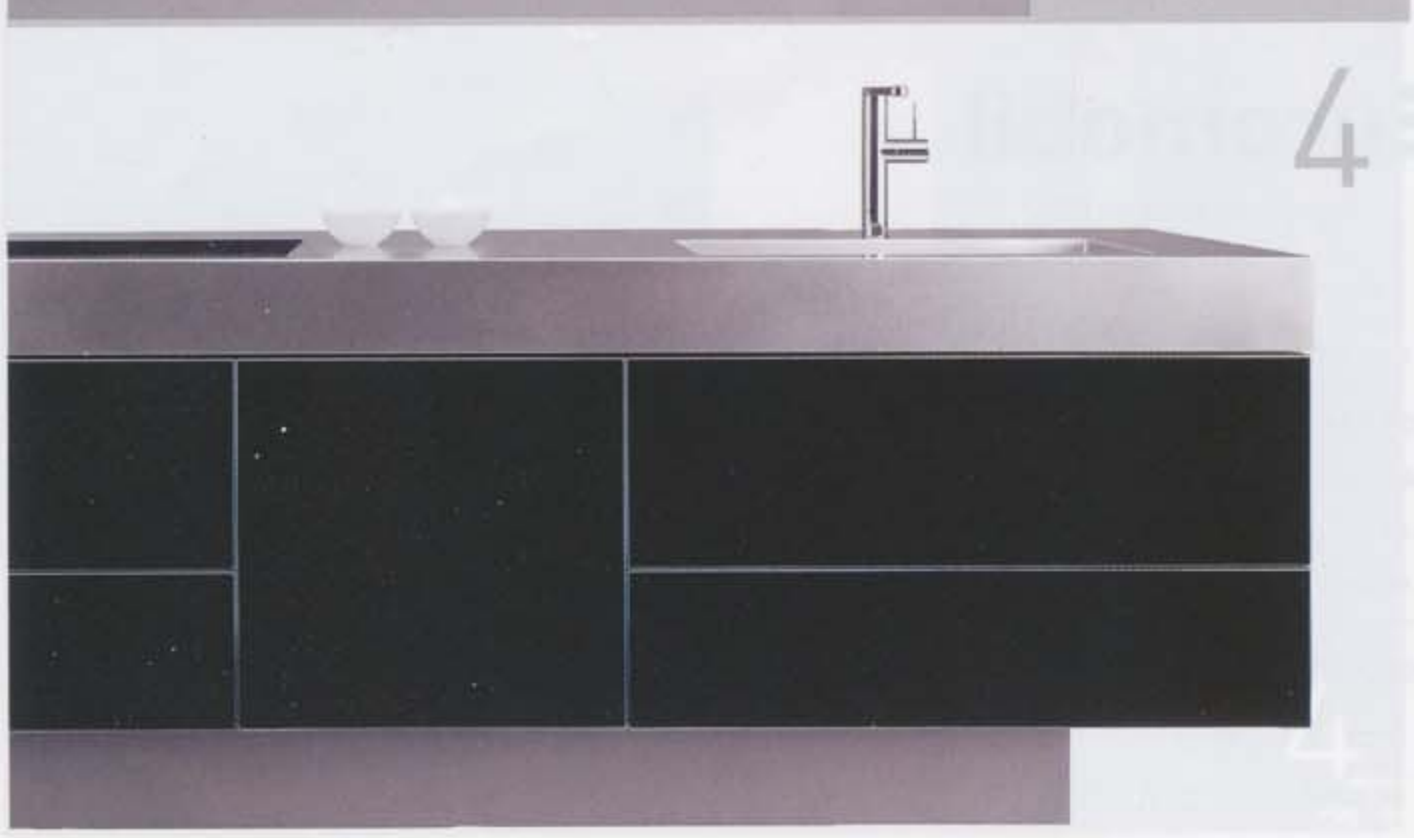


PRODUCT FILE









1. 日本初の4口横並びIHクッカー「ミーレKM5975」

「ミーレKM5975」は、日本初となる4口横並びのIHクッカー。すべての調理器具を横一列に置くことができるので、従来のような前後の入れ替えが不要となり、効率的な調理が可能になった。レンジトップは高品質で厚みのあるセラミックガラス製で、4辺すべてに美しい面取り加工「オールベベルドエッジ」が施され、キッチンカウンターを美しく彩る。熱効率により優れるほか、迅速に水を沸かす「ツインブースター」機能や、ワンタッチで火力切り替え可能な「Stop and Go」機能が搭載された。
外形サイズ：W916×D416×H52（mm） 価格：409,500円

ミーレ・ジャパン TEL.0120-310-229

資料請求番号**619**

2. Euromobilが提案する今後のキッチンデザイン

イタリア・ユーロモビル社では、これまでは主にアクセントとして用いられてきたホワイトを最近はベースカラーに採用し、キッチンに必要な清潔感や明るさを表現している。写真の「ALINEAL MOKA PINE（アリネアルモカパイン）」と「TABULA MAT WHITE（タブラマットホワイト）」の組み合わせは、自然素材の温もりとホワイトカラーで、さわやかな空間をつくり出す。また、ハンドルもデザインのひとつとして捉え、キッチンと同色にすることで統一感を持たせている。

ユーロモビル TEL.06-6446-6011

資料請求番号**620**

3. アムスタイルのアイランドキッチン「MODEL W3」

厳選された素材と直線的でベーシックなかたちが特徴的なアムスタイルのスタンダードモデル「MODEL W3」。シンプルなデザインにステンレスワークトップとエナメル塗装面材の組み合わせが、素材の持つ本来の表情を引き出している。均整の取れたフォルムのバランスを崩すことなく、ミリ単位のオーダーに対応可能。東京・代官山のショールーム「アムスタイルラウンジ」に展示中。

アムスタイル TEL.03-5428-3533

資料請求番号**621**

4. ブラックエナメル鏡面仕上げのアイランド型キッチン

上質で滑らかなブラックエナメル鏡面仕上げのアイランド型キッチン「MODEL D5」。面材の仕上げには平滑な塗装膜をつくる最新の技術を採用し、しっとりとした艶感を表現。ステンレス製のワークトップはマットなバイブレーション仕上げとし、さらにエッジには3.5mmの面取りを施し、プロダクト製品のような美しさを実現している。軽くタッチするだけで開閉するサーボシステムを搭載するなど、新技術を取り入れた新たなデザインのアイランド型キッチンだ。

アムスタイル TEL.03-5428-3533

資料請求番号**622**


5


6


7


8

5. ヘッカー社「Emotion」シリーズ

本国ドイツだけでなく、各国で展開するヘッカー社。「Emotion」シリーズは、トップグレードの面材、キャビネット、斬新な照明を備えた同社を代表するデザイナースタイル。写真は、高級感あふれる面材のなかでも特徴的な「EM5090/5095デザインガラス」を使用。モノトーンに温もりを与える「Sepia brown」と奥行感のある「Quadoro」の組み合せで絶妙な色調を表現。全5色がそろうデザインガラスには、鏡面仕上げとサテン仕上げ、9種類ある突き板には鏡面クリア塗装仕上げを用意するほか、扉には手触りなめらかなスーパーマット仕上げをラインナップ。洗面ユニットやテレビボード、テーブルやベンチなどもカスタマイズできる。

サイズ：アイランド型カウンターW3400×D1200×H960（mm） 壁付けカウンターW3600×D500×H960（mm）

参考価格：8,000,000円（テーブル・ビルトイン機器込み、搬入設置費別途）

ガイア TEL.03-5717-3572

資料請求番号**623**

6. 天然のクォーツが主成分のワークトップ材「Okite」

「Okite（オキテ）」は、イタリア、セイエッフェ社で開発・製造された天然クォーツ（水晶）を主原料とした面材。素材は硬く耐摩耗性に優れ、吸水性が極めて低い。御影石や大理石と異なり特別なケアやメンテナンスを必要としないので、汚れやキズが気になるキッチンのワークトップ材に最適。素材感、デザインは天然石と遜色なく、機能性は天然石を上回る。写真は同社が製造特許を持つ大理石模様のヴェナティーコレクションの一つで、全7種のコレクションがそろう。

最大サイズ：3000×1350×t2（mm）

松下産業 TEL.03-3363-8402

資料請求番号**624**

7. キッチンの概念を一新する「ISOLA Linear」

トーヨーキッチン&リビングのアイランド型キッチン「ISOLA Linear（イゾラ・リニア）」は、世界で初めて建築構造である"キャンティレバー"を取り入れ、ワークトップの下が有効に使えるうえ、キッチンが空間に浮遊してるかのような大胆なフォルム。イタリア製ベネツィアンモザイクやエッチングを用いた装飾は、オブジェさながらの存在感がある。

サイズ：W1800・2100・2400×D893×H1124（mm）

価格：2,079,000円～

トーヨーキッチン&リビング TEL.03-6438-1040

資料請求番号**625**

8. パナソニック電工のキッチン「Living Station」

パナソニック電工のシステムキッチン「Living Station（リビングステーション）」は新たに開発された横並びの3口クッキングヒーターで複数の同時調理が行えるトリプルワイドIHを搭載し、スムーズな調理を可能にした。さらに食品庫内の浮遊カビを抑制し、根菜類をクリーンに保存できる「nanoe（ナノイー）」搭載食品庫「根菜キーパー」を品ぞろえ。カップボード下に根菜専用スペースを設置。

参考価格：Living Station Lクラス I型W2550（mm） 約731,000円～（施工費別途）「根菜キーパー」付きカップボード（W1200mm）約358,700円～（施工費別途）

パナソニック電工 TEL.06-6908-1131

資料請求番号**626**

PRODUCT FILE

1. サルバラーニの新しいシステムキッチンシリーズ「SYSTEM」

イタリア・サルバラーニ社のシステムキッチンシリーズ「SYSTEM(システム)」は、その名が示す通り、豊富な面材ラインアップでチョイスの幅がさらに広がり、時代のニーズを取り入れ、より理想に近づけた新シリーズ。伝統的なサルバラーニの高い品質はそのままに、今までになかったリーズナブルな価格を実現。ユニットのフォルムには曲線タイプが加わり、プランニングの幅がさらに広がった。
価格：未定

INTERITALIA JAPAN
e-mail：info@interitaliajapan.com

資料請求番号627

2. サンウエーブのシステムキッチン「サンヴァリエ〈ピット〉」

家事を楽にサポートしてくれる数々の機能が、インテリアと相性の良い美しい意匠に内包された「サンヴァリエ〈ピット〉」。調理道具の取り出しやすさを追求しており、ポケット型収納「パタパタくん」は定評がある。キッチン本体はもちろん、周辺まで機能的な収納でコーディネートでき、対面式やアイランドなど、間取りへの対応力も高い。空間の表情をつくる扉材やカウンターは質感豊かで、好みのテーストにそろえられる。また、2009年12月28日までの注文で、標準仕様のシンクをデュアルコートタイプまたは人造大理石シンクのどちらかへ、無料でアップグレードできるキャンペーンも実施している。
サイズ：L型 W2550×1800×H850（㎜） 価格：3,735,690円（搬入・取付・設置費別途）

サンウエーブ工業 TEL.0120-1905-21

資料請求番号628

3. キッチンハウスのハイブリット突板「Andrea」

キッチンハウスは、従来の横木目柄の突板扉に加え、新たに和のテーストを演出する縦木目柄の扉材「Andrea（アンドレア）」を発売した。ヨーロッパのトレンドを取り入れたナチュラル、ブラウン、ヴェンゲ、シカモアの4種の木材を厳選してイタリアから取り寄せ、木の温もりを持つ上質な扉材に仕上げている。いずれも染色した突板をフェノール樹脂含浸紙積材に貼り合わせ、表面に塗装を施したハイブリット突き板扉で、これまでの半分の時間で製作ができるようになり、納期の短縮が可能になった。
価格：4,725,000円（バックセットのビルトイン冷蔵庫込み）

キッチンハウス TEL.03-5768-3311

資料請求番号629

4. スキッフィーニのシステムキッチン「CINA」

イタリアの高級キッチンメーカー、スキッフィーニのシステムキッチン「CINA（チナ）」。イタリアデザイン界の巨匠、Vico Magistrettiによるデザインは、高級感のなかにも優れた機能性を持つ。同社のキッチンの構造体には独自の「ALSYSTM（アルシステム）」と呼ばれる、押し出し成型による自然陽極酸化アルミニウム製オールフレームシステムを採用し、接着剤を一切使用せず、優れた耐水性と安定性、デザイン性を実現している。また、国内の業務用厨房を手掛けるフジマックの協力のもと、扉材のみの販売も開始。手頃な価格で同社の優れた部材を導入することが可能だ。
サイズ：カウンター正面・右W3600×D600×H908（㎜）
キャビネットW3600×D600×H2148（㎜）
価格：4,337,550円（施工費・設備費別途）

E-INTERIOR TEL.03-6230-3488

資料請求番号630

1


2


3


4


information

ヨーロッパ調の洗練された混合栓 シングルワンホール洗面混合栓「roffiné」



三栄水栓製作所から洗面用のシングルワンホール混合栓「roffiné(ロフィネ)」が発売された。洗練されたシルエットにジョイスティッククレバーを採用することでスタイリッシュに仕上げられている。シンプルなフォルムに合わせ、吐水の柔らかさと美しさを兼ね備えたフラットな吐水口をデザイン。定流量弁を内蔵しているため、高水圧地域でも最適な流量できれいな吐水を得られる。写真のポップアップ付きのほか、ポップアップなしのタイプ、それぞれ寒冷地用もそろう。写真の製品は「K4780PJV」。

サイズ：W80×D180×H168(㎜)　価格：43,050円

三栄水栓製作所　TEL.03-3683-7471

URL：http://www.san-ei-web.co.jp 〔資料請求番号903〕

ステンレス製キッチン「DGシリーズ」

業務用厨房機器メーカーとしてステンレス製品の製造開発を行うタニコーが発売したステンレス製キッチン「DGシリーズ」は、1.5㎜厚のステンレスを継ぎ目なく一体成型したシャープなデザインが特徴。機能別にモジュール化されたパーツを組み合わせることで、ライフスタイルに合わせたカスタムメードが可能だ。また、国内100ヶ所以上のタニコーネットワークでサポート体制を構築しているため、メンテナンス等に迅速に対応する。アイランド型の「DG-R/SBK」と壁付け型の「DG-S/SHL」の2タイプを用意。

サイズ：W2580×D650×H890(㎜)

価格：1,207,500円(オプション別途)



タニコー

TEL.03-5498-7112

URL：http://www.tanico-kitchen.jp 〔資料請求番号905〕

アムスタイルのコンセプトブック

フルオーダーの高級キッチンを扱うアムスタイルから、キッチンの魅力を紹介するコンセプトブックが発刊された。エナメル塗装を施した面材を始め、ステンレス、石、木など同社が厳選した素材の特性や、それらを組み合わせたキッチンのスタイルがコンセプチュアルにまとめられているため、オーダーの際にインスピレーションを得られる一冊だ。東京・代官山のショールーム「アムスタイルラウンジ」にて配布している。



アムスタイル

TEL.03-5428-3533

URL：http://www.amstyle.jp 〔資料請求番号904〕

Euromobilより 新たなキッチンの提案

イタリア・ユーロモビル社から「FILANTA WALNUT(フィランタウォールナット)」と「TABULA GLOSS MAGNOLIA(タブラグロスマグノリア)」を組み合わせた新作キッチン。高級感のあるウォールナットの色と明るいベージュが柔らかな印象を与える。カウンターの高さや素材を変えることで、同一線上で"調理・配膳・食事"という一連の流れが成立する。キッチンの一部に背もたれを設け、ダイニングテーブルと一体化させた斬新な提案だ。



ユーロモビル

TEL.06-6446-6011

URL：http://www.euromobil.jp 〔資料請求番号901〕

ローコストでありながら、デザイン性に優れた住宅「furniture house」

数多くの住宅・店舗設計を手がけている庄司圭介アトリエ一級建築士事務所の「furniture house(ファニチャーハウス)」。建設会社、材料メーカー、商社などと連携し、徹底的にコストを見直すことで、低価格でデザイン性に優れた住宅が実現できる。5種類のモデルタイプがあり、各タイプに応じて模型やCGでデザイン検討を行い、詳細な実施設計図を作製する。写真はリビングダイニングキッチンがスキップフロアで繋がる「TYPE Y1」の施工例。

参考価格：13,020,000円



庄司圭介アトリエ一級建築士事務所

TEL.079-420-4834

URL：http://sa-shoji.com/fhp 〔資料請求番号902〕

アーネストアーキテクツのDVD作品集「EARNEST PORTFOLIO HOME&RENT SPACE VOL1」

1982年の創業以来、高級注文住宅のパイオニアとして妥協のない家づくりを続けてきたアーネスト。設計、施工、リフォームのいずれの分野においても、住み手の個性を生かした洗練されたデザインと確かな技術で800軒以上もの数多くの住宅を手掛けてきた。今回、そのなかから厳選した10物件を作品集としてDVDに収録。理想の住まいを実現するための参考にしてほしい。読者のなかから5名の方にこのDVDをプレゼント。

アーネストアソシエイツ　TEL.03-3769-3333

URL：http://earnest-arch.jp 〔資料請求番号906〕





photo:Yoneo Kawabe

SANAAデザインのアームレスチェアにカラーバリエーションが登場

マルニ木工が国内外のデザイナーと共同で製品開発するプロジェクト「nextmaruni」により実現した、建築家ユニット妹島和世+西沢立衛／SANNAデザインのアームレスチェアに、6色のカラーバリエーションが登場。白ベースの下地剤の上にカラー塗料を塗り重ね、均一で密着性の高い塗膜を形成し、さらにポリウレタン樹脂をコーティングすることで、耐久性とメンテナンス性を確保している。うさぎのシルエットとカラーが合まってイスの新たな魅力を感じさせる。

サイズ：W370×D420×H820／SH425(mm)　価格：33,000円

マルニ木工　TEL.03-5614-6598　URL：http://www.maruni.com〔資料請求番号907〕

ウィッシュのオーダーキッチン「桐キッチン」

オーダーキッチンを手掛ける、兵庫・神戸のウィッシュより、2009年3月に発表した面材に桐を用いたキッチン「桐キッチン」を11月に商品化する。15～20年で成長する桐は、防虫・抗菌効果があり、耐水・耐火性に優れるため、キッチンには最適な素材だ。

サイズ：W2100×D1000×H850(mm)

参考価格：1,700,000円～(設備込み)



ウィッシュ

TEL.078-856-2123

URL：http://www.we-wish.co.jp〔資料請求番号909〕

SOUKSのオリジナル家具「RIKYU」

ライフスタイル提案型のショップとして、国内外からセレクトした家具や照明、インテリアアイテムなどを扱うSOUKS(スーク)のオリジナル家具「RIKYU(リキュー)」シリーズ。和をベースにしたジャパニーズモダンのスタイルと、木の温もりある質感が特徴。写真のダイニングセット、キッチンボードのほか、ソファやテーブル、ベッドなどがそろう。現在、モデルチェンジのため、30%～50%引きのセールを実施中。



SOUKS

TEL.03-5773-0722

URL：http://www.souks.jp〔資料請求番号908〕

エコーネスの新作リクライニングチェア「ストレスレス®ジャズ」

北欧最大規模の家具メーカー、エコーネス社が、2009年7月に新作のリクライニングチェア「JAZZ(ジャズ)」を発売。同社が1971年に発売し、50カ国以上の国々で展開する「ストレスレス®チェア」は、背もたれに体重をかけるだけで自然にリクライニングし、どんな姿勢でも首と腰が支えられる。今回の新作「JAZZ」は初代モデルのデザインを引き継ぎながら、より洗練されたデザインへと進化している。そのデザイン性と機能性は高く評価され、2008年のノルウェーデザインカウンシル主催の優秀デザイン賞を受賞している。

サイズ：MサイズW840×D750×H990～1090(調節可能)／SH400(mm)　オットマンW540×D370×H450(mm)

価格：Mサイズ609,000円



エコーネス　TEL.03-6222-3517

URL：http://www.ekornes.jp〔資料請求番号910〕

information

エネルギーつかう家からつくる家へ、東京ガスの「エネファーム」

東京ガスの「エネファーム」は、都市ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させて発電する新しいエネルギーシステム。発電の際に生じる熱を利用してお湯をつくりだすので、給湯や暖房などエネルギーを有効に利用できる。便利で快適な暮らしはそのままに、家庭からでるCO_2を大幅に削減できるので、低炭素な暮らしを実現できる。導入に際しては国の補助金制度が適用される。(補助金の詳細はhttp://www.fca-enefarm.org)

サイズ：燃料電池ユニットW780×D400×H860
貯湯ユニットW750×D480×H1883
価格：3,465,000円(リモコン込み、施工費別途)



東京ガス　TEL.0120-593039
URL：http://www.tg-enefarm.com 〔資料請求番号912〕

オーバースライダータイプのガレージドア「威風動々」

三和シャッターの「威風動々」は、ドアパネルが天井に沿って収納されるオーバースライダータイプの住宅用ガレージドア。スッキリとした高級感のあるデザインと、静かでスピーディな開閉が特長だ。従来のステンカラーのほか、新たにシャープな光沢のシルバーとウォールナットの2色と、防火設備タイプが追加された。電動式リモコンが標準装備。

材質(パネル)：アルミ　設計範囲：W2000～6000×H1600～2600(㎜)(防火タイプはW3300×H2500まで)　参考価格：W3000×H2300(㎜)、防火タイプの場合1,300,000円(施工費などは別途)



三和シヤッター工業　TEL.03-3346-3011
URL：http://www.sanwa-ss.co.jp 〔資料請求番号911〕

コスミック社の洗面ユニット「UPGRADE」

新進気鋭のデザイナーを起用し、国際的な評価を得ているスペインのサニタリーメーカー、コスミック社。洗面ユニット「UPGRADE(アップグレード)」は、深さのある洗面器の側面に水栓が内蔵された斬新でミニマルなデザイン。樹脂素材、バスストーンが光を反射し、高級感を漂わせる。同シリーズで、ミラー、キャビネット、バスタブなども展開。

サイズ：W800×D400×H500(㎜)　価格：424,200円



PSDインターナショナル　TEL.03-5774-8288
URL：http://www.psd-i.jp 〔資料請求番号913〕

アルトロ社の洗面ユニット「KEEP」

1989年創業のスペイン・アルトロ社のサニタリーアイテム「KEEP(キープ)」は高品質な素材を使用した斬新で洗練されたデザインが特徴。洗面カウンターの面材に用いたゼブラ柄の粗い木目と、黒い陶器製洗面器の組み合わせが、落ち着きのあるバスルームを演出。木目は3種、洗面器のカラーは白と黒の2色。ドロワーやキャビネットも同シリーズで組み合わせることができる。

サイズ：洗面カウンターW900×D550×H410(㎜)　キャビネットW350×D300×H150(㎜)　価格：洗面カウンター317,100円(水栓、ミラー、アクセサリーを除く)　キャビネット306,600円



PSDインターナショナル　TEL.03-5774-8288
URL：http://www.psd-i.jp 〔資料請求番号914〕

information

ルイスポールセンの新作照明「トルボー120」



シンプルでスタイリッシュ、プロポーションの良いフォルムでロングセラーを誇るデンマーク・ルイスポールセン社の「トルボー」シリーズ。今回発売される「トルボー120」はサイズを従来よりひとまわり小さくし、シェードとコードの色に新しいコンセプトカラーを導入。直径120mmのメタルシェードは数個を並べて配置すると効果的なサイズで、さまざまな色の組み合わせも楽しむことができる。

サイズ：φ120×H121（mm）　価格：28,350円

タルジェッティ ポールセン ジャパン
TEL.03-3586-5341　URL：http://www.louispoulsen.com〔資料請求番号915〕

ヘリンボーン貼りが楽しめるクリ材フローリング

国内外の厳選された無垢材を取り扱う高正の、ヘリンボーン柄の貼りが楽しめるクリ材を使用したフローリング。岩手産の美しいクリ材を原料に使用し、通常の倍の時間をかけて、ゆっくりと乾燥させることで、床暖房にも対応可能にしており、狂いが少なくコストパフォーマンスにも優れる。無塗装品のほか、写真のオイル仕上げも。

サイズ：W60×420×t15（mm）



高正　TEL.072-266-8851
URL：http://www.kousei-muku.com
〔資料請求番号917〕

arti2009 New Collection

洗練されたコントラクトユースの家具を提供するアルティから、新たなコレクションが発表された。さまざまなシーンで機能性を発揮するプロダクトをさらに充実させたコレクションで、写真の「Cuir I（キュイール）」は張り地にコードバン仕様の厚革を使い、脚の内側にはファスナーを縫製したフルカバー仕様。レザーはブラック、ダークブラウン、レッドブラウンがそろう「CUOIETTO（クオイエット）」とブラック、レッドブラウンの2色の「CUOIO（クオイオ）」から選ぶ事ができる。

サイズ：W470×D530×H800／SH435（mm）
価格：CUOIETTO 93,450円　CUOIO 112,350円



arti
TEL.03-5449-2501
URL：http://www.arti-tokyo.com〔資料請求番号916〕

ホンカ・ジャパンのメールマガジンサービス「CLUB HONKA」がスタート

フィンランド産ポーラパインを使用したログハウスを提案するホンカ・ジャパンは無料のメールマガジンサービス「CLUB HONKA」をスタートした。ホンカ・ジャパンのウェブサイトから会員登録することによりキャンペーンやイベントの告知、新製品の発表、その他ログハウスに関するさまざまな内容をメールで受け取ることができる。併せてウェブサイトもリニューアルし、ホンカのコンセプトや施工実績、アウトレットセールの情報などが確認できる。



ホンカ・ジャパン　TEL.0120-693219
URL：http://www.honka.co.jp〔資料請求番号918〕

Shop & Showroom

「VIBEL 東京・青山」がリニューアルオープン



フランス・ブルゴーニュ地方を拠点として、世界20カ国に60店舗を構える子ども部屋専門のインテリアショップ「VIBEL」が、移転、リニューアルオープンした。"オーダーメードの子ども部屋づくり"を提案する同社ショールームは、東京・青山の根津美術館に隣接する閑静な通りに面し、住まい手が求める子ども部屋をつくるため、丁寧にヒアリングができる落ち着いた空間だ。ショールームでは子ども部屋に関するさまざまなイベントやセミナーも開催され、2009年11月29日までは、「世界の絵本の中に見る子ども部屋」と題して、住まいをテーマに世界の絵本を展示している。駐車スペースも2台分を用意するほか、完全予約制のためゆったりと時間を気にせずに相談できる。

東京都港区南青山4-23-4
TEL.03-3406-3403
URL：http://www.vibel.jp
営業時間／10：00～13：00 14：00～18：00 不定休

「リビングデザインセンターOZONE」がリニューアルオープン



およそ30社に及ぶショールームやインテリアショップのほか情報とコンサルティングのフロアで構成されている、住まいの情報センター「リビングデザインセンターOZONE」が2009年8月にリニューアルオープンした。新たに家づくりの相談や総合的な支援を受けられるように「住まいとインテリアのソリューションスタジオ」を設け、照明専門のショールーム「住まいの照明体感ラボ」では照明のもたらす効果と情報を住空間やインテリアデザインとリンクしたかたちで体感できる。

東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー3～8階
TEL.03-5322-6500
URL：http://www.ozone.co.jp
営業時間／10：30～19：30
水曜定休(祝日の場合は営業)

「家具蔵」銀座店オープン



熟練した職人の手仕事によってつくられる無垢材の家具を扱う「家具蔵」が、東京・銀座へ新たに7店舗目をオープンした。店内には木の優しさや温もりを感じさせる数々の家具がディスプレイされ、豊富なラインアップを一度に見ることができるほか、プロのスタッフによる住まいのトータルプランニングを受けることもできる。

東京都中央区銀座5-6-17
TEL.03-3574-7227
URL：http://www.kagura.co.jp
営業時間／10：30～19：30　年末年始定休

「Minotti」の新作発表会

イタリアの高級ソファブランド、「Minotti」が2009年のミラノサローネで発表した「THE NEW '09 COLLECTION」の一般ユーザー向け新作発表会を開催する。会期：2009年11月28日（土）　時間：11：00～19：00　場所：Minottiショールーム（東京都港区南青山5-4-19 南青山コート地下1階）
フォーユアアンビエントすけの　TEL.03-5778-0232　URL：http://www.minotti.jp

エコーネス社創業75周年記念「ノルウェー・フィヨルドツアー」

ノルウェーの老舗家具メーカー、エコーネス社は創業75周年を記念して、クイズに答えた応募者のなかから、抽選で3組6名様をノルウェーの世界自然遺産フィヨルドを巡るツアーへ招待する。詳しくは下記ウェブサイトを参照。応募締切：2009年12月3日当日消印有効　TEL.03-6222-3517　URL：http://www.ekornes.jp

アクタス40周年記念モデルの「Yチェア」40脚限定発売

デンマークの有名家具デザイナー、ハンス・J・ウェグナーの代表作である同国カール・ハンセン社製「Yチェア」を、今年40周年を迎えるライフスタイルショップ「アクタス」の記念モデルとして、限定仕様40脚を11月中旬から発売する。サイズ：W550×D520×H730／SH420（mm）　素材・仕上げ：オーク材・スモーク仕上げ　価格：110,250円（シリアルナンバープレート付き）
アクタス　東京都新宿区新宿2-19-1　BYGSビル　TEL03-5269-3207

P.010



「服部邸」

設計／服部信康建築設計事務所

Owner Questionnaire

1. 家族の部屋、居場所（家族の関係、間取り）　2. 予算　3. 環境（周囲に対して）
4. デザイン（考え方）　5. 素材（手触り感）

Data

所在地：愛知県西春日井郡　工事種別：一戸建て　新築　用途地域地区：第一種中高層住居専用地域　建ぺい率：制限60％＞実効59.66％　容積率：制限200％＞実効57.02％　構造と規模：RC造　一部木造　平屋建て　敷地面積：118.10㎡　建築面積：70.45㎡　延床面積：67.33㎡　工期：2006年10月10日～2008年5月20日　設計：服部信康建築設計事務所　服部信康　山崎隆弘　施工：箱屋　松本繁雄　設計・施工協力：構造設計／伊藤構造計画工房　伊藤正明　空調設備／名南冷熱工業　福本裕之　電気・照明設備／足立電気商会　萩原和夫　キッチン設備／プリマヴェーラ　村田和弘　給排水衛生設備／三東設備工事　坂入孝志　家具・什器／デザインチーム○は　今井春雄　外構・造園／GROUND　島崎 崇

◆主な仕上げ材料

〈外部〉屋根／構造用合板 t15 下地亜鉛合金板（サビナシルーフ／三井金属）一文字葺き　外壁／杉型枠コンクリート打ち放しの上撥水材塗布　開口部／木製建具（玄関・レッドオーク材　勝手口・クリ材）　テラス／コンクリート下地塗り床材（ABC商会）仕上げ　庭／コンクリート下地モルタル金ゴテ押えの上AEP塗装　〈内部〉床：構造用合板 t12 下地ブラックチェリーフローリング材（ニッシンイクス）貼り木材保護塗料（オスモカラー／日本オスモ）塗布　浴室・洗面室／モルタル下地モザイクタイル（セリエビアンカ スレンダー／名古屋モザイク工業）貼り　壁：PBt12下地漆喰（城壁／近畿壁材工業）塗り　浴室・洗面室／モルタル下地セリエビアンカ スレンダー貼り　天井：PBt12下地城壁塗り　浴室・洗面室／モルタル下地セリエビアンカ スレンダー貼り　玄関／胴縁下地ラワン合板t5.5の上オスモカラー塗布

◆「家具・機器」仕様リスト

リビング：造作キャビネット（レッドオーク無垢材貼りオイル仕上げ　ラワン合板オイル仕上げ／デザインチーム○は）　ダイニング：造作テーブル（天板・レッドオーク材＋脚・スチール）　造作ダイニングチェア（以上デザインチーム○は）　ダイニングチェア（Hans Wegner/CH-23）　ペンダント（GLO-BALL／ヤマギワ）　キッチン：オーダーキッチン（天板、シンク・ステンレスHL仕上げ＋面材・ウレタン塗装／プリマヴェーラ）　レンジトップ（Teke/IT635／メジャー・アプライアンス）　レンジフード（壁付け換気扇／パナソニック電工）　キッチン水栓（アトランタ／グローエ）　冷蔵庫（三菱電機）　浴室：造作浴槽（セリエビアンカ スレンダー貼り）　シャワー水栓（アトランタ／グローエ）　造作タオルフック（ステンレスHL仕上げ）　洗面室：造作洗面カウンター　造作タオルフック（以上ステンレスHL仕上げ）　洗面水栓（アトランタ／グローエ）　トイレ：便器（アラウーノタイプ3／パナソニック電工）　子ども部屋：造作デスク（天板・ナラ無垢材＋脚・シナランバーOP塗装）　造作ベッド（ブラックチェリー材フローリング加工）　〈床暖房〉リビングダイニング、キッチン、浴室、洗面室、トイレ、子ども部屋、寝室：温水式床暖房（タフ）

服部信康　Nobuyasu Hattori



1964年・愛知県生まれ。'84年・東海工業専門学校卒業。'84年～・名巧工芸入社。'87年～・総合デザイン、'89年～・スペース、'92年～・R&S設計工房勤務。'95年・服部信康建築設計事務所設立。
作品●2002年 住宅「大和の家」、「長浦の家」、'04年「切土山の家」、'05年「南牛川の家」、'06年「工具屋の家」、「大野邸」no.37に掲載（以上愛知）、「足立邸」（岐阜）no.36に掲載
賞歴●2003年 すまいる愛知住宅賞愛知県知事賞、中部建築賞、愛知まちなみ建築賞、INAXデザインコンテスト銀賞、あたたかな住空間デザイン賞、'04 AWDA2004 Honor Award、'05年すまいる愛知住宅賞中部建築賞、INAXデザインコンテスト部門賞、第13回ビエンナーレ甍賞佳作

服部信康建築設計事務所
〒480-0202　愛知県西春日井郡豊山町豊場下戸40-1 サキビル2階
TEL.0568-28-1408　FAX.0568-28-1408
e-mail : hattori-1122@sf.starcat.ne.jp　URL : http://www. ouchi.in

DATA

2010 January no.43

P.205-209

OWNER QUESTIONNAIRE
オーナーアンケート

DESIGN DATA
掲載住宅の設計データ

DESIGNER'S PROFILE
設計者プロフィール

DESIGN OFFICE INFO
連絡先

Owner Questionnaire
オーナーアンケート項目

住宅の設計を依頼するとき、
オーナーの出す要望が設計を決定します。
その要望のなかから最も重視した事柄を、
下の項目から順位をつけて五つ選んでいただきました。

- 時間、工期（引っ越し）
- 費用（工費、デザイン料 ほか）
- 設備〈イニシャルコスト、ランニングコスト〉［水まわり（バス、トイレ ほか）・空調・床暖房・照明・オーディオ・コンピュータ ほか］
- 機能［キッチン・書斎 ほか］
- 趣味［料理・ホビールーム・オーディオ・コンピューター］
- デザイン［かたち・色・照明］
- 素材
- 家族の部屋・居場所（家族の関係、間取り）
- 環境［風・日差し（光）・景色・音］
- ガーデン・テラス
- 収納［靴・ホビー・食器・CD］
- 家具［イス・テーブル・ソファ・チェスト・ベッド ほか］
- ノスタルジー（今までの生活）
- 信頼感・安心感（デザイナー、施工者に対して）

P.048



「T邸」

設計／芦原太郎建築事務所

Owner Questionnaire

1. 家族の部屋、居場所（家族の関係、間取り） 2. 環境 3. デザイン 4. 予算 5. 機能

Data

所在地：広島県尾道市 工事種別：一戸建て 新築 用途地域地区：商業地域、準防火地域 建ぺい率：制限80％＞実効64.39％ 容積率：制限240％＞実効140.26％ 構造と規模：RC造 地上3階建て 敷地面積：243.07㎡ 建築面積：156.52㎡ 延床面積：340.93㎡ 工期：2008年5月24日～2009年4月17日 設計：芦原太郎建築事務所 芦原太郎 八幡 護 田中伸明（元所員） 和田 篤（元所員） 施工：堀田組 馬越竜伸 設計・施工協力：構造設計／構造計画プラス・ワン 金田勝徳 小林和子 空調・電気・給排水衛生設備／テーテンス事務所 庄司哲人 キッチン設備／中村谷 中村谷威之 家具・什器／中村谷 中村谷威之 藤原木工所 濱岡 賢 映像・音響設備／デオデオ 松浦 博

◆主な仕上げ材料

〈外部〉屋根／アスファルト防水t10スタイロフォームt30の上コンクリート金ゴテ押さえ 外壁／コンクリート打ち放しの上撥水剤（ダイステンダー／大日精化工業）塗布 一部ライムストーンモカクリームt20水磨き仕上げ 開口部／アルミサッシ（三協立山アルミ） 1階水盤／アスファルト防水t10押さえコンクリートの上玉砂利（那智黒）敷き 2階テラス／浮き床下地材（PFシステム／日新工業）の上磁器質タイル600角（JDA69051／JIAJUN CERAMICS）貼り 3階テラス／デッキ材22×145（ステラウッド／ビスムカンパニー）張り 〈内部〉床：モルタル下地JDA69051貼り 玄関／モルタル下地御影石t15（せっ江緑ジェットバーナー仕上げ）貼り 主寝室／二重床下地材（万協フロアーシステム／泰成産業）の上ローズウッド材フローリングt15（ボード）貼り 壁：PBt9.5＋12.5GL下地ビニルクロス（SP-7233／サンゲツ）貼り キッチン／カラーガラス（ビトロカラークラリティアベージュ／旭硝子）貼り 主寝室／PBt9.5＋12.5GL下地ビニルクロス（SG-31／サンゲツ）貼り 玄関／PBt9.5＋12.5下地の上EP（B25-90A）塗装 一部モルタル薄塗りの上左官仕上材（マジックコートHMSS／フッコー）塗り 天井：PBt9.5下地SP-7233貼り 主寝室／PBt9.5下地ビニルクロス（SG-142／サンゲツ）貼り

◆「家具・機器」仕様リスト

リビング：造作テレビボード（黒檀材練り付け合板ウレタン塗装／藤原木工所） ソファ（OPUS／NATUZZI） テーブル（PK61／Fritz Hansen） フロアスタンド（ARCO／日本フロス） ダイニング：造作テーブル（黒檀材練り付け合板ウレタン塗装） 造作食器棚（アッシュ材練り付け合板着色ウレタン塗装／以上中村谷） イス（CAB Chair／カッシーナ・イクスシー） キッチン：オーダーキッチン（天板、シンク・ステンレスバイブレーション仕上げ＋側板・ライムストーンモカクリームt20貼り水磨き仕上げ） システムキッチン（サペリ材練り付け合板着色鏡面塗装／以上中村谷） レンジトップ（DW36F9WAVKSTED／ハーマン＋AEG-Electrolux/FM4803K-AN／エレクトロラックス） レンジフード（フェデリカ／アリアフィーナ） キッチン水栓（3232100J／グローエ） 食器洗浄機（G1530SC1／ミーレ） 浴室：浴槽（ラフィアPHS1510／TOTO） シャワー水栓（ECOSTAT・HG15342／セラトレーディング） 洗面室：一部特注洗面カウンター（天板・タソスホワイトt20本磨き仕上げ＋扉・シナ材練り付け合板ラッカー塗装／藤原木工所） 洗面器（L548U／TOTO） 洗面水栓（CHIARA/FG32498R／セラトレーディング） 便器（ネオレスト/CES9563／TOTO） 主寝室：ベッド（スタイリッシュデザイン／カリモク家具販売） 〈床暖房〉2階・ウオークイン・クローゼット、洗面室を除くすべての部屋 3階・洗面室、浴室、シアタールーム：温水式床暖房（エコノクールレオ／三菱電気）

芦原太郎 Taro Ashihara



1950年・東京都生まれ。'74年・東京藝術大学美術学部建築科卒業。'76年・東京大学大学院建築学修士課程修了。'77年～'85年・芦原建築設計研究所勤務。'85年・芦原太郎建築事務所設立。2000年～'03年・日本建築家協会副会長。

作品●1989年 美術館「笠間日動美術館東館」（茨城）、'95年 住宅「F-HOUSE」（埼玉）、'96年 小学校「白石第二小学校」WORKSHOPとの共同設計（宮城）、'98年 住宅「SH-HOUSE」（大阪）、2002年 病院「公立刈田総合病院」architecture WORKSHOP・堀池秀人アトリエとの共同設計（宮城）、'04年 伝承館「葛生伝承館」（栃木）、'06年 住宅「O-HOUSE」（静岡）ほか

賞歴●1993年 新日本建築家協会新人賞、'97年 第38回建築業協会賞（BCS賞）、'98年 日本建築学会作品選奨、2003年 グッドデザイン賞2003-2004、'06年 日本建築家協会賞ほか

芦原太郎建築事務所
〒102-0071 東京都千代田区富士見1-7-12
TEL.03-5210-7551 FAX.03-5210-7552
e-mail : info@t-ashihara.co.jp URL : http://www.t-ashihara.co.jp

P.036



「C邸」

設計／岡田哲史建築設計事務所

Owner Questionnaire

1. 建築デザイン 2. 環境（光、水、緑） 3. 素材（コンクリート打ち放し） 4. 空間 5. 予算（工費、デザイン料ほか）

Data

所在地：東京都目黒区 工事種別：一戸建て 新築 用途地域地区：第一種低層住居専用地域 建ぺい率：制限50％＞実効49.98％ 容積率：制限100％＞実効81.1％ 構造と規模：RC造 地下1階 地上2階建て 敷地面積：523.46㎡ 建築面積：261.63㎡ 床面積：地階89.04㎡ 1階209.88㎡ 2階156.96㎡ 合計455.88㎡ 工期：2007年6月～2008年6月 設計：岡田哲史建築設計事務所 岡田哲史 堀口 潤 施工：笹沢建設 水林義男 佐藤忠弘 設計・施工協力：構造設計／滋賀県立大学 陶器浩一 北條建築構造研究所 割出祐子 空調設備／千代田工機 佐藤雄一 電気設備／建電工事 鈴木雅明 キッチン設備／Boffi 山崎知恵子 給排水衛生設備／明野設備研究所 下原秀彦 千代田工機 佐藤雄一 外構・造園／島津庭苑 島津 浄 照明設備／ヤマギワ 平井邦彦 映像・音響設備／PINE TREE 榑松克尚

◆主な仕上げ材料

〈外部〉屋根／シート防水＋アスファルト防水の上保護塗料塗装 外壁／コンクリート打ち放しの上光触媒コーティング材（ピアレックス・テクノロジーズ）塗布 開口部／特注スチールサッシ アルミサッシ テラス／ライムストーン 御影石貼りジェットバーナー仕上げ 一部芝生敷き 屋外階段／ライムストーン貼り 〈内部〉床：ライムストーン貼り本磨き仕上げ 洗面室・地階トイレ／大理石（ビアンコカララ）貼り ガレージ／コンクリート金ゴテ押さえ無機系床仕上げ材（シリケートハードナーUSA／ABC商会）塗布 壁：コンクリート打ち放し 浴室／ビアンコカララ貼り 天井：コンクリート打ち放し

◆「家具・機器」仕様リスト

リビング：特注暖炉（ダンロックス＋壁面・鉄骨下地リン酸処理パネル貼り／浅間鋼機） ソファ（TIME&STYLE） パーソナルチェア（インターデコール） サイドテーブル（AXIS） 特注ダウンライト（ヤマギワ） ダイニング：テーブル（LC6） イス（Cab Chair／以上カッシーナ・イクスシー） 特注ダウンライト（ヤマギワ） キッチン：オーダーキッチン（Boffi） 造作レンジフード（ステンレス） 冷蔵庫（profile） 浴室：浴槽（Scara SW2015CC／ジャクソン エス.ピー.アイ） バス水洗・シャワー水栓・オーバーヘッドシャワー（アクサースタルク／ハンスグローエ） 洗面室：洗面器（DV040853-00） 洗面水栓（HG10020S／以上セラトレーディング） トイレ：造作カウンター（天板・大理石＋扉・木下地タモ材練り付け合板OSCL塗装／ウッドテック秋富） 便器（アラウーノ／パナソニック電工） 手洗い器（DV040833-00／セラトレーディング） ガレージ：造作シャッター（スチールフレーム＋リン酸処理パネル貼り） 水盤・外構：アッパーライト（UWL301／ヤマギワ） 〈床暖房〉全室：温水式床暖房（東京ガス）

岡田哲史 Satoshi Okada



1962年・兵庫県生まれ。'89年・コロンビア大学大学院修了、'93年・早稲田大学大学院博士課程修了後、日本学術振興会特別研究員、文化庁芸術家在外研修員、コロンビア大学客員研究員。'95年・岡田哲史建築都市計画研究所（現・岡田哲史建築設計事務所）設立。2003～'06年・滋賀県立大学環境科学部助教授、'06～・千葉大学大学院工学研究科准教授。

作品●2000年 週末住宅「富士北麓の家」（山梨）、'03年 住宅「榉田の家」（京都）、'05年 集合住宅「tomigaya apartment」、住宅「青葉台の家」（以上東京）、ゲストハウス「清里アートギャラリー」（山梨）、'06年 住宅「若葉台の家」（神奈川）、公共施設「高島市風花の丘」（滋賀）、'09年 住宅「善光寺の家」（長野）

賞歴●2000年 山梨県建築文化賞、吉岡賞（現新建築賞）、'05年 グッドデザイン賞、山梨県建築文化賞、'06年 デダロ・ミノッセ国際建築賞最優秀賞、ロシア国際建築賞最優秀賞、'07年 シカゴ・アテナエウム国際建築賞、'08年 日本建築学会賞（技術）、シカゴ・アテナエウム国際建築賞受賞ほか

岡田哲史建築設計事務所
〒186-0002 東京都国立市東1-6-31-4階
TEL.042-505-5065 FAX.042-505-5066
e-mail : mail@okada-archi.com URL : http://www.okada-archi.com

P.104



「S邸」

設計／彦根建築設計事務所　彦根 明

Owner Questionnaire

1. 信頼感・安心感　2. 環境　3. デザイン　4. 趣味　5. ガーデン・テラス

Data

所在地：東京都杉並区　工事種別：一戸建て　新築　用途地域地区：第一種低層住居専用地域　建ぺい率：制限40％>実効39.99％　容積率：制限80％>実効62.35％　構造と規模：木造　地上2階建て　敷地面積：166.61㎡　建築面積：66.62㎡　床面積：1階66.62㎡　2階61.65㎡　合計128.27㎡　工期：2007年6～12月　設計：彦根建築設計事務所　彦根 明　重久京平　施工：渡邉技建　土方 豊　設計・施工協力：電気設備／ヒキチ電気　引地偉夫　キッチン設備／クレド　伊藤　恵　給排水衛生設備／大応プラミング

◆主な仕上げ材料

〈外部〉屋根／防水材（ジョリエースFRP防水加工／アイカ工業）仕上げ　外壁／リシン掻き落とし仕上げ　開口部／アルミサッシ（YKK AP）　テラス／豆砂利洗い出し仕上げ　〈内部〉床：構造用合板 t12下地チーク材t15貼り木材保護塗料（セラリカコーティング／セラリカNODA）塗布　浴室・洗面室／FRP防水の上タイル200角（サーモタイルピュアフロア／INAX）貼り　トイレ／構造用合板t12下地リノリウムシート（フロアリュームプレーン／東リ）貼り　玄関／コンクリート下地大谷石t30貼り　壁：PBt12.5下地パテ処理の上天然内装材塗料（チャフウォール／チャフローズコーポレーション）塗布　浴室／合板t12下地FRP 防水加工の上アクリル樹脂塗料（トップコート／フジワラ化学）塗布　洗面室・トイレ／PBt12.5下地パテ処理の上AEP塗装　天井：PBt9.5下地パテ処理の上チャフウォール塗布　キッチン／PBt12.5下地パテ処理の上チャフウォール塗布　浴室・洗面室／ケイカル板t6下地パテ処理の上AEP塗装　トイレ／PBt12.5下地パテ処理の上AEP塗装

◆「家具・機器」仕様リスト

リビング：造作テレビボード（シナランバー材プラネットカラーOS塗装）　ソファ（3300シリーズ／Fritz Hansen）　サイドボード（アンティーク）　ダイニング：テーブル（hikeオリジナル）　イス（セブンチェア／Fritz Hansen）　キッチン：造作キッチン（天板・人造大理石（スタロン）＋面材・メラミン化粧板）　レンジトップ（VJS47EB1S）　レンジフード（VJS89AHWZ2／以上パナソニック電工）　キッチン水栓（クリンスイ/U-F913ZC／グローエ）　食器洗浄機（G606PSCi／ミーレ）　特注シンク（ステンレス手加工HL仕上げ）　浴室：浴槽（FLN72-4304／大洋金物Tform事業部）　シャワー水栓（3362400J）　シャワーヘッド（28795／以上グローエ）　洗面室：造作収納（ポリエステル化粧板の上防湿鏡貼り）　特注洗面器（人造大理石／日栄インテック）　洗面水栓（T12NX／TOTO）　トイレ：便器（ネオレストD1/CE9683／TOTO）　手洗い器（コーリアン Lavatory Bowl／ABC商会）　寝室：ベッド（無印良品）　ワークルーム：デスク（アンティーク）　テーブル（Air-Table）　イス（Air-Chair／以上MAGIS）　玄関：造作下足入れ（シナランバー材プラネットカラーOS塗装）　納戸：造作書棚（シナランバー材プラネットカラーOS 塗装）　〈床暖房〉1階・2階全室：水蓄熱式床暖房（アクアレイヤー／イゼナ）

彦根 明　Akira Hikone



1962年・埼玉県生まれ。'85年・東京藝術大学建築学科卒業。'87年・東京藝術大学修士課程終了後、磯崎新アトリエ勤務。'90年・彦根建築設計事務所設立。'99年～・東海大学非常勤講師。

作品●1992年 事務所「Silver Wing」（富山）、'03年 住宅「BBH」（神奈川）、「KMG」（青森）、「CLOSED OPEN」（東京）、'06年「SNM」（岡山）、「T邸」（東京）no.28に掲載、「江野邸」（神奈川）no.31に掲載、'07年 寄宿舎「TOM」（千葉）、住宅「YY」、「佐藤邸」no.39に掲載、「彦根邸」（以上東京）no.40に掲載

賞歴●1993年 富山県建築賞、'94年 日本建築士会連合会賞、グッドデザイン賞、2003年グッドデザイン賞　'08年日本建築家協会 優秀建築選2008、日本建築学会 作品選集2009

彦根建築設計事務所
〒157-0066　東京都世田谷区成城7-5-3
TEL.03-5429-0333　FAX.03-5429-0334
e-mail : aha@a-h-architects.com
URL : http://www.a-h-architects.com

P.094



「F邸」

設計／スタジオCY

Owner Questionnaire

1.家族の部屋、居場所　2.環境（せいせいとした）　3.機能（キッチン）
4.デザイン（かたち）　5.ガーデン・テラス

Data

所在地：東京都大田区　工事種別：一戸建て　新築　用途地域地区：第一種中高層住居専用地域　建ぺい率：制限60％>実効55.62％　容積率：制限200％>実効122.27％　構造と規模：木造　地上3階建て　敷地面積：185.32㎡　建築面積：103.09㎡　床面積：1階94.81㎡　2階93.16㎡　3階64.17㎡　合計252.14㎡　工期：2006年12月5日～2007年7月25日　設計：スタジオCY　堀内 雪　向山ひろこ　企画・コーディネート：リビングデザインセンターOZONE　施工：高政工務店　高橋 元　田中政幸　設計・施工協力：構造設計／シーアイウッド　椎名正昭　電気・給排水衛生設備／高正工務店　キッチン設備／HOBBS　山根ひとみ　香山奈緒美　照明設備／マックスレイ　大久保健一

◆主な仕上げ材料

〈外部〉屋根／構造用合板t12下地ガルバリウム鋼板t0.4タテハゼ葺き　外壁／外壁下地材t9.5（ダイライト／大建工業）下地防水シート（タイベック／旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ）の上レッドシダー材貼り　一部ラスモルタルt15の上塗り壁材（ジョリパッド／アイカ工業）ゆず肌仕上げ　開口部／特注スチールサッシ（トステム）メラミン焼き付け塗装　一部アルミサッシ（新日軽）　テラス／ジャラ材＋レッドシダーデッキ材張り木材保護塗装（キシラデコール／日本エンバイロケミカルズ）塗布　〈内部〉床：構造用合板t28下地パイン材フローリングt15貼りの上木材保護着色塗料（オスモカラー／日本オスモ）塗布　3階リビングダイニング・キッチン：構造用合板t28下地カバ材フローリングt15（ウッディーワールド）貼り　3階浴室／構造用合板t28下地FRP防水の上300角タイル（IFT-300/PU-31/INAX）貼り　3階洗面室・トイレ／構造用合板t28下地ビニールタイル300角（MSプレーン／東リ）貼り　玄関A（子世帯）／モルタル下地天然石（ブルマーレ・ベルドゥーラ／アドヴァン）貼り　玄関B（親世帯）／ジャラデッキ材張り　一部モルタル下地ブルマーレ・ベルドゥーラ貼り　1階和室：本畳敷き　一部檜材貼り　壁：PBt15下地AEP塗装　3階浴室／陶器質タイル 250×460（エセンツァ グリジオ/FL752029／アドヴァン）貼り　玄関B／PBt15下地AEP塗装　一部和紙（KP5671/川島企画販売）貼り　1階和室／PBt15下地漆喰塗り　一部檜材羽目板張り　天井：PBt15下地AEP塗装　3階浴室／不燃化粧板（アイカセラール／アイカ工業）貼り　1階和室／杉柾板張り

◆「家具・機器」仕様リスト

3階リビングダイニング：テレビボード（アクタス）　ダイニングテーブル（サクラ無垢材／ザ・コンランショップ）　ダイニングチェア（IDÉE）　ダウンライト（MD2779-01／マックスレイ）　玄関A：テーブル　チェア（以上IDÉE）　ペンダントランプ（Romeo Moon S2/FLOS／ヤマギワ）　3階キッチン：オーダーキッチン（天板・人造大理石（デュポンコーリアン／MRC・デュポン）＋面材・ウェンゲ材浮造り仕上げ）　レンジトップ（HR-P873-SUL／東京ガス）　レンジフード（BOXFJ-901S／アリアフィーナ）　オーブンレンジ（SN-860X-S／東京ガス）　特注シンク（GBシンク／中外交易）　キッチン水栓（32447＋32445／グローエ）　食器洗浄機（G1140SCi-ST／ミーレ）　浄水器（X1-MA01／シーガルフォー）　生ゴミ処理機（TTI・N805T／トリニティータークインターナショナル）　冷蔵庫（GE560AFL/GE／日本ゼネラル・アプライアンス）　3階浴室：浴槽（ZB-1510/BW1／INAX）　バス水栓（13453）　シャワー水栓（グローサーモ3000／以上グローエ）　3階洗面室：洗面器（ラピードスタンダード／ABC商会）　洗面水栓（ユーロスタイル32357／グローエ）　便器（CS860B／TOTO）　〈床暖房〉2階・リビングダイニング、キッチン　3階・リビングダイニング、キッチン：温水式床暖房（TES／東京ガス）

堀内 雪　Yuki Horiuchi



1964年・群馬県生まれ。'86年・筑波大学基礎工学類卒業。'89～'99年・毛綱毅曠建築事務所勤務。2000年・スタジオCY設立。

作品●2005年 住宅「シダレザクラの家」（東京）、'06年「植物園の家」（茨城）、「SUKE-SUKE ハウス」（東京）、「The Bath House」（神奈川）、「けやきハウス」（東京）、'07年「M邸」（千葉）

賞歴●2001年 裏磐梯シービジョンズコンペ入選、'07年 あたたかな住空間コンペティションお風呂の部門最優秀賞受賞、'08年 Residential Award2007地区優秀賞、茨城県建築文化賞住宅部門優秀賞、日本建築家協会優秀建築選

スタジオCY（サイ）
〒194-0211　東京都町田市相原町787 [illegible]w316
TEL.042-773-2247　FAX.042-773-27[illegible]
e-mail : contact@studiocy.com　URL : http://www.studiocy.com

P.142



「伊藤邸」

設計／髙﨑正治都市建築設計事務所

Owner Questionnaire

1. 設備　2. 家族の部屋、居場所（家族の関係、間取り）　3. 環境　4. 素材
5. 信頼感・安心感（デザイナー、施工者に対して）

Data

所在地：愛知県名古屋市　工事種別：一戸建て　新築　用途地域地区：準工業地域　建ぺい率：制限60％>実効59.38％　容積率：制限200％>実効87.83％　構造と規模：木造　地上2階建て　敷地面積：172.52㎡　建築面積：102.44㎡　床面積：1階90.88㎡　2階60.65㎡　工期：2005年9月～2009年5月　設計・監理・構造設計：髙﨑正治都市建築設計事務所　髙﨑正治　仲本昌司　施工：夢建築 ホロン　安藤友治　設計・施工協力：電気設備／松尾電気商会　竹内清広　キッチン設備／TOTO中部販売　給排水衛生設備／イワコー　岩田国男　家具・什器／碁建具店　碁 昭夫　外構・造園／丹下業務店　丹下正博

◆主な仕上げ材料

〈外部〉屋根／防水材（リボールマイティ／リボール）下地ガルバリウム鋼板t0.4タテハゼ葺き　外壁／ラスモルタル下地シラス（高千穂）塗り　開口部／アルミサッシ　木製サッシ　テラス／木材張り　〈内部〉床：木t18下地カバザクラ無垢材フローリングt15貼り　浴室／タイル200角貼り　壁：木ズリ＋PBt12下地シラス（高千穂）塗り　一部スギ板t12貼り　浴室／タイル200角貼り　一部タイル100角貼り　天井：シラス（高千穂）塗り　階段・主寝室／スギ板t12貼り　浴室／ポリカーボネートt10（ツインカーボ／AGC旭硝子）貼り

◆「家具・機器」仕様リスト

パブリックリビング：スポットライト（OS047307、OS04708、OS047058／以上オーデリック）　ダイニング・ゼロの空間：シーリングライト（シームレス蛍光灯／コイズミ照明）　キッチン：システムキッチン（キュイジア／TOTO）　浴室：浴槽（SBN-1520HP）　バス水栓（BF-J090B）　シャワー水洗（BF-J146TM／以上INAX）　洗面室：洗面器（GL-2297）　洗面水栓（LF-344S／以上INAX）　トイレ：便器（XCH1101WS／パナソニック電工）　手洗い器（GL-C64CHB／INAX）　主寝室：シーリングライト（シームレス蛍光灯／コイズミ照明）　ブラケット（LBS56323／パナソニック電工）　風の舞台・表門：スポットライト（DOL-2243S／大光電機）　玄関舞台：ダウンライト（ADE950859／コイズミ照明）　〈床暖房〉1階全室：遠赤床暖房1φ200V（CFボードヒーター／ミサワ商会）



髙﨑正治　Takasaki Masaharu

1953年・鹿児島県生まれ。'77年・渡欧し、建築家ピーター・クック教授に師事。ドイツ・シュツットガルト大学、オーストリア・グラーツ工科大学の教授と協働を経て、'82年・TAKASAKI物人研究所、'90年・髙﨑正治都市建築設計事務所設立。現在、王立英国建築家協会名誉フェロー、京都造形芸術大学教授、インスブルック大学教授。

作品●'91年 アトリエ・住居「ゼロのいえ」（鹿児島）、'92年 玉名市コミュニティー施設「玉名天望館」（熊本）、'95年 輝北町コミュニティー施設「輝北天球館」、保育園「照明保育園」、'96年 美術館「南溟のいろ」、'98年 高齢者複合施設「なのはな館」、2000年 住宅「しろのいえ」（以上鹿児島）

賞歴●1977年 新建築国際住宅設計競技グランプリ、'93年 第48回南日本美術展優秀賞、'96年 日本建築家協会新人賞、2001年 王立英国建築家協会名誉フェロー賞、王立英国建築家協会ジェンクス賞、第52回南日本文化賞特別賞

髙﨑正治 都市建築設計事務所
〒104-0061　東京都中央区銀座7-15-7-301
TEL.03-3545-5031　FAX.03-3545-5063
〈九州オフィス〉〒890-0063　鹿児島県鹿児島市鴨池1-42-22 物人建築舘
TEL.099-284-0081　FAX. 099-284-0082
e-mail : ta@takasaki-architects.co.jp　URL : http://www.takasaki-architects.co.jp

P.114



「T邸」

設計／田頭健司建築研究所
造園／荻野寿也景観設計

Owner Questionnaire

1. 信頼感・安心感　2. デザイン　3. 機能　4. 環境　5. 予算

Data

所在地：兵庫県神戸市　工事種別：一戸建て　新築　用途地域地区：第一種低層住居専用地域　建ぺい率：制限50％>実効46.75％　容積率：制限100％>実効66.79％　構造と規模：木造　地上2階建て　敷地面積：422.24㎡　建築面積：197.4㎡　床面積：1階193.06㎡　2階88.97㎡　合計282.03㎡　工期：2008年9月13日～2009年4月28日　設計：田頭健司建築研究所　田頭健司　佐藤 海　企画・コーディネート：su-mart　幸田真生子　施工：吉野銘木製造販売　鶴谷佳憲　高田陽一　設計・施工協力：空調・電気設備／辻本電気商会　辻本真一　ガス設備／きんぱい　太田敏明　キッチン設備／エクレアウエスト　山本由紀　給排水衛生設備／ツチヤ設備　土屋英樹　家具・什器／ILMA　西口哲司　小山浩伸　ARC INTERNATIONAL　井上博乃　外構・造園／荻野寿也景観設計　荻野寿也　照明設備／マックスレイリスペル　原田祐彦　大工棟梁／谷口 武　左官／岡左官　岡 義弘

◆主な仕上げ材料

〈外部〉屋根／耐水合板ケイカル板の上FRP防水絶縁工法　外壁／ラスモルタルの上セラミック骨材混入塗料吹き付け　開口部／アルミサッシ（YKK AP）　特注ヒバ材格子戸　屋外テラス・中庭／ウリン材デッキ張り＋芝敷き　屋外階段／ウリン材デッキ張り　〈内部〉床：コンパネt12下地ヨーロピアンウォールナット材フローリング（COLEMA／ADワールド）貼り　リビング／コンパネt12貼り　浴室・洗面室／磁器質タイル600角（60-60-WT001／フォンテトレーディング）貼り　玄関／着色モルタル木ゴテ押さえ　一部スレート貼り　2階書斎／コンパネt12下地サイザルカーペット（上田敷物工場）貼り　2階ゲストルーム／縁なし畳敷き　2階主寝室・子ども部屋・廊下・トイレ／コンパネt12下地ブラックウォールナット三層フローリング貼り　壁：PBt9.5二重貼り下地珪藻土塗り　リビング／PBt9.5二重張り下地珪藻土塗り　一部ウォールナット材突き板貼り　浴室・洗面室／磁器質タイル60-60-WT001貼り　天井：PBt9.5二重貼り下地珪藻土塗り　浴室・洗面室／ケイカル板下地VP塗装

◆「家具・機器」仕様リスト

リビング：ソファ（Gina／Ritzwell）　センターテーブル（ARC INTERNATIONAL）　造作テレビボード（ウォールナット練り付けフラッシュ板クリア塗装）　造作空調カバー（ウォールナット無垢材／以上ILMA）　ダイニング：ダイニングテーブル（ARC INTERNATIONAL）　ダイニングチェア（Rena／アルフレックス）　照明（ingo Maurer/YaYaHo／スタジオノイ）　造作カウンター（ウォールナット練り付けフラッシュ板クリア塗装）　造作空調カバー（ウォールナット無垢材）　キッチン：オーダーキッチン（天板・ステンレスHL仕上げ＋面材・ウォールナット練り付けフラッシュ板／エクレアウエスト）　レンジトップ（VG232-222JP＋V1230-113／ガゲナウ）　キッチン水栓（essence／グローエ）　食器洗浄機（G1140SCi／ミーレ）　レンジフード（NSR-3A-752S／富士工業）　浄水器（Seagull／ゼネラルエコロジー）　造作食器棚（ウォールナット練り付けフラッシュ板クリア塗装）　書斎：パーソナルチェア（Alfa／Fjords）　テーブルランプ（artemide/TIZIO／ヤマギワ）　浴室：浴槽（T57-145）　シャワー水栓（C53-5408／以上フォンテトレーディング）　洗面室：洗面器（B-14）　洗面水栓（BX-5256／以上フォンテトレーディング）　トイレ：便器（サティス／INAX）　手洗い器（B-71／フォンテトレーディング）　玄関：造作飾り棚（黒皮付き鉄板t6）　主寝室：テーブルスタンド（LUCE PLAN/BELENICE／ヤマギワ）　〈床暖房〉リビング・ダイニング・キッチン・家事室：温水式床暖房（大阪ガス）



田頭健司　Kenji Tagashira

1965年・大阪府生まれ。坂本昭・設計工房CASAを経て、'99年・田頭建司建築研究所設立。

作品●2000年 住宅「今福の家」（大阪）、'01年「N邸」（兵庫）no.6に掲載、'02年「坂本邸」（奈良）no.9に掲載、'03年「西山町の家」（兵庫）、'04年「鬼取町の家」（奈良）、'05年「常磐町の家」（大阪）、'06年「不破邸」（兵庫）no.27に掲載、「K邸」（京都）no.32に掲載、'07年「園部邸」（兵庫）no.38に掲載、'08年「N邸」（京都）no.33に掲載

賞歴●1999年 JIDデザインアワード奨励賞、2002年 JCDデザインアワード優秀賞・奨励賞・入選、'04年 American Wood Design Awards　Best of Residential、'05年 快適空間作品コンテスト最優秀賞、'07年Residential Lighting Award 2006 Home Archi賞　'09年 INAX DESIGN CONTEST入賞

田頭健司建築研究所
〒552-0003　大阪府大阪市港区磯路3-10-13
TEL.06-6573-7100　FAX.06-6573-7300
e-mail : office@kenji-tagashira.com　URL : http://kenji-tagashira.com

Abbreviations
掲載住宅の図面の和訳

APPROACH　アプローチ
ATELIER　アトリエ
BALCONY　バルコニー
BATHROOM　浴室
BEDROOM　寝室
BIOTOPE　ビオトープ
BRIDGE　曲・太鼓橋
COURTYARD　中庭
DECK TERRACE　デッキテラス
DINING　食堂
DOG ROOM　ドックルーム
DRY AREA　ドライエリア
ENTRANCE　玄関
ENTRANCE HALL　玄関ホール
GALLERY　ギャラリー
GARAGE　車庫
GARDEN　庭
GUEST ROOM　客室
HALL　廊下
HOBBY ROOM　ホビールーム
JAPANESE STYLE ROOM　和室
KID'S ROOM　子ども部屋
KITCHEN　台所
LIVING　居間
LOFT　ロフト
LOUNGE　ラウンジ
MASTER BEDROOM　主寝室
MECHANICAL ROOM　機械室
PARKING　駐車場
POWDER ROOM　化粧室
ROOF TERRACE　屋上テラス
ROOM OF YAMANOZA　山の座
SHALLOW　水盤
SPASE OF SENKYO　仙居の空間
SPASE OF ZERO　ゼロの空間
STAGE OF SKY　空の舞台（テラス）
STOCK ROOM　ストックルーム
STORAGE　倉庫
STUDY ROOM　書斎
STUDY SPACE　書斎スペース
TERRACE　テラス
THEATER ROOM　シアタールーム
TOILET　トイレ
UTILITY　家事室
VOID　吹き抜け
WALK-IN CLOSET　ウオークイン・クローゼット
WORK ROOM　ワークルーム

Bed　ベッド
Bench　ベンチ
Bookshelf　本棚
Chest　チェスト
Console　コンソール
Counter（Ct）　カウンター
Desk　机
Elevator（EV）　エレベーター
Fire place　暖炉
Piano　ピアノ
Shelf（Sh）　棚
Shoes closet　下足入れ
Stove　ストーブ
Refrigerator（R）　冷蔵庫
Sofa　ソファ
Table（Ta）　テーブル
Television（TV）　テレビ
Washing machine（W）　洗濯機

RC　鉄筋コンクリート
AEP　アクリルエマルジョンペイント
FRP　繊維強化プラスチック
HL　ヘアライン
LGS　軽量鉄骨OS　オイルステイン
PB　プラスターボード

P.175



「U邸」

設計／ケンチクイロハ
造園／GARDEN WORKS 園三

Owner Questionnaire
1.書斎　2.キッチン　3.バス　4.風　5.光

Data
所在地：京都府京都市　工事種別：一戸建て　新築　用途地域地区：第二種中高層住居専用地域　建ぺい率：制限40％>実効39.2％　容積率：制限200％>実効100.5％　構造と規模：RC造　地下1階　地上3階建て　敷地面積：386.21㎡　建築面積：151.55㎡　床面積：地階53.25㎡　1階98.30㎡　2階144.97㎡　3階91.55㎡　合計388.07㎡　工期：2007年5月～2008年4月　設計：ケンチクイロハ　植南草一郎　田岡佳江子　施工：田中工務店　三嶋英樹　設計・施工協力：構造設計／空間工学研究所　岡村 仁　杉本将基　空調・電気・給排水衛生設備／YMO　山田浩幸　関田優子　キッチン設備／プリマヴェーラ　村田和弘　西川恵美子　外構・造園／GARDEN WORKS園三　田畑 了

◆主な仕上げ材料
〈外部〉屋根／コンクリートスラブの上粘接着工法カラーガルバリウム鋼板t0.4一文字葺き（パーフェクトルーフ／ダイムワカイ）　外壁／アクリル樹脂系左官材（マジックコート／フッコー）仕上げ　開口部／アルミサッシ（トステム）　木製サッシ（アイランドプロファイル）　テラス／イペ材t25張りオイル仕上げ　〈内部〉床：構造用合板 t15下地タモ三層フローリングt15（ニッシンイクス）貼りオイル仕上げ　一部琉球畳敷き　1階浴室／十和田石t22貼り　一部檜スノコ張り　3階浴室／磁器質タイル20×95×t8（ハーフボーダー／各務製陶）貼り　ギャラリー／モルタルt20下地深草砂利三和土t60仕上げ　ワークスペース／オレゴンパイン材t28貼りオイル仕上げ　壁：コンクリート打ち放し　PBt12.5の上新漆喰（ファインウォールデコ／日丸産業）仕上げ　キッチン／コンクリート打ち放し　PBt12.5下地AEP塗装　ギャラリー／コンクリート打ち放し　構造用合板t12＋PBt12.5下地クロス貼りの上AEP塗装　1階浴室／十和田石t22貼り　一部PBt12.5下地ファインウォールデコ仕上げ　3階浴室／磁器質タイルハーフボーダー貼り　天井：LGS組みPBt12.5＋t9.5下地AEP塗装　リビング：木質天井材t6（ウェルドパネル／朝日ウッドテック）貼り　一部黒谷和紙貼り　1階浴室／木下地檜材縁甲板t10.5貼り　3階浴室／ケイカル板t6二重貼りの上VP仕上げ　3階キッチン／コンクリートスラブ　モルタル薄塗り補修の上AEP塗装仕上げ

◆「家具・機器」仕様リスト
リビング：造作キャビネット（タモ材練り付け合板）　3階キッチン：オーダーキッチン（天板・人造大理石＋面材・ニューギニアウォールナット材エナメル塗装三分艶消し仕上げ／プリマヴェーラ）レンジトップ（CK260-404）　レンジフード（VL051-707／以上ガゲナウ）　オーブンレンジ（H32BKAT／ミーレ）　キッチン水栓（DORNBRACHT/32.800.795.00／リラインス）　食器洗浄機（G601PSCi／ミーレ）　特注シンク（ステンレスHL仕上げ）　イス（Hans J. Wegner/ Y Chair）　フロアスタンド（Artemide/Tolomeo／以上ヤマギワ）　1階浴室：浴槽（高野槇）　バス水栓（BF-E090B）　シャワー水栓（BF-E146TEM／以上INAX）　3階浴室：浴槽（Villeroy & Boch/NVBQ1600BE／ノヴァエンタプライズ）　シャワー水栓（3362410J、28796000／グローエ）　3階洗面室：洗面器（L-AL-4205L/W/Alape／INAX）　洗面水栓（HG39010/AXOR／セラトレーディング）　タオルウォーマー（YUCCA／ピーエス）　ワークスペース：造作本棚・デスク（タモ材練り付け合板）　イス（Fritz Hansen/Ant Chair）　イス（Fritz Hansen/PK22／以上ヤマギワ）　ダウンライト（ADE950491／コイズミ照明）　〈床暖房〉1階ホール、キッチン、スタディールーム、3階ホール、ダイニングキッチン：ガス温水式床暖房（大阪ガス）　1階浴室、洗面室、アトリエ：ガス温水式床暖房（リンナイ）



植南草一郎　Soichiro Uenami
1966年・京都府生まれ。'92年・京都大学工学部建築学科卒業。'94年・同大学大学院修士課程修了後、河井敏明、中村 潔、馬場 徹らと共に建築少年設立。'97年・同大学院博士課程修了。2000年・ケンチクイロハ設立。同年～・京都造形芸術大学准教授



田岡佳江子　Kaeko Taoka
1967年・京都府生まれ。'90年・京都精華大学美術学部デザイン学科卒業。'98年・品川技術専門校建築学科卒業後、設計組織アモルフを経て、2000年・ケンチクイロハ設立。
作品●2000年 住宅「市原の家」、「吉田の家」、'04年「室町フラット」、店舗「いろは本店」（以上京都）、'06年 住宅「瀬戸の家」、「春日井の家」（以上愛知）、店舗「澤吉」、'07年 住宅「五条坂の家」（以上京都）

ケンチクイロハ
〒603-8112　京都府京都市北区小山元町50-1-303
TEL.075-494-3130　FAX.075-494-3135
e-mail : staff@kenchiku-iroha.com　URL : http://www. kenchiku-iroha.com



田畑 了　Satoru Tabata
1975年・岐阜県生まれ。'98年・京都芸術短期大学（現京都造形芸術大学）ランドスケープデザインコース専攻科修了。造園会社勤務を経て、2005年・GARDEN WORKS 園三設立。'08年～・京都造形芸術大学特別公開講義講師。'09年～・京都造形芸術大学通信教育部ランドスケープデザインコース非常勤講師。
作品●2008年住宅「北刈谷の家」（愛知）、'09年「名東区の家」（愛知）、「ov-house」（静岡）、「M邸」（岐阜）no.41に掲載

GARDEN WORKS 園三
〒503-0014　岐阜県大垣市領家町1-1011-3
TEL/FAX.0584-73-6648
e-mail : enzo@ogaki-tv.ne.jp　URL : http://www.enzo-garden.net

MAGAZINE SUBSCRIPTION
年間定期購読のご案内

年間定期購読をご利用ください。
送料無料で毎号お手元にお届けします。

お近くに書店のない方、書店でお申し込みができない方は、電話・ウェブサイト・モバイルサイト・QRコードで申し込み可能な年間定期購読をご利用ください。送料無料で毎号お手元に本誌をお届けいたします。

※年間6冊以外の増刊号は年間定期購読の対象外となります。

[お申し込み方法]

お申し込みは富士山マガジンサービス(Fujisan.co.jp)記載の利用規約に準じます。

◆ウェブサイト　富士山マガジンサービス

http://www.fujisan.co.jp/imhome

◆モバイルサイト　富士山マガジンサービス

http://www.fujisan.co.jp/m/imhome

◆QRコード

◆専用電話（年中無休・24時間受付）

0120-223-223

※新規定期購読申し込み専用となります。

[お支払い方法]

ウェブサイト、モバイルサイトでお申込みの場合はクレジットカード、銀行振込、コンビニ払いをご利用いただけます。電話でお申し込みの場合は銀行振込、コンビニ払いのみとなります。

年間定期購読料　8,400円（税込）

お届けは毎号発売日を予定しておりますが、配送事情により若干遅れる場合があります。年間定期購読ですので、原則として途中解約はできません。万が一、印刷、製本などによる問題があった場合や転居の際には、富士山マガジンサービスへご連絡ください。

※富士山マガジンサービスは、雑誌・定期購読専門サービスです。

[配送未着・定期購読に関するお問い合わせ先]

富士山マガジンサービス

Tel. 03-5459-7278（土曜日曜祝日を除く10：00～17：00）

e-mail：cs@fujisan.co.jp

バックナンバーのご購入をご希望の方は、弊社ウェブサイトから

◆商店建築社ONLINE

http://www.shotenkenchikusha-online.com

SHOP LIST

製品やショップに関しては、直接下記の電話番号へお問い合わせください。

ア
アドヴァン　TEL.03-3475-0281
阿部興業　TEL.03-3351-0222
アルチザンサンク　TEL.03-6410-6242
アルマーニ / カーザ　TEL.03-6274-7003
イケア・ジャパン　URL：http://www.IKEA.jp
イゼナ　TEL.04-7182-7437
ASAHEI　TEL.03-3556-6539
HENRY BEGUELIN　TEL.078-391-6647
IDC大塚家具 有明本社ショールーム　TEL.03-5530-5555
IDC大塚家具 ポルトローナ・フラウ日本橋　TEL.03-5203-4321
INAX お客さま相談センター　TEL.0120-1794-00
WoodHood　TEL.0178-43-3061

カ
カワジュン　TEL.03-3669-2801
クリヤマ　TEL.03-5298-7886
コロナ　TEL.0256-32-2111
コンフォート　TEL.03-5798-3900

サ
サー　エンジニアリング　TEL.0120-571-450
サ[illegible]ラ販[illegible]　TEL.03-3405-9701
ザ・コンランショップ 新宿本店　TEL.03-5322-6600
サンゲツ　TEL.052-564-3314
シモタニ　TEL.0576-52-3775
シンコールインテリア　TEL.03-3404-8184
スガツネ工業　TEL.03-3864-1122
ソーラーシステム振興協会　TEL.03-5203-9111
CIBONE AOYAMA　TEL.03-3475-8017
SHOP DETAIL NAKAMEGURO　TEL.03-3711-8838
STYLE MEETS PEOPLE　TEL.03-5413-3705

タ
ダイキン工業　TEL.0120-88-1081
東京ガス　TEL.0120-478-302
トミタ　TEL.03-3273-7552

ナ
ナショナルインテリアショールーム　TEL.03-3442-4791
ニッタイ工業　TEL.0569-73-5121
日本製紙木材　TEL.03-6665-7560
ノーザンライトストーブ　TEL.0467-23-5011
ノールジャパン　TEL.03-3518-8980
NEED'K（ニーディック）　TEL.03-5456-0309

ハ
パナソニック お客様ご相談センター　TEL.0120-878-365
日立アプライアンス 家電ビジネス情報センター　TEL.0120-3121-19
ヒッカドゥワ 西麻布店　TEL.03-3401-0886
BALS TOKYO　TEL.0120-500-924
B&B Italia Store Tokyo　TEL.03-5778-3540
PROSPECT　TEL.03-3725-1100

マ
マーヴィン ウインドーズ日本事務所　TEL.045-476-2055
マチュリテ　TEL.03-5468-2381
マナトレーディング 東京ショールーム　TEL.03-5721-2831
三菱電機 中津川製作所営業部　TEL.0573-66-8213
メゾン ドゥ ファミーユ 青山本店　TEL.03-5468-0118
Minotti　TEL.03-5778-0232

ヤ
ヤマギワリビナ本館　TEL.03-3253-5111
ユニオン　TEL.06-6532-3188

ラ
リビング・モティーフ　TEL.03-3587-2784
ロイズ・アンティークス エゴイスト　TEL.03-3716-3338



I'm home. 増刊 vol

2009.11.25 on sa

定価2,500円（税込

Homes with Renovation

2009年6月に発刊したI'm home.増刊vol.1「Homes with a View」に続く第2弾は「リノベーション」。ライフスタイルの多様化に合わせて住まいの選択肢も広がり、近年、築年数を経たマンションや戸建てをリノベーションして理想の空間を実現するケースが増加しています。今回は個性的な空間へと変貌を遂げた住宅25軒を掲載すると共に、マンションと戸建てに分けて、リノベーションのポイントやアイデアも紹介します。今後、より進化が求められるリノベーションをさまざまな方向から探ります。

暮らしに合わせたリノベーション

Condo Renovation 18 House Renovation 7

記事／Condo & Houseのリノベーション手法

Study & Ideas for Renovation

AD. INDEX

50音順

アーネストアーキテクツ（デザイン・設計・監理）……………2～5
アスプルンド（ファニチャー）……………………………………21
アドヴァン（オンラインショップ）…………………………… 173
アムスタイル（キッチン）…………………………………………8
永和 （薪ストーブ）……………………………………………202
カツデンアーキテック（階段） ………………………………204
クチーナ〈モーリコーポレーション〉（キッチン） ……………6
高正（フローリング）……………………………………………204
彩工芸企画 （囲炉裏） …………………………………………203
ザ・シーズン（エクステリア＆ガーデン） ……………………表4
三栄水栓製作所（水まわり製品） ………………………………表3
新宮商行（薪ストーブ）…………………………………………201
スガツネ工業（扉用金物）………………………………………187
セイエッフェ〈OKITE〉（ワークトップ） ……………………151
セキスイエクステリア（メールボックス） …………………… 200
ディーエルディー（薪ストーブ）………………………………169
東京ガス（エネファーム） ………………………………………93
東京ガス（ガス温水床暖房） ………………………………… 173
ドリームベッド（ベッド） ………………………………………185
ナショナルインテリア（ファブリック） …………………………77
ピーエス（放射冷暖房システム） ………………………………167
プロスタイルデザイン（住宅設計・施工） ……………表2見開き
望造（フローリング） ……………………………………………188
ユーロモビル（キッチン）………………………………………195
YKK AP（窓）……………………………………………………191

SHOTENKENCHIKU-SHA PUBLISHING CO., LTD.
株式会社 商店建築社©

7-22-36-2F Nishi-shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0023, JAPAN
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-22-36 三井花桐ビル2階
Tel. Editorial Department 03-3363-5818 I'm home.編集部
Tel. Advertising Department 03-3363-5760 広告部
Tel. Sales Department 03-3363-5770 販売部
e-mail : I'm home. info@imhome-style.com shotenkenchiku-sha info@shotenkenchiku.com
URL : I'm home. http://www.imhome-style.com shotenkenchiku-sha http://www.shotenkenchiku.com

PRINTING HOUSE TOSHO PRINTING CO., LTD. 図書印刷株式会社

EDITORIAL

Publisher
Sueyoshi MURAKAMI 村上末吉
President
Kei MURAKAMI 村上 桂
Advertising Manager
Takehiko KONDO 近藤武彦

Editorial Director
Elisa SUMITA 角田絵里沙

Art Director
Misa AWATSUJI 粟辻美早（粟辻デザイン）

Editors
Kiyo SATO 佐藤季代
Asuka KOBATA 小畑明日香

Assistant Editors
Mina YAMANAKA 山中美菜
Rie TAKENAKA 竹中理恵
Naomi SAITO 齋藤尚美

Chief Designer
Sakura HIRAMA 平間さくら

Contributing Designers
Etsuko NISHINA 仁科悦子（粟辻デザイン）
Aya ISHIGURO 石黒 文（ ・ ）
Masako UEDA 上田正子
Koichi ONEYAMA 小根山孝一
Reiko SATO 佐藤礼子
Chihiro SUITA 吹田千尋

Contributing Photographers
Nacása & Partners ナカサ&パートナーズ
Takeshi NAKASA 仲佐 猛
Yoshifumi MORIYA 守屋欣史
Satoshi SHIGETA 繁田 諭
Masato KAWANO 河野政人
Miyuki KANEKO 金子美由紀
Koji FUJII 藤井浩司

Contributing Stylist
Interior
Madoka FUJII 藤井まどか

Assistant Stylist
Megumi KOHARI 小梁恵美

Contributing Writers
Masayoshi INOUE 井上雅義
Miyuki KAWASE 川瀬みゆき
Chika KOMORI 小森知佳
Jun CONDO 近藤 淳
Maki SATO 佐藤麻岐
Kaoru SHIBASAKI 柴崎 薫
Michiko NAKAHATA 中畑美智子
Michiko HAYASE 早漱美智子

Overseas Coordinator
Michiko HIRATA 平田倫子

English Copy Writers
Takuji KAMIO 神尾卓次
Saori HIRATA 平田里織

Special Thanks to
Karen Vance
Carl Destoop（Flanders Investment & Trade）
Georges Nagles（ ・ ）
Johan Valcke（Design Flanders）
A LAUNCH COMPANY（篠田典江）

PUBLISHING AND MARKETING

Advertising Staffs
Yukihisa MIKI 三木亨寿
Hiroki TAMURA 田村裕樹
Mitsuhiro OKANO 岡野充宏
Fumitoshi KAWAKAMI 川上史威
Tomoaki SAKANIWA 坂庭友彰
Masahiro KOSUGI 小杉匡弘
Sales Staffs
Hitoki KUDO 工藤仁樹
Daisuke ITO 伊藤大輔
Yuko SEKINE 関根裕子
Accounting Staff
tori MURAKAMI 村上琴里

From Editor

11月に入ってすっかり寒くなり、木々の紅葉は深まる一方です。私たちの住宅撮影のロケは東京を始め関東から東海、関西、中国地方と多岐にわたりますが、葉が落ち始めるこの時期になると緑のなかで撮影できるのもあと4、5軒といったところでしょうか。

今年は厳しい経済状況下にあったものの、オープンハウスの数は例年とほぼ同じ。10月は多いときで週末に5、6軒ありました。建築家に住宅設計を依頼する場合、以前はすべてがスムーズに進行すれば1年程度で竣工までこぎつけられましたが、今では1年半近くかかるとか。その大きな理由の一つに2007年の建築基準法改正に伴い、申請書類などが増えたことによる建築家の仕事量の問題がありますが、もう一つはオーナー自身の意識の変化が挙げられます。雑誌やインターネットから発信される情報量が増え、住宅をつくるに当たっての選択肢が広がったからでしょう。それは自分の価値観がはっきりある人にとっては良いことですが、そうではない人にとっては選択肢が増えたことで迷いが出て、物事を決めるのに時間を要することになります。住まいづくりにおいて大切なのは、自分の望む生き方や暮らし方、そして与えられた条件下におけるそれらの優先順位です。面積やコストといった制限のなかで、自分にとって何が大切かを明確にしなければなりません。

本誌も来年で10年を迎えますが、この間に私たちのライフスタイルも大きく変化し、住まいもさまざまなかたちが増えました。たとえば、キッチンやダイニング、リビングのワンルーム化、また天井の高さや開口の大きさ、造作家具、真っ白な空間、バスルームの浴室と脱衣室の間のガラスの間仕切り、などなど、10年前には珍しかったことが、瞬く間に普通のことになったのです。その情報量の増加により、同じような住宅が増えたのも事実ですが……。今年は、これまでの10年を改めて見直すうえで、6月に初めての増刊『Homes with a View　眺めの良い家に暮らす』を出版し、またこの11月末には『Homes with Renovation　暮らしに合わせたリノベーション』を出版します。どちらもレイアウト、原稿を含めてすべて一新し、記事も新たに制作しました。『I'm home.』は今後、どこに向かって行くのか。その答えを出すには、もうしばらく時間がかかりそうです。

Elisa SUMITA , Editorial Director

BACK NUMBERS

バックナンバーは最寄りの書店にご注文ください。宅配便による申し込みをご希望の場合は、小社販売部までご連絡ください。ウェブサイトにて詳細をご覧いただけます。

http://www.imhome-style.com

申し込み先／〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-22-36 三井花桐ビル2階
TEL.03-3363-5770　FAX.03-3363-5792



2009 May no.39
Premium Compact
極上の小住宅
ゲストを迎えるエントランス
快適な水まわりをつくる
定価1,400円（本体1,333円）



2009 July no.40
KITCHEN DINING
多様化するオープンキッチンのかたち
家具と長くつき合う
水辺を楽しむ住まい
定価1,400円（本体1,333円）



2009 September no.41
OUTDOOR LIVING
光に満ちたアウトドアリビングに暮らす
美しいタイルを住まいに生かす
夏を感じるリネン
定価1,400円（本体1,333円）



2009 November no.42
COLOR WAYS
色彩豊かに暮らす
WONDER IN BARCELONA
開口のデザインが住まいを決める
特別定価1,600円（本体1,524円）



2008 September no.35
Will be Fabric
ファブリックの可能性
WALL & FLOOR
リノベーション
特別定価1,400円（本体1,333円）



2008 November no.36
Water edge comfort
水辺の暮らしを楽しむ
インテリアを彩る階段
心地良い眠りを誘うベッド
定価1,400円（本体1,333円）



2009 January no.37
和の空気II
Japanese Aesthetics
DESIGNER TALK 杉本貴志
省エネルギーでつくる快適な住まい
定価1,400円（本体1,333円）



2009 March no.38
BEAUTIFUL LIGHTING
昼夜の美しい光に暮らす
SWEDISH DESIGN
木材の魅力
定価1,400円（本体1,333円）



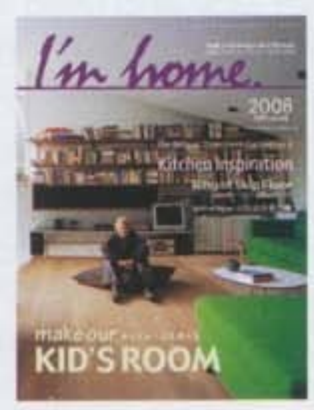
2008 January no.31
IN THE BEDROOMS
眠りからプライベートの場へ
HOLLAND LIBERTIES
箱根と軽井沢の週末住宅
定価1,200円（本体1,143円）



2008 March no.32
Sequence to STUDYROOM
個室から共有の場へ
これからの集合住宅
システム収納　ソファ
定価1,200円（本体1,143円）



2008 May no.33
Principles of Garden
庭を愛でて暮らす
楽しむバスタイム
The Belgian style from Flanders vol.1
特別定価1,400円（本体1,333円）



2008 July no.34
make our KID'S ROOM
キッズルームを考える
キッチンが主役の住まい
The Belgian style from Flanders vol.2
特別定価1,400円（本体1,333円）

Next issue　次号の特集

次号 no.44 2010年1月16日(土)発売

- ●ECO & 省エネルギー
- ●ベルギー・フランダース地方のデザイン
- ●SOFA & CHAIR

お詫びと訂正

2009年11月号『I'm home. no.42』の掲載内容に誤表記がありました。訂正してお詫びいたします。広告企画「information」(213頁) 左上に掲載したアーネストアーキテクツのウェブサイトについて、社名が「アーネストアークテクツ」とありますが、正しくは「アーネストアーキテクツ」です。

Notes

DTPデザイナーを1名募集しています。詳しくはウェブサイトをご覧になり、応募される方は履歴書（写真貼りつけ、手書きのものに限る）と職務経歴書（ワープロ打ち可）、過去の仕事や作品などのカラーコピーを担当・平間までご送付ください。書類選考に通った方のみご連絡させていただきます。応募書類は返却しない旨、ご了承ください。応募は決まり次第終了させていただきます。また、外注スタイリスト、ライターを募集しています。担当・佐藤までご連絡ください。

〈作品募集〉
インテリアデザイナーや建築家が設計した住宅を募集しています。写真と図面、設計概要などを添えて担当・小畑までご郵送ください。ご応募いただいた資料は返却しない旨、ご了承ください。

〒160-0023　東京都新宿区西新宿7-22-36 三井花桐ビル2階
(株)商店建築社 I'm home.編集部　TEL.03-3363-5818
http://www.imhome-style.com

below the kitchen is established facing this courtyard. Stewartia monadelpha is planted in the courtyard and connected flat with the bathroom so when the window is opened, you can enjoy it like the outdoor bath.

060
Leather in Touch

There are various kinds of leather, such as cow, pig, and horse, and all are processed maximizing their texture and characteristics. Japan produces mostly cowhide, and for interior items that require a lot of space, cowhide is used. To prevent the decay of leather and in order for it to be used as a material, a tanning procedure is done first. This is the process of converting the living animals' "skin" into fiber and turning it into "leather." The strength of the leather varies depending on the tanning method. After this stage, it goes through a process of dyeing, coating and embossing. There are not many examples in Japan that employ leather as interior items, but leather gives the texture softness while providing durability, so using it extensively is recommended.

In Japan, European leather from Italy, France, and Spain is imported as high-end goods but recently, cheap leather from China and other Asian countries are also being imported. As a result, the domestic production is decreasing every year although Japanese leather is known for being of a high quality. The latest fall-winter collection 2009-2010 introduced the authentic charm of leather like nubuk and suede, starting with a simple item which went through a week of the tanning process and drying in the sun. For a long time, Europeans have had leather by their side and used leather as interior items where they can enjoy its authentic texture, but in Japan, a significant concern was put on easy maintenance. As such, the need for coated leather has been high. However, recently the need for "very leather-like material" became high and more people are enjoying the texture that changes over the years.

Leather's charm is that it changes texture and warmness over the years. Leather can be used not only for furniture, but also for floors and walls to create an expressive residence.

094
F Residence

The grid area full of green spreads across the west side of Ikegami Honmonji. It's been flourished as a cathedral town from long ago and the F residence stands in the corner of this traditional town full of local colors. It is a two household home and the owner requested an open, community-like space in the driveway. Architect Yuki Horiuchi proposed a plan consisting of two buildings where one is 3-layered and the other one is 2-layered and they are connected on the 2nd floor while still respecting each other's privacy. A spacious courtyard between the two buildings and two separate entrance doors maintain a good distance between the households and created an open driveway. The left side of the driveway is the parents' building with white exterior walls. As you enter the entrance, you first face the closet with sliding screens and it gives Japanese traditional atmosphere. On the contrary, the couple's building has red cedar exterior walls painted in grey. The 1st floor has a spacious, navy blue sash of 3.4m × 2.7m entrance and it is a refreshing, open space with good ventilation. When you go up the stairs which gives you a feeling of floating, you'll see children's rooms and a master bedroom on the 2nd floor and is connected to the parents' living/dining room. The kitchen and the living/dining room, which would be the core of the residence, are put together in one room situated on the east side of the 3rd floor. The couple requested "a kitchen that could be used freely by visiting friends" and they themselves often work together in the kitchen. Therefore, the kitchen is installed against the wall and a big island counter of W1.6m x D1.6m x H0.86m, was designed. The opening on the west side extends fully to the ceiling and the vaulted ceiling in the center of the residence takes in a lot of sunlight. The bathroom, the terrace and the work room are situated around this vaulted ceiling. Each family member has their own space but at the same time, they can feel each other's presence. An open and warm residence was created.

104
S Residence

Kanda clean water has been hydrating residents in the Musashino, Tokyo area from ancient times. When you cross the Kugayama bridge, near the riverhead of Inokashira pond, a nostalgic view of the town spreads before your eyes.

The owner says, "I wanted to build a neutral house which doesn't fade away after years of time". The S residence makes an impression with a contrast of white exterior walls and gray fasade. After you approach the driveway planted with maple trees, you will see the entrance courtyard. The husband, who is an industrial designer, came to know an architect Akira Hikone through media connections, and asked Hikone to design his house because Hikone's attitude towards his clients and his long-lived love for things resonated with the husband.

The theme for the S residence is the open space where you feel the "wind, light and the nature." To materialize this theme, he planned all the rooms to face the courtyard. The white walls inside the house reflect natural light, and make the wood color and texture look beautiful. The workspace for the wife who is a bag designer is established on the 1st floor where the couple's bedroom and the garage are also located. On the 2nd floor, a 26m^2 big living and dining room is situated along with the bathroom. The interior is colored with various small items and furniture which reflect the couple's identity as designers.

The owner talks, "The items which we have been collecting can be laid out freely by building a house." The residence shows the residents' values and lifestyle, and is truly authentic.

152
Heating in Comfort

Japanese culture is sensitive to the change of the four seasons. The key to make the room temperature comfortable in the summer /winter is the "temperature, humidity and the mild wind" of the refreshing climate of the spring/autumn. Here, we would like to explain the methods of bringing in the natural environment into residences. We will discuss the different planes of architecture and cooling/heating.

In the architectural plane, there is a method of making the exterior walls double and having the middle air space function as an insulator. This is called a "double-skin" structure. Outside the building frame insulator, another exterior wall is established to have a vent layer. Having the air go through a vent layer from the floor to the ceiling make the temperature and the humidity of the outer building circumference adjust to cool the interior. The P residence, designed by architect Tomoyuki Utsumi, employed the "cool tube" which utilizes the earth thermal. The earth thermal keeps a stable temperature of 15℃ throughout a year and the tube embedded in the ground will take in the warm air in the winter and the cool air in the summer. Both occasions utilize the air flow caused by the temperature difference and it doesn't use any energy so there is no maintenance cost. Moreover, by building a house with a building frame and equipment separate from each other, the degree of freedom for one's lifestyle is heightened along with, the equipment renewal and the renovation. Amongst the building frames, the big openings are the source of losing heat and this can be resolved by having double-glazed and wooden sash windows. Having the flow of wind is important in planning the layout.

In terms of equipment, heat accumulation, which can be used when necessary, makes the indoor air flow naturally depending on the temperature difference so uncomfortable fluctuations in temperature and wind go unnoticed. There are various methods for heat accumulation such as building frames, earth medium, water, and trees. However, to implement these methods, the degree of insulation in the house has to be high. Otherwise, the effect would be weak. As for humidity control, employing materials that have the function of adjusting the humidity for the walls and the ceilings has a bit of effect.

A comfortable, temperature-controlled environment can be achieved by effectively combining each technology. Taking into consideration indoor thermal environments is a good opportunity to rethink one's lifestyle.

article summaries

Translation : Saori Hirata

010
Nobuyasu Hattori

Architect Nobuyasu Hattori's main job is designing the houses in the Nishi-Kasugai county of the Aichi prefecture, Gifu prefecture and Mie prefecture, all situated in the Tokai area. He had the experience of designing commercial facilities and being a site observer in the past, and then got involved in designing houses. In 1995, he established the Nobuyasu Hattori Architectural Design Office. The residences that Hattori creates have a mellow atmosphere giving the impression of Japanese "wa" demonstrated by the selected openings creating shaded space, and dynamic spaces without any partitions. These are the unique characteristics of his designs.

Hattori, who creates these unique residences, completed his own home in 2008 as an experimental trial. It's a one-story house of 5.5m x 13.2m for his four family members and the floor area is only 67m². There are hardly any openings on the exterior walls and the main opening is only the skylight located on the upper part of the dining room. This is unthinkable in a regular residence design. However, the skylight located 3.3m high brings in enough sunlight and to make the indoors adequately bright.

The bathroom and the toilet are situated on both sides of the entrance hallway. Beyond this is a combined living/dining room, a kitchen behind the partition, two children's rooms of 4.9m² on the east side and the 2.2 tatami room, which is used as the couple's master bedroom. Hattori clearly differentiated the necessary and the unnecessary and the home was planned out according to priorities. Moreover, the building is built low; it's 4.2m high minimizing the oppressive feeling. No walls were built, and flowers and trees that change color throughout the four seasons were planted instead of the walls. The calm space that Hattori creates makes us rethink what kind of residence is appropriate for families.

022
Sofie Lachaert

A small town called Tielrode is situated between Antwerp and Ghent in the northern part of Belgium. One Bed and Breakfast (B&B) along with a gallery and an atelier were introduced here in 2008 this area became a topic of conversation. The owner, Sofie Lachaert is active as an artist, and together with her husband, Luc D'Hanis, they began offering their designs to droog Design.

They purchased a small shipbuilding factory in 2000 and renovated some empty rooms, then opened B&B in 2008. Exhibitions are held periodically in the gallery on the 1st floor and Sofie invites many art lovers and architects each time, contributing her resources to the community of artists. Besides, their atelier is located here as well. Rooms for lodging were planned on the 2nd floor. Works of young artists from the same district are placed everywhere in the home as decoration, making the space, filled with art pieces, very interesting. Sofie prepares breakfast with cooking ingredients acquired in the neighborhood, and guests can fully enjoy their breakfasts at the table lined with Piet Stockmans' cutlery and Sofie's originally designed sugar pots.

"A lot of art has contradicting factors like 'serious' and 'joking' and is full of fantasy and a playful spirit. And sometimes, art is very practical. I hope that people will enjoy having art in their daily life without trying to understand those elements," says Sofie. Her look was strong and her attitude showcased her philosophy of trying to see new value in the world as an artist.

030
PROMEMORIA

Milan, Italy, is crowded because of the Milano Salone 2009 May. The showroom of "PROMEMORIA" quietly stands on Bagutta Street.

Romeo Sozzi launched "PROMEMORIA" in 1988. The company's roots go back about a century. The studio workshops have been passed on for generations from his great-grandfather who manufactured carriages, so Sozzi combined the mastership of craftsmen with his own design, and started his own business. The studio exists in a small town near Lake Como called Recco which happens to be his hometown and is surrounded by mountains. This environment, full of rich natural colors and shapes created by the four seasons, is the source of his imaginations.

Luxurious materials such as ebony, velvet and bronze are used for Sozzi's products and finished with the mastership of craftsmen. The designer and craftsmen collaborate together closely to produce high-quality products with individuality.

The theme for 2009 is "user-friendly furniture." The chair, "quentin," has bronze arms that show its exquisite line, and uses a fabric which can be used outdoors while still having the benefit of functioning like a folding chair. Sozzi also introduced the bed, "penelope," upholstered with velvet and soft leather and another bed called "shone" with a beautifully lined headboard. The height is mildly set compared to the conventional ones and an "easy-to-use" function is pursued. The kitchen, "angelina," has a unique design where an island and a dining counter are put into one. This design was inspired by Romeo's childhood experience in which his mother let many children sit in the kitchen while she worked. The drawers are the color of a lime tree and show various colors where the large capacity wine cellar is located. User-friendliness is carried out thoroughly..

036
C Residence

The C residence stands in a quiet residential area of Meguro-ku, Tokyo. The husband loves cars and owns 4 cars, including a Porsche, a Lamborghini, and an Aston Martin. Besides those cars he has two other cars for daily use in addition to a large-sized motor bike. The 1st condition the husband requested for his new residence was a layout where he can overlook his favorite cars in the garage all day.

Architect Satoshi Okada thoroughly considered how to plan the plot of 520m² land for the parking space and the residential space. Then, he proposed to place a parking area on the east side for the 4 cars and another parking place on the west side for the 2 daily-use cars, having the south-side driveway facing the street as the center. Moreover, having an entrance hallway as an axis, two gardens with different styles are established on the east and the west sides. The living room and the dining kitchen are placed on the upper floor on the north side and the master bedroom and the bathroom are situated in the basement. The south side of the garage is glassed-in so you can feel the presence of the precious cars from different levels in the home, like the living room and the master bedroom in the basement.

Regarding the high-quality limestone floors and as-cast concrete wall interior, glass-made and leather furniture with a sharp impression have been coordinated. The big glassed-in opening with the ceiling height of 3.8m allows bright sunlight to enter the space. The big staircase in the courtyard full of greens is like a square, and the water basin resembles a waterfall leading to the downstairs. The husband's favorite cars are in the back, and can be seen from the living room. The dining room connected to the living room is leveled up by 650mm so meals can be eaten in peace. The kitchen in the back can overlook the living room from the high position and at the same time, the courtyard on the west side can be seen via the vaulted ceiling. The bathroom

PRESENT

読者アンケート&プレゼント
締め切り：2009年12月31日（当日消印有効）

読者アンケートにお答えいただいた方のなかから抽選で、「T-fal（ティファール）」（4の商品）、「Miele（ミーレ）」（5の商品）、「OXO（オクソー）」（6の商品）のご協力により下記商品をプレゼントいたします。綴じ込みハガキのアンケートにお答えいただいたうえ、下記より商品をお選びください。発表はプレゼントの発送（2010年1月中旬）をもって代えさせていただきます。
※商品の色は編集部にお任せください。

1



さわやかな印象のガラス製フラワーベース。色はライムグリーンとストームグレーで、それぞれ1名に
サイズ：φ150×H75　2名



2

ベージュの陶器製ポットとカップ&ソーサーのセット。丸みのあるデザインがくつろぎの時間を演出する
サイズ：ポットφ160×H210
カップ&ソーサーφ150×H60　1名



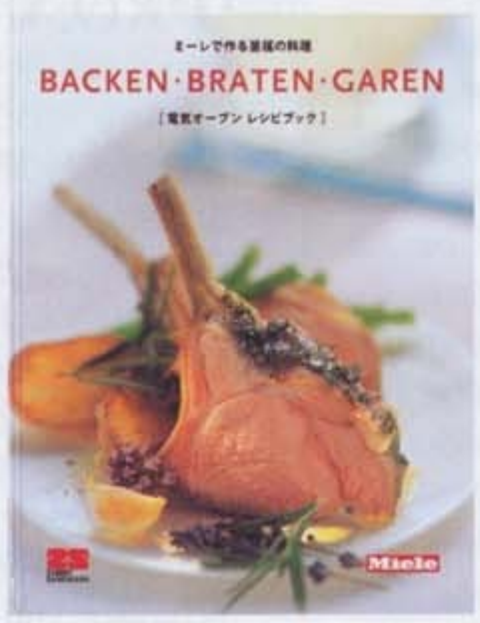
3

ジュエリーを思わせるキーリング。光に当てるときらきらと輝き、鞄の中に入れておくのが惜しいほど愛らしい
サイズ：φ50×H70　3名



4

T-falの新商品「ティファール　イージースタック」。新開発のスタッキングフックで、フライパンと鍋の4点がすっきりと重なる。ガラス蓋もつまみが平らになるのでコンパクトな収納が実現
サイズ：W500（最大）×D208（最小）×H150　※取っ手を真横にそろえた場合　1名
提供／ティファール　TEL.0570-07772　URL：http://www.t-fal.co.jp



5

ドイツ・ミーレ社の「ミーレ　電気オーブンレシピブック（非売品）」。同社の電気オーブンでつくれる前菜からデザートまで約130種のオリジナルレシピが掲載され、読み応えがある　5名
提供／ミーレ・ジャパン
TEL.03-5784-0030
URL：http://www.miele.co.jp

6



OXOのリキシールマグとトップコンテナのセット。リキシールマグは耐衝撃性を備え、逆さにしてもこぼれず、飲み物はアイスとホット兼用で使える。トップコンテナは優れた密閉性でスープや煮物を入れても液漏れしない。電子レンジや冷凍庫でも使用可能な全9サイズがそろい、それぞれを積み重ねて収納できる
リキシールマグ　サイズ：φ80×H210　容量：約400ml　色：レッド、ブラウン、ブルー
トップコンテナ（0.4ℓ-Sスクエア）　サイズ：約130角×H80　セットで3名
提供／オクソー　TEL.0570-03-1212
URL：http://www.oxo.com

7



抹茶色の陶器製ポットと湯飲みのセット。和の情緒ある色合いが落ち着いた雰囲気をつくり出し、食卓を豊かに彩る
サイズ：急須φ125×H170　湯飲みφ65×H60　1名





雑誌 11507-01

4910115070101
01524

PRINTED IN JAPAN 特別定価 1,600円 本体 1,524円 ⑤